

都道府県の推薦について

都道府県提出資料

目次

北海道	P.3	石川	P.130	岡山	P.242
青森	P.13	福井	P.137	広島	P.250
岩手	P.21	山梨	P.144	山口	P.257
宮城	P.28	長野	P.151	徳島	P.264
秋田	P.35	岐阜	P.158	香川	P.271
山形	P.42	静岡	P.165	愛媛	P.277
福島	P.49	愛知	P.173	高知	P.285
茨城	P.58	三重	P.180	福岡	P.293
栃木	P.66	滋賀	P.187	佐賀	P.303
群馬	P.74	京都	P.195	長崎	P.310
埼玉	P.80	大阪	P.201	熊本	P.317
千葉	P.87	兵庫	P.208	大分	P.323
東京	P.95	奈良	P.217	宮崎	P.329
神奈川	P.104	和歌山	P.224	鹿児島	P.336
新潟	P.113	鳥取	P.231	沖縄	P.343
富山	P.122	島根	P.236		

北海道

北海道第二次医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
南渡島	2,670.63	359,223	6.9	134.51	33	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
南檜山*	1,423.38	21,139	0.4	14.85	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北渡島檜山*	2,473.77	33,405	0.6	13.50	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
札幌	3,540.15	2,396,732	45.9	677.01	228	4	4	0	8	0	0	0	0	0	0
後志*	4,305.88	198,888	3.8	46.19	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
南空知*	2,562.25	152,486	2.9	59.51	17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中空知*	2,162.07	99,748	1.9	46.14	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
北空知*	1,067.29	29,694	0.6	27.82	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西胆振	1,356.70	176,606	3.4	130.17	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
東胆振*	2,340.34	205,748	3.9	87.91	15	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
日高*	4,811.13	63,372	1.2	13.17	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上川中部	4,238.10	381,296	7.3	89.97	38	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0
上川北部*	4,197.18	60,763	1.2	14.48	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富良野*	2,183.41	39,894	0.8	18.27	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留萌*	3,445.88	43,050	0.8	12.49	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宗谷*	4,626.07	62,140	1.2	13.43	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北網*	5,542.27	208,460	4.0	37.61	25	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
遠紋*	5,148.26	64,902	1.2	12.61	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝	10,831.62	332,648	6.4	30.71	32	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
釧路*	5,997.07	222,613	4.3	37.12	22	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
根室*	3,497.31	71,771	1.4	20.52	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	78420.76	5,224,578	100	1538.0116	534	10	11	0	21	0	0	0	1	0	0

医療圏名の*は「医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値がおおむね300人を下回る2次医療圏

北海道 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (令和5年4月1日)
- ④札幌医科大学附属病院 (令和5年4月1日)
- ⑤北海道大学病院 (令和5年4月1日)
- ⑥市立札幌病院 (令和5年4月1日)
- ⑦手稲溪仁会病院 (令和5年4月1日)
- ⑧札幌厚生病院 (令和5年4月1日)
- ⑨KKR札幌医療センター (令和5年4月1日)
- ⑩恵佑会札幌病院 (令和5年4月1日)
- ⑪小樽市立病院 (令和5年4月1日)
- ⑫砂川市立病院 (令和5年4月1日)
- ⑬日鋼記念病院 (令和5年4月1日)
- ⑭王子総合病院 (令和5年4月1日)
- 以下、地域がん診療病院
- ①北海道中央労災病院 (令和5年4月1日)

道北

- ⑮旭川医科大学病院 (令和5年4月1日)
- ⑯旭川厚生病院 (令和5年4月1日)
- ⑰市立旭川病院 (令和5年4月1日)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑮⑯⑰の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑱の病院でカバー。

道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

道央

- ⑱北見赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ⑲帯広厚生病院 (令和5年4月1日)
- ⑳市立釧路総合病院 (令和5年4月1日)
- ㉑釧路労災病院 (令和5年4月1日)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑳㉑の2病院が連携してカバー。

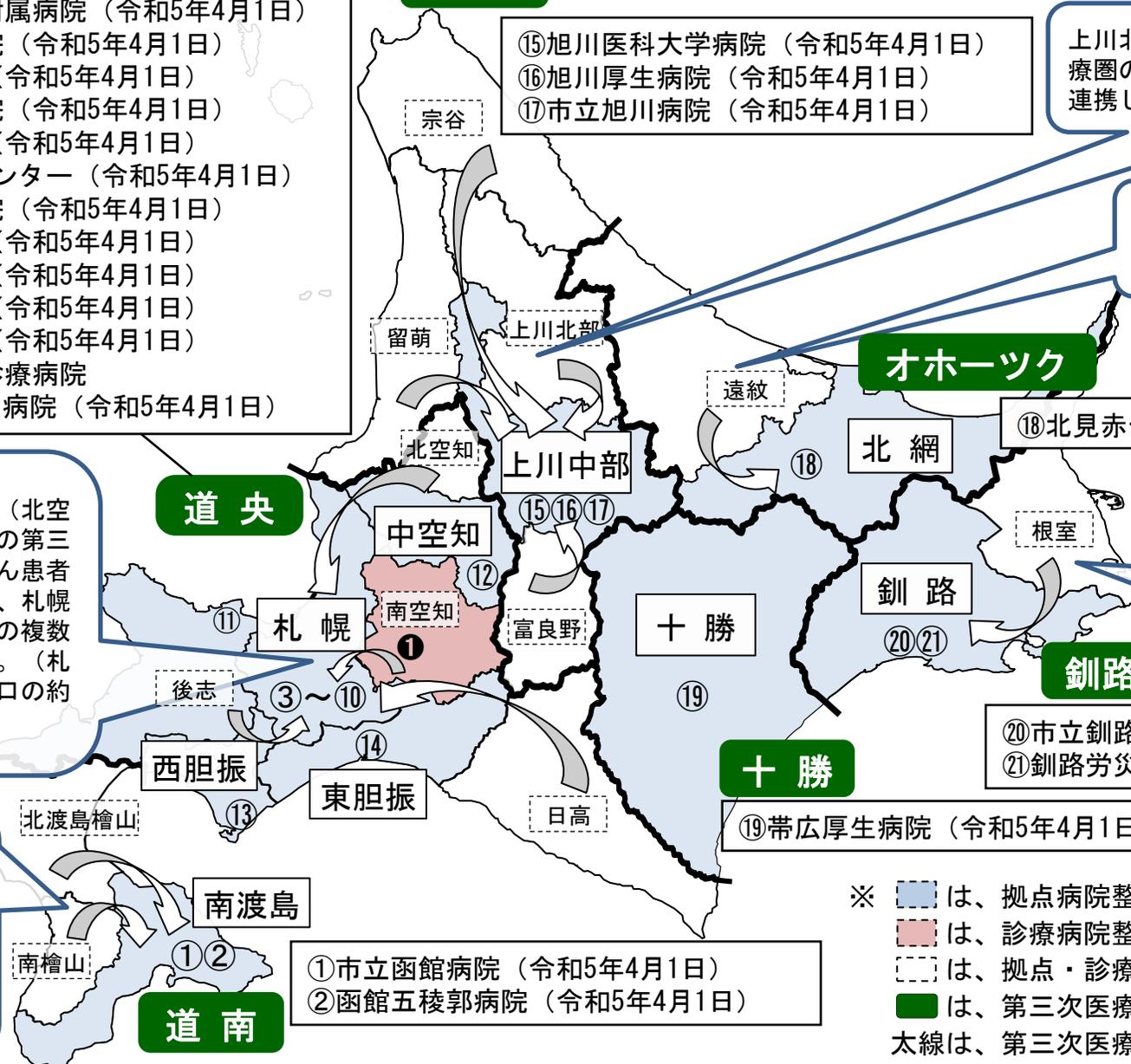
釧路・根室

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。

道南

- ①市立函館病院 (令和5年4月1日)
- ②函館五稜郭病院 (令和5年4月1日)

※ ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑は、拠点病院整備医療圏
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑は、診療病院整備医療圏
 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑は、拠点・診療病院空白の医療圏。
 ■は、第三次医療圏名。
 太線は、第三次医療圏の境界。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和4年9月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値

★: 都道府県拠点 □: 地域拠点(特例型) ◎: 特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
①	南渡島		更新	市立函館病院	(1,145) 1,181	(447) 490	(1,531) 1,598	(424) 380	(143) 159	(22) 37	(664) 750
②	南渡島		更新	函館五稜郭病院	(1,663) 1,768	(772) 666	(2,356) 2,344	(450) 457	(399) 385	(28) 27	(1,034) 605
③	札幌	★	更新	北海道がんセンター	(1,918) 1,887	(1,429) 1,857	(12,011) 3,057	(940) 930	(441) 542	(5) 9	(5,707) 4,453
④	札幌		更新	札幌医科大学附属病院	(2,200) 2,226	(1,317) 1,539	(3,007) 3,133	(884) 834	(374) 365	(9) 9	(2,618) 2,403
⑤	札幌		更新	北海道大学病院	(1,945) 2,095	(1,079) 1,156	(3,406) 3,422	(895) 972	(299) 278	(5) 5	(1,725) 1,512
⑥	札幌		現況	市立札幌病院	(931) 1,330	(543) 713	(1,195) 1,162	(6,459) 7,599	(366) 366	(3) 3	(784) 809
⑦	札幌		現況	手稲溪仁会病院	(2,061) 2,014	(1,347) 1,146	(4,269) 4,263	(430) 430	(214) 211	(4) 7	(1,470) 1,124
⑧	札幌		現況	札幌厚生病院	(1,296) 1,274	(2,114) 1,974	(5,893) 6,041	(251) 227	(188) 209	(5) 5	(564) 525

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は令和4年9月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値

★:都道府県拠点 □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
⑨	札幌		更新	KKR札幌医療センター	(909) 972	(534) 681	(3,646) 3,564	(367) 316	(148) 255	(3) 3	(761) 626
⑩	札幌		更新	恵佑会札幌病院	(1,327) 1,820	(1,150) 1,110	(5,980) 1,749	(524) 534	(63) 66	(4) 2	(944) 1,104
⑪	後志		更新	小樽市立病院	(928) 882	(484) 541	(3,168) 2,744	(206) 219	(118) 108	(20) 21	(403) 404
⑫	中空知		現況	砂川市立病院	(614) 527	(292) 338	(2,755) 4,163	(160) 261	(143) 112	(36) 51	(693) 449
⑬	西胆振		更新	日鋼記念病院	(324) 246	(299) 261	(262) 207	(179) 153	(55) 135	(24) 20	(1,160) 892
⑭	東胆振	□	更新	王子総合病院	(1,175) 1,131	(989) 863	(1,830) 1,830	(322) 601	(128) 127	(31) 25	(389) 376
⑮	上川中部		更新	旭川医科大学病院	(1,895) 1,785	(1,168) 1,132	(1,703) 1,673	(564) 516	(237) 348	(26) 24	(1,431) 1,842
⑯	上川中部		現況	旭川厚生病院	(1,049) 1,350	(682) 681	(1,309) 1,447	(341) 343	(205) 187	(19) 21	(2,418) 2,195

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-3

・()内は令和4年9月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値

★:都道府県拠点 □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
⑰	上川中部		現況	市立旭川病院	(662) 662	(438) 491	(1,742) 1,965	(238) 253	(73) 61	(12) 13	(1,656) 1,548
⑱	北網		現況	北見赤十字病院	(1,371) 1,287	(994) 779	(1,260) 1,617	(561) 490	(90) 118	(37) 69	(610) 724
⑲	十勝	□	更新	帯広厚生病院	(1,957) 1,745	(957) 894	(1,787) 1,753	(543) 538	(68) 60	(29) 30	(1,649) 1,190
⑳	釧路		現況	市立釧路総合病院	(1,245) 1,162	(788) 514	(5,188) 6,500	(358) 333	(51) 131	(34) 31	(216) 242
㉑	釧路		現況	釧路労災病院	(996) 1,203	(765) 716	(6,323) 3,161	(271) 234	(242) 280	(34) 43	(1,291) 1,471

地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和4年9月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	南空知	現況	北海道中央労災病院	(183) 179	(71) 70	(137) 514	実施なし	(19) 16	(192) 195

北海道 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★：都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★（更新）
- ④札幌医科大学附属病院（更新）
- ⑤北海道大学病院（更新）
- ⑥市立札幌病院（現況）
- ⑦手稲溪仁会病院（現況）
- ⑧札幌厚生病院（現況）
- ⑨KKR札幌医療センター（更新）
- ⑩恵佑会札幌病院（更新）
- ⑪小樽市立病院（更新）
- ⑫砂川市立病院（現況）
- ⑬日鋼記念病院（更新）
- ⑭王子総合病院（更新）
- 以下、地域がん診療病院
- ①北海道中央労災病院（現況）

道北

- ⑮旭川医科大学病院（更新）
- ⑯旭川厚生病院（現況）
- ⑰市立旭川病院（現況）

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑮⑯⑰の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑱の病院でカバー。

オホーツク

- ⑱北見赤十字病院（現況）

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑳㉑の2病院が連携してカバー。

釧路・根室

- ⑳市立釧路総合病院（現況）
- ㉑釧路労災病院（現況）

十勝

- ⑲帯広厚生病院（更新）

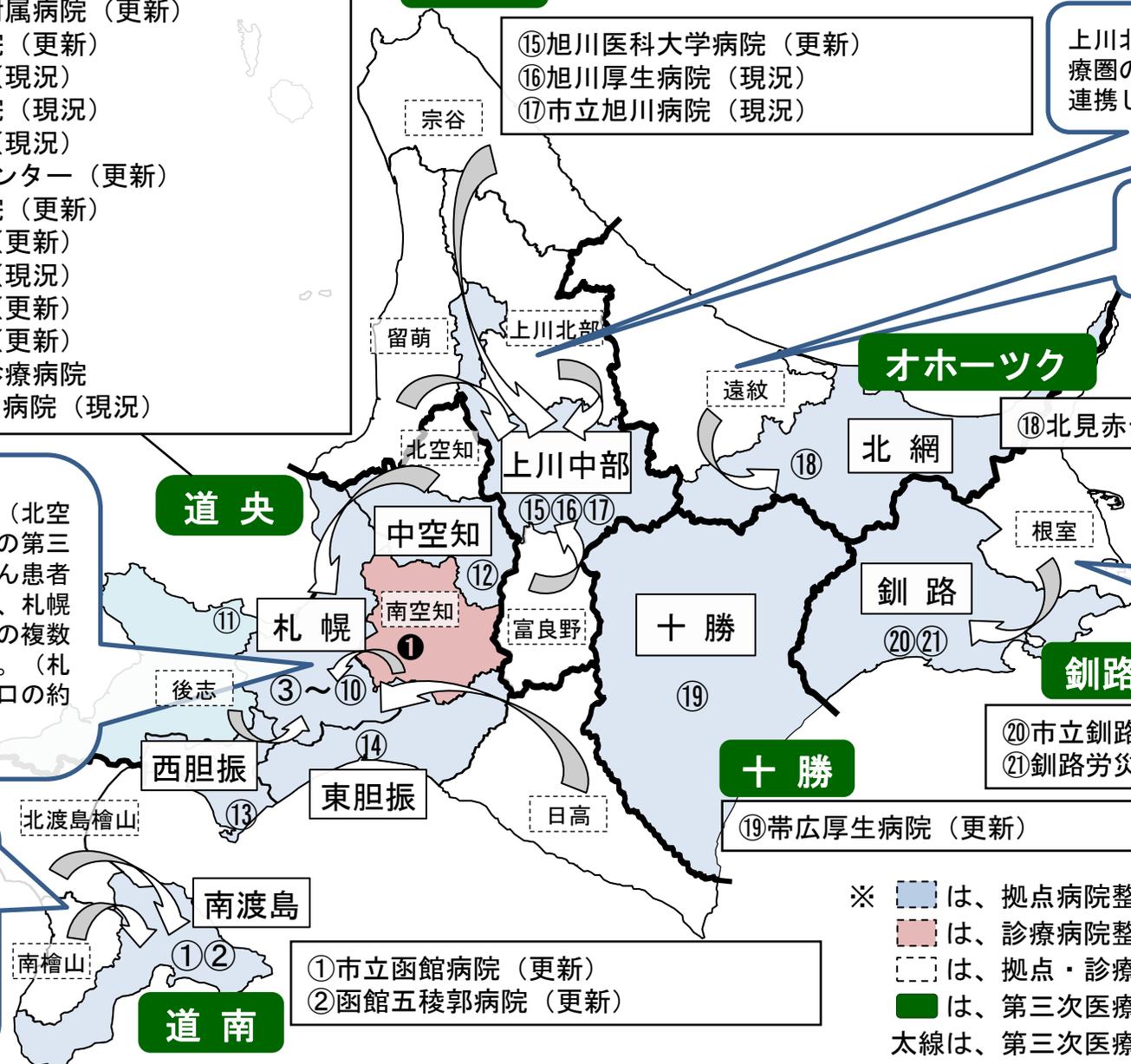
道央

道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

道南

- ①市立函館病院（更新）
- ②函館五稜郭病院（更新）

南檜山及び北渡島医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。



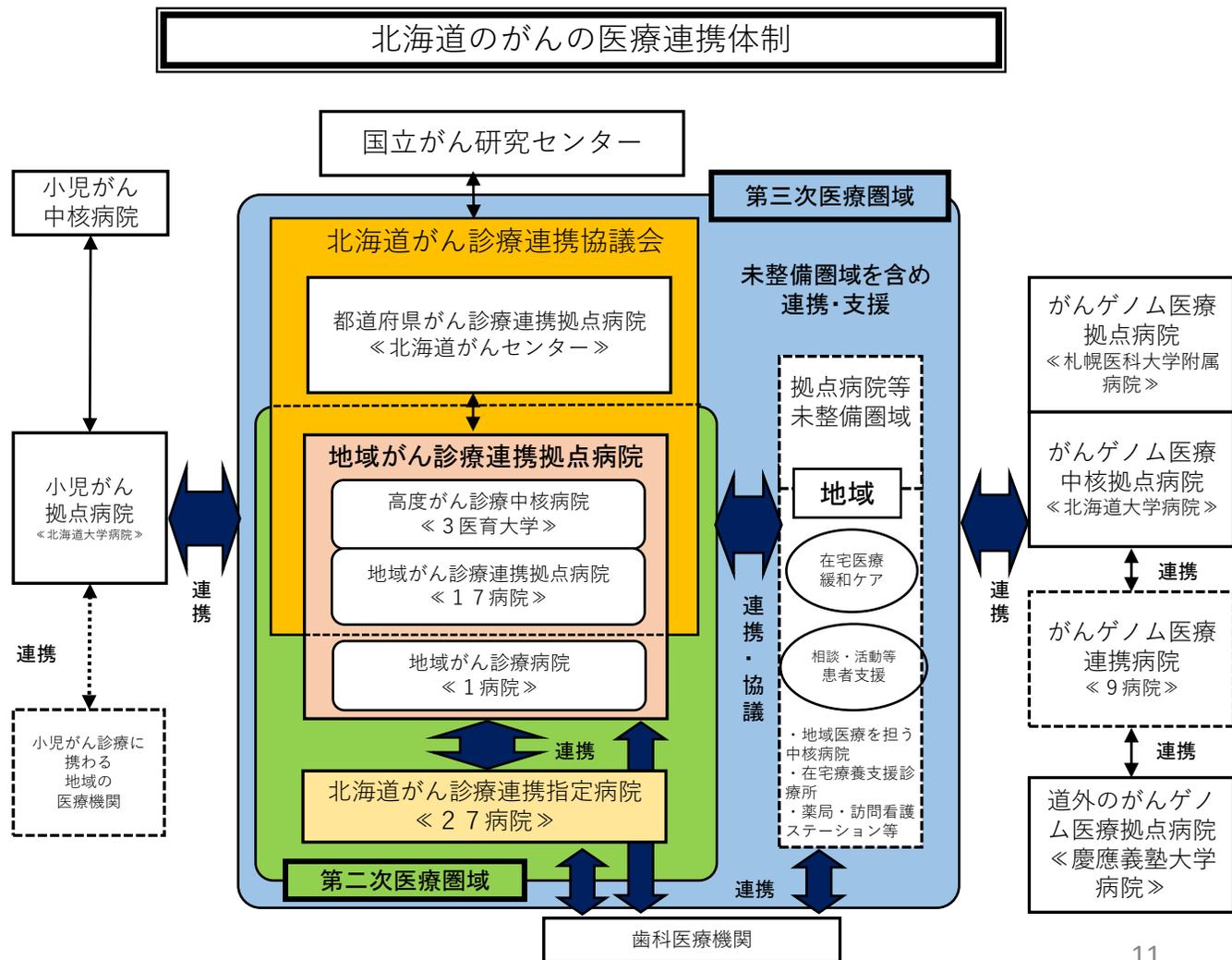
※ ■ は、拠点病院整備医療圏
 ■ は、診療病院整備医療圏
 □ は、拠点・診療病院空白の医療圏。
 ■ は、第三次医療圏名。
 太線は、第三次医療圏の境界。

北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO.1]

○本道のがんの現状

R2 人口 動態 統計	死亡者数	年齢調整死亡率 (人口10万対)		
		男性	女性	総数
北海道	20,136人	95.6	65.8	79.5
全国	381,505人	82.4	53.6	67.4

- 本道において、がんは昭和52年より死因の第1位。
- 年齢調整死亡率は、男性、女性ともに全国平均を上回っており、特に、肺がんや乳がんの死亡率が高くなっている。



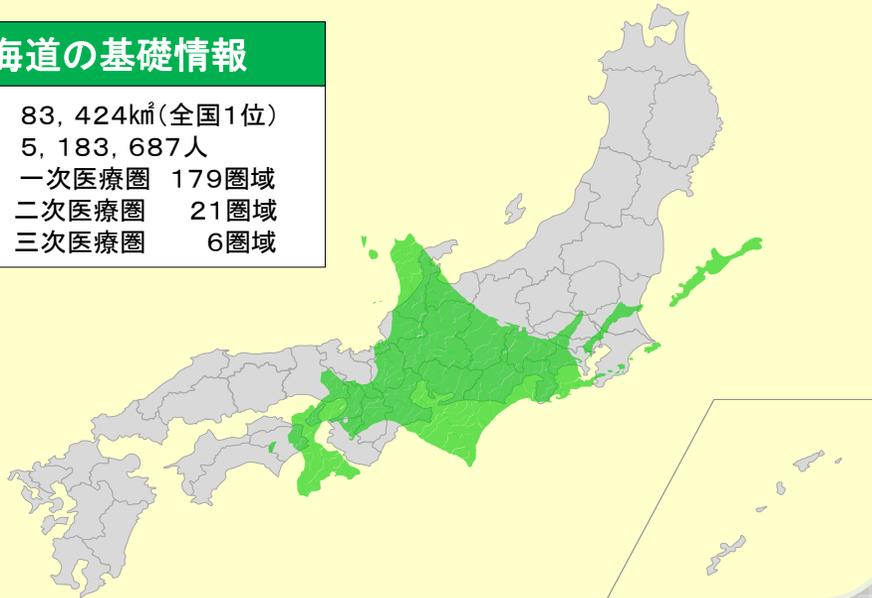
北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO. 2]

基本的な考え方

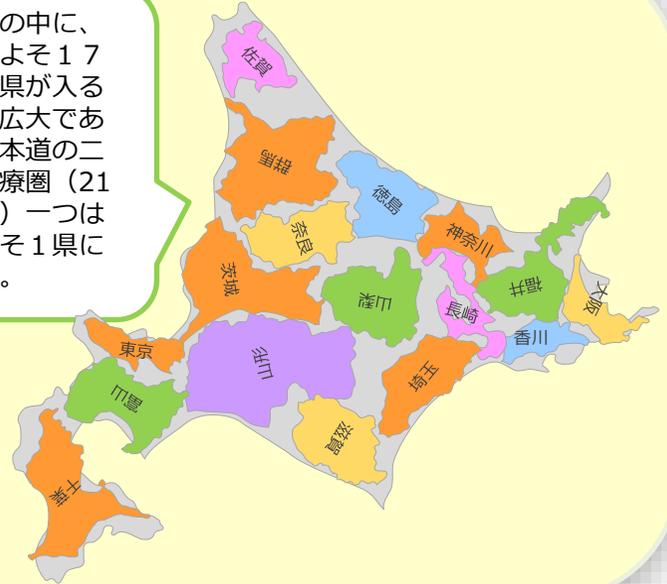
北海道医療計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次医療圏ごとの整備を目指し、当面整備が困難な医療圏については、地域がん診療病院や道が独自の要件により指定する北海道がん診療連携指定病院の整備を進める。 ・ 未整備圏域については、がん診療連携拠点病院が地域の中核的な医療機関等と連携を図る。
北海道がん対策推進条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的ながん医療を提供する医療機関を整備し、及び当該医療機関を中核とした地域における診療の連携協力体制を整備する。
北海道がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療連携拠点病院は、拠点病院等の未整備圏域の中核的な医療機関等と連携を図り、必要とされる医療機能をカバーし道内のがん医療の連携体制の維持・向上に努める。

北海道の基礎情報

面積:	83,424km ² (全国1位)
人口:	5,183,687人
医療圏:	一次医療圏 179圏域
	二次医療圏 21圏域
	三次医療圏 6圏域



本道の中に、おおよそ17都府県が入るほど広大であり、本道の二次医療圏(21か所)一つはおよそ1県に相当。



指定推薦にあたっての考え方

○ 日本の面積の約22%を占め、九州及び中国地方12県を合わせた面積よりも広い本道においては、道が策定した計画等の考え方に沿って、第二次医療圏を医療連携圏域としつつ、第三次医療圏を基本的に未整備圏域をカバーする体制を維持・強化する。

○ 本道の拠点病院は、広域分散、積雪寒冷といった本道特有の事情がある中、自らの二次医療圏のみならず近隣の未整備圏域のがん診療を担うなど、各拠点病院と地域の病院が連携しながら、本道のがん医療の均てん化に大きな役割を果たしており、診療病院を合わせた22病院により21の第二次医療圏を有する本道のがん診療の拠点として医療提供体制の整備を図る。

青 森 県

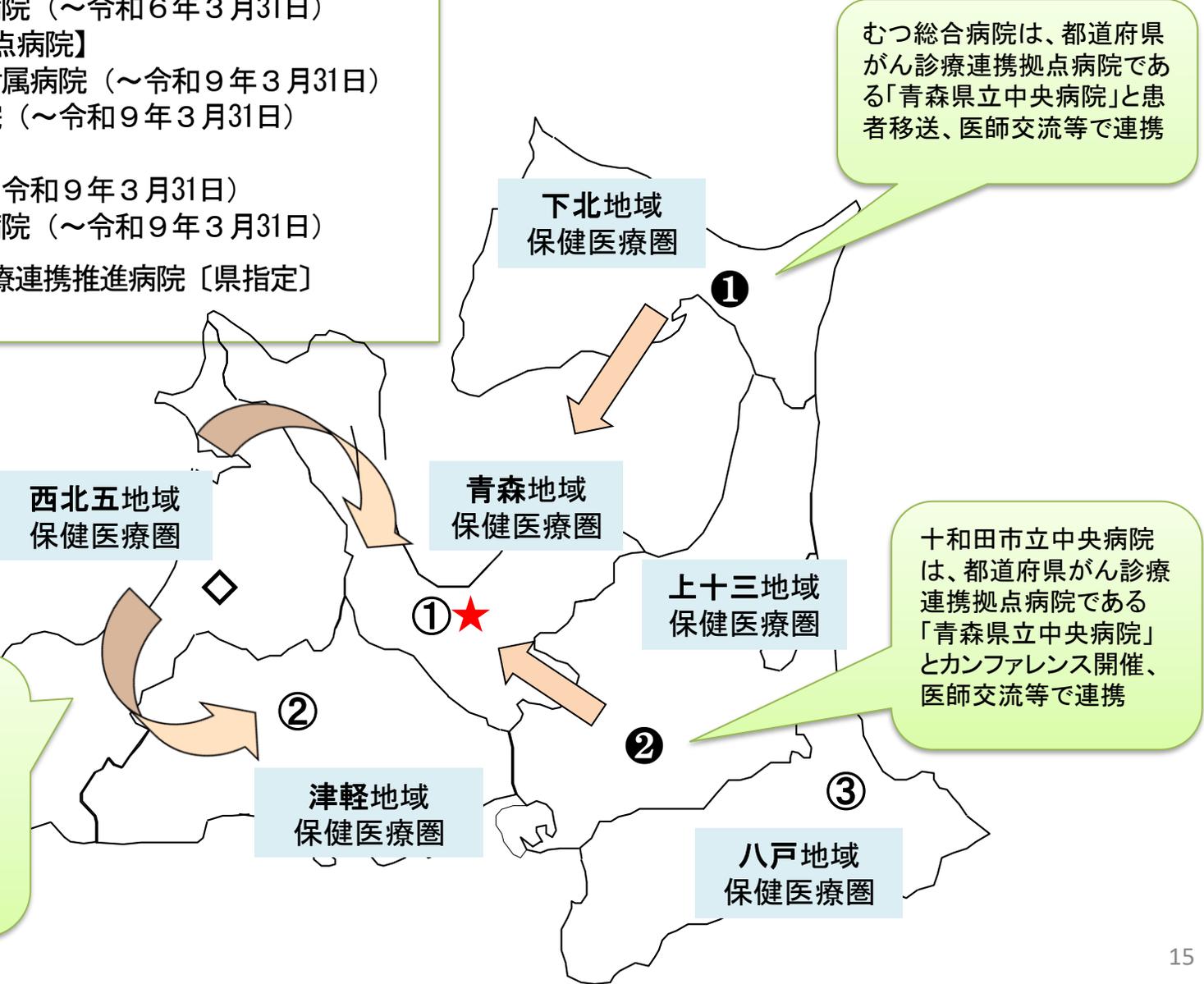
青森県 がんの医療圏の概要

〔令和5年9月1日現在〕

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						推薦 病院 数	内訳		現況 報告	推薦 病院 数	内訳		現況 報告
							新規 申請	指定 更新			新規 申請	指定 更新	
津軽 地域保健医療圏	1,598.23	275,508	22.3	172.4	21	0	0	0	1	0	0	0	0
八戸 地域保健医療圏	1,346.85	310,282	25.1	230.4	27	0	0	0	1	0	0	0	0
青森 地域保健医療圏	1,478.11	295,593	23.9	200.0	21	1	0	1	0	0	0	0	0
西北五 地域保健医療圏	1,752.51	120,470	9.7	68.7	8	0	0	0	0	0	0	0	0
上十三 地域保健医療圏	2,054.14	167,931	13.6	81.8	12	0	0	0	0	0	0	0	1
下北 地域保健医療圏	1,416.12	68,200	5.5	48.2	4	0	0	0	0	0	0	0	1
計	9,645.96	1,237,984	100.0	128.3	93	1	0	1	2	0	0	0	2

青森県 令和5年9月1日現在の医療圏及び指定の状況

- 【都道府県がん診療連携拠点病院】
 - ①★ 青森県立中央病院（～令和6年3月31日）
 - 【地域がん診療連携拠点病院】
 - ② 弘前大学医学部附属病院（～令和9年3月31日）
 - ③ 八戸市立市民病院（～令和9年3月31日）
 - 【地域がん診療病院】
 - ① むつ総合病院（～令和9年3月31日）
 - ② 十和田市立中央病院（～令和9年3月31日）
- ※(参考)青森県がん診療連携推進病院〔県指定〕
◇つがる総合病院



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

・()内は令和4年10月報告の数値、下段は令和5年10月報告の数値

★:都道府県拠点

◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請等区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 基準:500件	悪性腫瘍の手術件数(年間) 基準:400件	のべ患者数(年間) 基準:1000人	のべ患者数(年間) 基準:200人	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 基準:50件	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 基準:20%	相談件数(年間)
1	青森	★	指定更新	青森県立中央病院	(2,119) 2,108	(1,236) 1,167	(3,338) 3,929	(520) 525	(56) 100	(27.5) 32.8	(1,389) 2,479
2	津軽		現況報告	弘前大学医学部附属病院	(2,694) 2,608	(1,350) 1,277	(7,489) 9,031	(681) 713	(102) 112	(33.3) 32.6	(453) 749
3	八戸		現況報告	八戸市立市民病院	(1,467) 1,498	(711) 724	(1,886) 1,948	(277) 316	(74) 169	(24.8) 22.0	(510) 511

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

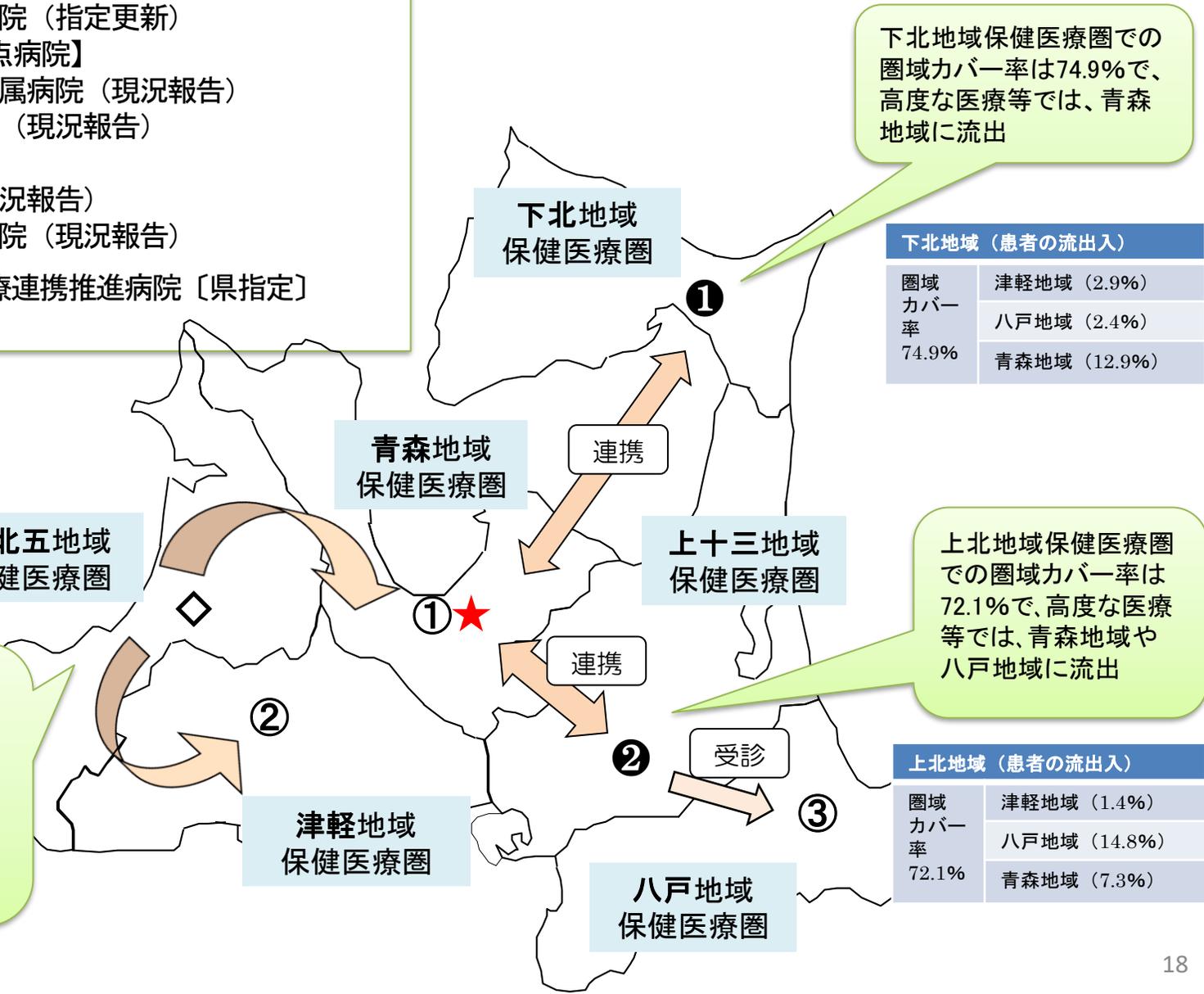
・()内は令和4年10月報告の数値、下段は令和5年10月報告の数値

	医療圏名	申請等区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	当該医療圏 に居住するがん患者の 診療の割合 (%)	相談件数 (年間)
1	下北	現況報告	むつ総合病院	(614) 530	(305) 400	(2,130) 857	(112) 91	(34) 8	(63.5) 54.0	(137) 109
2	上十三	現況報告	十和田市立中央病院	(535) 554	(376) 397	(603) 498	(124) 109	(110) 101	(41.4) 49.0	(326) 233

青森県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

- 【都道府県がん診療連携拠点病院】
 - ①★ 青森県立中央病院（指定更新）
 - 【地域がん診療連携拠点病院】
 - ② 弘前大学医学部附属病院（現況報告）
 - ③ 八戸市立市民病院（現況報告）
 - 【地域がん診療病院】
 - ① むつ総合病院（現況報告）
 - ② 十和田市立中央病院（現況報告）
- ※(参考) 青森県がん診療連携推進病院〔県指定〕
◇つがる総合病院



下北地域保健医療圏での圏域カバー率は74.9%で、高度な医療等では、青森地域に流出

下北地域（患者の流出入）	
圏域カバー率 74.9%	津軽地域（2.9%）
	八戸地域（2.4%）
	青森地域（12.9%）

上北地域保健医療圏での圏域カバー率は72.1%で、高度な医療等では、青森地域や八戸地域に流出

上北地域（患者の流出入）	
圏域カバー率 72.1%	津軽地域（1.4%）
	八戸地域（14.8%）
	青森地域（7.3%）

西北五地域保健医療圏のがん患者は、県指定のつがる総合病院のほか、津軽地域及び青森地域保健医療圏において受診するため、主に、①・②の両病院でカバー

青森県 がん医療連携体制に関する考え方

青森県の現状

がんの75歳未満年齢調整死亡率と平均寿命は、ともに全国最下位

- がんによる死亡状況
がんは昭和57年以降、死因の第1位で、死亡原因の約3割を占める
- がんの75歳未満年齢調整死亡率
男女ともに全国最下位で推移している
- 青森県の平均寿命
男女ともに全国最下位に位置する
(令和2年 都道府県別生命表)

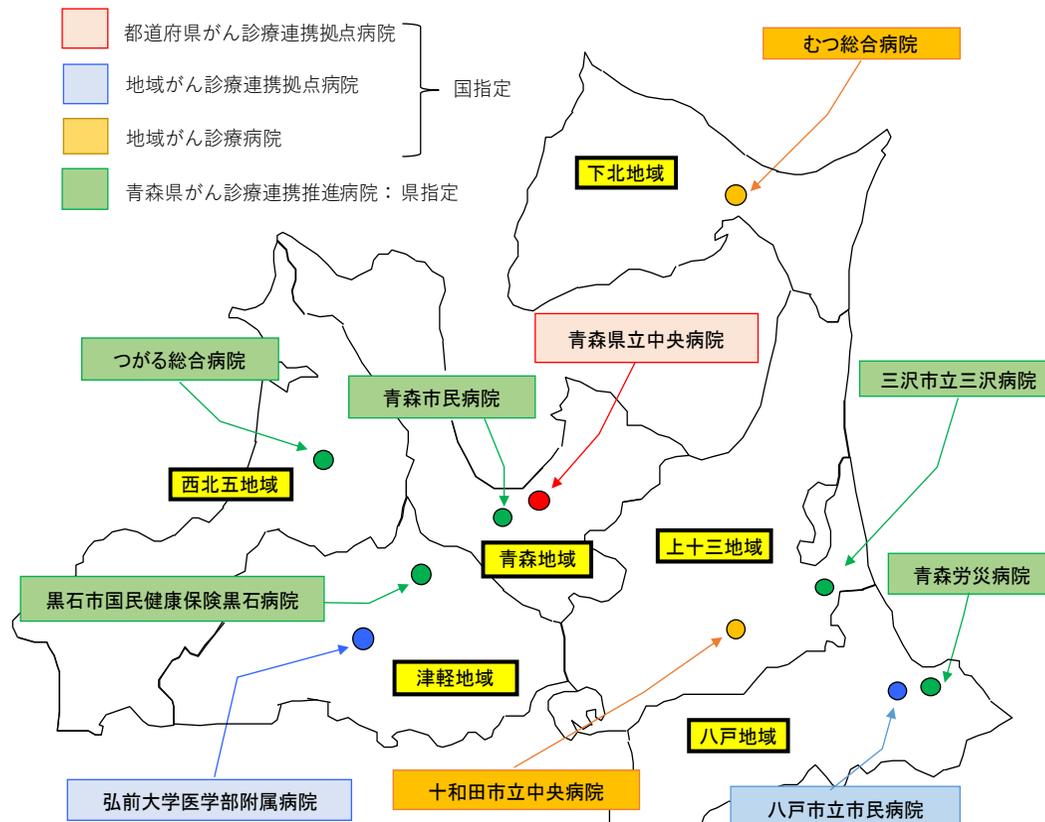
健康で長生きな青森県の実現に向けて

- ヘルスリテラシー（健やか力）の向上とライフステージに応じた生活習慣の改善
- 戦略的ながん対策の推進
- がん医療の充実とがんになっても安心して暮らせる環境づくり

■ 第三期青森県がん対策推進計画

- ・ 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・ 患者本位のがん医療の実現
- ・ 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

青森県のがん医療連携体制



青森県がん対策推進計画では、本県のがん医療提供体制や地域連携について、都道府県がん診療連携拠点病院を中核として、地域がん診療連携拠点病院や地域がん診療病院、及びこれに準じる機能を有する病院として県が指定するがん診療連携推進病院、その他の医療機関による機能分担と連携により構築されるものと位置付ける

青森県では、令和5年9月現在、青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院及び八戸市立市民病院の3病院が「がん診療連携拠点病院」に指定され、むつ総合病院及び十和田市立中央病院の2病院が「地域がん診療病院」に指定されている。

本県に特有の地理的な要因やバランス、今後の人口減少社会への対応を踏まえ、各保健医療圏においてがんの標準医療を受けられるがん医療提供体制を維持していくためには、がん診療連携拠点病院等の整備に関して、

- ・人口規模が大きい都市に所在する青森県立中央病院（青森地域）、弘前大学医学部附属病院（津軽地域）及び八戸市立市民病院（八戸地域）は「がん診療連携拠点病院」として
- ・その他の医療圏の都市に所在するむつ総合病院（下北地域）及び十和田市立中央病院（上十三地域）は「地域がん診療病院」として

それぞれ、指定が継続されていることが不可欠である。

これを踏まえ、今回、指定更新申請のあった青森県立中央病院については、引き続き「都道府県がん診療連携拠点病院」として、本県のがん医療の中核を担う病院としての役割を果たしていく必要があることから、県として指定更新の推薦を行うものである。

なお、現状において国指定の地域がん診療病院等のない西北五地域保健医療圏については、令和2年4月以降、つがる総合病院を県の青森県がん診療連携推進病院として指定し、連携体制を構築しているものであり、県と病院が連携し、国の指定申請に向けて取り組んでいるところである。

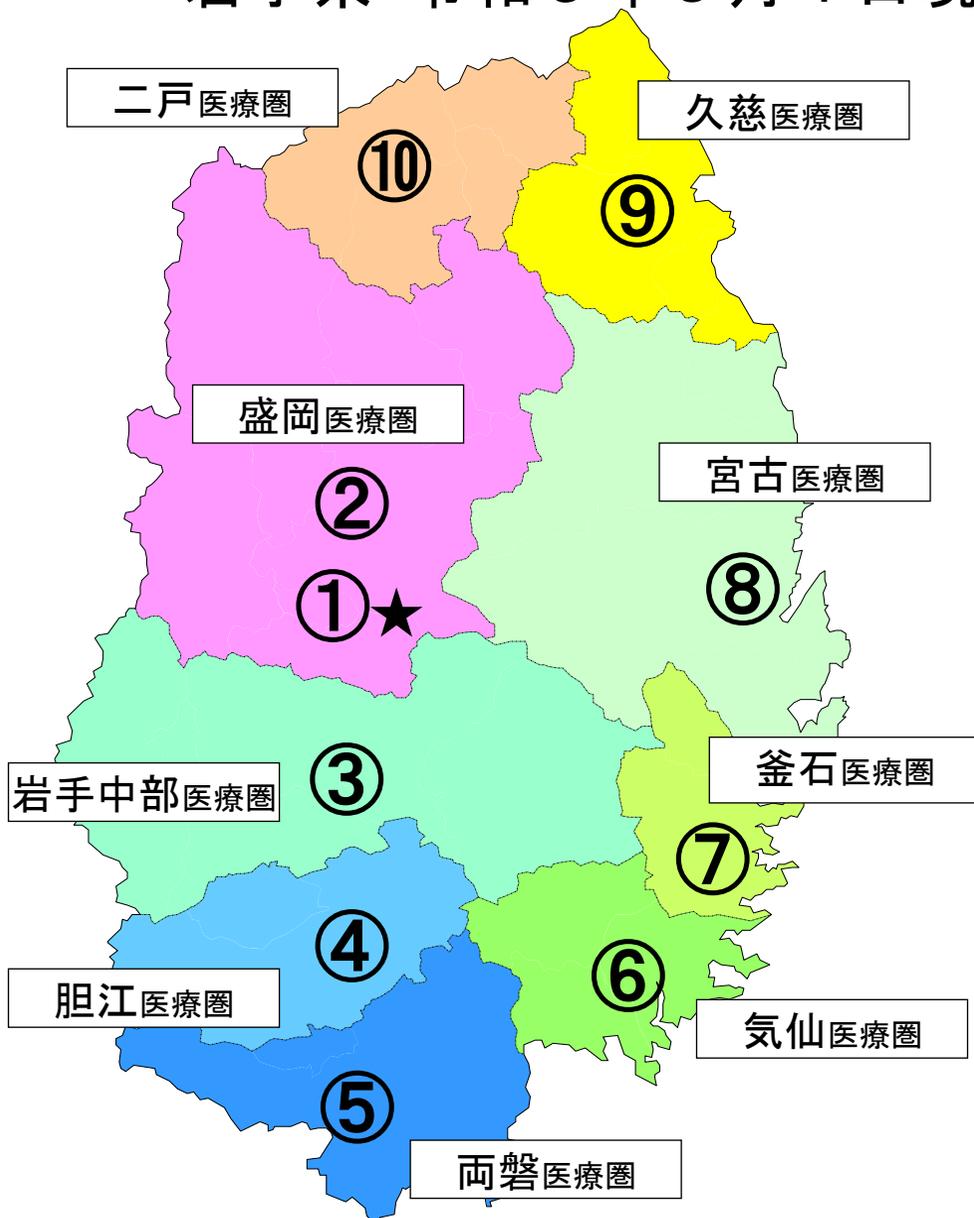
岩 手 県

岩手県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (R4.10.1)	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院					
						推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳				
							新規	指定 更新	指定 類型 変更		現況 報告	新規	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告
盛岡保健医療圏	3,641.77	456,716	38.7	125.4	39	2			2	0					
岩手中部保健医療圏	2,762.65	213,467	18.1	77.3	12	1		1		0					
胆江保健医療圏	1,173.06	125,432	10.6	106.9	9	1		1		0					
両磐保健医療圏	1,319.81	115,094	9.7	87.2	10	1		1		0					
気仙保健医療圏	889.29	55,501	4.7	62.4	3	0				1			1		
釜石保健医療圏	640.76	41,056	3.5	64.1	6	0				1			1		
宮古保健医療圏	2,670.51	72,667	6.2	27.2	6	0				1			1		
久慈保健医療圏	1,076.88	52,174	4.4	48.4	4	0				1			1		
二戸保健医療圏	1,100.29	48,405	4.1	44.0	3	0				1			1		
計	15,275.01	1,180,512	100.0	77.3	92	5	0	3	0	2	5	0	0	5	0

岩手県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



★: 都道府県拠点

- | | | |
|---|-------------|------------------|
| ① | 岩手医科大学附属病院★ | (令和5年4月1日) |
| ② | 岩手県立中央病院 | (令和5年4月1日) |
| ③ | 岩手県立中部病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |
| ④ | 岩手県立胆沢病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |
| ⑤ | 岩手県立磐井病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑥ | 岩手県立大船渡病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |
| ⑦ | 岩手県立釜石病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |
| ⑧ | 岩手県立宮古病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |
| ⑨ | 岩手県立久慈病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |
| ⑩ | 岩手県立二戸病院 | (令和5年4月1日) [特例型] |

盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院★】

- がんセンターを設置し、高度ながん医療を提供
- がん医療を担う専門的人材の養成
- 県内各医療圏の拠点病院との緊密な連携

【県立中央病院】

- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施
- 県立病院(20病院・6診療所)のセンター病院

がん診療連携拠点病院

・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点

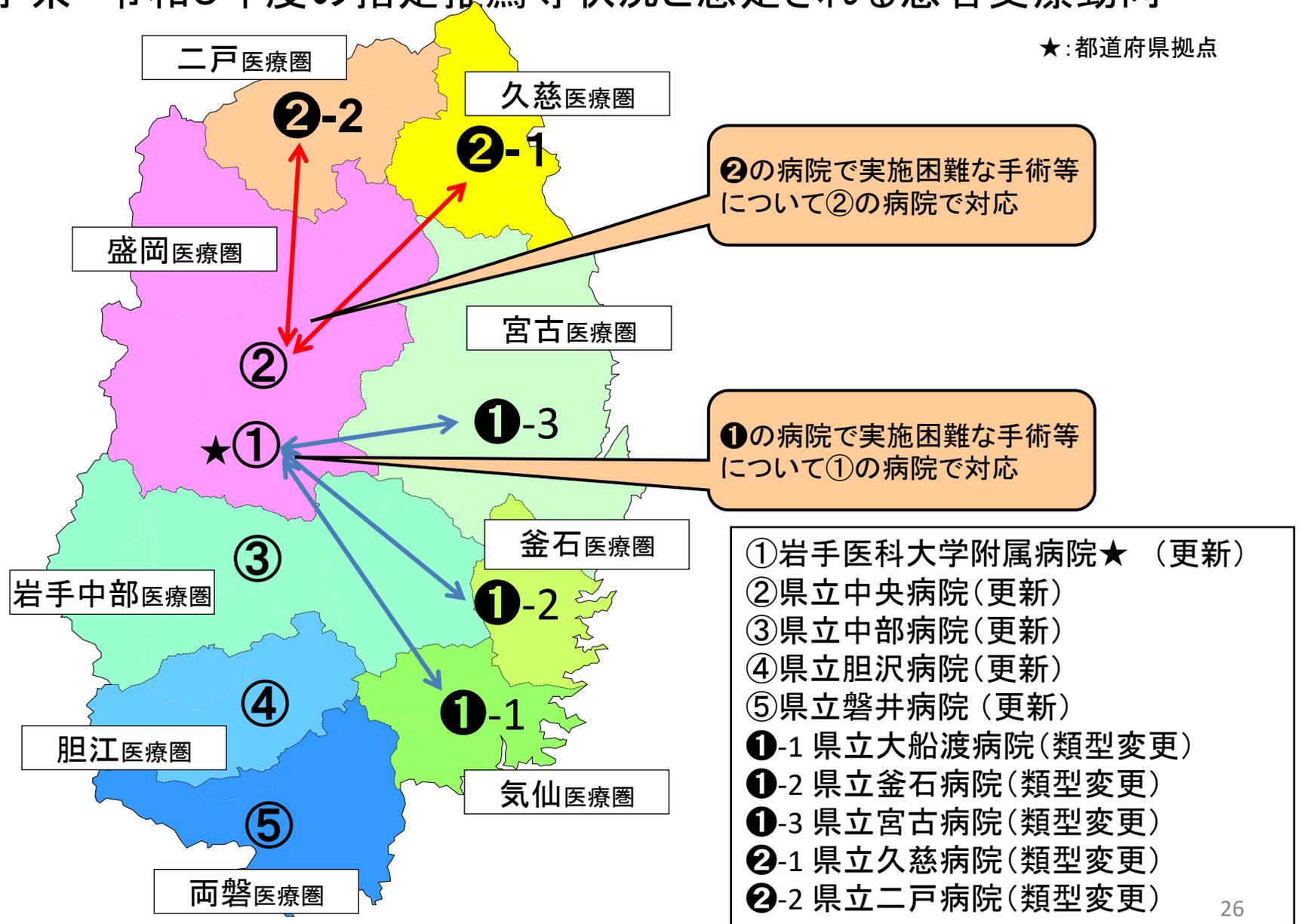
医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター
				院内がん 登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の 手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の 診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1 盛岡	★	現況 報告	岩手医科大学 附属病院	(2,494)	(1,785)	(11,266)	(826)	(372)	(21)	(897)
				2,473	1,846	16,159	794	386	24	1,157
2 盛岡		現況 報告	県立中央病院	(1,728)	(1,266)	(2,367)	(554)	(60)	(31)	(1,036)
				1,755	1,284	2,671	604	60	23	645
3 岩手 中部		更新	県立中部病院	(1,236)	(625)	(1,856)	(352)	(297)	(86)	(545)
				1,250	794	2,187	391	221	41	575
4 胆江		更新	県立胆沢病院	(1,013)	(637)	(663)	(176)	(53)	(66)	(594)
				1,166	646	905	142	50	43	364
5 両磐		更新	県立磐井病院	(713)	(524)	(2,376)	(188)	(141)	(57)	(1,033)
				741	520	625	205	90	56	753

地域がん診療病院の診療実績等

・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター
			院内がん 登録数(年間)	悪性腫瘍の 手術件数(年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間)	当該2次医療圏 に居住する がん患者の 診療の割合(%)	相談件数 (年間)
1 気仙	指定 類型 変更	県立大船渡病院	(409)	(250)	(405)	(87)	(140)	(56)	(443)
			436	244	404	84	126	43	683
2 釜石	指定 類型 変更	県立釜石病院	(247)	(124)	(138)	(105)	(115)	(51)	(699)
			253	185	126	85	23	50	1,229
3 宮古	指定 類型 変更	県立宮古病院	(507)	(257)	(446)	(106)	(98)	(57)	(224)
			483	217	541	97	81	66	251
4 久慈	指定 類型 変更	県立久慈病院	(336)	(165)	(1,257)	(47)	(120)	(49)	(142)
			441	145	976	35	55	38	121
5 二戸	指定 類型 変更	県立二戸病院	(320)	(152)	(222)	(85)	(19)	(42)	(230)
			391	127	238	78	49	30	187

岩手県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定推薦等に係る岩手県の考え方

【現状】

医療圏：9

都道府県がん診療連携拠点病院：1、地域がん診療連携拠点病院：9

【R6.4.1以降】 医療圏：9

都道府県がん診療連携拠点病院：1、地域がん診療連携拠点病院：4、地域がん診療病院：5

県内のがん診療連携体制

- 岩手医科大学附属病院を都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進する。
- 岩手県立中央病院は、岩手県立病院26施設のセンター病院として高度な医療機能を有している
- 盛岡保健医療圏については、県人口約118万人（令和4年10月1日現在）のうち、約4割の約46万人が集中し、本県では最も人口の多い圏域であり、他圏域からの患者流入も多い。そのため、岩手医科大学附属病院と県立中央病院の2病院が、引き続き盛岡保健医療圏をカバーするとともに、グループ指定を受ける地域がん診療病院と連携して各地域におけるがん診療等の提供体制を確保する。
- 県立大船渡病院、県立釜石病院、県立宮古病院、県立久慈病院、県立二戸病院は地域がん診療病院へ類型変更し、岩手医科大学附属病院または県立中央病院とのグループ指定により連携して対応する。

宮城県

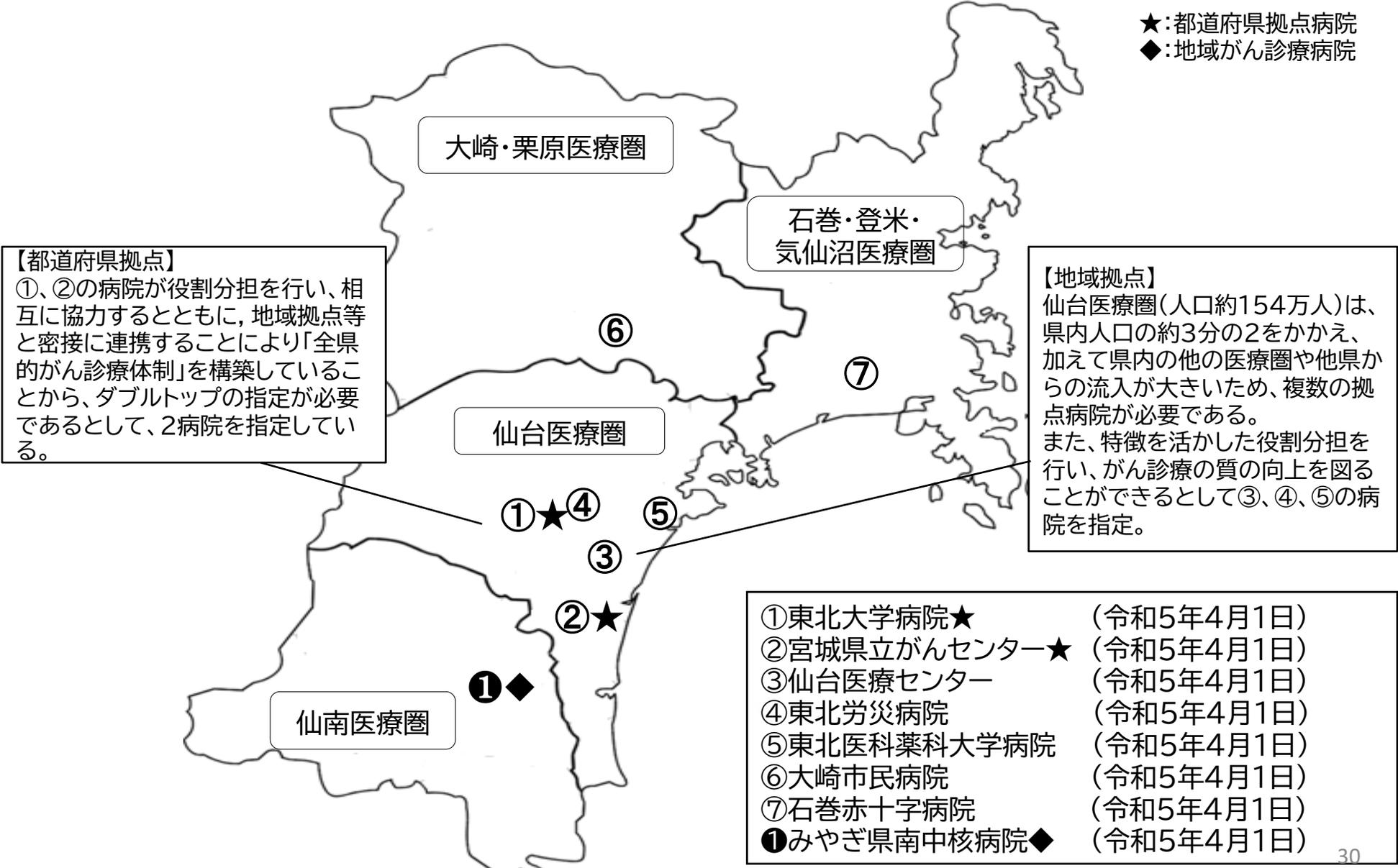
宮城県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合 (%)	人口 密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域 がん診療連携 拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	指定類 型変更 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
仙南医療圏	1,551.4	160,109	7.07%	103.2	13			1		1						
仙台医療圏	1,648.9	1,536,546	67.85%	931.9	77	5				5						
大崎・栗原 医療圏	2,328.9	248,454	10.97%	106.7	25	1				1						
石巻・登米・ 気仙沼医療圏	1,753.1	319,627	14.11%	182.3	20	1				1						
計	7,282.3	2,264,736	100%	311.0	135	7	0	1	0	8	0	0	0	0	0	0

宮城県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点病院
◆:地域がん診療病院



がん診療連携拠点病院の診療実績等

・()内は令和4年10月提出の数値, 下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点

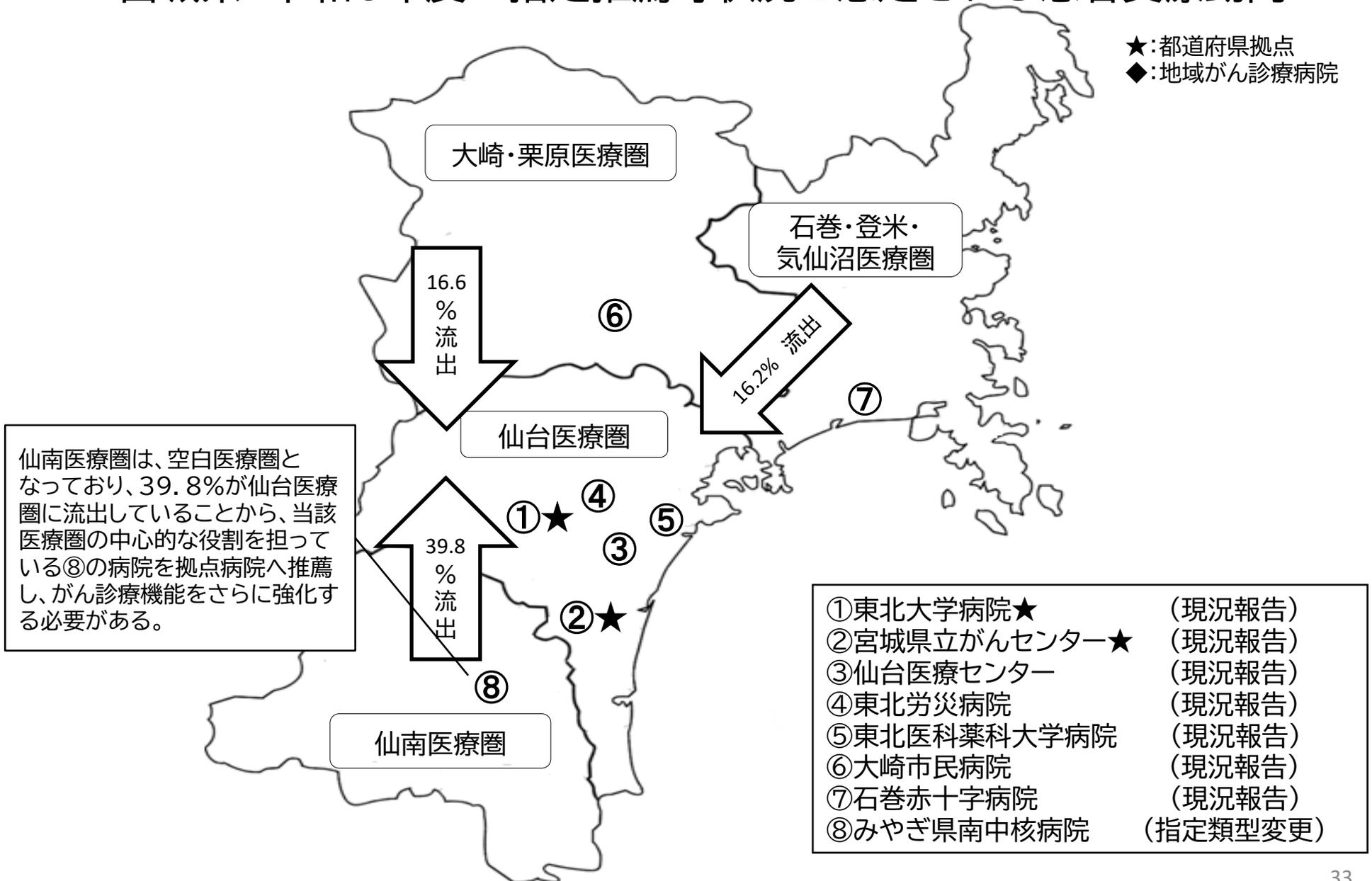
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	仙台	★	現況報告	東北大学病院	(3,035) 2,999	(2,661) 2,573	(4,247) 6,452	(1,342) 1,266	(516) 520	(16.1) 17	(971) 1,074
②	仙台	★	現況報告	宮城県立がんセンター	(1,722) 1,735	(1,268) 1,265	(2,955) 2,858	(648) 666	(407) 469	(8.8) 9	(1,449) 1,516
③	仙台		現況報告	仙台医療センター	(1,601) 1,661	(1,094) 1,126	(3,335) 3,473	(469) 408	(374) 353	(11.1) 11	(359) 469
④	仙台		現況報告	東北労災病院	(1,015) 879	(726) 711	(1,013) 1,057	(269) 300	(274) 218	(3.3) 5	(827) 759
⑤	仙台		現況報告	東北医科薬科大学病院	(1,443) 1,362	(1,046) 952	(1,488) 1,474	(301) 359	(164) 190	(4.3) 8	(402) 440
⑥	大崎 栗原		現況報告	大崎市民病院	(1,780) 1,827	(964) 888	(2,054) 2,237	(442) 530	(157) 146	(40) 59	(653) 841
⑦	石巻 登米 気仙沼		現況報告	石巻赤十字病院	(1,543) 1,697	(1,351) 1,464	(2,060) 2,591	(395) 403	(133) 90	(29.8) 24	(432) 475

地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和4年10月提出の数値, 下段は令和5年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合 (%)	相談件数 (年間)
①	仙南	指定 類型 変更	みやぎ県南 中核病院	(741) 845	(663) 643	(1,081) 1,168	(124) 149	(180) 173	(60.6) 66	(1,727) 1,664

宮城県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定に係る宮城県の考え方

○がん診療連携拠点病院の整備方針

- ・2つの都道府県拠点病院が県全体を牽引する、ダブルトップ体制を整備する
- ・4つの医療圏に1箇所以上の地域拠点病院等を整備する
- ・仙台医療圏は、県内人口の約3分の2をかかえ、他の医療圏からの流入が大きいいため、複数の拠点病院を配置する
- ・上記による全県的がん診療体制を整備し、がん医療の均てん化を実現する

○今回の指定類型変更申請病院(みやぎ県南中核病院)に係る推薦方針

- ・仙南医療圏は、拠点病院のない空白医療圏となっているが、当該病院は、緩和ケア外来や、緩和ケア病棟を整備するなど、当該医療圏内のがん診療の中心的役割を担う病院である。
- ・診療体制や人員配置等の要件については、指定要件を充足している。
- ・診療実績について、当該病院は、①エの「放射線治療のべ患者数」が指定要件の基準に達していないものの、昨年度から放射線治療医が常勤で配置されたため、今後の患者数が見込まれるとともに、その他の診療実績はすべて充足している。
- ・また、当該病院は、現在、地域がん診療病院に指定されているが、診療実績の指定要件②の「当該医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合」が、6割を超えており、指定要件を充足している。

秋 田 県

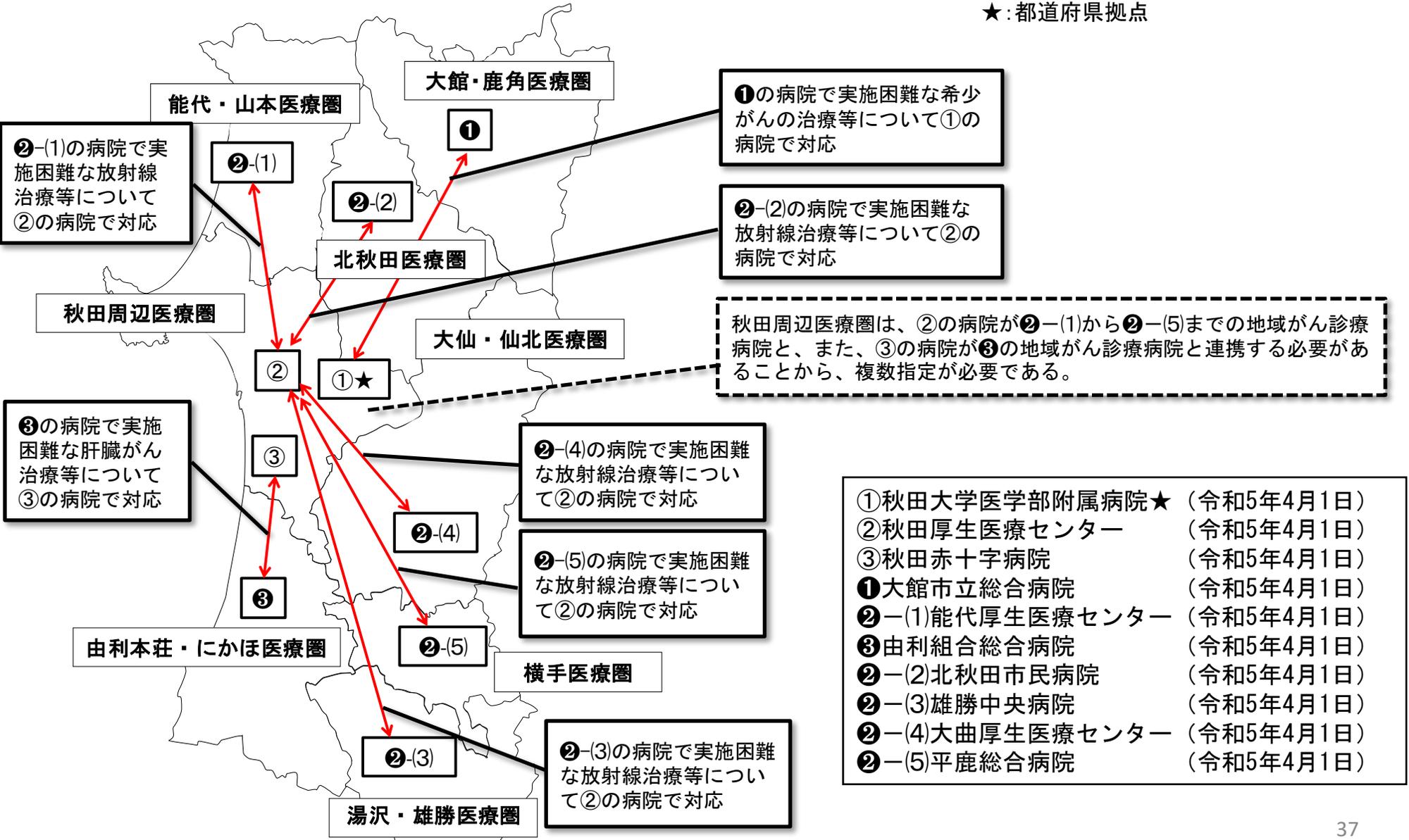
秋田県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院				
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳			
							新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告		新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告
大館・鹿角	1822.44	97,298	10.6	53.39	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
北秋田	1409.48	29,809	3.3	21.15	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
能代・山本	1191.2	69,769	7.6	58.57	6	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
秋田周辺	1716.83	374,679	41.0	218.24	25	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0
由利本荘・にかほ	1450.72	93,611	10.2	64.53	7	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
大仙・仙北	2128.67	114,031	12.5	53.57	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
横手	692.8	80,767	8.8	116.58	4	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
湯沢・雄勝	1225.38	54,778	6.0	44.70	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	11637.52	914,742	100.0	78.60	64	2	0	2	0	1	4	0	4	0	3

秋田県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



- ①秋田大学医学部附属病院★ (令和5年4月1日)
- ②秋田厚生医療センター (令和5年4月1日)
- ③秋田赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ①大館市立総合病院 (令和5年4月1日)
- ②-①能代厚生医療センター (令和5年4月1日)
- ③由利組合総合病院 (令和5年4月1日)
- ②-②北秋田市民病院 (令和5年4月1日)
- ②-③雄勝中央病院 (令和5年4月1日)
- ②-④大曲厚生医療センター (令和5年4月1日)
- ②-⑤平鹿総合病院 (令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・()内は令和3年1月1日～令和3年12月31日の数値、下段は令和5年10月提出(令和4年1月1日～12月31日)の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	秋田周辺	★	指定更新	秋田大学医学部附属病院	(2,203) 1,731	(1,820) 1,363	(8,371) 13,754	(664) 719	(131) 93	(22) 18	(3,807) 2,520
2	秋田周辺		指定更新	秋田厚生医療センター	(1,156) 989	(603) 642	(1,355) 1,540	(206) 243	(70) 101	(19) 20	(970) 1,120
3	秋田周辺		現況報告	秋田赤十字病院	(1,293) 1,129	(761) 740	(2,469) 2,367	(229) 216	(93) 86	(25) 23	(724) 963

地域がん診療病院の診療実績等

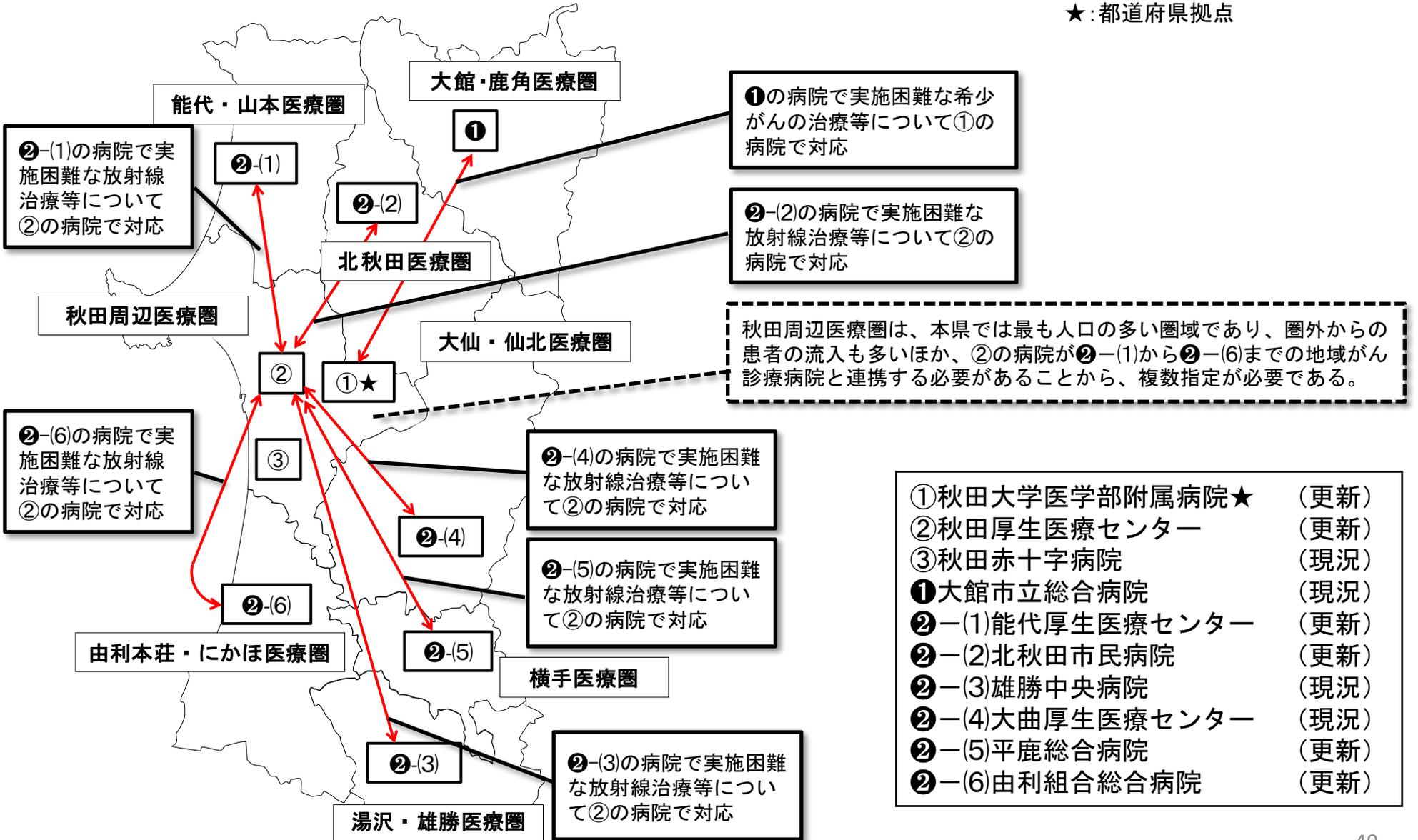
資料 3 - 2

・()内は令和3年1月1日～令和3年12月31日の数値、下段は令和5年10月提出(令和4年1月1日～12月31日)の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
1	大館・鹿角	現況報告	大館市立総合病院	(857) 871	(409) 378	(4,818) 4,582	(170) 170	(21) 53	(46) 46	(1,139) 1,106
2	能代・山本	指定更新	能代厚生医療センター	(527) 426	(389) 212	(523) 756	(102) 88	(140) 148	(59) 59	(183) 174
3	由利本荘・にかほ	指定更新	由利組合総合病院	(646) 666	(362) 406	(552) 600	(116) 109	(22) 63	(68) 62	(2,215) 2,191
4	北秋田	指定更新	北秋田市民病院	(257) 297	(105) 85	(996) 1,465	実施なし	(59) 45	(39) 52	(95) 108
5	湯沢・雄勝	現況報告	雄勝中央病院	(300) 302	(77) 127	(262) 675	実施なし	(292) 75	(23) 26	(153) 142
6	大仙・仙北	現況報告	大曲厚生医療センター	(869) 864	(489) 525	(1,552) 1,042	(248) 220	(145) 68	(65) 68	(354) 236
7	横手	指定更新	平鹿総合病院	(938) 855	(447) 546	(3,618) 3,613	(199) 236	(207) 178	(48) 39	(286) 334

秋田県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



秋田県のがん診療体制に関する考え方

【現状】

医療圏：8

都道府県がん診療連携拠点病院：1 地域がん診療連携拠点病院：2 地域がん診療病院：7

1. 県内のがん診療連携体制について

- 秋田大学医学部附属病院を都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進する。
- 秋田周辺医療圏は、県人口約91万人（令和5年9月1日現在）のうち約4割の約37万人が集中し、圏外からの患者の流入も多い。そのため、秋田厚生医療センターと秋田赤十字病院の2病院が引き続き秋田周辺医療圏をカバーすることにより、がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の確保を図る。
- 地域がん診療病院は、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携して各がん医療圏におけるがん診療等の提供体制を確保する。

2. 指定により期待される効果

- 拠点病院を中心とした集学的治療や標準的治療の提供体制の強化
- がんの種類や病態等に応じた適切な医療や緩和ケアの提供、相談支援の実施
- 医療圏内の各医療機関と連携したがんに係る地域医療の充実及び質の向上

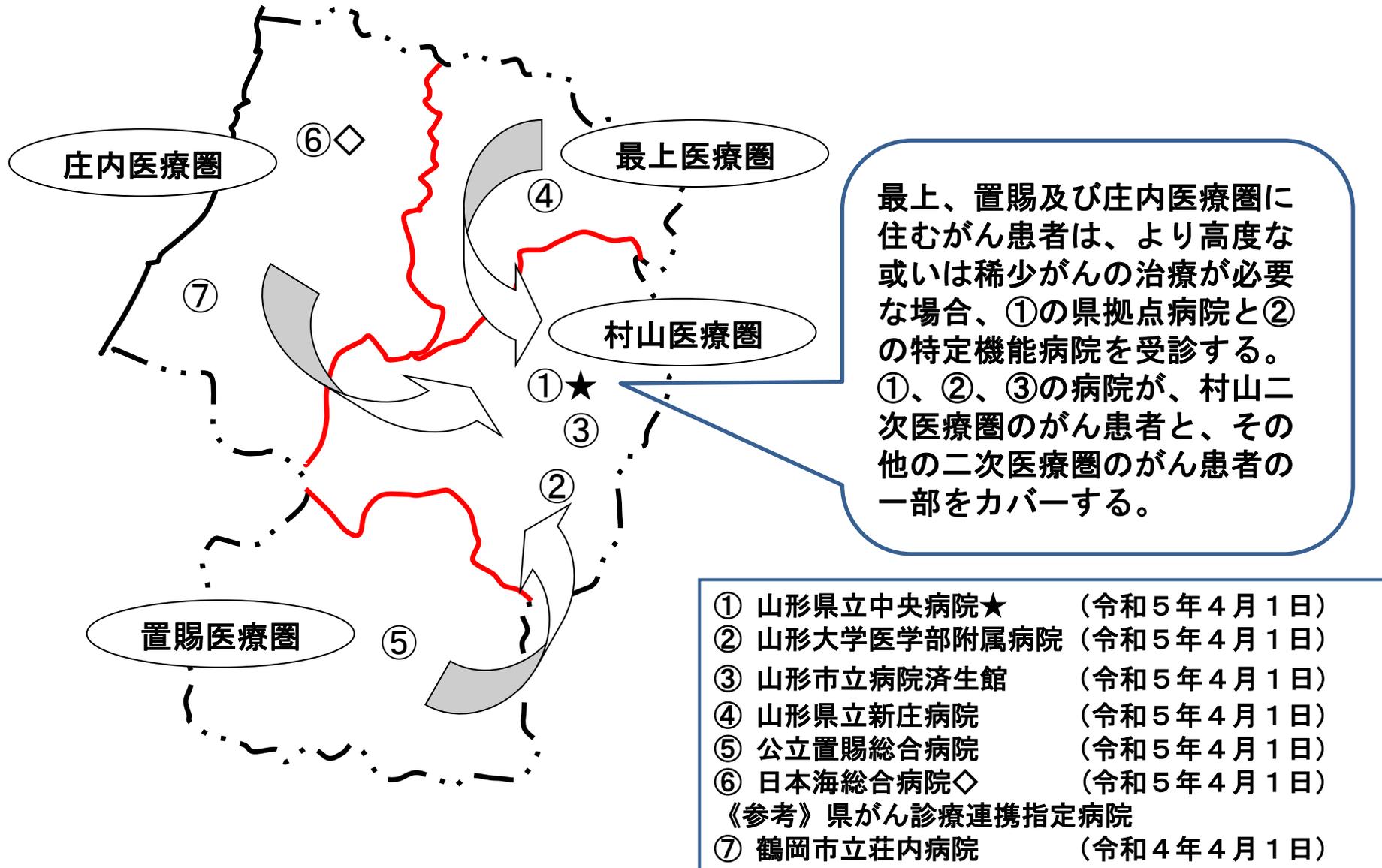
山形県

山形県がんの医療圏の概要

令5年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人) R5.9.1	人口 割合 (%)	人口 密度 (人)	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域 がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
						推薦 施設 数	内訳				推薦 施設 数	内訳				推薦 施設 数	内訳				
							新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告		新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告		新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更	現況 報告	
村山医療圏	2,619.40	516,490	50.3	197.2	33	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最上医療圏	1,803.23	66,208	6.4	36.7	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
置賜医療圏	2,495.24	192,753	18.8	77.2	15	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庄内医療圏	2,405.28	251,665	24.5	104.6	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9,323.15	1,027,116	100.0	110.2	67	6	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

山形県令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



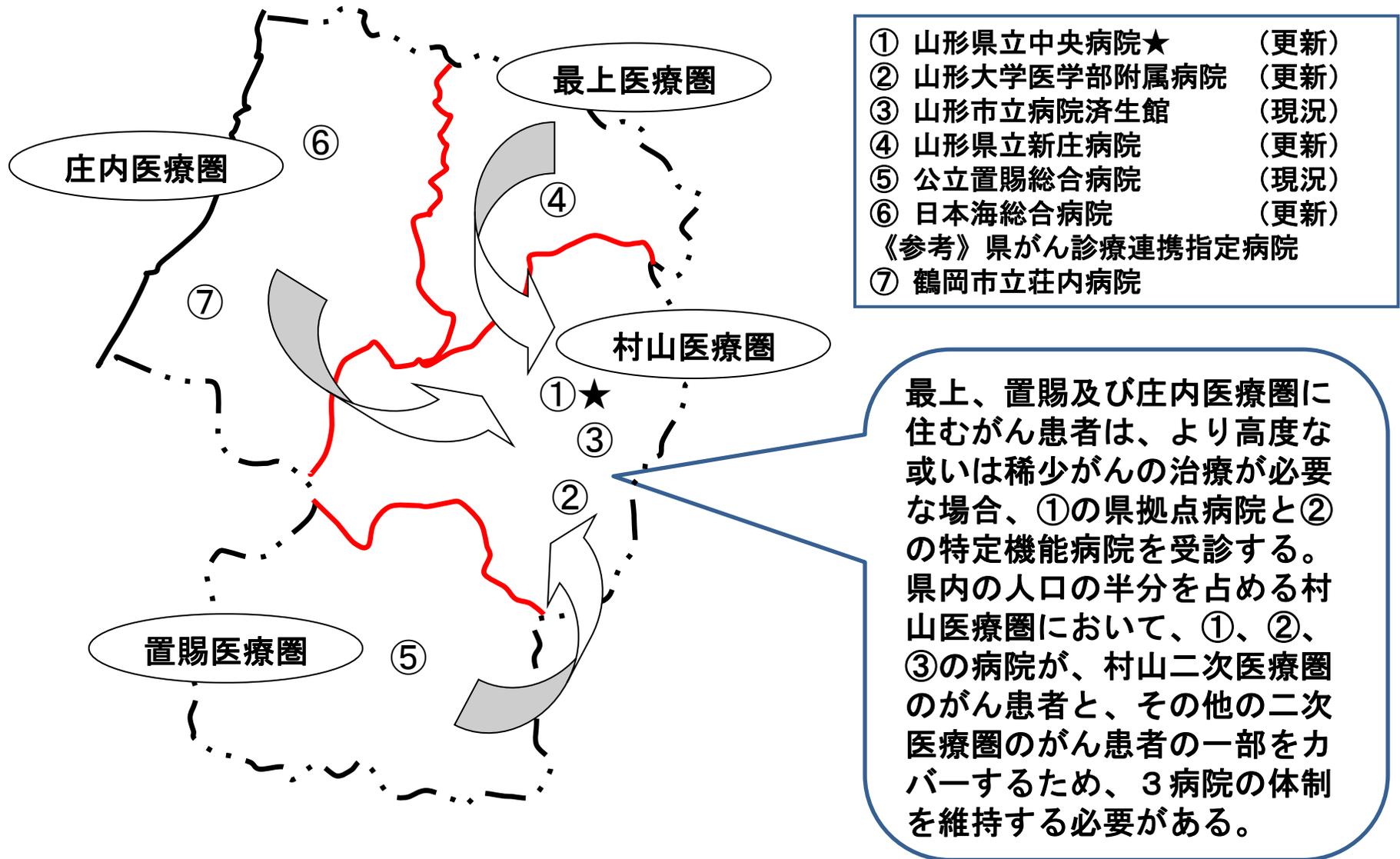
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和3年の実績、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
					<u>500件以上</u>	<u>400件以上</u>	<u>1,000人以上</u>	<u>200人以上</u>	<u>50件以上</u>	<u>2割程度</u>	
1	村山医療圏	★	更新	山形県立中央病院	(1,839)	(1,092)	(2,040)	(367)	(357)	(139.0)	(2,460)
					1,885	1,250	2,241	387	255	37.5	2,880
2	村山医療圏		更新	山形大学医学部附属病院	(3,026)	(28)	(1,854)	(1,814)	(3,021)	(22.9)	(188)
					1,931	1,548	3,549	1,114	175	32.5	249
3	村山医療圏		現況	山形市立病院 済生館	(1,191)	(565)	(1,618)	(184)	(167)	(12.0)	(761)
					795	592	1,438	111	125	11.8	697
4	最上医療圏		更新	山形県立新庄病院	(629)	(407)	(590)	(146)	(122)	(64.0)	(379)
					477	661	536	142	91	49.9	471
5	置賜医療圏		現況	公立置賜総合病院	(1,016)	(505)	(1,531)	(186)	(85)	(29.0)	(274)
					1,080	599	1,188	226	79	16.3	195
6	庄内医療圏		更新	日本海総合病院	(1,961)	(1,126)	(1,946)	(268)	(206)	(79.2)	(1,675)
					1,954	1,249	1,759	280	226	77.3	1,532
7	庄内医療圏		(参考)	鶴岡市立 荘内病院	(820)	(397)	(1,593)	(197)	(110)	(22.0)	(377)
					597	330	1,201	182	115	25.4	272

山形県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



山形県のがん対策について

1 基本的な方向

本県では、「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんの克服を目指す」ことを目標とし、がん予防、がんの早期発見、がん医療の提供、がん患者とその家族への相談支援等を総合的に推進し、がんによる死亡者の減少を図るとともに、全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の維持向上を図り、尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築に取り組んでいる。

2 がん診療提供体制

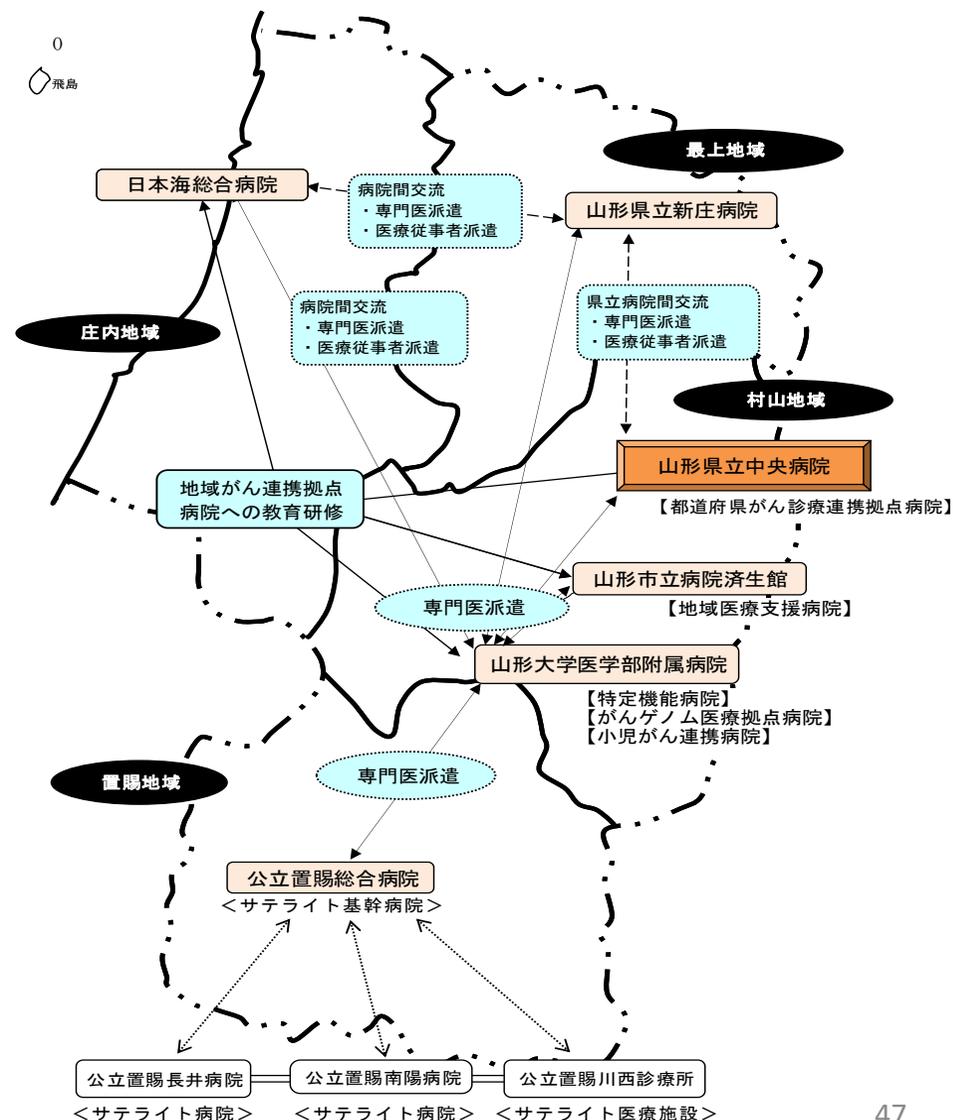
がん医療の質の向上や均てん化・集約化による効率的かつ持続可能ながん医療の提供に向け、二次保健医療圏ごとにがん診療連携拠点病院を整備している。

また、がん診療連携拠点病院では、地域におけるがん医療の拠点として、がん患者及びその家族への相談支援、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅医療支援診療所、訪問看護ステーション、保険薬局等の関係機関との地域連携の構築を行い、切れ目のない医療を提供している。

3 がん診療連携体制

都道府県がん診療連携拠点病院である山形県立中央病院を中核機関として、各地域がん連携拠点病院等との連携調整を図っている。また、同一医療圏に複数ある地域がん診療連携拠点病院の役割分担を明確化し、連携体制を構築している。

山形県のがん診療連携体制



4 同一医療圏に複数配置となる拠点病院の役割分担

本県において村山医療圏が複数配置となり、各拠点病院の役割分担は次のとおりである。

病院名	役割分担
①山形県立中央病院	早期から進行期がんの標準的治療から先進的治療を提供 拠点病院への教育研修及び県内の緩和ケア体制の充実
②山形医学部附属病院	稀少がん、ゲノム医療、小児がん、特殊高度かつ先進的がん医療を提供 拠点病院への高度ながん治療の支援
③山形市立病院済生館	比較的早期のがん医療を提供 県内初の地域医療支援病院として村山圏域の医療機関と連携 地域医療従事者への教育研修

5 指定更新の考え方

本県の二次医療圏は、地理的条件、交通体系及び歴史的・文化的生活行動圏等から4つに分けているが、各医療圏の区域は広く、住民の移動手段は自家用車中心であり、住民が地域を越えて移動することは少ないため、地域内で医療が完結する傾向にある。その特性を踏まえ、がん医療の均てん化や継続したがん医療を提供していくためには、これまで同様、各医療圏においてがん診療連携拠点病院を中心にがん対策を行う必要があることから、山形県立中央病院は「都道府県がん診療連携拠点病院」として、山形大学医学部附属病院及び日本海総合病院は「地域がん診療連携拠点病院」として、指定更新する。

また、山形県立新庄病院は充足していない要件があるが、最上地域唯一の基幹病院でもあり、本県としては、これまで地域のがん医療の中核的な役割を果たしてきたこと、また、令和5年10月の移転開院に伴い、緩和ケア内科やがん相談のほか入退院支援等を行う総合患者サポートセンターが新設されるなど、がん医療の提供体制が強化されたことから、地域がん診療連携拠点病院として指定更新されることをお願いしたい。未充足要件については、当該病院のみならず県においても、充足できるよう引き続き努めていく。

福島県

福島県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申 請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北医療圏	1,753.34	451,933	25.55%	257.8	31	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県中医療圏	2,406.25	505,909	28.61%	210.2	32	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
県南医療圏	1,233.07	134,525	7.61%	109.1	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
会津・南会 津医療圏	5,420.31	243,221	13.75%	44.9	18	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
相双医療圏	1,738.91	111,244		64	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき医療 圏	1,232.02	321,761	18.19%	261.1	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	13,783.90	1,768,593	100.00%	128.3	129	5	1	1	7	0	0	0	0	0	0

福島県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

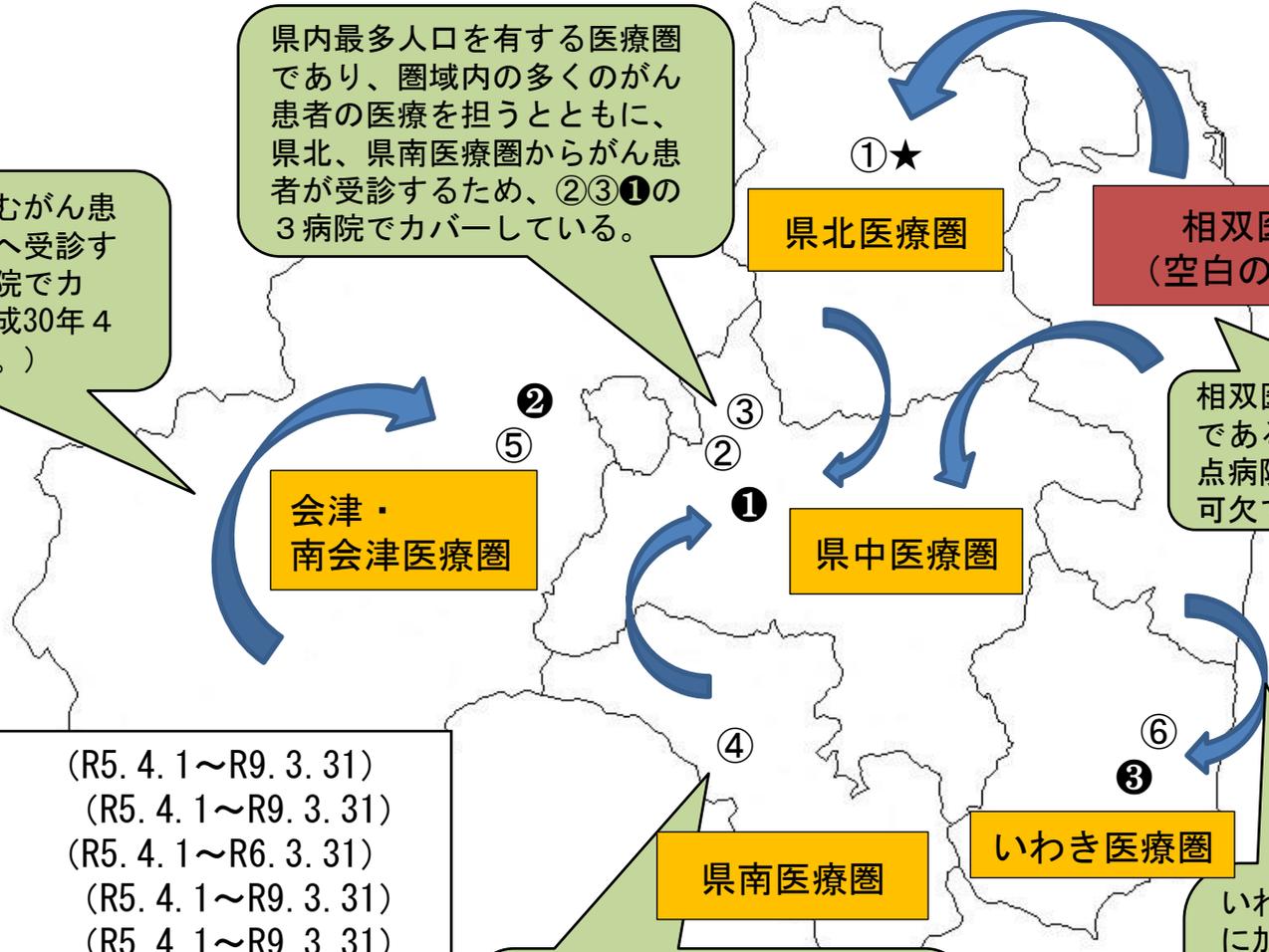
★：都道府県拠点

県内最多人口を有する医療圏であり、圏域内の多くのがん患者の医療を担うとともに、県北、県南医療圏からがん患者が受診するため、②③①の3病院でカバーしている。

旧南会津医療圏に住むがん患者は、旧会津医療圏へ受診するため、⑤②の2病院でカバーしている。(平成30年4月から医療圏を統合。)

相双医療圏
(空白の医療圏)

相双医療圏は空白の地域であるため、他圏域の拠点病院との連携強化が不可欠である。



- ① 医大附属病院★ (R5. 4. 1～R9. 3. 31)
- ② 太田西ノ内病院 (R5. 4. 1～R9. 3. 31)
- ③ 総合南東北病院 (R5. 4. 1～R6. 3. 31)
- ④ 白河厚生総合病院 (R5. 4. 1～R9. 3. 31)
- ⑤ 竹田総合病院 (R5. 4. 1～R9. 3. 31)
- ⑥ いわき市医療センター (R5. 4. 1～R9. 3. 31)

※ 福島県がん診療連携推進病院
(県独自指定：旧拠点病院)

- ① 坪井病院 ② 会津中央病院 ③ 福島労災病院

県南医療圏は、当該医療圏のがん患者に対応するとともに、県中医療圏の一部及び栃木県のがん患者の通院圏域としての対応を行っている。

いわき医療圏のがん患者に加え、相双医療圏南部、さらには茨城県の一部のがん患者をカバーしている。相双医療圏南部のがん患者については⑥③の2病院を中心に対応している。

がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

・ () 内は令和4年度提出分の数値、下段は令和5年度提出分の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	県北	★	現況	医大附属病院	(2,187) 1,851	(3,132) 3,064	(9,643) 9,655	(803) 860	(287) 191	(58.6) 51	(1,338) 1,371
2	県中		現況	太田西ノ内病院	(1,050) 1,161	(784) 932	(3,965) 5,382	(268) 277	(53) 54	(22.1) 23	(2,735) 3,107
3	県中		更新	総合南東北病院	(1,990) 1,896	(1,339) 1,178	(1,876) 2,165	(709) 726	(295) 194	(21.3) 21	(1,582) 438
4	県南		現況	白河厚生総合病院	(630) 649	(483) 492	(1,377) 3,883	(205) 183	(72) 72	(63.5) 68	(464) 489
5	会津・南会津		現況	竹田総合病院	(1,222) 1,365	(954) 992	(1,132) 1,146	(323) 341	(240) 260	(41.2) 44	(1,196) 1,902
5	会津・南会津		新規	会津中央病院	(555) 640	(528) 628	(1,574) 1,716	(142) 133	(51) 52	(33.2) 33	(1,361) 1,154
6	いわき		現況	いわき市医療センター	(1,476) 1,410	(792) 733	(2,681) 7,921	(280) 248	(56) 103	(27.4) 29	(2,257) 2,228

福島県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

県北、県南医療圏をはじめ、各医療圏からがん患者が流入する状況にあり、②③①の病院が各々の機能的役割分担を担い、がん患者を受け入れる体制を継続して整備する必要がある。

相双医療圏北部のがん患者が流入しており、都道府県がん拠点病院の役割を果たすことも考慮すると、①の病院の負担が大きい。

旧南会津医療圏については、病院が1箇所のみであり、がん患者については旧会津医療圏へ受診せざるを得ない。そのため、⑤⑦の2病院で旧南会津医療圏のがん患者をカバーする体制を構築する必要がある。

相双医療圏
(空白の医療圏)

相双医療圏は空白の地域であるため、他圏域の拠点病院との連携強化が不可欠である。

会津・南会津医療圏

県北医療圏

県中医療圏

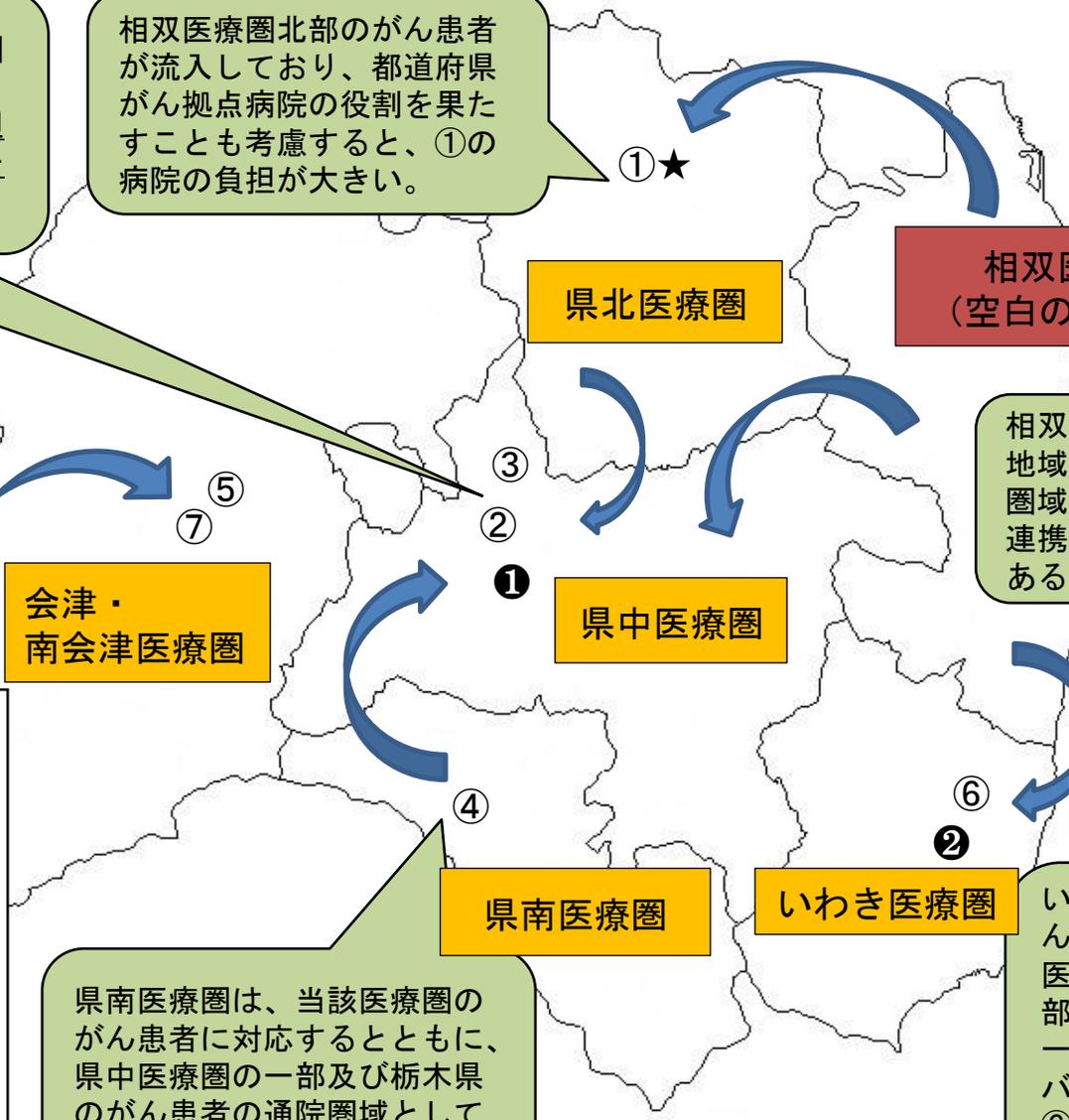
県南医療圏

いわき医療圏

- ① 医大附属病院★
 - ② 太田西ノ内病院
 - ③ 総合南東北病院 (更新)
 - ④ 白河厚生総合病院
 - ⑤ 竹田総合病院
 - ⑥ いわき市医療センター
 - ⑦ 会津中央病院 (新規)
- ※ 福島県がん診療連携推進病院
(県独自指定：旧拠点病院)
- ① 坪井病院
 - ② 福島労災病院

県南医療圏は、当該医療圏のがん患者に対応するとともに、県中医療圏の一部及び栃木県のがん患者の通院圏域としての対応を行っている。

いわき医療圏に住むがん患者に加え、空白の医療圏の相双医療圏南部、さらには茨城県の一部のがん患者をカバーしていることから⑥②の2病院の体制を維持する必要がある。



1 基本的な考え方

当県では「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けないふくしまの実現」を目指し、平成19年度に「福島県がん対策推進計画」を策定し、「がん対策推進基本計画」の見直し等を踏まえ、平成29年度に「第三期福島県がん対策推進計画」を策定した。

また、当県には高度のがん医療機関として、現在6つのがん診療連携拠点病院が存在する一方、がん診療連携拠点病院の要件を満たす病院が存在しない二次医療圏もある。空白医療圏においても県民に質の高いがん医療を提供するため、がん診療連携拠点病院を中心とした医療提供体制を整備し、機能強化を図ることにしている。

2 同一医療圏に複数の医療機関を指定する理由

当県は本州で岩手県に次いで2番目に広い。東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県合計面積に匹敵する面積を有しており、現在6つの医療圏による医療提供体制をとっている。

また、当県は南北に走る山地・山脈により浜通り地方（相双医療圏及びいわき医療圏）、中通り地方（県北医療圏、県中医療圏及び県南医療圏）及び会津地方（会津・南会津医療圏）の3つの地域に分かれている。各医療圏で地理的環境や気候が大きく異なるほか、医師や医療機関の分布及び規模にも医療圏の間で大きな偏りがあることから、医療圏によっては圏内の医療機関において必要ながん医療を十分に受けられずに、隣接する医療圏に依存することも多い。

この実情を勘案し、当県におけるがん医療の均てん化及び連携強化を促進するためには、がん診療体制が比較的充実している医療圏に地域がん診療連携拠点病院を複数指定し、がん診療連携拠点病院となり得る病院が当面存在しない空白医療圏や、がん患者の動向などから圏外の医療機関との連携を強く求められる医療圏について、複数の医療圏での連携体制を構築することが必要である。

3 会津中央病院の新規指定推薦

指定要件を満たさない項目への対応については、資料5-2のとおり。

また、当県における同一医療圏に複数の医療機関を指定する理由は上記3のとおりであり、平成30年度までは2つの医療圏であった「会津・南会津医療圏」については、面積が約5,420km²と広大であり、愛知県に匹敵する面積を有している。特に旧南会津医療圏は一定のがん患者数が存在するものの当該医療圏に病院が1か所（県立南会津病院・98床）しかなく、医療提供体制全般において隣接する旧会津医療圏に大きく依存しており、会津・南会津医療圏のがん診療連携拠点病院において、旧南会津医療圏を補完する必要がある。

こうした当県の特性に対応するがん診療連携体制を構築するために必要であることから、会津中央病院を地域がん診療連携拠点病院に推薦したい。

4 まとめ

広大な面積を有する当県においては、それぞれの病院の特徴や地理的条件、さらには東日本大震災・原子力災害で県内の各医療圏に避難を余儀なくされた患者の状況を踏まえると、がん診療提供体制を整備する上で1医療圏内に複数の拠点病院が必要な地域もあり、拠点病院相互に連携を強化することで当県のがん診療提供体制の一層の強化が期待される。

したがって、今般、拠点病院で指定更新申請のあった6病院と、地域がん診療連携拠点病院で新規指定申請のあった1病院を県として推薦することにしたい。

1 がん治療センターの開設

- 薬物・手術・がん免疫療法、放射線治療、緩和ケアを集約して行うがん治療センターが令和4年7月2日に開設。
- 特に、診療実績を満たしていない放射線治療に関しては、次の対応を予定。
 - ・ さらに放射線治療の向上を目指すため、福島県立医科大学附属病院と同じ最新鋭の放射線照射装置を導入。
(令和5年1月より稼働開始)
 - ・ これにより、強度変調放射線治療(IMRT)も可能。
 - ・ また、専用回線を利用し、治療計画や方法についても福島県立医科大学附属病院と共同で治療を進める。
⇒ 医大とオンラインで治療計画を立てることが出来るため、会津にいながら医大と同等の治療が可能となる。
これにより、今まで医大や他院へ紹介していた患者も会津中央病院で治療が可能となるため、令和5年内には放射線治療延べ患者数の基準を満たす予定。
- がんに係る薬物療法に関しては、福島県立医科大学附属病院に先端がん治療研究講座の寄附講座を開設し、がん治療センターの中に15台の専用ベッドを備え、新たな化学療法室を構築。
- 放射線治療やがんに係る薬物療法だけではなく、最先端治療機器ダヴィンチによるロボット支援手術や最先端内視鏡治療、免疫療法と薬物療法・放射線治療とを組み合わせた先端がん治療にも力を入れていく。
- 緩和ケアについては「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、緩和ケア修会を令和5年12月に実施。
- 日本医療機能評価機構の審査については、10月6日に予備審査を受け、令和6年2月29日～3月1日日本審査を受診する予定。

2 南会津地域のがん患者の診療

- 旧南会津医療圏から会津医療圏にあるがん診療連携拠点病院へ行くには、車で片道1時間半～2時間かかる。
- 特に南会津地域は高齢化と過疎化が進んでおり、車での通院は地域住民にとって大きな負担となっている。
- また、旧南会津医療圏には産婦人科医がいない。
- こうした状況を踏まえ、会津中央病院では県立南会津病院に産婦人科医師を派遣し、女性患者のケアを行うとともに、特にがんの患者について、南会津病院と連携を図りながら継続したサポートが行える体制となっている。
- 南会津病院でがんが見つかり専門的な治療が必要な患者については、会津中央病院で入院及び治療を行い、治療が落ち着いた後は南会津病院で経過観察し、必要時には再度会津中央病院を受診させるなど、旧南会津医療圏のがん医療に寄与している。

茨 城 県

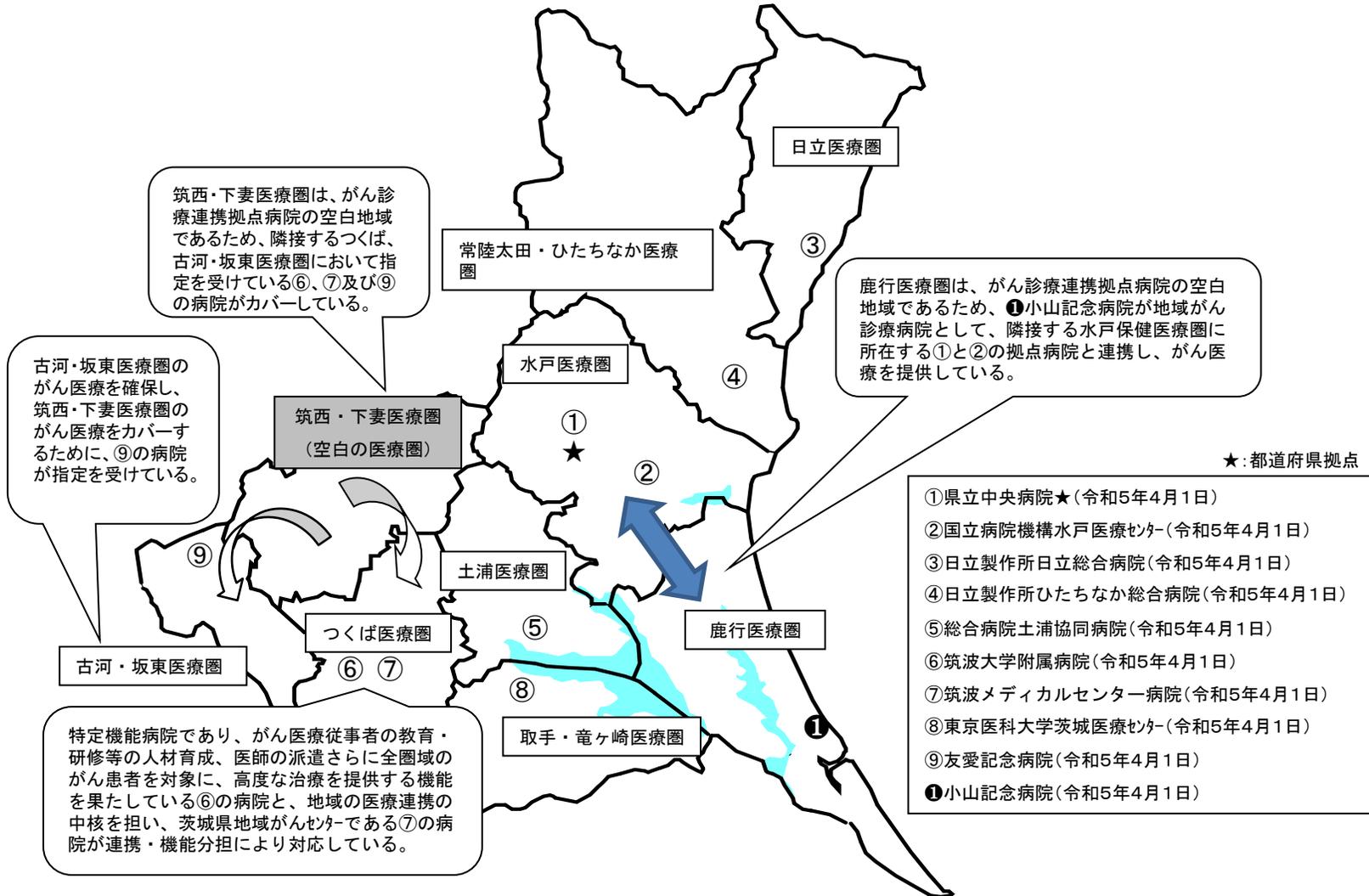
茨城県 がんの医療圏の概要

令和 5 年 9 月 1 日現在

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院						
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳					
								新規申 請	指定更 新	指定類 型 変更		現況報 告	新規申 請	指定更 新		指定類 型 変更	現況報 告	新規申 請	指定更 新	指定類 型 変更	現況報 告
1	水戸	909.73	449,722	15.9%	494.3	39	1		1	1	0			0							
2	日立	606.07	232,678	8.2%	383.9	21	0			1	0			0							
3	常陸太田・ ひたちなか	1282.3	342,420	12.1%	267.0	21	0			1	0			0							
4	鹿行	754.49	261,450	9.2%	346.5	11	0				0			0						1	
5	土浦	495.02	251,672	8.9%	508.4	17	0			1	0			0							
6	つくば	486.52	366,032	12.9%	752.3	16	0			2	0			0							
7	取手・竜ヶ 崎	656.14	455,764	16.1%	694.6	23	0			1	0			0							
8	筑西・下妻	590.99	246,469	8.7%	417.0	14	0				0			0							
9	古河・坂東	316.31	220,362	7.8%	696.7	11	1		1		0			0							
							0				0			0							
	計	6097.57	2,826,569	1	4560.8986	173	2	0	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

茨城県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	水戸	★	現況	茨城県立中央病院	(1,432)	(900)	(1,789)	(562)	(298)	(23)	(2,592)
					1,486	871	1,778	532	284	22	2,106
2	水戸		更新	水戸医療センター	(1,342)	(727)	(1,758)	(7,557)	(69)	(22)	(957)
					1,402	746	5,400	7813	76	19.3	892
3	日立		現況	日立総合病院	(1,761)	(1,380)	(2,185)	(359)	(150)	(36)	(3,683)
					1,838	1,280	2,138	295	157	37.4	574
4	常陸太田・ひたちなか		現況	ひたちなか総合病院	(652)	(411)	(1,075)	(206)	(50)	(31.75)	(950)
					716	412	1,123	221	50	32.5	829
5	土浦		現況	土浦協同病院	(1,618)	(962)	(9,374)	(396)	(614)	(37)	(109)
					1,973	938	12,692	469	435	33.7	107
6	つくば		現況	筑波大学附属病院	(2,717)	(1,901)	(3,981)	(1,043)	(622)	(39)	(374)
					2,741	1,954	4,300	1011	598	22.1	501
7	つくば		現況	筑波メディカルセンター病院	(960)	(698)	(1,174)	(668)	(232)	(23)	(1,660)
					1,033	659	1,262	611	341	26.2	1,457
8	取手・竜ヶ崎		現況	東京医科大学茨城医療センター	(683)	(551)	(1,772)	(263)	(70)	(21)	(405)
					849	636	1,297	259	61	15.8	501
9	古河・坂東		更新	友愛記念病院	(682)	(424)	(1,029)	(151)	(107)	(42)	(564)
					587	386	1,021	185	122	25.2	408

地域がん診療病院の診療実績等

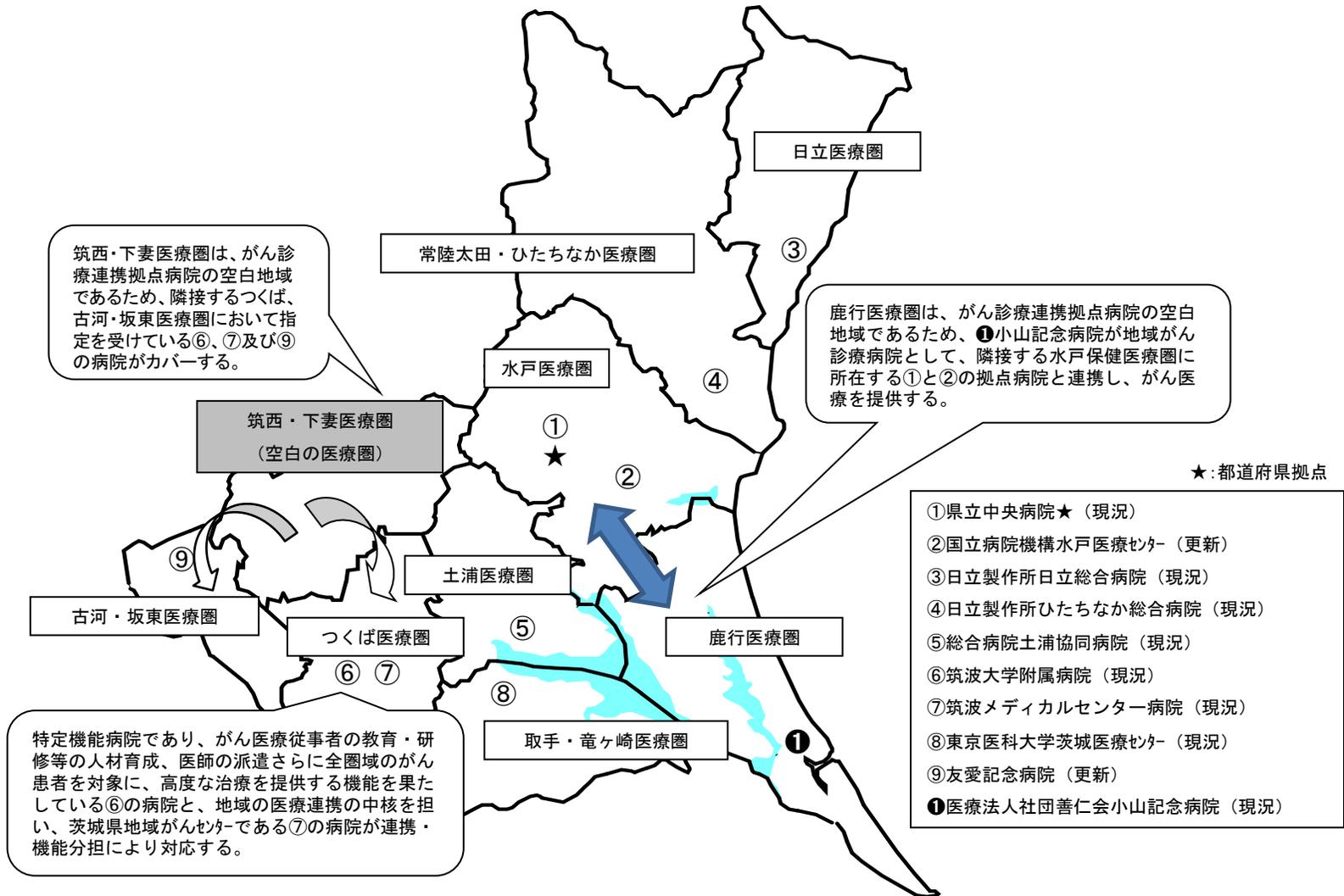
資料 3 - 2

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施してい れば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援 センター
				院内がん登録 数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチ ームに対する新 規診療依頼数 (年間)	当該2次医療 圏に居住する がん患者の診 療の割合(%)	相談件数 (年間)
①	鹿行	現況	小山記念病院	(616)	(299)	(331)		(202)	(57)	(350)
				705	300	395		156	63.2	675

茨城県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4



茨城県 指定推薦等に係る考え方

本県では、平成27年12月に「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」を策定し、がん対策を推進している。

これまで、がん医療の水準の向上及びがん医療の均てん化を図るため、9医療圏のうち8医療圏に、がん診療連携拠点病院を9か所、地域がん診療病院を1か所整備してきたところである。

令和5年4月1日付で、新たながん診療連携拠点病院の整備に関する指針に基づいて、10病院が指定されたが、10病院中2病院には指定期間が1年となっていることから、診療機能及び病院の意向等を踏まえ、次のとおり推薦する。

○更新推薦（2病院）

水戸医療センターは、令和5年3月に要件を充足し、

友愛記念病院は、令和6年1月に日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審予定である

る

ため、引き続き推薦する。

茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制

全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん、進行・再発がん、我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）の治療を中心に対応

特定機能病院・地域がん診療連携拠点病院

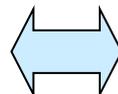
筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院の医療従事者に対する高度ながん医療に関する研修を実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣
- ・全県の希少がん、小児がん（小児がん連携病院）に対応
- ・陽子線治療、がんゲノム医療（がんゲノム医療連携病院）、がん生殖医療の実施

都道府県がん診療連携拠点病院

県立中央病院・茨城県地域がんセンター

- ・茨城県がん診療連携協議会の運営（緩和ケア、各種研修に関する計画作成、PDCAサイクルの確保の中心的役割）
- ・緩和ケアセンター
- ・がんゲノム医療連携病院



連携支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）を中心に治療を提供、5大がん以外に各病院が専門とするがんに対応、地域の医療従事者の研修会開催、相談支援センターを設置し、ピアサポート相談・就労支援窓口、患者サロンを開設

水戸医療圏

県立中央病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・がんゲノム医療連携病院
- ・肺がん、肝がん、膵がん等の進行・再発がん
- ・緩和ケア病棟（23床）
- ・IMRTの実施

水戸医療センター

- ・乳がん、血液がん、肺がん
- ・緩和ケア病棟（33床）
- ・救命救急センター

鹿行医療圏

小山記念病院

- ・地域がん診療病院として拠点病院と連携してがん医療を提供

日立医療圏

(株)日製日立総合病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・緩和ケア病棟（14床）

常陸太田・ひたちなか医療圏

(株)日製ひたちなか総合病院

- ・地域医療支援病院
- ・IMRTの実施

土浦医療圏

総合病院土浦協同病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・がんゲノム医療連携病院
- ・緩和ケア病棟（20床）

取手・竜ヶ崎医療圏

東京医科大学茨城医療センター

- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・IMRTの実施

古河・坂東医療圏

友愛記念病院

- ・緩和ケア病棟（14床）
- ・がん患者家族デイケアサロンの実施

つくば医療圏

筑波大学附属病院

- ・県内の医療従事者の人材育成
- ・IMRTの実施

筑波大学附属病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・県内の緩和ケア体制の整備、普及に対し指導的な役割
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

3病院でカバー

筑西・下妻医療圏

栃 木 県

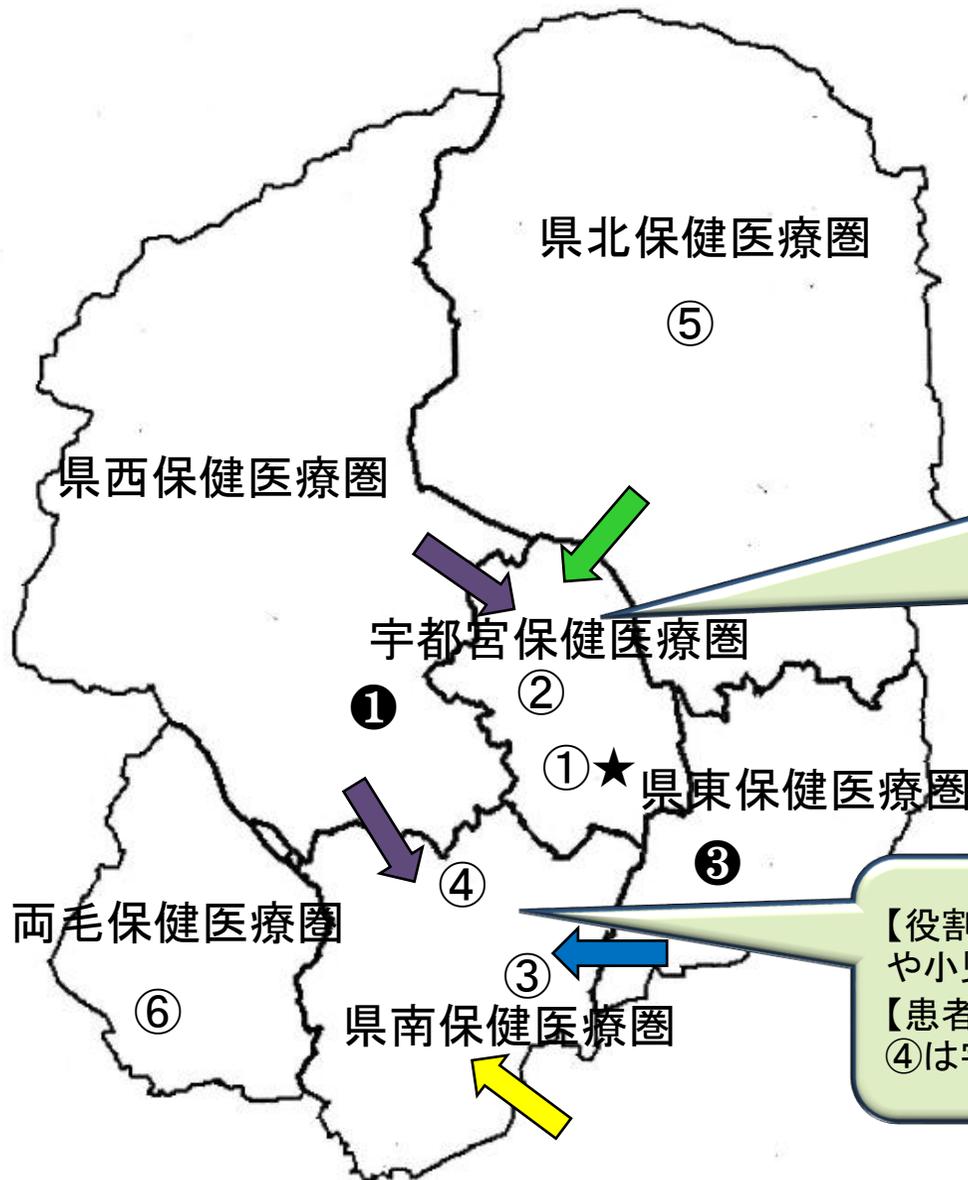
栃木県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地がん診療病院				
						今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	計	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	計	
県北保健医療圏	2,229.5	358,025	18.9	160.6	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
県西保健医療圏	1,940.5	165,649	8.7	85.4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
宇都宮保健医療圏	416.9	513,435	27.1	1,231.6	32	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
県東保健医療圏	563.8	135,139	7.1	239.7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
県南保健医療圏	723.6	470,774	24.8	650.6	23	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
両毛保健医療圏	533.8	252,955	13.3	473.9	16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6,408.1	1,895,977	100	295.9	108	3	0	3	6	0	0	0	0	0	0	2	2

栃木県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ① 栃木県立がんセンター★(2023年4月1日)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(2023年4月1日)
- ③ 自治医科大学附属病院(2023年4月1日)
- ④ 獨協医科大学病院(2023年4月1日)
- ⑤ 那須赤十字病院(2023年4月1日)
- ⑥ 足利赤十字病院(2023年4月1日)
- ① 上都賀総合病院(2023年4月1日)
- ③ 芳賀赤十字病院(2023年4月1日)

【役割】①はがん専門病院として希少がんや高度進行がん、再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC特定病院群の総合病院として合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県西・県北のがん患者を、②は県北のがん患者を多く診療している。

【役割】③及び④は特定機能病院として、高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】③は県外・宇都宮・県東等のがん患者を、④は宇都宮・県西等のがん患者を多く診療している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は令和4年度提出の数値、下段は令和5年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援センターを初めて利用した者の相談件数(年間)
1	宇都宮	★	更新	栃木県立がんセンター	(1,585) 1,614	(1,250) 1,502	(2,765) 2,980	(506) 539	(61) 52	(20) 19	2,764
2	宇都宮		現況	栃木県済生会宇都宮病院	(1,712) 1,830	(1,033) 1,021	(1,570) 1,674	(441) 507	(131) 102	(26.7) 28	544
3	県南		更新	自治医科大学附属病院	(3,000) 2,906	(2,422) 2,315	(4,378) 4,617	(965) 889	(266) 272	(18.5) 30	867
4	県南		現況	獨協医科大学病院	(2,541) 2,583	(2,838) 2,690	(3,420) 3,970	(615) 645	(228) 203	(27.2) 27	590
5	県北		更新	那須赤十字病院	(803) 797	(617) 610	(1,294) 1,251	(206) 227	(62) 65	(31.7) 27	499
6	両毛		現況	足利赤十字病院	(1,233) 1,217	(746) 649	(1,221) 1,151	(299) 339	(239) 215	(70.8) 56	183

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段()内は令和4年度提出の数値、下段は令和5年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談支援センターに 初めて利用した者の 相談件数 (年間)
①	県西	現況	上都賀総合病院	(524) 489	(143) 132	(1,061) 1,105	(51) 48	(62) 51	63
③	県東	現況	芳賀赤十字病院	(651) 690	(304) 294	(3,330) 1,940	(-) -	(79) 99	138

栃木県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ① 栃木県立がんセンター★(更新)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(現況)
- ③ 自治医科大学附属病院(更新)
- ④ 獨協医科大学病院(現況)
- ⑤ 那須赤十字病院(更新)
- ⑥ 足利赤十字病院(現況)
- ① 上都賀総合病院(現況)
- ③ 芳賀赤十字病院(現況)

県北保健医療圏

⑤は県土の1/3に及ぶ広域な医療圏のがん患者に対応している。

⑤

【役割】①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC 特定病院群の総合病院として、合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県全域のがん患者を、②は県北等のがん患者をカバーする。

県西保健医療圏

宇都宮
保健医療圏

①は①との連携により、圏内がん患者の診療を行う。

【役割】③及び④は特定機能病院として高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】共に圏域にとどまらず圏域を越えたがん患者も受け入れる。圏域では特に③が宇都宮・県東等のがん患者を、④が宇都宮・県西等のがん患者をカバーする。

県東保健医療圏

③は③との連携により、圏内がん患者の診療を行う。

⑥ 両毛保健
医療圏

県南保健医療圏

⑥は圏域の大部分をがん診療を実施しており、圏域のみならず県外からのがん患者も受け入れる。

栃木県のがん対策と医療の充実について

栃木県がん対策推進計画(3期計画)

「県民一人一人ががんを知り、がんと共生する地域社会を構築する」ことを目標としており、その実現のため、「がんの予防及び早期発見の推進」を基本とし、がん患者等の置かれている状況や地域の実情に応じ、「がん医療の充実」を図るとともに、「がん患者等を支えるための環境づくり」に、県や市町、県民、事業者、医療機関等が一体となって、取り組んでいる。

がん診療提供体制の充実

「がん医療の充実」を計画の重要課題として位置づけており、県内どこに居住していても等しく質の高い標準的ながん医療を受けられる体制を構築するため、**県内二次保健医療圏の全てに、がん診療連携拠点病院等を配置している。**

これまで、集学的治療や標準的治療の提供、がん相談支援センターや緩和ケアチームの整備、外来化学療法室の設置など、各医療圏におけるがん診療連携拠点病院等の取組により、**県内のがん医療の均てん化が図られてきており、今後も、その役割に大きな期待をしている。**

栃木県 今回の指定更新推薦について

病 院 名	医療圏	特 徴 ・ 役 割 分 担 等
①栃木県立がんセンター (都道府県拠点)	宇都宮	<ul style="list-style-type: none"> ・希少がん、高度進行・再発がんの診療体制を整備。 ・栃木県がん診療連携協議会を運営し、県全体のがん医療向上に貢献。
③自治医科大学附属病院 (地域拠点)	県 南	<ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院、がんゲノム医療連携病院、小児がん連携病院。 ・高度がん医療や希少、難治、小児がん治療の提供。 ・人材育成、治験、研究等、がん医療の向上に貢献。
⑤那須赤十字病院 (地域拠点)	県 北	<ul style="list-style-type: none"> ・県土の1/3を占める県北医療圏を対応。 ・妊孕性温存療法指定医療機関 ・診療や治療、相談支援、緩和ケアなど、医療圏のがん医療の中核。

⇒ ①は栃木県のがん医療において中心的な役割を果たし、③及び⑤の病院も地域のがん医療の中核的な役割を果たしており、今後も県民が求める質の高いがん医療を適切に提供していくため、引き続き指定を得られるように推薦する。

群馬県

群馬県 がんの医療圏の概要

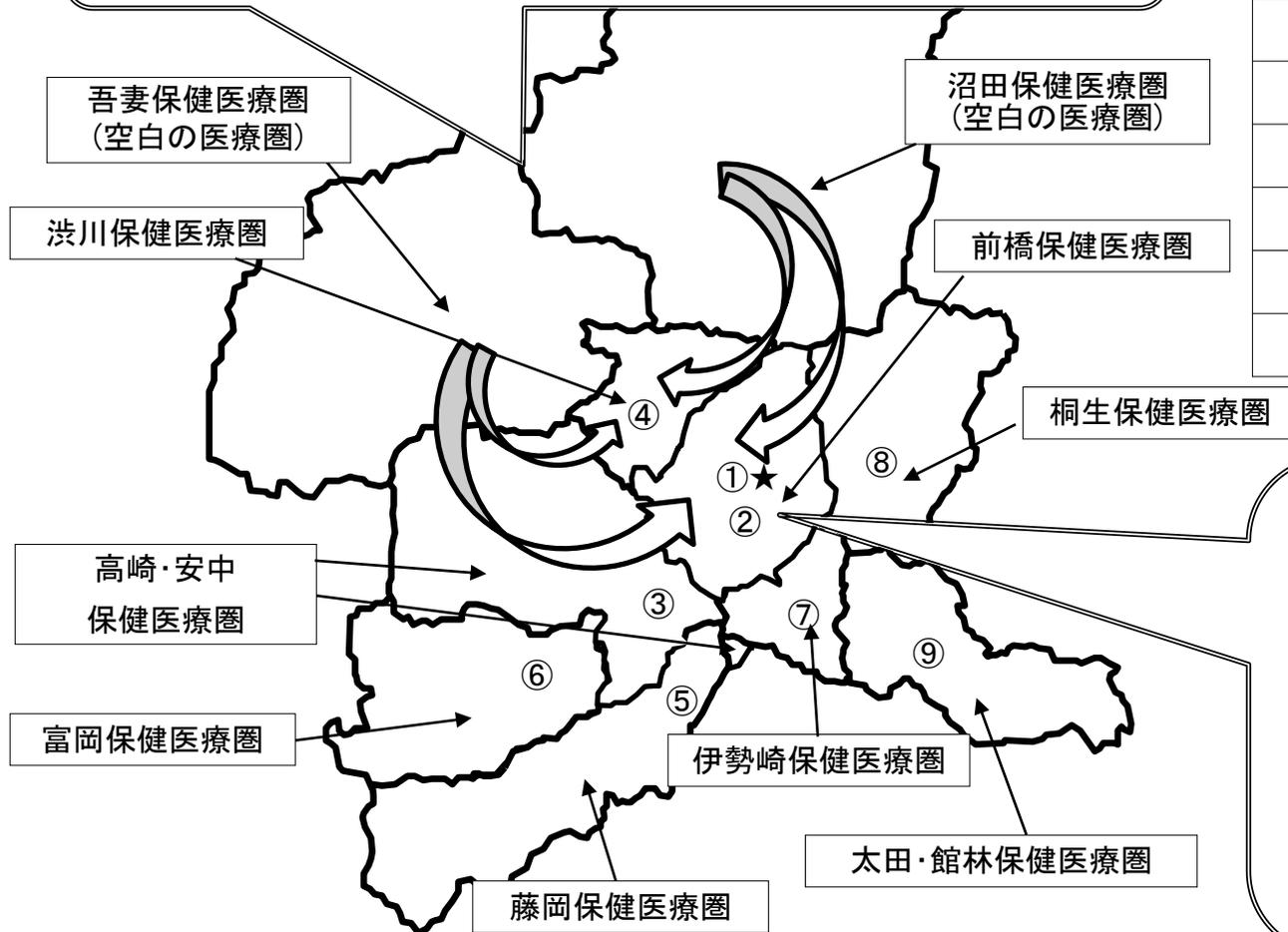
令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
前橋保健医療圏	311.6	327,197	17.2%	1,050.1	20	0	2	0	2
高崎・安中保健医療圏	735.5	421,845	22.2%	573.5	30	1	0	0	1
渋川保健医療圏	288.7	108,594	5.7%	376.1	10	0	1	0	1
藤岡保健医療圏	476.7	63,721	3.4%	133.7	5	0	1	0	1
富岡保健医療圏	488.7	64,966	3.4%	132.9	4	1	0	0	1
吾妻保健医療圏	1,278.6	49,178	2.6%	38.5	9	0	0	0	0
沼田保健医療圏	1,765.7	73,207	3.9%	41.5	7	0	0	0	0
伊勢崎保健医療圏	165.2	246,427	13.0%	1491.7	11	1	0	0	1
桐生保健医療圏	482.9	149,496	7.9%	309.6	12	1	0	0	1
太田・館林保健医療圏	368.9	396,744	20.9%	1,075.5	19	1	0	0	1
計	6,362.5	1,901,375	100.0%	5,223.0	127	5	4	0	9

群馬県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

空白の2医療圏は、がん診療連携拠点病院の2病院がカバーする体制を整備

- ・① 群馬大学医学部附属病院★(都道府県がん診療連携拠点病院)
- ・④ 渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)



①	群馬大学医学部附属病院★	R5. 4. 1
②	前橋赤十字病院	R5. 4. 1
③	高崎総合医療センター	R5. 4. 1
④	渋川医療センター	R5. 4. 1
⑤	公立藤岡総合病院	R5. 4. 1(特例型)
⑥	公立富岡総合病院	R5. 4. 1
⑦	伊勢崎市民病院	R5. 4. 1
⑧	桐生厚生総合病院	R5. 4. 1
⑨	群馬県立がんセンター	R5. 4. 1

複数配置による役割分担

①★の病院の役割

- ・ 県内のがん医療の中核
- ・ 人材育成及び高度医療の提供
- ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
- ・ 群馬県がん診療連携推進病院(県独自の指定病院)の支援

②の病院の役割

- ・ 地域のがん医療の中核
- ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
- ・ 地域連携クリティカルパスの利用促進

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3

・()内は令和4年9月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値

★:都道府県拠点

●:特例型

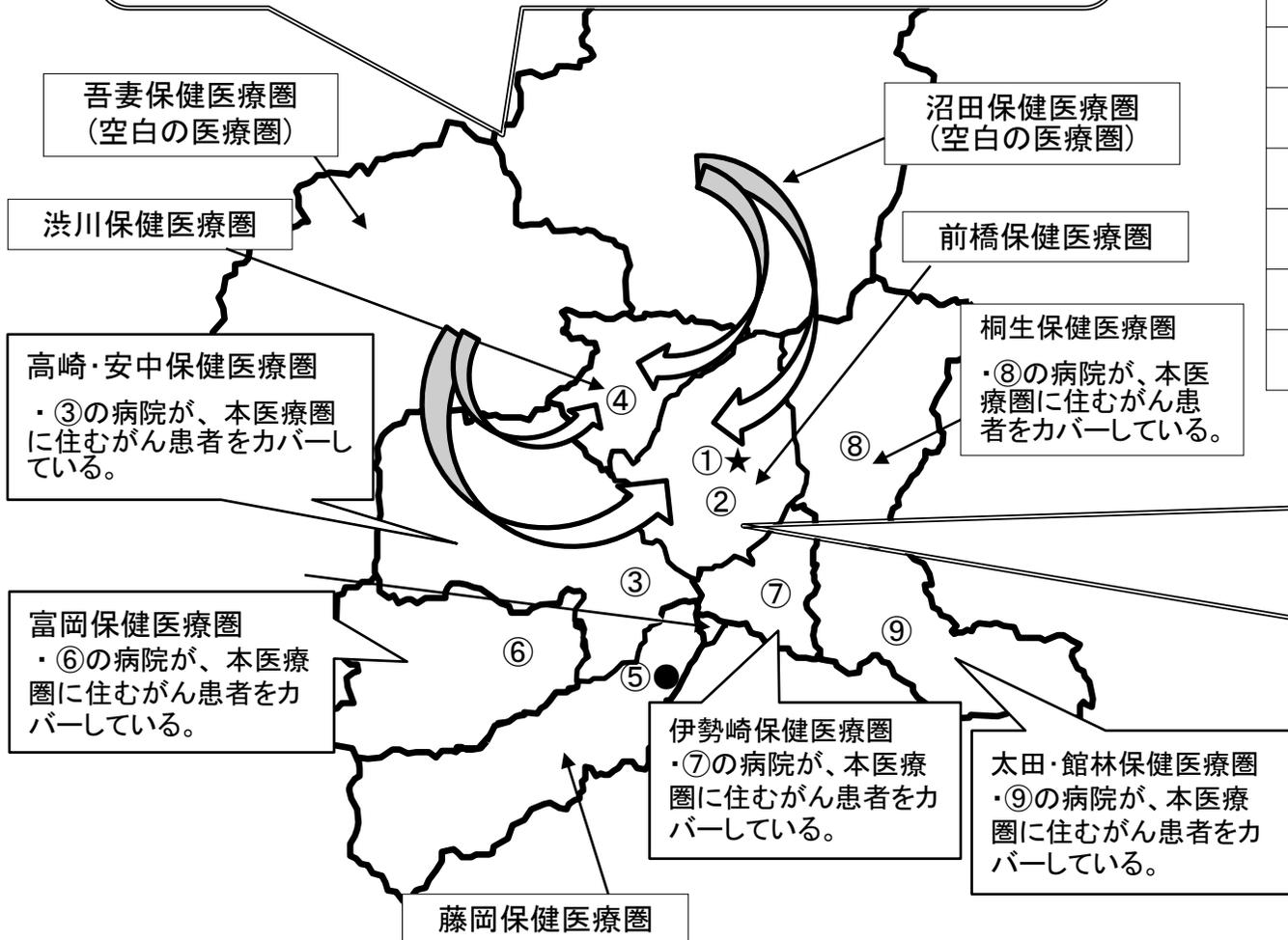
医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 前橋	★	指定更新	群馬大学 医学部附属病院	(2,611) 2,729	(1,806) 2,093	(2,844) 2,131	(1,270) 1,757	(139) 147	(21) 22	(1,011) 956
2 前橋		指定更新	前橋赤十字病院	(1,397) 1,908	(704) 688	(2,339) 2,155	(460) 495	(114) 134	(32) 19	(1,618) 2,530
3 高崎・ 安中		現況報告	高崎総合医療センター	(1,946) 2,059	(1,024) 1,215	(1,060) 1,347	(476) 480	(133) 143	(35) 38	(5,270) 4,729
4 渋川		指定更新	渋川医療センター	(1,244) 1,146	(499) 526	(2,727) 2,068	(350) 371	(79) 93	(54) 55	(4,172) 4,171
5 藤岡	●	指定更新	公立藤岡総合病院	(765) 877	(378) 460	(1,478) 1,039	(238) 237	(461) 405	(59) 56	(340) 283
6 富岡		現況報告	公立富岡総合病院	(691) 606	(387) 358	(386) 360	(119) 106	(430) 362	(53) 58	(622) 216
7 伊勢崎		現況報告	伊勢崎市民病院	(1,334) 1,280	(1,024) 1,068	(1,017) 1,198	(300) 283	(421) 399	(36) 33	(52) 58
8 桐生		現況報告	桐生厚生総合病院	(802) 607	(426) 385	(774) 800	(203) 199	(81) 74	(43) 58	(97) 72
9 太田・ 館林		現況報告	県立がんセンター	(1,803) 1,798	(1,135) 1,084	(3,181) 2,584	(552) 547	(53) 52	(35) 34	(14,992) 14,432

群馬県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ●：特例型

空白の2医療圏は、引き続き、がん診療連携拠点病院の2病院がカバーする体制を維持

- ・ ① 群馬大学医学部附属病院★（都道府県がん診療連携拠点病院）
- ・ ④ 渋川医療センター（地域がん診療連携拠点病院）



①	群馬大学医学部附属病院★	指定更新
②	前橋赤十字病院	指定更新
③	高崎総合医療センター	現況報告
④	渋川医療センター	指定更新
⑤	公立藤岡総合病院●	指定更新
⑥	公立富岡総合病院	現況報告
⑦	伊勢崎市民病院	現況報告
⑧	桐生厚生総合病院	現況報告
⑨	群馬県立がんセンター	現況報告

引き続き複数配置により、以下の役割を分担

①★の病院の役割

- ・ 県内のがん医療の中核
- ・ 人材育成及び高度医療の提供
- ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
- ・ 群馬県がん診療連携推進病院（県独自の指定病院）の支援

②の病院の役割

- ・ 地域のがん医療の中核
- ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
- ・ 地域連携クリティカルパスの利用促進

本県の考え方

本県における拠点病院整備に関する基本方針

群馬県がん対策推進計画(平成30年度～35年度)

- ①県民がどこに住んでいても適切ながん医療が受けられる体制の維持
- ②・がん医療圏(2次保健医療圏)ごとに、がん診療連携拠点病院を整備
 - ・都道府県がん診療連携拠点病院を中心としたがん診療連携拠点病院の相互連携による機能の維持・強化
- ③空白の医療圏は、がん診療連携拠点病院と本県独自指定の「群馬県がん診療連携推進病院」との連携による地域がん医療提供体制を整備

空白の医療圏のがん医療提供体制

【吾妻保健医療圏、利根沼田保健医療圏】

- ・当該保健医療圏のがん患者の受診を、群馬大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)と渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)がカバーする体制の維持

埼玉県

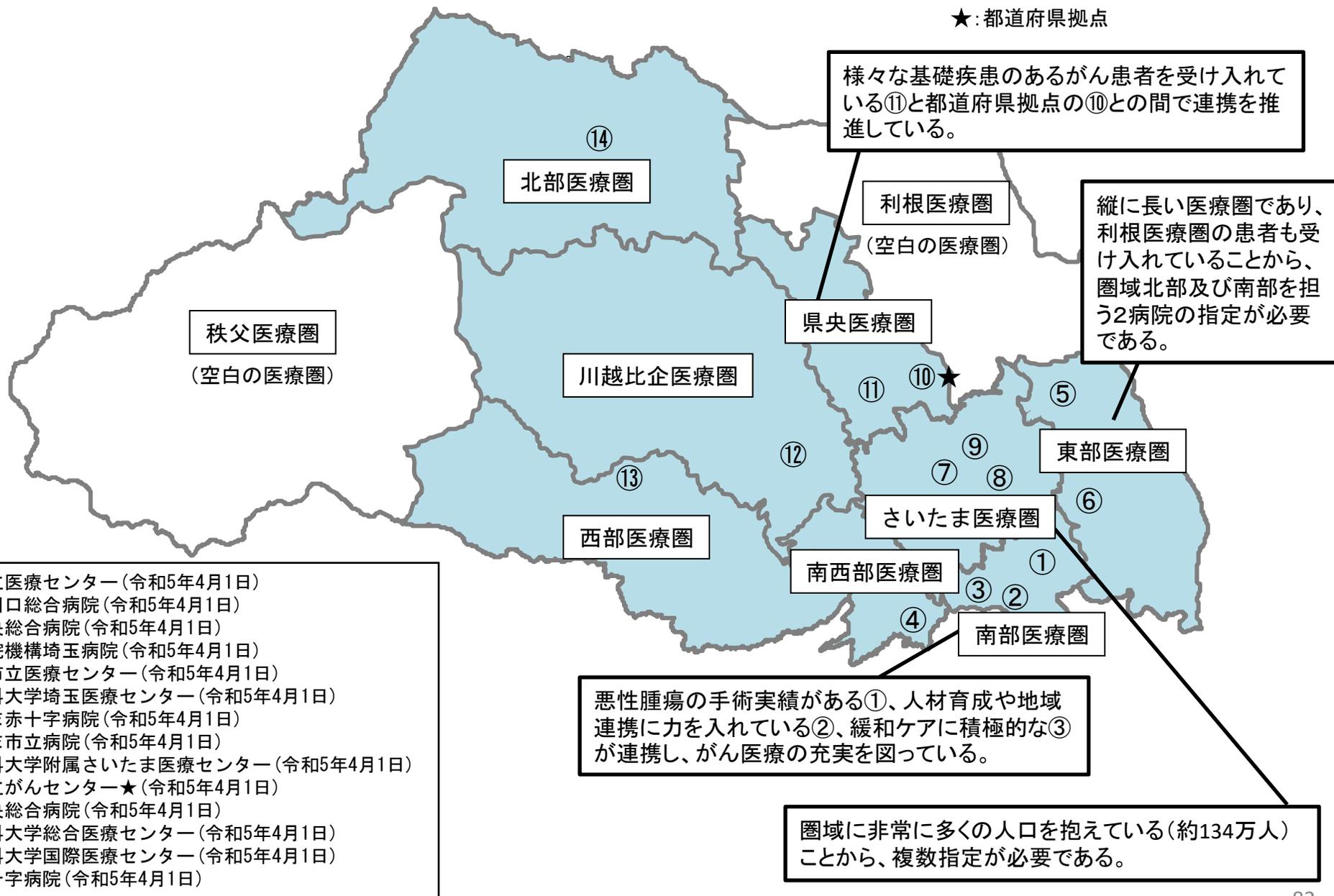
埼玉県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
南部	85.25	808,931	11%	9488.9	29	1	2	0	3
南西部	110.95	732,389	10%	6601.1	30	1	0	0	1
東部	249.71	1,150,780	16%	4608.5	50	1	1	0	2
さいたま	217.43	1,344,480	18%	6183.5	39	0	3	0	3
県央	172.91	528,272	7%	3055.2	18	1	1	0	2
川越比企	626.53	788,375	11%	1258.3	48	1	0	0	1
西部	406.32	766,361	10%	1886.1	54	0	1	0	1
利根	473.95	628,372	9%	1325.8	32	0	0	0	0
北部	562.12	494,068	7%	878.9	34	0	1	0	1
秩父	892.62	89,886	1%	100.7	8	0	0	0	0
計	3797.79	7,331,914	100%	35387.03	342	5	9	0	14

埼玉県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



- ①川口市立医療センター(令和5年4月1日)
- ②済生会川口総合病院(令和5年4月1日)
- ③戸田中央総合病院(令和5年4月1日)
- ④国立病院機構埼玉病院(令和5年4月1日)
- ⑤春日部市立医療センター(令和5年4月1日)
- ⑥獨協医科大学埼玉医療センター(令和5年4月1日)
- ⑦さいたま赤十字病院(令和5年4月1日)
- ⑧さいたま市立病院(令和5年4月1日)
- ⑨自治医科大学附属さいたま医療センター(令和5年4月1日)
- ⑩埼玉県立がんセンター★(令和5年4月1日)
- ⑪上尾中央総合病院(令和5年4月1日)
- ⑫埼玉医科大学総合医療センター(令和5年4月1日)
- ⑬埼玉医科大学国際医療センター(令和5年4月1日)
- ⑭深谷赤十字病院(令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	南部		現況	川口市立医療センター	(1,049) 1,031	(742) 767	(1,050) 1,280	(329) 186※	(179) 119	(26.5) 14	1,470
2	南部		更新	済生会川口総合病院	(1,193) 1,174	(612) 719	(1,228) 4,649	(214) 228	(58) 53	(24.9) 12	222
3	南部		更新	戸田中央総合病院	(781) 962	(583) 558	(1,076) 1,004	(240) 289	(180) 204	(10.2) 12	10,331
4	南西部		現況	国立病院機構埼玉病院	(1,592) 1,114	(506) 726	(1,392) 1,184	(454) 412	(273) 191	(23.1) 12	310
5	東部		更新	春日部市立医療センター	(933) 988	(665) 679	(1,359) 1,209	(318) 348	(50) 52	(14.4) 11	2,631
6	東部		現況	獨協医科大学 埼玉医療センター	(2,936) 3,033	(1,356) 1,551	(3,930) 3,638	(387) 403	(195) 196	(23.1) 19	2,917
7	さいたま		更新	さいたま赤十字病院	(1,674) 2,209	(1,037) 1,498	(1,842) 2,120	(447) 645	(75) 98	(18.6) 15	899

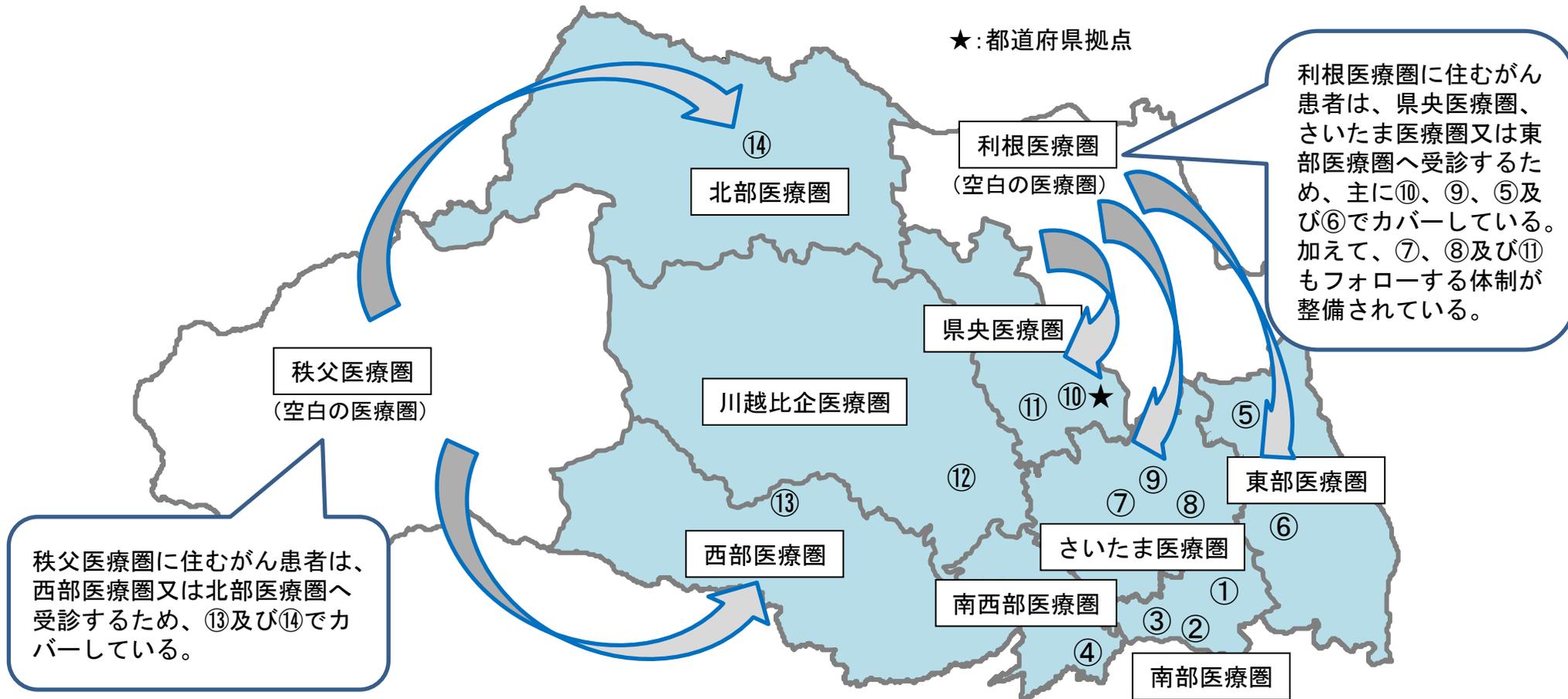
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点

・()内は令和3年11月提出の数値、下段は令和4年10月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
8	さいたま		更新	さいたま市立病院	(1,418) 1,492	(704) 854	(1,126) 1,389	(461) 449	(221) 293	(10.4) 9	138
9	さいたま		更新	自治医科大学附属 さいたま医療センター	(2,433) 3,112	(1,281) 1,261	(2,988) 2,538	(486) 472	(122) 149	(14.3) 20	5,328
10	県央	★	更新	埼玉県立がんセンター	(3,153) 3,153	(1,861) 2,803	(5,842) 5,623	(1,242) 1,304	(399) 427	(33.6) 30	6,399
11	県央		現況	上尾中央総合病院	(2,683) 1,883	(1,340) 1,260	(1,221) 1,529	(809) 364	(223) 166	(25.5) 25	850
12	川越比企		現況	埼玉医科大学 総合医療センター	(2,329) 2,484	(1,783) 1,910	(2,030) 1,946	(841) 799	(256) 297	(22.8) 22	1,494
13	西部		更新	埼玉医科大学 国際医療センター	(4,208) 4,311	(2,649) 2,822	(5,265) 5,511	(1,872) 1,838	(170) 161	(8.5) 8	1,974
14	北部		更新	深谷赤十字病院	(1,082) 1,300	(510) 680	(1,012) 1,045	(499) 538	(195) 55	(25.0) 18	285

埼玉県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



①川口市立医療センター(更新)

②済生会川口総合病院(更新)

③戸田中央総合病院(更新)

④国立病院機構埼玉病院(更新)

⑤春日部市立医療センター(更新)

⑥獨協医科大学埼玉医療センター(更新)

⑦さいたま赤十字病院(更新)

⑧さいたま市立病院(更新)

⑨自治医科大学附属さいたま医療センター(更新)

⑩埼玉県立がんセンター★(更新)

⑪上尾中央総合病院(更新)

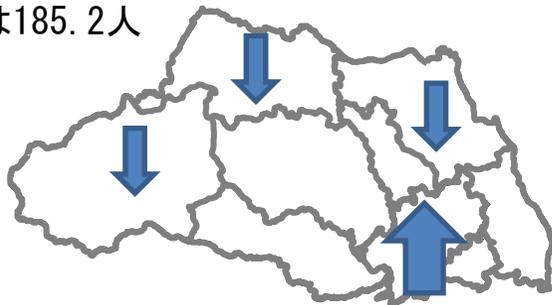
⑫埼玉医科大学総合医療センター(更新)

⑬埼玉医科大学国際医療センター(更新)

⑭深谷赤十字病院(更新)

1 埼玉県の地域特性と現状

- 人口は約734万人（全国第5位）
- 5年間の人口増減率（令和2年度国勢調査）は+1.08%（全国第4位）
- さいたま・南西部・南部は人口が増加し、患者が集中
北部・利根・秩父地域は特に人口が減少
- 人口100万人を超える医療圏は2箇所（さいたま、東部）
- 今後、高齢化が急速に進むことが予想される
- 人口10万人当たりの医師数は185.2人（全国最下位）
- 県内の拠点病院数は14箇所
- 10医療圏うち8医療圏で拠点病院を指定（利根・秩父医療圏が空白）



2 がん診療連携体制の整備方針

- (1) 都道府県拠点病院は、引き続き埼玉県立がんセンターとし、連携体制を維持。
- (2) 地域拠点病院は、①～③のとおり体制をつくる。
 - ①各医療圏1箇所に拠点病院を整備することを原則とし、地域ごとに異なる条件や実情を踏まえ、限られた医療資源を効率的に活用できるよう整備を進める。
 - ②複数の拠点病院が必要な医療圏は引き続き、特性や役割を活かし、質の高いがん医療の提供を維持。
 - ③空白医療圏（利根・秩父）は、隣接医療圏の拠点病院や、県が拠点病院に準じて医療を提供できるとして指定した「埼玉県がん診療指定病院」で補填。

3 同一医療圏に複数配置する拠点病院の役割分担

<さいたま>

さいたま赤十字病院は、幅広いがん種と合併症に対応可能であり、サイバーナイフ治療やがんゲノム治療に対応。

さいたま市立病院は、当該医療圏の患者を中心に地域医療に貢献。

自治医科大学さいたま医療センターは、空白医療圏である利根医療圏の患者も多く受け入れるとともに、希少がんや血液がんの造血幹細胞移植に対応。

<南部>

川口市立医療センターは、公立病院として地域医療を支えながら、悪性腫瘍の手術を多く実施。

済生会川口総合病院は、人材育成や、地域の医療機関との積極的な医療連携に貢献。

戸田中央総合病院は、医療圏内の拠点病院で唯一の緩和ケア病棟を有し多くの緩和ケア外来患者に対応。

<東部>

春日部市立医療センターは、初診から末期がん在宅医療まで切れ目のない医療を提供し、利根医療圏のがん医療も補填。

獨協医科大学埼玉医療センターは、AYA世代のがん患者に対する妊孕性温存療法や、がんゲノム治療に対応。

<県央>

埼玉県立がんセンターは、都道府県拠点病院として、全県を対象とした、高度で先進的ながん医療を提供。

上尾中央総合病院は、総合的な診療機能を有し、人工透析や基礎疾患を有する患者を受け入れている。

千葉県

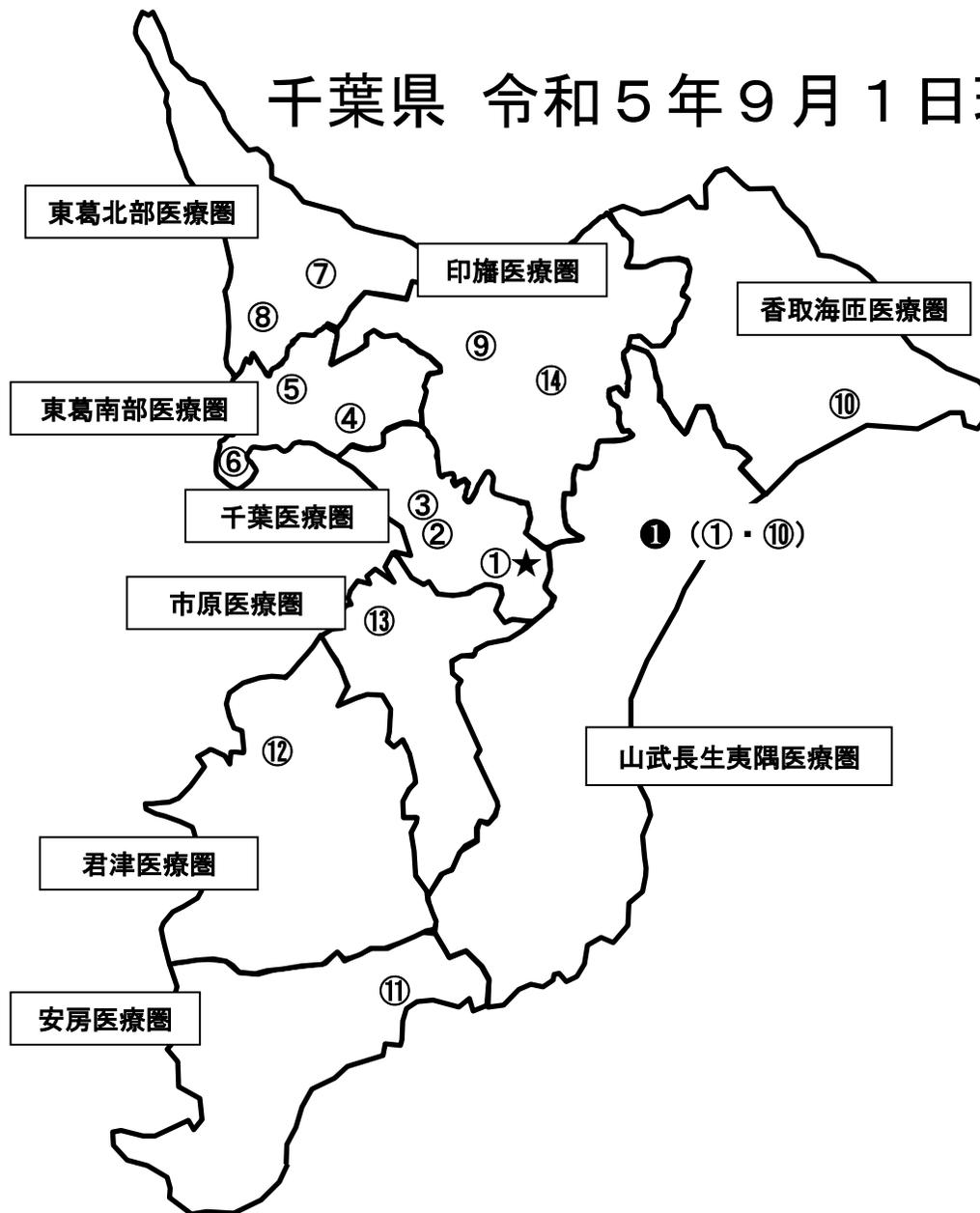
千葉県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
千葉	271.77	979,142	15.6%	3,602.8	48	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
東葛南部	253.91	1,805,155	28.8%	7,109.4	61	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
東葛北部	358.14	1,424,400	22.7%	3,977.2	59	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
印旛	691.66	718,528	11.5%	1,038.8	30	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
香取海匠	717.47	249,496	4.0%	347.7	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
山武長生夷隅	1,161.75	397,308	6.3%	342.0	23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
安房	576.50	114,532	1.8%	198.7	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
君津	758.22	321,368	5.1%	423.8	19	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
市原	368.17	264,277	4.2%	717.8	13	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	5,157.59	6,274,206	100%	17,758.38	290	13	1	0	14	0	0	0	1	0	0

千葉県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◎: 特定領域拠点



- ①千葉県がんセンター★ (令和5年4月1日)
- ②千葉大学医学部附属病院 (令和5年4月1日)
- ③国立病院機構 千葉医療センター (令和5年4月1日)
- ④船橋市立医療センター (令和5年4月1日)
- ⑤東京歯科大学市川総合病院 (令和5年4月1日)
- ⑥順天堂大学医学部附属浦安病院
(令和5年4月1日)
- ⑦東京慈恵会医科大学附属柏病院 (令和5年4月1日)
- ⑧松戸市立総合医療センター (令和5年4月1日)
- ⑨日本医科大学 日本医科大学千葉北総病院
(令和5年4月1日)
- ⑩総合病院国保旭中央病院◇ (令和5年4月1日)
- ⑪亀田総合病院 (令和5年4月1日)
- ⑫国保直営総合病院 君津中央病院 (令和5年4月1日)
- ⑬労働者健康安全機構 千葉労災病院
(令和5年4月1日)
- ⑭成田赤十字病院 (令和5年4月1日)
- さんむ医療センター (令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物 療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
			院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 千葉 ★	現況	千葉県 がんセン ター	(3,292)	(2,368)	(4,111)	(928)	(392)	(13.3)	(3,772)
			3,392	2,416	4,377	932	385	24	3,708
2 千葉	現況	千葉大 学病院	(3,002)	(2,173)	(4,465)	(671)	(214)	(27.1)	(10,487)
			3,027	2,158	4,702	757	236	28	12,884
3 千葉	現況	千葉医 療セン ター	(949)	(648)	(2,244)	(226)	(127)	(14.6)	(1,359)
			915	666	2,281	209	126	14	1,807
4 東葛 南部	現況	船橋医 療セン ター	(1,641)	(1,120)	(1,921)	(454)	(323)	(12.7)	(2,500)
			1,678	1,083	2,080	433	231	13	2,277
5 東葛 南部	現況	市川総 合病院	(1,339)	(958)	(1,628)	(383)	(118)	(10.6)	(1,146)
			1,268	946	1,491	324	108	8	1,476
6 東葛 南部	現況	順天堂 浦安病 院	(1,816)	(1,027)	(1,636)	(457)	(1,389)	(14.6)	(499)
			1,995	1,199	1,734	486	622	12	483
7 東葛 北部	現況	慈恵大 柏病院	(1,602)	(782)	(3,164)	(375)	(180)	(5.4)	(1,161)
			2,151	850	4,618	348	217	3	1,552
8 東葛 北部	現況	松戸総 合医セ	(972)	(466)	(2,070)	(396)	(81)	(6.0)	(1,053)
			904	455	1,978	375	66	5	1,584
9 印旛	現況	日医北 総病院	(1,312)	(1,231)	(1,439)	(223)	(201)	(20.1)	(2,056)
			1,315	1,209	1,352	215	213	18	2,323

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
10	印旛	現況	成田赤十字病院	(930) 1,305	(787) 763	(2,186) 2,200	(249) 201	(102) 74	(18.4) 18	(2,796) 702
11	香取海匝	現況	旭中央病院	(2,638) 2,661	(1,577) 1,539	(2,669) 2,888	(658) 651	(57) 50	(57.7) 57	(3,473) 3,537
12	安房	現況	亀田総合病院	(2,449) 2,541	(1,347) 1,757	(2,648) 3,914	(743) 589	(403) 393	(49) 43	(1,291) 1,310
13	君津	更新	君津中央病院	(1,673) 1,583	(984) 989	(1,469) 1,430	(338) 320	(152) 125	(45) 42	(2,000) 2,167
14	市原	現況	千葉労災病院	(1,623) 1,557	(828) 689	(1,831) 2,324	(224) 217	(112) 132	(35.3) 36	(2,337) 2,281

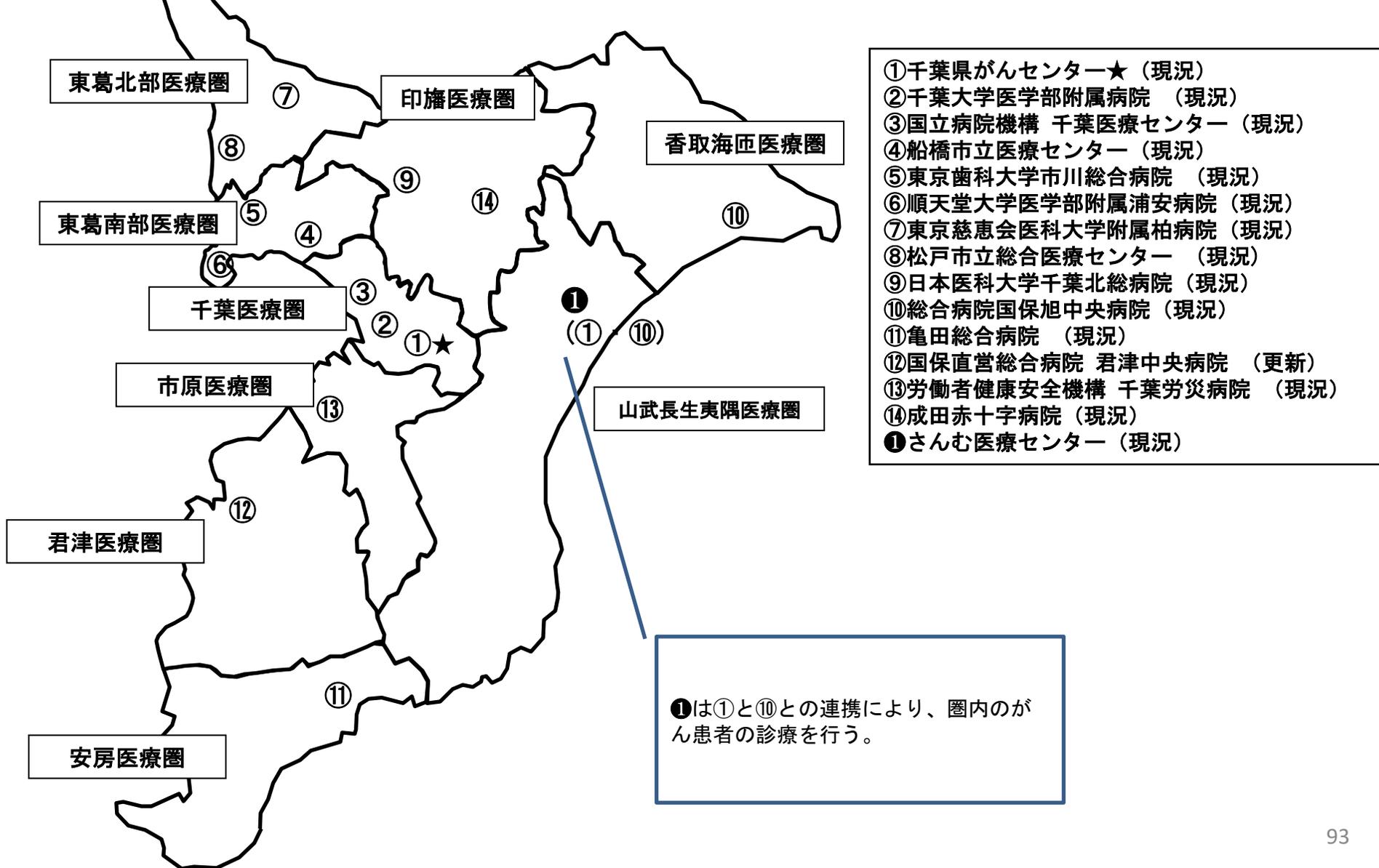
地域がん診療病院の診療実績等

- ・ ()は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療 依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の割合(%)	相談件数 (年間)
①	山武 長生 夷隅	現況	さんむ医療センター	(167) 172	(54) 117	(541) 651	実施なし	(30) 29	(16.2) 5	(545) 340

千葉県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◎: 特定領域拠点



今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

1 千葉県のがんの状況

- 昭和57年以来がんは死亡順位の第1位
- 急速に進む人口の高齢化
 - ー平成22年から15年間で
全国第3位のスピードで高齢化ー

今後さらになん患者が増加
がん対策への取組は重要課題



2 がん診療連携拠点病院等の整備

【基本方針】

県民の誰もが、自らが選択し、安心して
納得した質の高いがん医療を、身近な地域
で受けられるように整備を進める。

二次医療圏に1か所を基本に、
一定人口規模（概ね人口50万人
程度）単位に地域がん診療連携
拠点病院を整備し機能的役割分担

【現状】・県内9つの二次医療圏のうち、8医療圏に13の地域がん診療連携拠点病院が、
1医療圏に地域がん診療病院がある。

【今回】・今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院の確保
は必須

東京都

東京都がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
区中央部	63.64	973,455	6.9%	15,296.3	48	6	2	0	8	0	0	0	0	0	0	0
区南部	84.70	1,167,692	8.3%	13,786.2	40	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
区西南部	87.83	1,468,970	10.4%	16,725.2	51	2		0	2	0	0	0	0	0	0	0
区西部	67.87	1,288,507	9.1%	18,984.9	41	3		0	3	0	0	0	0	0	0	0
区西北部	113.92	2,002,027	14.2%	17,574.0	93	2		0	2	0	0	0	0	0	0	0
区東北部	98.21	1,370,727	9.7%	13,957.1	89	0		0	0	0	0	0	1	0	0	0
区東部	111.36	1,507,200	10.7%	13,534.5	54	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
西多摩	572.7	373,482	2.6%	652.1	28	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
南多摩	324.46	1,443,532	10.2%	4,449.0	73	2		0	2	0	0	0	0	0	0	0
北多摩西部	90.05	661,641	4.7%	7,347.5	26	1		0	1	0	0	0	0	0	0	0
北多摩南部	96.1	1,063,304	7.5%	11,064.6	43	3		0	3	0	0	0	0	0	0	0
北多摩北部	76.51	751,312	5.3%	9,819.8	42	1		0	1	0	0	0	0	0	0	0
島しょ	406.7	23,382	0.2%	57.5	1	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2194.05	14,095,231	1	6,424.3	629	23	5	0	28	0	0	0	1	0	0	0

東京都 令和5年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料2

北多摩南部

患者との連携に特色がある⑫、大学病院として人材育成の実績がある⑫、多摩地域唯一の都立総合病院である⑫が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

南多摩

圏域内人口（約144万人）を⑫と⑫で連携してカバーするとともに、拠点病院の少ない西多摩圏域もフォローする。

区西北部

圏域内人口（約199万人）、医療機関数（約1,800施設）ともに多く、緩和ケア推進に積極的な⑫と⑫が連携してカバーする。

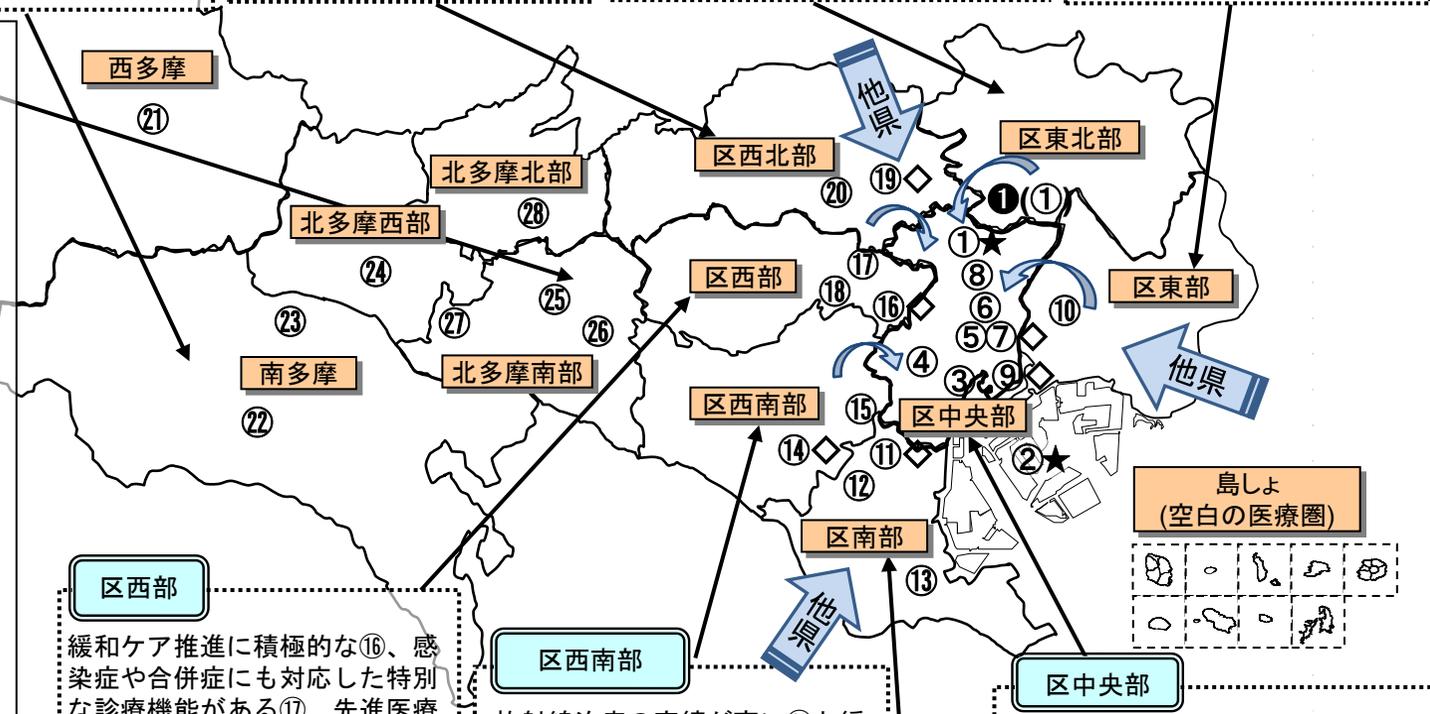
区東北部

⑫と都道府県拠点病院⑫をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、患者の利便性を考慮して⑫と⑫が引き続きがん診療をフォローする。

区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑫と都道府県拠点病院の⑫とともに、隣接する⑫が引き続き診療をフォローする。

- ① 東京都立駒込病院★ (更新)
- ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ (現況)
- ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 (更新)
- ④ 虎の門病院 (現況)
- ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (現況)
- ⑥ 東京大学医学部附属病院 (現況)
- ⑦ 東京医科歯科大学医学部附属病院 (現況)
- ⑧ 日本医科大学付属病院 (現況)
- ⑨ 聖路加国際病院 (現況)
- ⑩ 東京都立墨東病院 (更新)
- ⑪ NTT東日本関東病院 (現況)
- ⑫ 昭和大学病院 (更新)
- ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 (現況)
- ⑭ 国立病院機構東京医療センター (現況)
- ⑮ 日本赤十字社医療センター (現況)
- ⑯ 慶應義塾大学病院 (現況)
- ⑰ 国立国際医療研究センター病院 (現況)
- ⑱ 東京医科大学病院 (現況)
- ⑲ 帝京大学医学部附属病院 (現況)
- ⑳ 日本大学医学部附属板橋病院 (現況)
- ㉑ 市立青梅総合医療センター (旧：青梅市立総合病院) (更新)
- ㉒ 東京医科大学八王子医療センター (現況)
- ㉓ 東海大学医学部附属八王子病院 (現況)
- ㉔ 国立病院機構災害医療センター (現況)
- ㉕ 武蔵野赤十字病院 (現況)
- ㉖ 杏林大学医学部附属病院 (現況)
- ㉗ 東京都立多摩総合医療センター (現況)
- ㉘ 公立昭和病院 (現況)
- ① 東京女子医科大学附属足立医療センター (現況)



区西部

緩和ケア推進に積極的な⑯、感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑰、先進医療の積極的な取組がある⑱が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区西南部

放射線治療の実績が高い⑭と緩和医療の積極的な取組がある⑮が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区南部

地域の医療連携の中核を担う⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向けの緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

区中央部

区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨の連携により、高度かつ専門的ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域的ながん医療の向上を図る。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-1

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数 (年間)
					500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1	区中央部	★	更新	東京都立駒込病院	3,138	(2,062) 2,300	(6,221) 5,180	(1,444) 1,148	401	4.0	6,215
2	区東部	★	現況報告	がん研有明病院	7,112	(6,261) 6,645	(7,953) 7,835	(1,757) 1,837	1,175	10.0	4,415
3	区中央部		更新	慈恵医大病院	3,197	(1,551) 1,927	(1,891) 1,928	(850) 507	343	2.0	1,029
4	区中央部		現況報告	虎の門病院	3,028	(5,015) 2,736	(10,886) 6,814	(727) 829	433	3.0	4,262
5	区中央部		現況報告	順天堂医院	3,534	(3,747) 3,552	(5,645) 7,183	(1,008) 1,081	344	3.7	4,555
6	区中央部		現況報告	東大病院	2,872	(2,662) 2,512	(14,969) 3,377	(1,260) 944	1,064	5.0	967
7	区中央部		現況報告	東京医科歯科大学病院	2,661	(1,983) 1,832	(2,443) 2,077	(583) 757	461	1.0	3,287
8	区中央部 (区東北部)		現況報告	日本医科大学病院	2,887	(2,217) 2,051	(3,675) 3,782	(534) 534	174	5.4	4,621
9	区中央部 (区東部)		現況報告	聖路加国際病院	1,945	(1,673) 1,583	(2,421) 2,855	(691) 574	201	3.0	3,001
10	区東部		更新	東京都立墨東病院	1,443	(1,264) 1,245	(1,441) 1,425	(348) 342	118	8.0	1,424

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数 (年間)
					500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
11	区南部		更新	NTT関東病院	2115	(1783) 1984	(4314) 4313	(445) 481	238	10.0	2785
12	区南部		更新	昭和大学病院	2698	(1672) 1814	(2408) 2447	(719) 719	607	14.0	3157
13	区南部		更新	東邦大森病院	1939	(1278) 1185	(2911) 2898	(575) 772	463	20.0	255
14	区西南部		更新	東京医療センター	1883	(1492) 1600	(1966) 1614	(825) 876	530	13.0	2653
15	区西南部		更新	日赤医療センター	1029	(978) 979	(2419) 2270	(587) 553	225	5.6	3200
16	区西部		更新	慶応義塾大学病院	3598	(2771) 2982	(3672) 4171	(961) 982	401	4.0	5327
17	区西部		更新	国立国際医療研究センター病院	1701	(1173) 905	(2731) 2115	(369) 447	366	5.0	3936
18	区西部		更新	東京医科大学病院	3457	(2184) 2410	(6505) 4687	(888) 913	358	13.0	2232
19	区西北部		更新	帝京大学病院	1841	(1675) 1582	(3094) 3287	(631) 631	447	6.0	4264
20	区西北部		更新	日大板橋病院	831	(1514) 1610	(3299) 2401	(526) 495	226	8.0	781

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数 (年間)
					500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
21	西多摩		更新	市立青梅総合医療センター	1129	(654) 741	(1251) 1580	(191) 228	173	45.1	961
22	南多摩		更新	東医大八王子医療センター	1559	(1004) 842	(7340) 2303	(372) 405	213	13.0	3801
23	南多摩		更新	東海大八王子病院	1587	(1660) 1832	(2383) 2382	(429) 485	132	8.0	1010
24	北多摩西部		更新	災害医療センター	941	(497) 505	(1187) 4664	(354) 253	74	14.0	2941
25	北多摩南部		更新	武蔵野赤十字病院	2151	(1599) 1608	(2796) 4672	(563) 572	462	16.0	2349
26	北多摩南部		更新	杏林大学病院	2691	(2128) 2101	(3686) 3842	(703) 727	244	11.0	809
27	北多摩南部		更新	東京都立多摩総合医療センター	2270	(1518) 1570	(2827) 11256	(658) 768	540	13.0	834
28	北多摩北部		更新	公立昭和病院	1323	(942) 949	(1204) 1282	(344) 354	129	16.0	2694

21: 令和5年11月1日付で青梅市立総合病院から市立青梅総合医療センターへ改称

地域がん診療病院の診療実績について

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケア チームに対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	区東北部	更新	東京女子医科大学附属 足立医療センター	948	(925)	(920)	0	61	790
					862	1013	0		

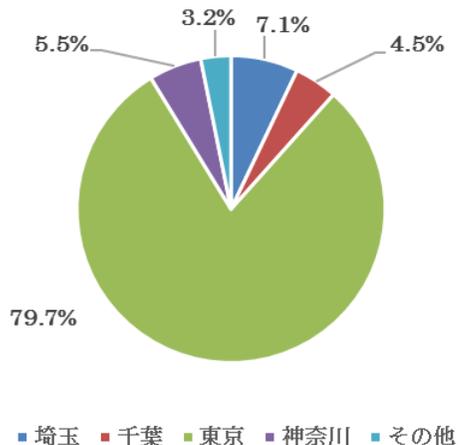
東京都の地域特性

① がん患者が全国の10分の1、
一方、拠点病院数が全国の17分の1
～拠点病院が足りない～

- ◆ 都の人口 約1,409万人⇒ 全国の1/9
- ◆ 都民の総がん患者数(推計) 約36.9万人⇒ 全国の1/10
- ◆ がんの医療圏の平均人口 約108万人⇒ 全国平均の約2.9倍
- ◆ 都内の拠点病院数 30か所*⇒ 全国の1/17
*国立がん研究センター中央病院を含む
- ◆ 高齢者数(65歳以上) 2015年:306万人 ⇒ 2040年:381万人

② 大学病院が多数あり、交通網や道路網が高度に発達し、昼間人口も多いため、他道府県からの流入患者2割程度も含め、がんの医療圏を越えて患者が受診

【参考】他県からの患者流入割合(2021年院内がん登録全国集計より)



東京都における拠点病院の必要数及び整備方針

- ◆ 都の人口や患者数、他都道府県からの流入状況を見ても、都内の拠点病院数は不足
- ◆ がんの医療圏を越えて患者が受診

さらに、

- ◆ 地域連携の推進に当たり、東京都は診療所の数が多く、1施設当たりが連携する診療所数が全国平均と比較し約2.3倍程度
- ◆ 都平均 14,689か所/30病院≒489か所
- ◆ 全国平均 105,182か所/504病院≒208か所
※地域がん診療病院を含む。



現状の拠点病院数では不足しており、さらなる整備が必要
(※都が独自に東京都がん診療連携拠点病院を整備し、拠点病院数の不足を補っている。)

《効果1》 がん患者の通院圏域に応じたがん医療の提供

◆交通網の発達による多様な受療行動



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇患者・家族のニーズに合った医療提供の推進

◆治療と就労の継続



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇職場の近くで治療可能な体制確保

《効果2》 専門的ながん医療提供体制の充実

◆全国トップクラスの医療機関が集結



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇高度かつ専門的ながん医療提供の推進

《医師緩和ケア研修》

◆1か所の拠点病院で研修を受けられる医師数には限りがある

◆既に複数回開催している拠点病院が多数あり



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇医師緩和ケア研修修了者数の拡大

《効果3》 相談支援体制の充実

◆高齢化の進展により多くの医療提供・相談支援ニーズの増加・複雑化



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇身近な地域での医療提供体制の充実

◇きめ細かい相談支援の推進

《効果4》 地域の診療所・中小病院との連携促進

《拠点病院1か所あたりの診療所数》

◆ 都平均 489か所

◆ 全国平均 208か所



がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇切れ目ないがん医療提供の推進

神奈川県

神奈川県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

	医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
							内訳				内訳			内訳		
							新規 申請	指定 更新	現況 報告	計	新規 申請	指定 更新	現況 報告	新規 申請	指定 更新	現況 報告
1	横浜	437.55	3,772,440	41	8621.7	132	1	1	8	10						
2	川崎北部	64.28	875,784	9	13624.5	20			2	2						
3	川崎南部	78.72	669,797	7	8508.6	19		2	1	3						
4	相模原	328.91	725,030	8	2204.3	35			2	2						
5	横須賀・三浦	206.86	675,038	7	3263.3	29			2	2						
6	湘南東部	118.6	738,069	8	6223.2	25			1	1						
7	湘南西部	253.4	579,463	6	2286.8	22		1		1						
8	県 央	292.75	864,903	9	2954.4	32		1		1						
9	県 西	635.09	330,903	4	521.0	23		1		1						
	計	2416.16	9,231,427	100	3820.70	337	1	6	16	23	0	0	0	0	0	0

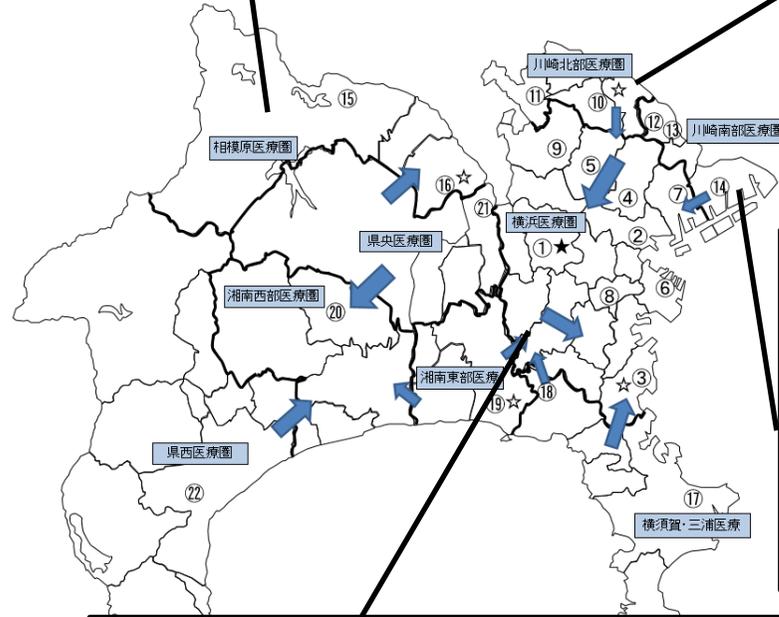
神奈川県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター
(令和5年4月1日)
- ②横浜市立市民病院 (令和5年4月1日)
- ③☆横浜市立大学附属病院
(令和5年4月1日)
- ④横浜労災病院 (令和5年4月1日)
- ⑤昭和大学横浜市北部病院
(令和5年4月1日)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院
(令和5年4月1日)
- ⑦済生会横浜市東部病院
(令和5年4月1日)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター
(令和5年4月1日)
- ⑨昭和大学藤が丘病院 (令和5年4月1日)
- ⑩☆聖マリアンナ医科大学病院
(令和5年4月1日)
- ⑪新百合ヶ丘総合病院 (令和5年4月1日)
- ⑫川崎市立井田病院 (令和5年4月1日)
- ⑬関東労災病院 (令和5年4月1日)
- ⑭川崎市立川崎病院 (令和5年4月1日)
- ⑮相模原協同病院 (令和5年4月1日)
- ⑯☆北里大学病院 (令和5年4月1日)
- ⑰横須賀共済病院 (令和5年4月1日)
- ⑱湘南鎌倉総合病院 (令和5年4月1日)
- ⑲藤沢市民病院 (令和5年4月1日)
- ⑳☆東海大学医学部附属病院
(令和5年4月1日)
- ㉑大和市立病院 (令和5年4月1日)
- ㉒小田原市立病院 (令和5年4月1日)

相模原医療圏は、特定機能病院である⑯が、圏域を越えた患者を対象とした高度ながん医療の提供や診療支援、研修会等を実施し、⑮が、地域の患者へのがん医療の提供や地域の医療従事者への研修会等を実施する。

川崎北部医療圏には特定機能病院である⑩に加え、令和4年度から緩和ケア病棟を持つ⑪が拠点病院に指定された。



川崎南部医療圏は、⑫が「緩和ケア」を軸とした「在宅ケア」地域連携に力を注ぎ、⑬が多くの入院患者の受入れ、地域のニーズに合わせた幅広い取組を行ってきた。令和4年度から南端に位置する⑭が新規に指定され、患者がより身近な地域でがん診療を受けることができたようになった。

横浜医療圏は、平成30年4月から北部(②④⑤⑦⑨の5病院)・西部(①)・南部(③⑥⑧の3病院)の3つの二次医療圏が1つに統合された。

申請当時、北部及び南部に複数の病院が必要であったとした理由は次のとおりである。

北部二次医療圏は 労災病院である④、大学の附属病院である⑤、総合病院で高度ながん医療に力を注いでいる⑦が機能的に役割分担をすることで、圏域内のがん診療が、量・質ともに向上するため。

南部二次医療圏は、特定機能病院である③が、圏域を越えた高度ながん医療を提供し、圏域唯一の緩和ケア病棟を有する⑥と当該医療圏の診療実績が最も多い⑧が連携することで、圏域内の患者が身近な地域でがん診療を受けられるため。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	横浜	★	現況	県立がんセンター	(4,329)	(4,131)	(5,637)	(1,310)	(91)	(9)	(6,528)
					3,395	4,428	6,613	1,318	76	9	7,126
2			現況	横浜市立市民病院	(1,765)	(1,360)	(1,983)	(557)	(225)	(8)	(1,134)
					1,778	1,174	2,416	639	246	8	1,110
3			現況	横浜市大附属病院	(2,295)	(2,084)	(4,171)	(720)	(418)	(5)	(3,655)
					2,312	1,902	4,429	708	223	5	3,463
4			更新	横浜労災病院	(1,799)	(1,491)	(1,856)	(1,000)	(140)	(5)	(995)
					1,879	1,648	1,839	919	145	5	485
5			現況	横浜市北部病院	(2,080)	(1,035)	(1,710)	(334)	(169)	(6)	(1,900)
					2,115	1,119	1,800	350	162	5	641
6			現況	みなと赤十字病院	(1,150)	(675)	(1,345)	(251)	(144)	(4)	(2,567)
					1,206	673	1,432	229	189	0	1,946
7			現況	横浜市東部病院	(1,765)	(1,012)	(1,186)	(737)	(139)	(3)	(1,954)
					1,919	1,129	1,450	1,240	125	3	2,415
8			現況	市大附属市民総合医療センター	(3,348)	(2,127)	(3,892)	(559)	(216)	(6)	(1,330)
					2,655	1,891	3,973	534	205	6	1,233
9			現況	昭和大学藤が丘病院	(2,327)	(928)	(1,856)	(391)	(79)	(3)	(632)
					2,299	950	1,430	432	95	2	332
10	川崎北部		現況	聖マリアンナ病院	(2,740)	(1,805)	(3,925)	(757)	(380)	(26)	(1,155)
					2,429	1,798	3,654	765	390	21	1,127

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-2

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
11	川崎北部		現況	新百合ヶ丘総合病院	(1,115) 1,213	(925) 1,032	(2,662) 3,430	(628) 449	(66) 115	(8) 9	(1,875) 1,964
12	川崎南部		現況	川崎市立井田病院	(634) 697	(471) 443	(1,533) 1,490	(201) 436	(173) 205	(3) 4	(2,814) 3,784
13			更新	関東労災病院	(1,138) 1,147	(624) 604	(1,618) 1,531	(379) 279	(180) 130	(11) 11	(575) 488
14			現況	川崎市立川崎病院	(1,516) 1,563	(704) 646	(5,289) 6,376	(1,110) 2,642	(116) 141	(11) 20	(311) 407
15	相模原		更新	相模原協同病院	(1,339) 991	(720) 774	(3,522) 1,053	(240) 615	(178) 182	(6) 9	(1,260) 1,084
16			現況	北里大学病院	(3,266) 3,577	(2,428) 3,278	(5,882) 6,001	(1,452) 1,419	(299) 236	(29) 33	(4,010) 3,602
17	横須賀・三浦		現況	横須賀共済病院	(2,213) 2,324	(1,755) 1,584	(2,406) 2,577	(243) 268	(364) 104	(19) 16	(340) 229
18			現況	湘南鎌倉総合病院	(1,774) 2,066	(1,091) 1,227	(2,140) 2,284	(433) 583	(266) 196	(12) 11	(273) 396
19	湘南東部		現況	藤沢市民病院	(1,683) 1,963	(1,187) 1,204	(1,530) 1,583	(340) 350	(163) 212	(30) 21	(895) 855
20	湘南西部		更新	東海大学医学部付属病院	(3,132) 3,158	(1,736) 1,874	(5,184) 4,963	(1,021) 976	(264) 249	(22) 24	(2,832) 2,617

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
21	県央		更新	大和市立病院	(941)	(538)	(1,239)	(260)	(51)	(19)	(2,143)
					954	433	1,205	272	99	19	1,272
22	県西		更新	小田原市立病院	(795)	(467)	(1,085)	(231)	(98)	(21)	(37)
					883	436	1,003	228	128	21	133
23	横浜		新規	横浜医療センター	1,013	680	1,007	224	108	3	1,299

神奈川県 令和6年度の指定推薦状況と想定される患者受領動向

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター
- ②横浜市立市民病院
- ③☆横浜市立大学附属病院
- ④横浜労災病院
- ⑤昭和大学横浜市北部病院
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院
- ⑦済生会横浜市東部病院
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター
- ⑨昭和大学藤が丘病院
- ⑩☆聖マリアンナ医科大学病院
- ⑪新百合ヶ丘総合病院
- ⑫川崎市立井田病院
- ⑬関東労災病院
- ⑭川崎市立川崎病院
- ⑮相模原協同病院
- ⑯☆北里大学病院
- ⑰横須賀共済病院
- ⑱湘南鎌倉総合病院
- ⑲藤沢市民病院
- ⑳☆東海大学医学部附属病院
- ㉑大和市立病院
- ㉒小田原市立病院
- ㉓(新規推薦) 横浜医療センター



神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

1 現在のがん診療連携拠点病院の整備状況

【都道府県がん診療連携拠点病院】 県立がんセンター

【地域がん診療連携拠点病院】 県内9の二次医療圏に21病院整備（空白医療圏なし）

2 神奈川県状況を踏まえた整備方針

- 県立がんセンターを中心に、拠点病院が連携・協力し、本県のがん医療の充実を推進する。
- 特定機能病院である地域がん診療連携拠点病院4カ所を分散配置し、がん診療に携わる人材の育成や先端的治療を推進する。
- 本県の中でも人口が集中する大都市部では、二次医療圏の人口が多いことから、がん患者が身近な地域で高度ながん医療を受けられるよう、複数の拠点病院を整備する必要がある。

神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

3 新規推薦

【地域がん診療連携拠点病院】 横浜医療センター(横浜医療圏)

- 横浜市内には、現在8か所の地域がん診療拠点病院（以下「拠点病院」という。）と1か所の都道府県がん診療拠点病院があるが、横浜医療センターのある戸塚区（医療圏内の南側に位置）と、隣接する泉区、港南区及び栄区には拠点病院はなく、市内での地域偏在が顕著となっている。（戸塚区、泉区、港南区及び栄区の人口合計は約77万人で、横浜市人口の約20%を占めており、横浜市内に拠点病院の空白地域ができています。）
- 横浜医療センターは横浜市西部地域中核病院として位置づけられるとともに、平成25年4月1日より、神奈川県がん診療連携指定病院として指定を受け、地域のがん治療に貢献してきた。また、県下有数の手術症例数を有する脳腫瘍への対応のほか、令和4年度からは横浜市内の複数の拠点病院とともに「膵癌早期発見プロジェクト」を立ち上げ、機能強化、地域の医療機関との連携強化を図っている。
さらに、がん以外の脳神経・心臓疾患等様々な疾患に対する高度専門医療や救急医療にも幅広く対応していることから、複数の疾患や合併症を持つ高齢の患者に対するがん治療にも貢献してきた。
- 以上より、横浜医療センターを拠点病院に位置付けることで、次の点が期待できることから、横浜医療センターを拠点病院に新規指定推薦することとした。
 - ・ 横浜医療圏内の拠点病院の地域偏在を緩和することが期待できる
 - ・ 横浜市内の拠点病院、医療機関との連携強化が期待できる
 - ・ 脳腫瘍や高齢の患者に十分に対応することが期待できる

新潟県

新潟県 がんの医療圏（*）の概要

（令和5年9月1日時点）

	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院					
							推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳				
								新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告
1	下越	2319.14	192,263	9.035247	82.9	16	1		1			0				
2	新潟	2223.72	866,269	40.70962	389.6	47	0				3	0				
3	県央	733.52	208,497	9.79815	284.2	10	0					0				
4	中越	1636.85	415,232	19.5135	253.7	19	0				2	0				
5	魚沼	2649.2	148,488	6.978075	56.1	11	1		1			0				
6	上越	2165.76	249,196	11.71077	115.1	14	0				1	0				
7	佐渡	855.68	47,977	2.254641	56.1	2	0					0				1
	計	12583.87	2,127,922	100	169.1	119	2	0	2	0	6	0	0	0	0	1

（*）新潟県のがんの医療圏は2次医療圏と一致している。

新潟県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

佐渡医療圏に住むがん患者を新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して対応している。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院で対応している。

空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院で対応している。

中越医療圏

⑤

⑥

新潟医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

★: 都道府県拠点

上越医療圏

⑦

魚沼医療圏

⑧

- ① 県立がんセンター新潟病院★（平成27年4月1日）
- ② 県立新発田病院（平成28年4月1日）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（平成27年4月1日）
- ④ 新潟市民病院（平成28年4月1日）
- ⑤ 長岡赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 長岡中央総合病院（平成27年4月1日）
- ⑦ 県立中央病院（平成27年4月1日）
- ⑧ 魚沼基幹病院（令和3年4月1日）
- ① 佐渡総合病院（平成29年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	新潟	★	現況	県立がんセンター新潟病院	(3,132) 3,089	(1,594) 3,267	(15,602) 20,691	(1,006) 1,067	392	23%	9,760
2	下越		更新	県立新発田病院	(1,344) 1,256	(713) 693	(1,095) 1,216	(246) 178	54	49%	1,488
3	新潟		現況	新潟大学医歯学総合病院	(2,102) 1,994	(1,196) 1,191	(1,083) 2,139	(773) 688	236	22%	2,405
4	新潟		現況	新潟市民病院	(1,652) 1,738	(1,095) 1,081	(1,582) 2,023	(269) 281	187	18%	661
5	中越		現況	長岡赤十字病院	(1,860) 1,824	(1,043) 1,069	(1,674) 2,666	(400) 408	467	35%	666
6	中越		現況	長岡中央総合病院	(1,894) 1,914	(1,026) 1,245	(1,969) 2,069	(359) 367	58	35%	379
7	魚沼		更新	魚沼基幹病院	(777) 1,137	(352) 428	(2,672) 4,027	(251) 230	106	34%	709
8	上越		現況	県立中央病院	(1,328) 1,393	(843) 846	(1,431) 1,354	(362) 333	68	41%	578

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	佐渡	現況	佐渡総合病院	(586) 449	(112) 159	(1,716) 1,896	(120) 86	17	181

新潟県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して佐渡医療圏に住むがん患者に対応するため、①の病院を推薦する。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院を推薦する。

空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院を推薦する。

中越医療圏

⑤◇

⑥

新潟医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

★:都道府県拠点

上越医療圏

⑦

上越医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

魚沼医療圏

魚沼医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

- ① 県立がんセンター新潟病院★（現況）
- ② 県立新発田病院（更新）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（現況）
- ④ 新潟市民病院（現況）
- ⑤ 長岡赤十字病院（現況）
- ⑥ 長岡中央総合病院（現況）
- ⑦ 県立中央病院（現況）
- ⑧ 魚沼基幹病院（更新）
- ① 佐渡総合病院（現況）

1. 今回推薦に係る新潟県の考え方

- 本県におけるがん患者の受療動向及びがん医療提供体制等を踏まえ、現在指定を受けている全病院を推薦したい。
※本県におけるがん患者の受療動向については【参考1】を、がん医療提供体制については、【参考2】を参照
- 空白となっている以下の医療圏については、引き続き、がん診療連携拠点病院等の指定を検討していく。
・県央医療圏・・・令和5年度開院予定の「県央基幹病院」の動向を踏まえ、指定推薦を検討。

2. 同一医療圏における複数の拠点病院等の指定について

(1)新潟医療圏

- 県立がんセンター新潟病院は、5大がん以外のがんについて全県的に対応しており、特に血液腫瘍等では全国有数の診療実績
- 新潟大学医歯学総合病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応
- 政令指定都市である新潟市を含む新潟医療圏は人口が集中(90万人強・県人口の40%)し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、新潟市民病院を含む3病院で対応する必要有

(2)中越医療圏

- 隣接する空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、長岡赤十字病院及び長岡中央総合病院の2病院が必要

⇒以上は、本県における患者の受療動向とも一致しており、推薦する全病院は本県のがん医療提供体制の充実・向上に必要である。

【参考1】新潟県におけるがん患者の受療動向

- 新潟医療圏は、県内で唯一全県から患者が流入している。
- 新潟医療圏では、人口が集中し、患者も多い中、同圏域内での受療率は9割を超えている。
- 空白の県央医療圏に住む患者の4割は、隣接する新潟・中越医療圏で受療している。

		受療先医療機関							合計	
		下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡		
患者 居住 地	下越	患者数(人)	6,865	1,097						7,962
		自足率(%)	86.2%	13.8%						100.0%
	新潟	患者数	844	32,791	421	120		29		34,205
		自足率	2.5%	95.9%	1.2%	0.4%		0.1%		100.0%
	県央	患者数	44	2,380	4,900	1,260				8,584
		自足率	0.5%	27.7%	57.1%	14.7%				100.0%
	中越	患者数	56	309	225	15,392	39	16		16,037
		自足率	0.3%	1.9%	1.4%	96.0%	0.2%	0.1%		100.0%
	魚沼	患者数	12	79		988	5,942	55		7,076
		自足率	0.2%	1.1%		14.0%	84.0%	0.8%		100.0%
	上越	患者数				70	10	9,296		9,376
		自足率				0.7%	0.1%	99.1%		100.0%
	佐渡	患者数		684					1,978	2,662
		自足率		25.7%					74.3%	100.0%

※集計対象となっているレセプトは国民健康保険、退職国保、後期高齢者医療制度の令和3年度の診療分

※二次医療圏単位で10未満の数は集計対象外となっている

【参考2】新潟県におけるがん医療提供体制

【全県レベルの機能】

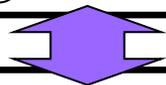
- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)以外のがんに対応
- ・高度な診断・診療機能
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携による県全体のがん医療提供体制の充実・向上(県立がんセンター新潟病院)

県立がんセンター新潟病院 (都道府県がん診療連携拠点病院)

- ・5大がん以外のがんについて、全県的に対応(特に、血液がん等では全国有数の診療実績)
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携

新潟大学医歯学総合病院

- ・県内唯一の特定機能病院・大学病院・がんゲノム拠点病院として、5大がんを含むすべてのがんに対する治療と研究を実施



連携によるがん医療提供体制の充実・向上

【2次医療圏レベルの機能】

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)に対応。その他、各病院が得意とするがんに対応
- ・地域のがん診療を担う病院やかかりつけ医と連携し、地域のがん医療提供体制を充実・向上

下越医療圏

【下越医療圏を1病院で対応】

県立新発田病院

- ・圏域の基幹的な医療機関
- ・圏域内の医療従事者の研修の実施等、地域のがん診療の質の向上に寄与

佐渡医療圏

【新潟医療圏と連携して対応】

佐渡総合病院

- ・佐渡島内唯一の総合病院として、がん患者の大半を診療しているがん医療の中心的病院

新潟医療圏

【新潟医療圏、県央医療圏の一部を3病院で対応】

県立がんセンター新潟病院

- ・定位照射装置、PET等で高度な医療を提供
- ・がん登録の向上に重要な役割

新潟市民病院

- ・消化器がんへの鏡視下手術は県内最多の手術数、手術の後進育成に中心的役割
- ・県内病院の緩和ケア体制整備・普及に指導的役割

新潟大学医歯学総合病院

- ・希少ながんに全県的対応
- ・放射線療法・薬物療法・手術の全てで高度な治療
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

中越医療圏

【中越医療圏、県央医療圏の一部を2病院で対応】

長岡赤十字病院

- ・肺がん等で高い実績
- ・患者支援チームによる質の高いがん医療の提供

長岡中央総合病院

- ・がん予防に尽力
- ・外来薬物療法の充実

上越医療圏

【上越医療圏を1病院で対応】

県立中央病院

- ・上部消化器腫瘍に重点
- ・隣接圏域も対象に高度な放射線治療の提供

魚沼医療圏

【魚沼医療圏を1病院で対応】

魚沼基幹病院

- ・圏域内の医療従事者への研修を実施、地域のがん診療の質の向上に寄与
- ・県内唯一の動体追跡併用定位放射線治療を実施

富山県

富山県がんの医療圏の概要

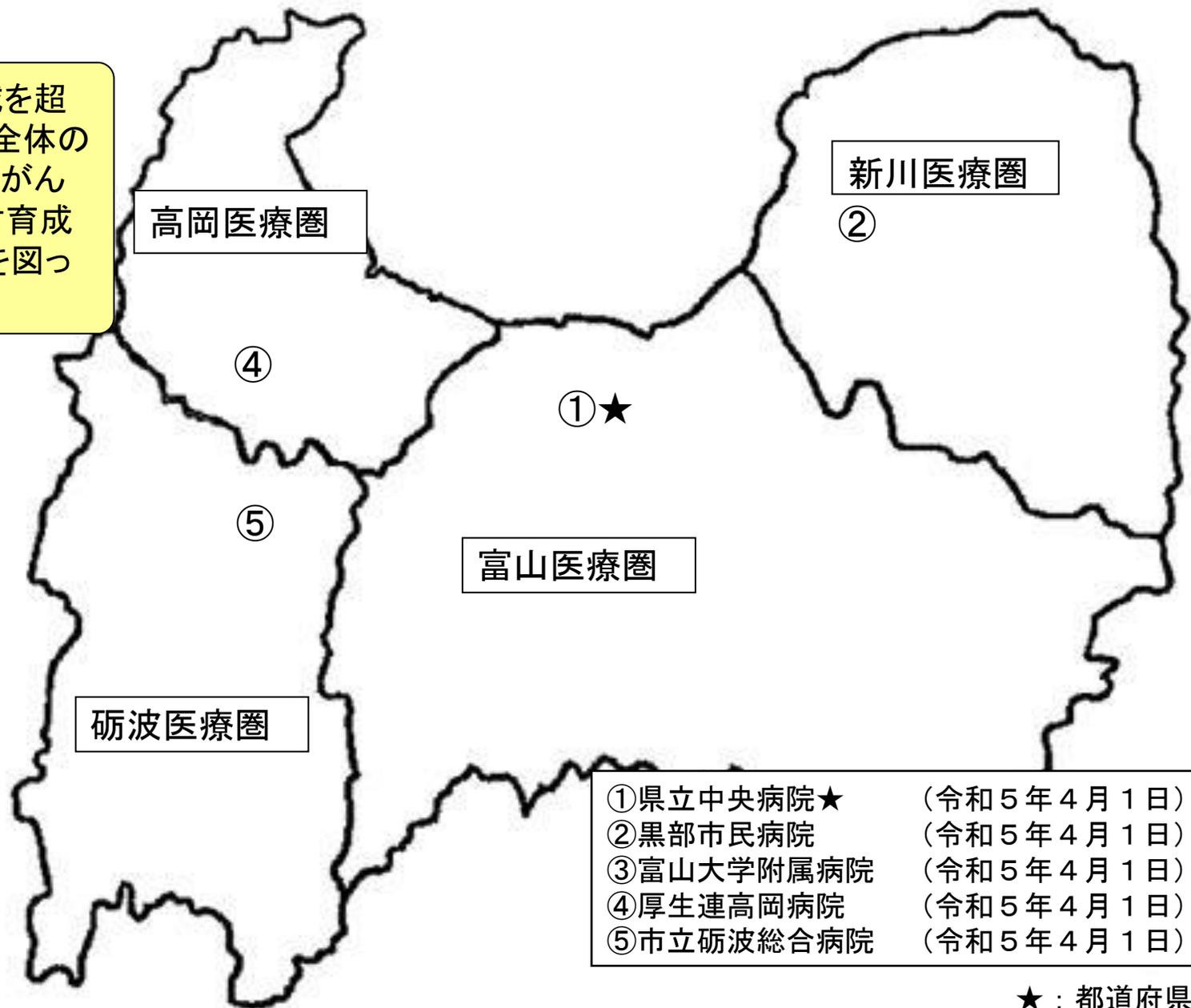
令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
新川	924	109,990	11%	119	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
富山	1,844	484,278	48%	263	50	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高岡	549	292,405	29%	533	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
砺波	930	120,440	12%	130	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	4,247	1,007,113	100.0%	237.14	106	4	0	0	4	0	0	0	0	0	1

富山県 令和5年4月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

5つの拠点病院が圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化、がん医療水準の強化、人材育成及び診療設備の充実を図っている。



★：都道府県拠点

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点

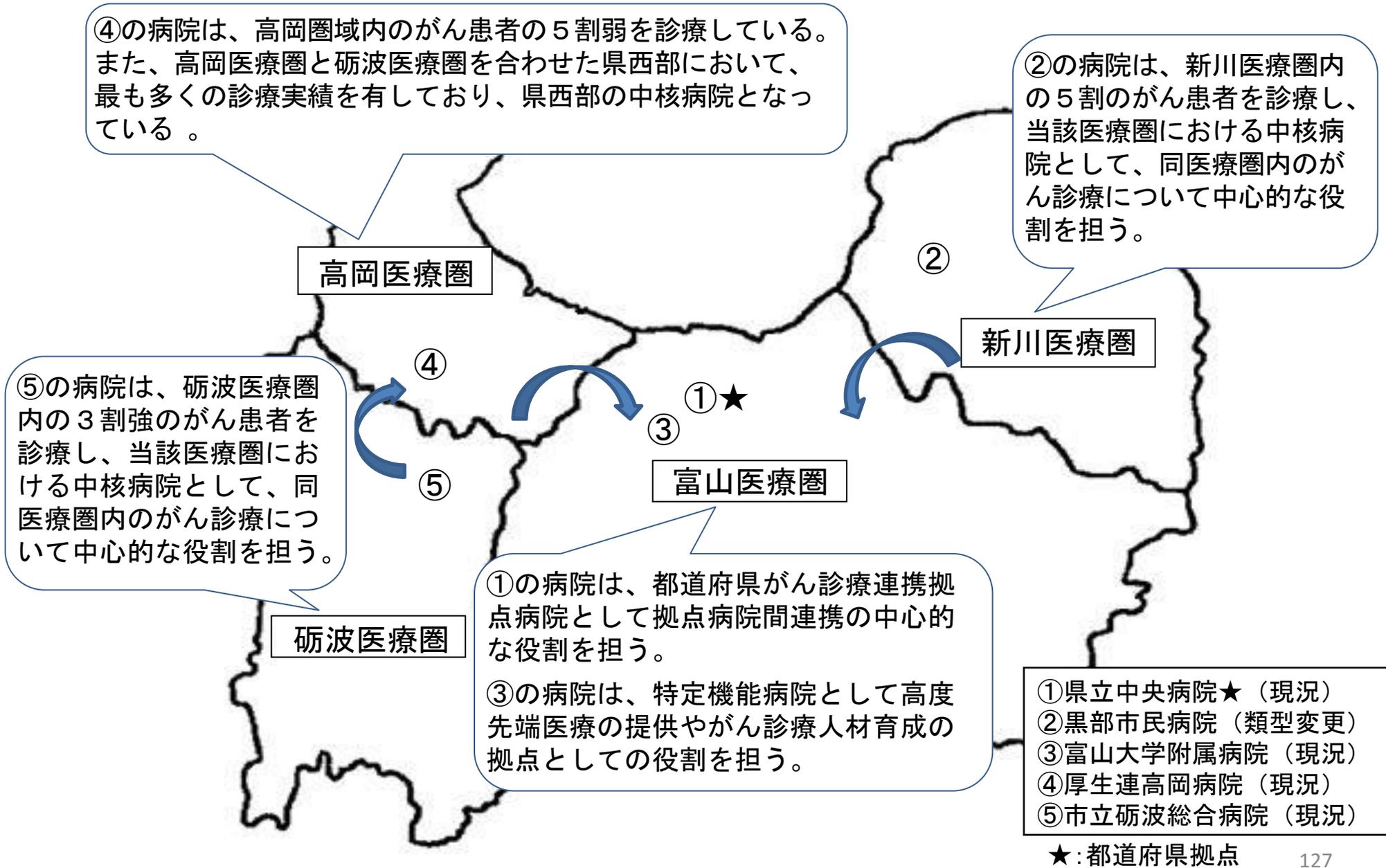
医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 富山	★		富山県立中央病院	(2,024) 2,235	(1,324) 1,379	(2,037) 2,141	(478) 475	(176) 160	(26.4) 33	(1,540) 1,626
2 富山			富山大学附属病院	(1,649) 1,787	(1,403) 1,397	(2,176) 2,223	(433) 439	(124) 126	(19.3) 21	(1,325) 1,032
3 高岡			厚生連高岡病院	(1,452) 1,437	(891) 822	(1,540) 1,763	(313) 296	(113) 95	(57.5) 44	(277) 265
4 砺波			市立砺波総合病院	(568) 587	(534) 380	(609) 571	(98) 137	(144) 145	(30.3) 33	(1,187) 1,054

地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん 登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	相談支援 センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の 手術件数(年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
1	新川	新規	黒部市民病院	(609) 779	(406) 444	(861) 912	(124) 120	(62) 73	(483) 572

富山県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



本県では5つのがん診療連携拠点病院が、医療圏別又は圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化や、がん医療水準の強化に努めている。

基本的な考え方

全国より早く高齢化が進展する本県のがん罹患率は全国を上回って推移しており、今後のさらなる高齢化に伴い、がん患者、認知症を有するがん患者の増加が見込まれる中で、これまでと同様に、県民が安心して質の高いがん医療を受けられるようにするため、下記のとおり、本県の拠点病院がこれまで担ってきた役割を継続・強化する必要がある。

- ①手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療や各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等をごん患者の状態に応じて適切に施していくこと
- ②緩和ケアチームの介入によるがん患者の負担軽減
- ③医師・看護師等のがん専門人材の育成・医療安全に対応する人材の育成・配置
- ④高度な先端技術等を用いた治療やがんゲノム医療の実践に向けた取組みといった最新の医療技術への対応

県計画等における位置付け

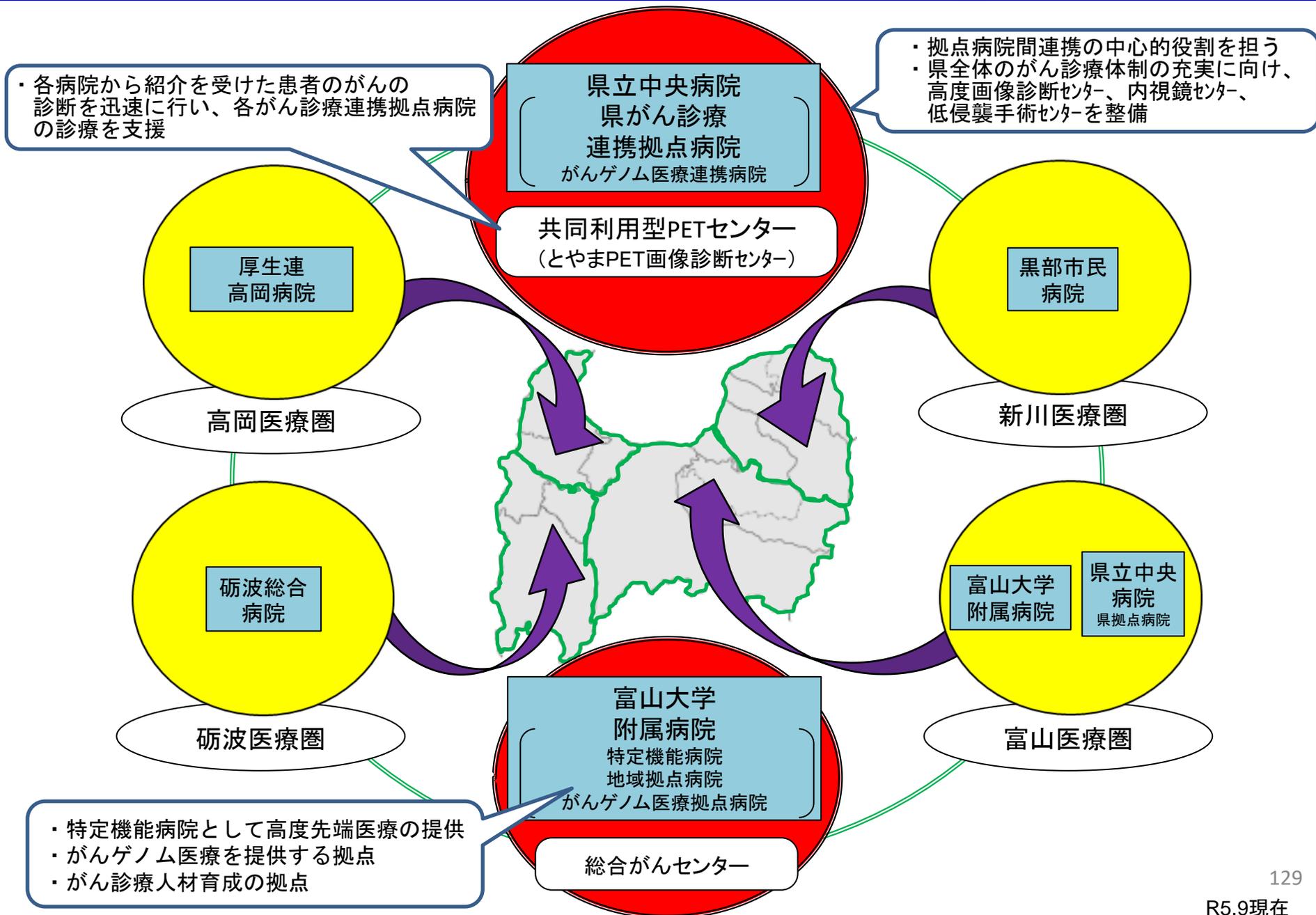
本県では、がんの克服を疾病対策の重要課題と位置付け、国の「がん対策推進基本計画」に基づき、「富山県がん対策推進計画」を策定し、「予防の強化と早期発見の推進」「質の高い医療の確保」「患者支援体制の充実」の3つを重点課題として、総合的ながん対策を推進してきた。

現在の第3期計画においては、拠点病院が連携協力し、病院毎の特性を活かしながら、二次医療圏毎に、集学的医療、緩和ケア、在宅療養支援を提供できる体制を構築し、患者支援体制の充実及び県全体のがん医療水準のさらなる向上を図ることとしている。

今後の富山県のがん診療体制

新川医療圏の黒部市民病院は、地域がん診療連携拠点病院として指定を受けているが、専従常勤の放射線治療医の配置が困難なことから、地域がん診療病院として類型変更の推薦をする。

都道府県がん診療連携拠点病院として県立中央病院が拠点病院間連携の中心的役割を担い、地域がん診療連携拠点病院として富山大学附属病院、厚生連高岡病院、市立砺波総合病院、地域がん診療病院として黒部市民病院の5病院からなるがん診療体制により、高齢社会に対応した包括的ながん診療を提供することで、県民が安心して質の高いがん医療が受けられる体制の充実に取り組む。



石川 県

石川県 がんの医療圏の概要

令和 5 年 9 月 1 日現在

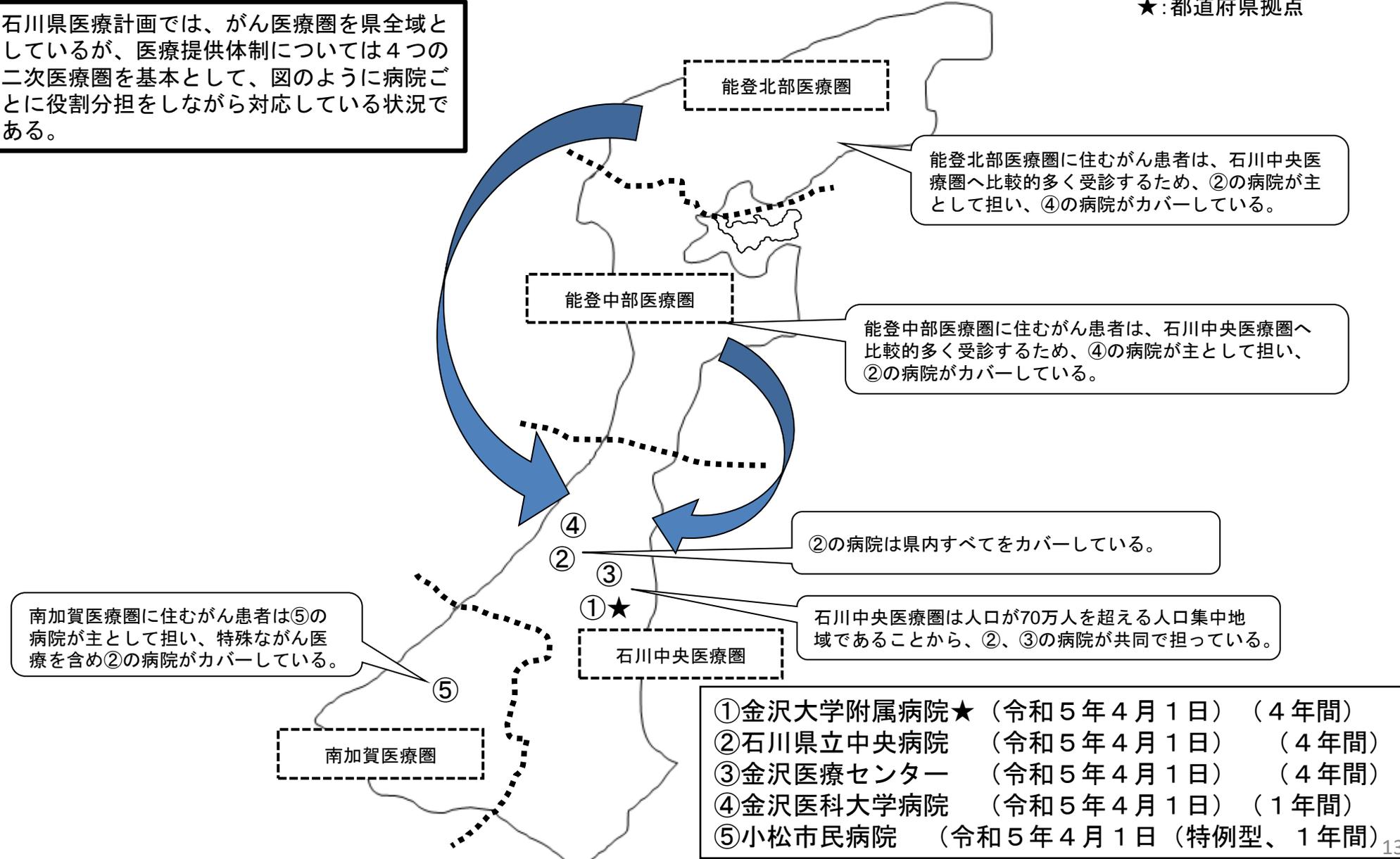
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	
二次 医療圏	能登北部医療圏	1,129.99	55,816	5.0	49.4	5	0	0	0	0
	能登中部医療圏	847.91	111,319	10.0	131.3	10	0	0	0	0
	石川中央医療圏	1,432.49	723,355	65.2	505.0	58	3	1	0	4
	南加賀医療圏	775.7	219,581	19.8	283.1	18	0	1	0	1
石川県		4,186.09	1,110,071	100	968.7	91	3	2	0	5

※ 特定領域がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院は該当なし

石川県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応している状況である。

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★：都道府県拠点

・（ ）内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

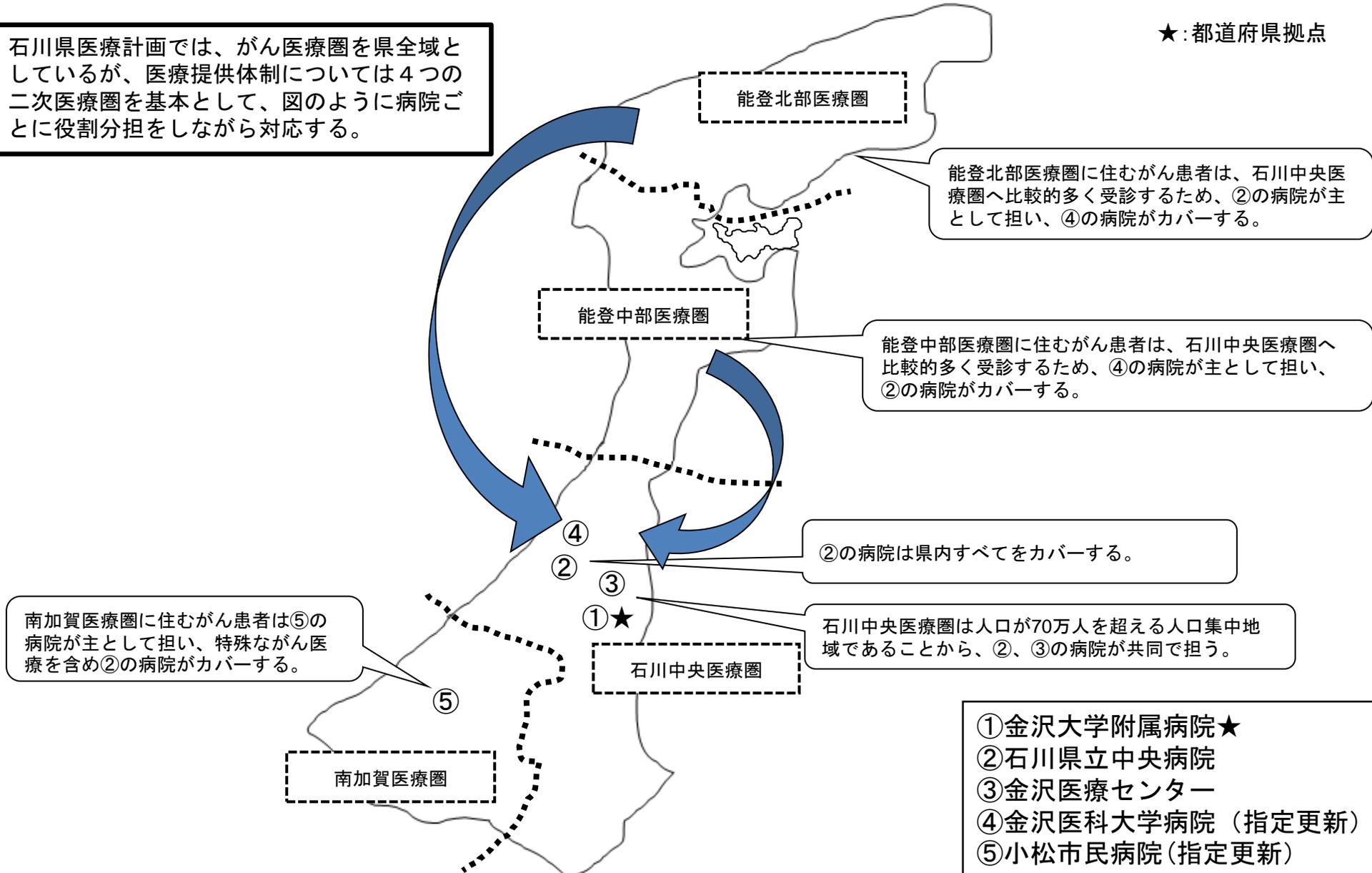
医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居 住する がん患者の診療の 割合(%)※ 2割程度	相談件数 (年間)
1	★	現況報告	金沢大学 附属病院	(1,870) 1,867	(764) 478	(13,341) 19,778	(498) 598	(117) 130	26	(4,831) 5,481
2		現況報告	石川県立 中央病院	(2,079) 2,339	(2,489) 1,598	(1,754) 1,785	(420) 443	(51) 88	23	(1,070) 1,099
3		現況報告	金沢医療 センター	(767) 802	(459) 461	(1,677) 1,626	(258) 190	(164) 162	10	(3,861) 4,419
4		指定更新	金沢医科 大学病院	(1,531) 1,329	(858) 839	(1,218) 1,248	(358) 304	(150) 137	21	(661) 1,494
5		指定更新	小松市民 病院	(691) 791	(437) 428	(1,161) 1,363	(124) 170	(70) 71	40	(963) 1,078

※1、2の病院は県全体を所管しているが、医療機関ごとの役割分担を踏まえ当該医療機関の位置する2次医療圏で算出。3は石川中央医療圏、4は能登中部及び能登北部医療圏、5は南加賀医療圏で算出

石川県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応する。

★: 都道府県拠点



- ①金沢大学附属病院★
- ②石川県立中央病院
- ③金沢医療センター
- ④金沢医科大学病院（指定更新）
- ⑤小松市民病院（指定更新）

石川県のがん医療対策

石川県がん診療連携協議会
 (事務局: 金沢大学附属病院)

- 研修・連携部会 (医療従事者研修・相談支援・クリティカルパス・緩和ケア)
- がん登録部会 (院内がん登録)
- 妊孕性温存部会

◎がんゲノム医療拠点病院
 ○がんゲノム医療連携病院
 ★小児がん連携病院

県がん診療連携拠点病院 (国指定)

金沢大学附属病院
 ◎★

医療従事者研修 情報提供

地域がん診療連携拠点病院 (国指定)

石川県立中央病院 ○

県全域を支援

小松市民病院

金沢医療センター

金沢医科大学病院 ○★

支援

地域がん診療連携協力病院 (県指定)

能登中部・能登北部医療圏 (公立能登総合病院、恵寿総合病院)

医療従事者研修 情報提供、地域連携支援

地域がん診療連携推進病院 (県指定)

芳珠記念病院、金沢市立病院、金沢赤十字病院、地域医療機能推進機構金沢病院、浅ノ川総合病院、石川県済生会金沢病院、公立松任石川中央病院、加賀市医療センター

研修・支援

研修・支援

研修・支援

研修・支援

南加賀医療圏

石川中央医療圏

能登中部医療圏

能登北部医療圏

病院	診療所
薬局	訪問看護ステーション

病院	診療所
薬局	訪問看護ステーション

病院	診療所
薬局	訪問看護ステーション

病院	診療所
薬局	訪問看護ステーション

1 本県の地域特性と整備にあたっての方針

がん診療については基本的に二次医療圏内で対応しているが、専門的で高度ながん診療については二次医療圏の枠を超えて県全域で対応している。

このため、地域がん診療連携拠点病院については4つの二次医療圏を基本として整備しているところであるが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中しており、国が定める指定要件を満たす医療機関が、能登北部・能登中部医療圏には存在せず、南加賀医療圏には存在するものの、その診療レベル等は単独でがん診療の核となるには十分とは言えない状況にある。

地域がん診療連携拠点病院の整備にあたっては、各医療機関の診療レベル、スタッフを含めた体制整備の状況及び患者の受療動向等を総合的に勘案して、医療圏内に所在する医療機関に拘らず、がん診療の核となりうる複数の医療機関が役割分担をしながらがん診療を担う体制の構築を目指す。

2 県立中央病院と金沢大学附属病院の役割分担

金沢大学附属病院は、特定機能病院として、薬物療法や放射線治療などの専門部署であるがんセンターを置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした薬物療法、放射線治療、緩和ケア等に関する研修を行うなど、地域がん診療連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、県内すべての地域の医療機関との間で患者の受入や紹介といった地域連携を進めているほか、積極的な診療支援を行うなど、県全域を支援する。

福井県

福井県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	病院数	医師数 (R2現在)	がん診療連携拠点病院		
						都道府県 拠点病院	地域 拠点病院	計
福井・坂井	957.45	388,530	52.1	35	1,517	1	1	2
奥越	1126.31	50,555	6.8	6	68	0	1	1
丹南	1006.78	176,298	23.7	16	239	0	1	1
嶺南	1100.01	129,605	17.4	10	250	0	1	1

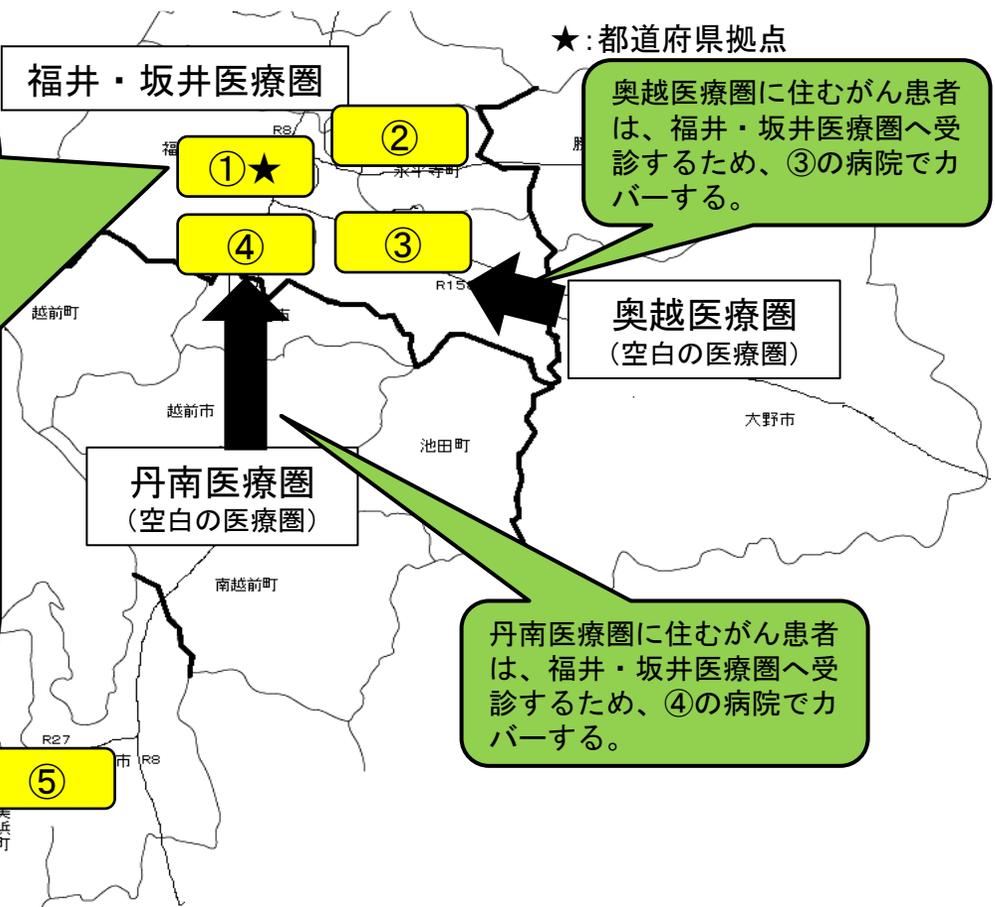
福井県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

・①の病院は、主に福井市、
②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町

・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。

・②の病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供および嶺南医療圏を含めた県内全域の他病院への人的支援、医療従事者への研修により、がん医療の人材育成・提供を行う。

①. ②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。



- ①福井県立病院★ (令和5年4月1日)
- ②福井大学医学部附属病院 (令和5年4月1日)
- ③福井県済生会病院 (令和5年4月1日)
- ④福井赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ⑤市立敦賀病院 (令和5年4月1日)

京都府

滋賀県

がん診療連携拠点病院の実績

・上段は令和4年の実績、()内は令和3年の実績

	医療圏名	類型	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療の 割合(%) 2割程度	のべ相談件数 (年間)
1	福井・ 坂井 医療圏	都道府県 拠点病院	福井県立病 院	1,434 (1,356)	699 (711)	1,494 (1,489)	534 (294)	186 (207)	27 (26)	894 (678)
2	福井・ 坂井 医療圏	地域拠点 病院	福井大学医 学部附属病 院	1,461 (1,461)	1,173 (1,197)	2,365 (2,161)	316 (318)	526 (451)	21 (23)	1,063 (1,681)
3	奥越 医療圏	地域拠点 病院	福井県済生 会病院	1,301 (1,345)	798 (801)	2,680 (2,770)	311 (334)	297 (208)	39 (40)	934 (899)
4	丹南 医療圏	地域拠点 病院	福井赤十字 病院	1,278 (1,347)	922 (916)	1,325 (1,297)	239 (241)	93 (152)	43 (36)	1,457 (1,668)
5	嶺南 医療圏	地域拠点 病院	市立敦賀病 院	501 (358)	200 (235)	392 (397)	43 (37)	65 (50)	23 (25)	21 (40)

福井県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ・①の病院は、主に福井市、
- ・②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町

・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。

・②の病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供および嶺南医療圏を含めた県内全域の他病院への人的支援、医療従事者への研修により、がん医療の人材育成・提供を行う。

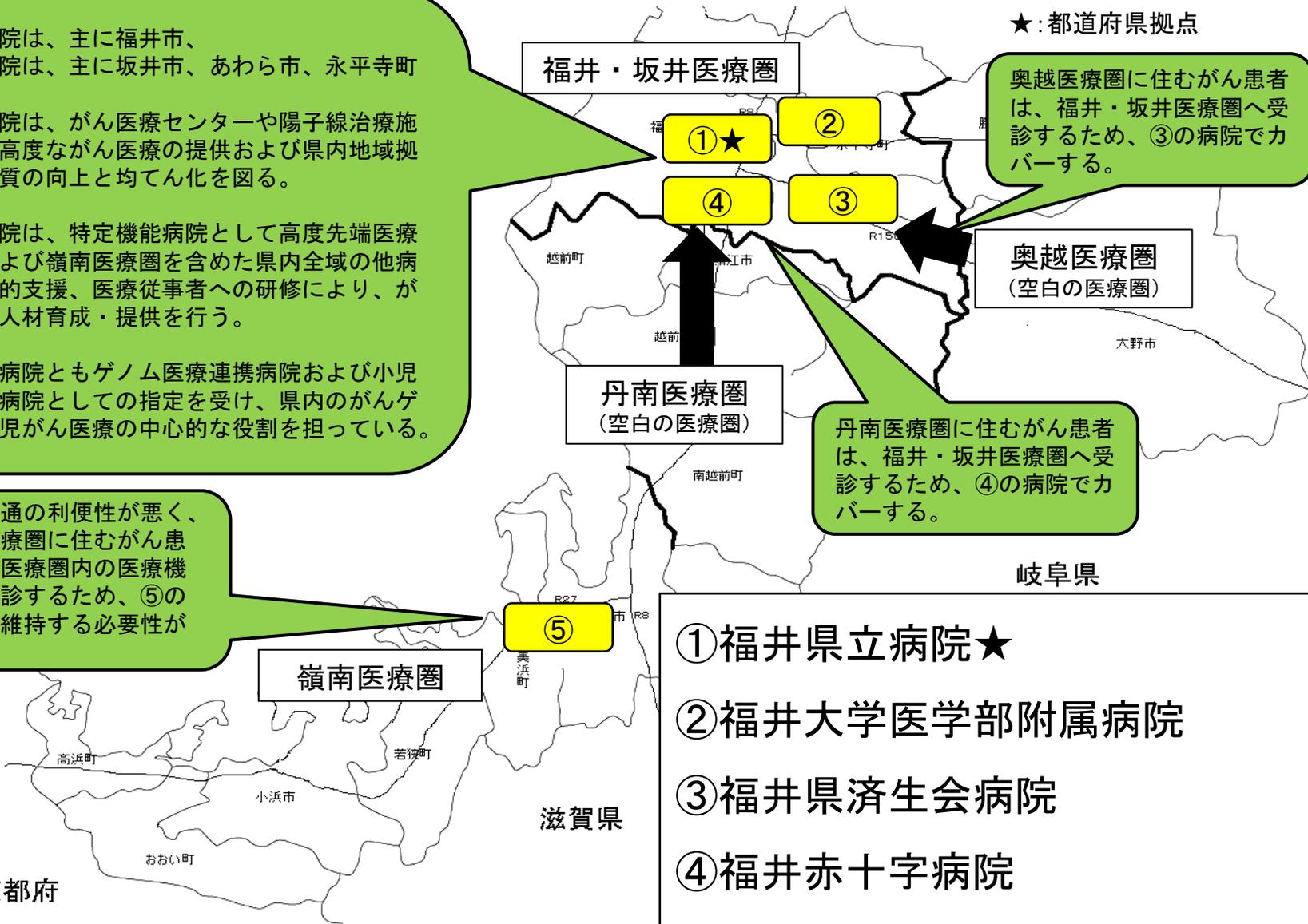
①、②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

道路交通の利便性が悪く、嶺南医療圏に住むがん患者は自医療圏内の医療機関に受診するため、⑤の病院を維持する必要性が高い。

★:都道府県拠点

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。



- ①福井県立病院★
- ②福井大学医学部附属病院
- ③福井県済生会病院
- ④福井赤十字病院
- ⑤市立敦賀病院

福井県のがん診療連携拠点病院整備について

(1) がん診療連携拠点病院の整備に関する本県の基本的考え方

- ・全国でもトップクラスの健康長寿県
- ・昭和55年以降、死因の第1位ががんであり、死因の約3割を占めている。
- ・がん医療提供体制の一層の充実を図り、県内どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、地域のがん医療の中核を担う地域がん診療連携拠点病院を県内4つのがんの医療圏に1か所ずつ、都道府県がん診療連携拠点病院をそれとは別に1か所整備する。
- ・今回、既指定の病院が引き続き指定を受けることにより、それぞれが担当するがんの医療圏で構築された病診連携体制をさらに発展させることができる。

(2) 福井・坂井医療圏 県がん診療連携拠点病院1か所指定（福井県立病院） 地域がん診療連携拠点病院1か所指定（福井大学医学部附属病院）

- 担当地域と医療機能の分担による、限られた医療資源の効果的な発展
 - ・福井県立病院は主に福井市、福井大学医学部附属病院は主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担当している。
 - ・福井県立病院はがん医療センターや陽子線施設による高度ながん医療の提供やがん登録の推進および各地域がん診療連携拠点病院間の連携および地域のがん診療を行う医療機関との連携体制の構築等において中核的役割を果たしている。
 - ・福井大学医学部附属病院は特定機能病院として高度先端医療の提供および大学病院として専門医の育成や嶺南医療圏を含めた県内全域の他病院への医師派遣など県内全域におけるがん医療の人材育成・提供機能を有している。
 - ・両病院とも、がんゲノム医療連携病院および小児がん連携病院の指定を受け、県内のがんゲノムおよび小児がん医療を集約し、提供している。

(3) 奥越医療圏、丹南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 各1か所指定（奥越：福井県済生会病院、丹南：福井赤十字病院）

- 空白の医療圏からのがん患者流入の実態を考慮した指定による受療機会の均てん化
 - ・両医療圏には、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院の指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがない。
 - ・各医療圏から地理的に近く、各医療圏のがん患者を多く受け入れている病院を地域がん診療連携拠点病院として指定している。
- | | | |
|----------|------------------------|-----|
| 福井県済生会病院 | 奥越医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合 | 39% |
| 福井赤十字病院 | 丹南医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合 | 43% |
- ・福井県済生会病院は、最新の放射線治療機器であるトモセラピーを導入し高度な医療を行うとともに、ハローワークと連携したがん患者の就労支援やがん哲学外来、多職種と相談できるメディカルカフェの開設等を行うなど、がん患者の支援に力を入れている。
 - ・福井赤十字病院は、最新の放射線治療機器であるVero4DRTの導入し、高度な医療を行うとともに、県の地域連携クリティカルパスの整備、令和元年度から小児がん連携病院としての指定を受け、地域の医療機関との病診連携体制の構築において中心的な役割を担っている。

(4) 嶺南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 1か所指定

- 医療機関との連携による医療体制の充実
 - ・東西に長い地形に加え、交通の便が悪く、他医療圏への患者の流出が少ないため、当医療圏内での拠点整備の必要性が高い。
 - ・市立敦賀病院は、医療圏に居住するがん患者の診療割合が23%と高く、医療圏におけるがん診療において大きな役割を果たしている。
 - ・福井県立病院と連携した陽子線治療外来の設置。
 - ・福井大学医学部附属病院からの多くの人的資源および人材交流による連携強化によって医療従事者の充実が見込まれる。

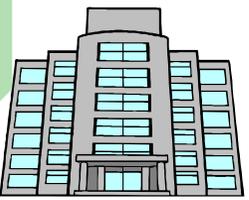
福井県のがん医療連携体制

地域がん診療連携拠点病院(福井・坂井)

都道府県がん診療連携拠点病院(福井・坂井)

陽子線がん治療施設

緩和ケアセンター
緩和ケア病棟



**福井県立病院
(がん医療センター)**

がんゲノム医療連携病院
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・陽子線がん治療(高度X線治療と両方の実施が可能)
- ・ロボット支援手術の多部位展開(がん9部位)
- ・主要5部位の治療件数が県内最多
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構基幹施設
- ・地域への出張型カンファレンスの実施
- ・患者サロン(AYA世代サロン、オンライン活用)
- ・県がん登録室を配置、病院等への技術的支援(分析・評価)
- ・地域への出張型カンファレンスの実施
- ・見える事例検討会による地域の医療機関との連携促進

高度生殖医療センター



**福井大学医学部附属病院
(がん診療推進センター)**

緩和ケアセンター
緩和ケア病床

がんゲノム医療連携病院
(H30.4.1指定)
がんゲノム外来
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・高度先端医療の実施
- ・ロボット支援手術の多部位展開(がん4部位)
- ・希少がんや難治がんに対する集学的医療体制の提供
- ・小児がん医療の実施(薬物療法、外科治療、放射線治療などの集学的治療)
- ・AYA世代外来(小児がん長期フォローアップ外来)の整備
- ・がんゲノム外来の実績が県内最多
- ・がん生殖医療ネットワーク事務局
- ・各拠点病院の医療従事者への緩和ケアフォローアップ研修の実施
- ・患者会の支援サポート
- ・県内全域の病院等への人的、技術的支援
- ・大学間ネットワークを利用した広域的な連携(北信がんプロ)
- ・大学病院の教育機能を活かした人材育成・教育の実施
- ・がん教育の普及啓発

地域がん診療連携拠点病院(丹南)

福井県がん診療連携協議会

地域がん診療連携拠点病院(奥越)



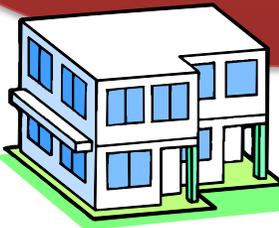
緩和ケア病棟

小児がん連携病院
(R1.11.1指定)
がんゲノム医療連携病院
(R3.4.1指定)

**福井赤十字病院
(がん診療センター)**

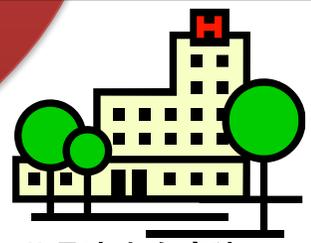
- ・圏域内病院等との連携
- ・情報連携体制の整備
- ・緩和ケア体制の推進
- ・小児がん医療の推進

地域がん診療連携拠点病院(嶺南)



市立敦賀病院

- ・圏域内病院等との連携
- ・嶺南地域の医療水準の向上
- ・患者相談支援の推進
- ・緩和ケア体制の推進



緩和ケア病棟

**福井県済生会病院
(集学的がん診療センター)**

- ・圏域内病院等との連携
- ・緩和ケア体制の推進
- ・患者相談支援の推進

山 梨 県

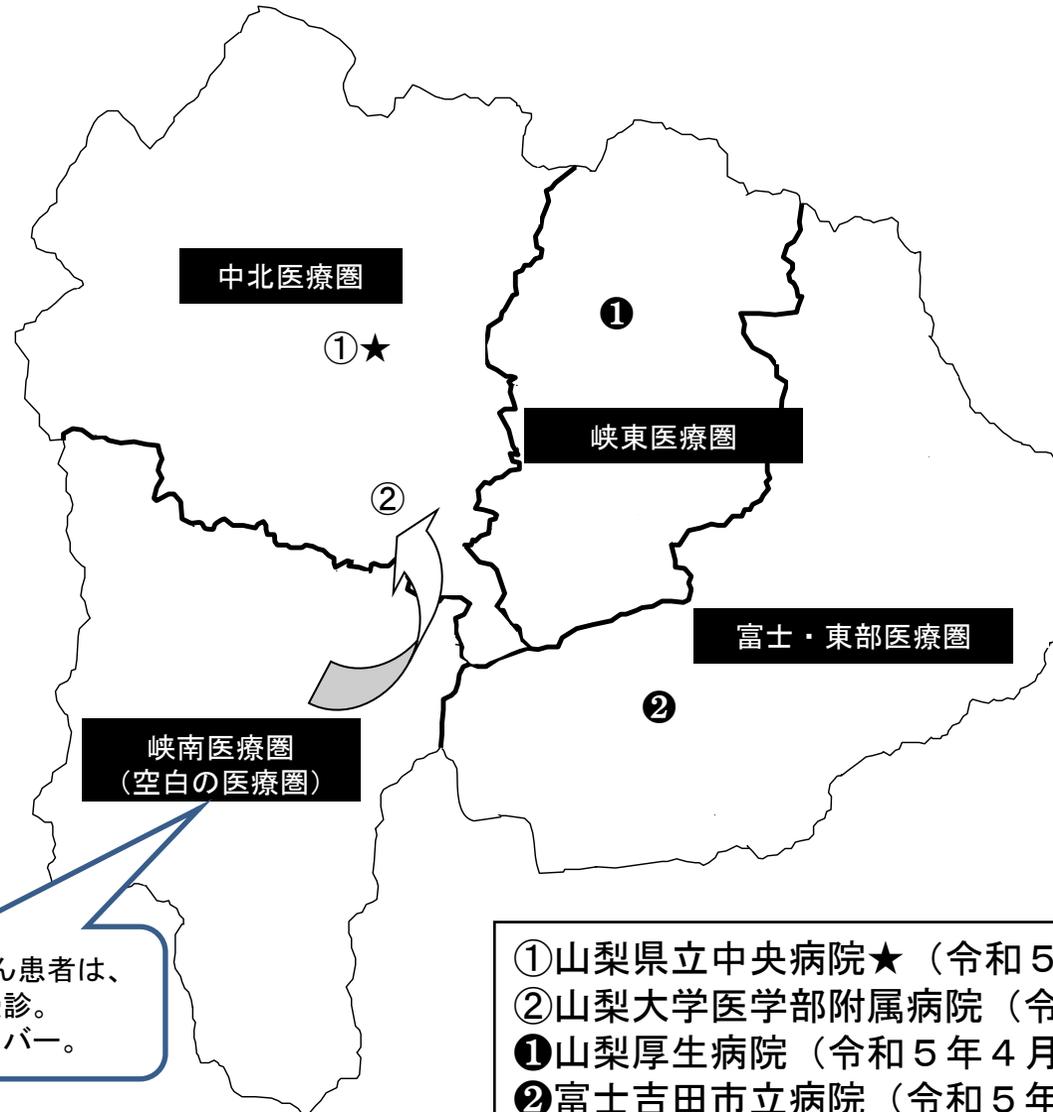
山梨県がんの医療圏の概要

令和 5 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中北 医療圏	1335.50	456,967	57.4	342.1	32	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
峡東 医療圏	755.83	125,917	15.8	166.5	14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
峡南 医療圏	1059.99	44,834	5.6	42.2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士・東部 医療圏	1309.25	168,116	21.1	128.4	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4460.57	795,834	100.0	678.7	60	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0

山梨県 令和 5 年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・（ ）内は令和4年度提出の数値、下段は令和5年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対す る新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居 住するがん患者の診 療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
①	中北	★	現況報告	山梨県立中央病院	(1,849) 1,923	(1,039) 1,143	(11,140) 4,161	(548) 493	(361) 345	(46) 31	(1,287) 1,207
②	中北		現況報告	山梨大学医学部 附属病院	(2,016) 2,164	(1,465) 1,370	(2,716) 3,361	(654) 587	(433) 434	(32) 33	(1,382) 926

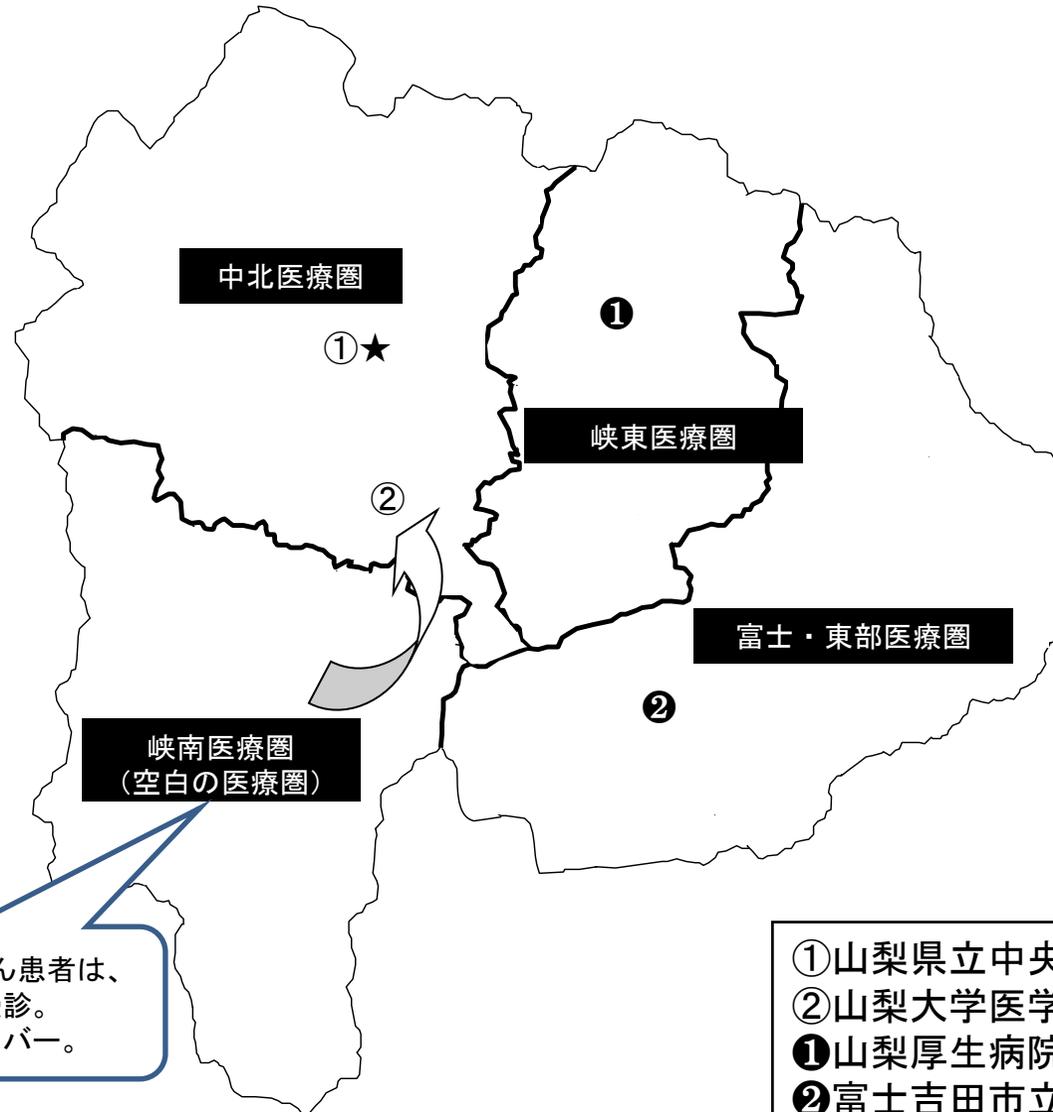
地域がん診療病院の診療実績等

- ・ () 内は令和 4 年度提出の数値、下段は令和 5 年度提出の数値
- ・ 申請区分は資料 4 の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	峡東	現況報告	山梨厚生病院	(303) 380	(288) 414	(474) 2,823	実施なし	(90) 81	(219) 281
②	富士・東部	現況報告	富士吉田市立病院	(477) 468	(257) 248	(698) 672	(168) 128	(39) 40	(114) 231

山梨県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

- ①山梨県立中央病院★（現況）
- ②山梨大学医学部附属病院（現況）
- ①山梨厚生病院（現況）
- ②富士吉田市立病院（現況）

今回の指定推薦に係る山梨県の考え方

がん医療の質の向上、それぞれのがんの特性に応じたがん医療の均てん化と集約化及び効率的かつ持続可能ながん医療を実現することを目標とする。

現 状

- 高度で専門的な医療機関が中北医療圏に集中しており、全ての医療圏において質の高いがん医療を提供できるよう、がん医療の均てん化を図ってきた。
- 空白の医療圏となっている峡南医療圏については、中北医療圏内の拠点病院がカバーしている。



今後の方針

- 2 拠点病院＋2 診療病院により現行のがん医療体制を維持。
 - 各拠点病院等が連携・協力することにより、県全体のがん医療の充実を図っていく。
-
- 今後も各拠点病院が行う診療体制の強化・充実に対して積極的に支援し、中北医療圏については、自圏域内でがん医療を完結する体制を維持。
 - 峡東医療圏については、地域がん診療病院である山梨厚生病院が山梨県立中央病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本的がん診療の体制を継続する。
 - 富士・東部医療圏については、地域がん診療病院である富士吉田市立病院が山梨大学医学部附属病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本的がん診療の体制を継続する。
 - 峡南医療圏については、立地状況や患者の受療動向等から、今後も中北医療圏内の拠点病院でカバーする体制を継続する。

長野県

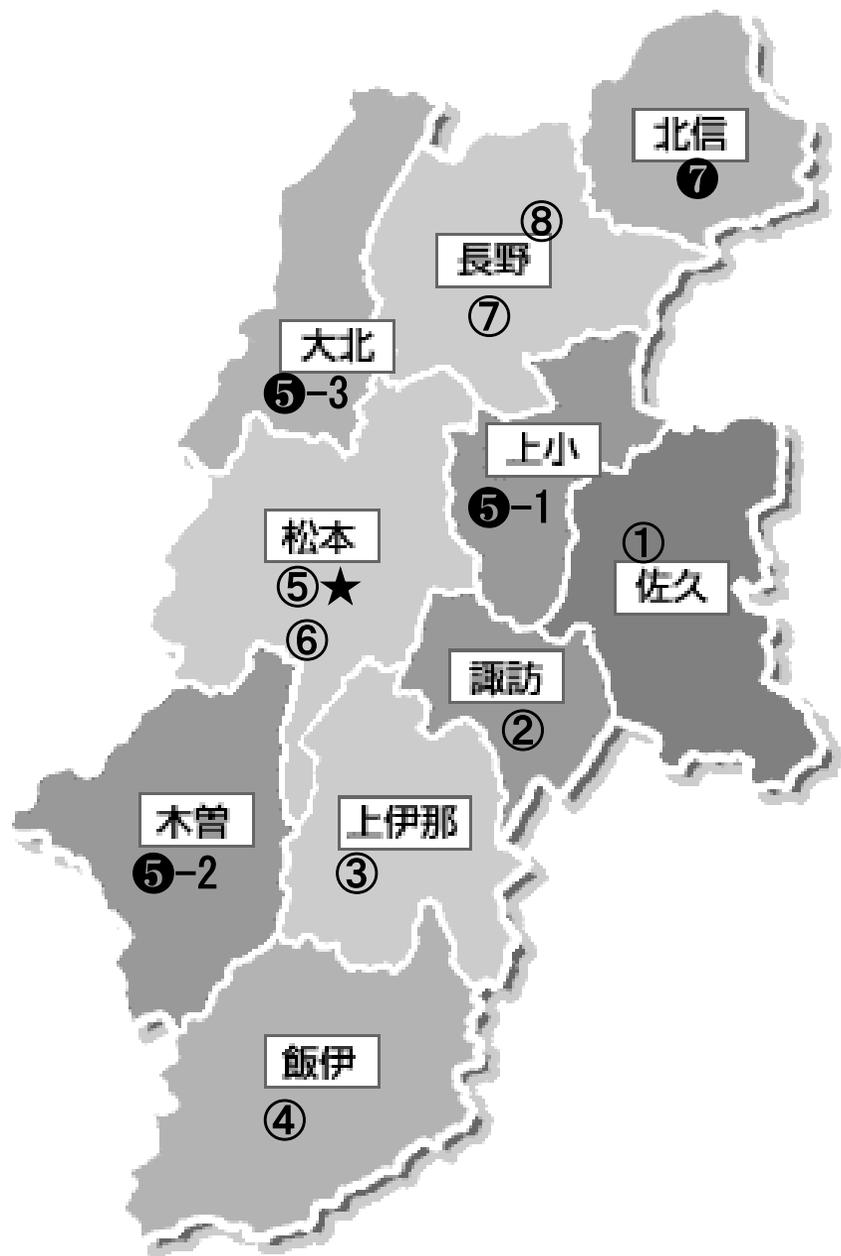
長野県 がん医療圏の概要

令和5年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			計
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
佐久医療圏	1,571.62	203,816	10.2%	129.7	13	1									1
上小医療圏	905.34	189,955	9.5%	209.8	16								1		1
諏訪医療圏	715.40	189,139	9.4%	264.4	11		1								1
上伊那医療圏	1,348.28	176,085	8.8%	130.6	9		1								1
飯伊医療圏	1,929.19	149,984	7.5%	77.7	9	1									1
木曾医療圏	1,546.26	23,930	1.2%	15.5	1								1		1
松本医療圏	1,869.14	418,411	20.9%	223.9	26		2								2
大北医療圏	1,109.53	54,290	2.7%	48.9	2							1			1
長野医療圏	1,558.39	521,529	26.0%	334.7	33	1	1								2
北信医療圏	1,009.08	78,815	3.9%	78.1	3								1		1
計	13,562.23	2,005,954	100%	1513.3	123	3	5	0	0	0	0	1	3	0	12

長野県令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点



①	佐久総合病院佐久医療センター	(令和5年4月1日)
②	諏訪赤十字病院	(令和5年4月1日)
③	伊那中央病院	(令和5年4月1日)
④	飯田市立病院	(令和5年4月1日)
⑤	信州大学医学部附属病院★	(令和5年4月1日)
⑥	相澤病院	(令和5年4月1日)
⑦	長野赤十字病院	(令和5年4月1日)
⑧	長野市民病院	(令和5年4月1日)
⑤-1	信州上田医療センター	(令和5年4月1日)
⑤-2	県立木曾病院	(令和5年4月1日)
⑤-3	北アルプス医療センターあづみ病院	(令和5年4月1日)
⑦	北信総合病院	(令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

()内： R3. 1. 1～R3. 12. 31 の数値

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援セン ター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療の 割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 佐久		現況 報告	佐久総合病院佐久 医療センター	(1,344) 1,626	(1,434) 701	(1,997) 2,624	(496) 522	(127) 124	(63) 64	(1,191) 1,075
2 諏訪		指定 更新	諏訪赤十字病院	(1,234) 1,271	(856) 863	(1,549) 1,456	(458) 462	(231) 244	(40) 64	(975) 1,104
3 伊那		指定 更新	伊那中央病院	(948) 996	(585) 572	(1,407) 1,519	(265) 248	(483) 516	(54) 38	(631) 1,332
4 飯伊		現況 報告	飯田市立病院	(864) 904	(537) 577	(1,474) 1,358	(307) 317	(59) 65	(77) 45	(1,154) 1,519
5 松本	★	指定 更新	信州大学医学部附 属病院	(2,064) 1,862	(1,066) 1,058	(2,112) 2,185	(492) 522	(301) 275	(27) 30	(1,025) 1,310
6 松本		指定 更新	相澤病院	(1,033) 1,107	(515) 584	(1,195) 1,302	(613) 622	(92) 81	(16) 26	(576) 755
7 長野		現況 報告	長野赤十字病院	(1,610) 1,643	(912) 1,139	(2,878) 2,797	(601) 527	(337) 304	(26) 25	(5,216) 5,718
8 長野		指定 更新	長野市民病院	(1,838) 1,785	(1,200) 1,253	(1,610) 1,519	(501) 534	(231) 239	(21) 19	(2,190) 1,429

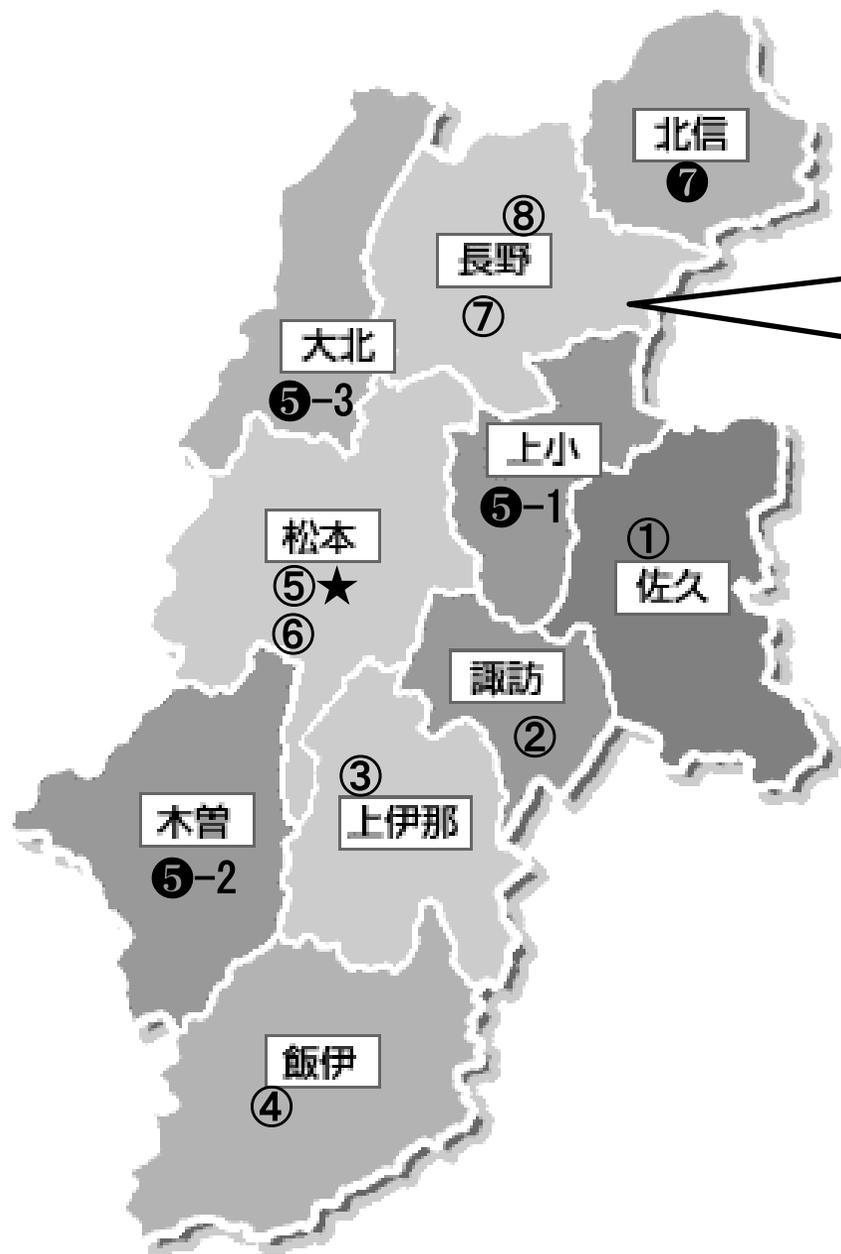
地域がん診療病院の診療実績等

()内： R3. 1. 1～R3. 12. 31 の数値

	医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援セ ンター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
⑤	上田	指定 更新	信州上田医療センター	(868) 1,088	(710) 703	(841) 736	(196) 171	(144) 92	(2,244) 2,444
⑤	木曾	指定 更新	県立木曾病院	(161) 218	(46) 57	(142) 130	(-) -	(44) 39	(1,269) 1,957
⑤	大北	現況 報告	北アルプス医療センター あづみ病院	(360) 345	(455) 145	(1,312) 1,729	(-) -	(52) 55	(944) 620
⑦	北信	指定 更新	北信総合病院	(584) 642	(365) 329	(470) 780	(86) 87	(57) 98	(453) 612

長野県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点



患者動向について、圏域中央部から南が長野赤十字病院へ、北が長野市民病院へと、圏域内における分担がされている。

- | | | |
|-----|------------------|--------|
| ① | 佐久総合病院佐久医療センター | (現況報告) |
| ② | 諏訪赤十字病院 | (更新) |
| ③ | 伊那中央病院 | (更新) |
| ④ | 飯田市立病院 | (現況報告) |
| ⑤ | 信州大学医学部附属病院★ | (更新) |
| ⑥ | 相澤病院 | (更新) |
| ⑦ | 長野赤十字病院 | (現況報告) |
| ⑧ | 長野市民病院 | (更新) |
| ⑤-1 | 信州上田医療センター | (更新) |
| ⑤-2 | 県立木曾病院 | (更新) |
| ⑤-3 | 北アルプス医療センターあづみ病院 | (現況報告) |
| ⑦ | 北信総合病院 | (更新) |

今回の指定推薦等に係る長野県の考え方

◇ 基本的な考え方

第4期がん対策推進基本計画を踏まえ、本県においても現在第3期信州保健医療総合計画（長野県がん対策推進計画を包括）の策定に向け検討を進めています。

その中で、医療提供体制については、全ての2次医療圏にがん診療連携拠点病院等の体制整備を維持し、がん医療の質の維持・向上に向けて一層取り組んでいく予定です。

◇ 指定更新推薦について

現在指定されている病院は、地域におけるがん診療の中核を担い、十分な実績と機能を有し、機能向上に努め、地域住民からの信頼も得ていることから、それぞれがん診療連携拠点病院等としての指定の更新を望むものです。

医療提供体制の維持のため県独自にがん診療連携拠点病院等における診療機能の維持向上を図るための機能評価（書面審査・現地調査）を実施しており、引き続き医療機関と行政が連携した取組を推進します。

岐 阜 県

岐阜県がんの医療圏の概要

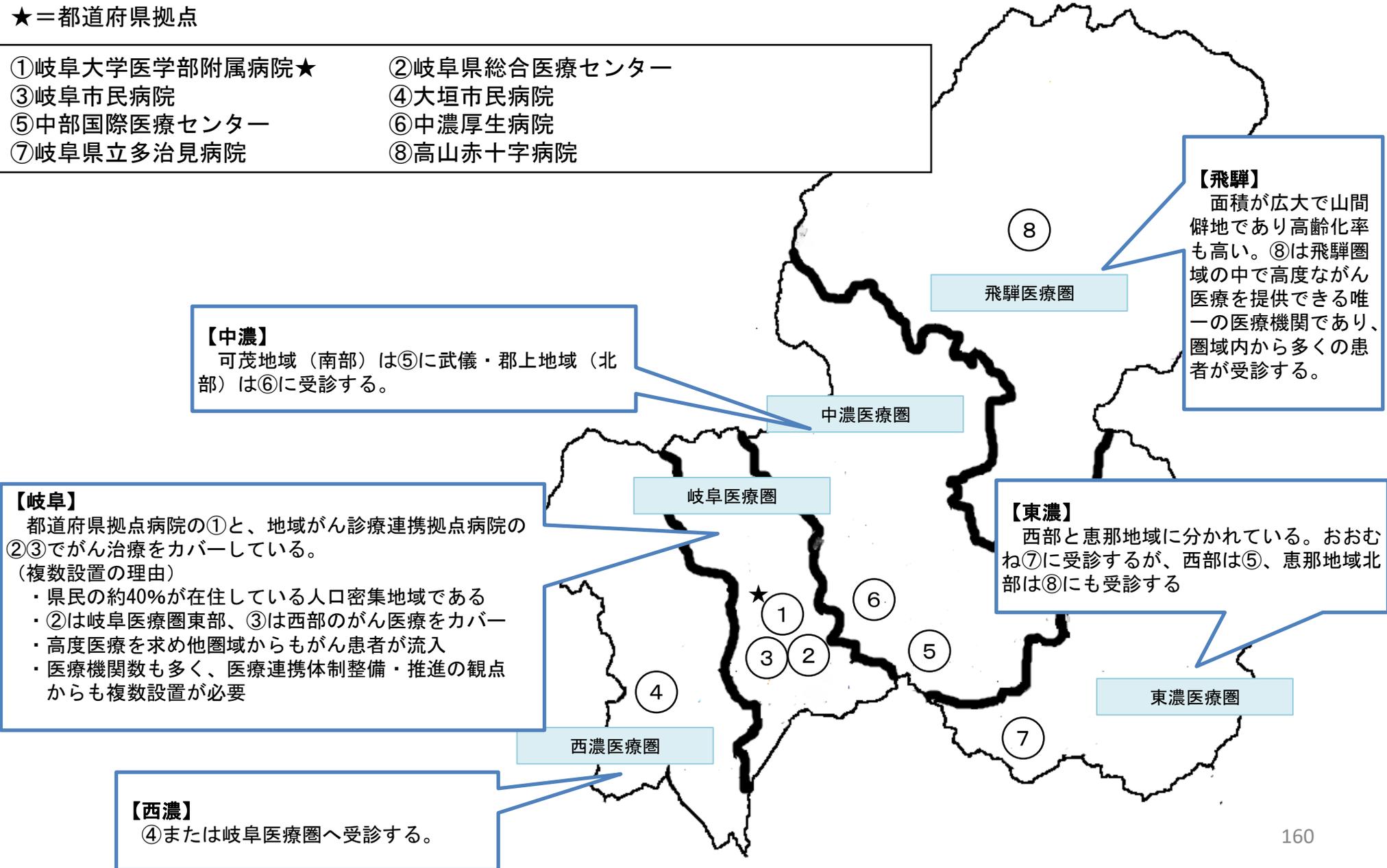
令和5年9月現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院		
						推薦施設数	内訳			内訳		内訳		
							新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	新規申請	現況報告	新規申請	現況報告
岐阜	993	786,368	40.4	791.7	39	1	1	0	0	3	0	0	0	0
西濃	1,433	351,033	18.0	245.0	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0
中濃	2,454	357,800	18.4	145.8	19	0	0	0	0	2	0	0	0	0
東濃	1,563	315,627	16.2	202.0	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0
飛騨	4,178	134,522	6.9	32.2	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	10,621	1,945,350	100	1,416.6	95	1	1	0	0	8	0	0	0	0

岐阜県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★=都道府県拠点

- | | |
|---------------|--------------|
| ①岐阜大学医学部附属病院★ | ②岐阜県総合医療センター |
| ③岐阜市民病院 | ④大垣市民病院 |
| ⑤中部国際医療センター | ⑥中濃厚生病院 |
| ⑦岐阜県立多治見病院 | ⑧高山赤十字病院 |



がん診療連携拠点病院

資料 3

★: 都道府県拠点

●: 新規申請

()内は前年度

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
					500件以上	400件以上	1,000人以上	200人以上	50人以上	2割程度	
1	岐阜	★	現況報告	岐阜大学医学部附属病院	(2,042)	(1,886)	(2,406)	(629)	(318)	(22.9)	(937)
					2,045	1,422	3,955	496	334	23	1,170
2	岐阜		現況報告	岐阜県総合医療センター	(1,700)	(1,178)	(1,824)	(418)	(224)	(16.5)	(1,104)
					1,917	1,090	1,540	415	252	19	1,075
3	岐阜		現況報告	岐阜市民病院	(1,407)	(941)	(2,062)	(463)	(122)	(24.6)	(1,655)
					1,565	1,588	2,222	419	112	21	1,697
4	岐阜	●	新規	松波総合病院	-	-	-	-	-	-	-
					801	650	1,044	208	71	19	449
5	西濃		現況報告	大垣市民病院	(2,625)	(1,476)	(1,880)	(510)	(113)	(62.7)	(1,262)
					2,617	1,195	1,738	481	125	57	1,268
6	中濃		現況報告	中部国際医療センター	(828)	(631)	(2,819)	(236)	(89)	(27.2)	(864)
					1,333	903	2,444	372	258	30	363
7	中濃		現況報告	中濃厚生病院	(782)	(463)	(2,758)	(132)	(88)	(35.7)	(824)
					690	449	3,113	203	68	22	807
8	東濃		現況報告	岐阜県立多治見病院	(1,381)	(748)	(1,793)	(8,715)	(180)	(34.8)	(1,704)
					1,526	829	1,790	499	176	37	1,480
9	飛騨		現況報告	高山赤十字病院	(645)	(362)	(991)	(208)	(100)	(46.9)	(859)
					578	317	923	231	73	38	594

岐阜県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ①★岐阜大学医学部附属病院 ②岐阜県総合医療センター
 ③岐阜市民病院 ④●松波総合病院（新規）
 ⑤大垣市民病院
 ⑥中部国際医療センター ⑦中濃厚生病院
 ⑧岐阜県立多治見病院
 ⑨高山赤十字病院
- ★：都道府県拠点
 ●：新規申請

【岐阜】①★②③

都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③でがん治療をカバーしている。

①は都道府県拠点病院及び大学病院として、岐阜県全体のがん医療を牽引する。

②③は、地域がん診療連携拠点病院として、岐阜圏域及び隣接圏域のがん患者の受入や、①と協力のうえ、圏域内医療機関等を牽引する。

岐阜圏域南部および西濃圏域（新規④●）

岐阜圏域南部の患者が多く受療しており、岐阜圏域の約2割の診療実績がある。また、人口は多いが拠点病院が1ヶ所である西濃圏域にもがん医療を提供する。

既に近隣拠点病院や地域の医療機関と連携体制を構築しており、指定後はより密な連携によりがん医療の質の向上と均てん化が見込める。

【西濃】⑤

⑤は西濃圏域唯一の医療機関であり、西濃圏域のがん医療を担っている。

【飛騨】⑨

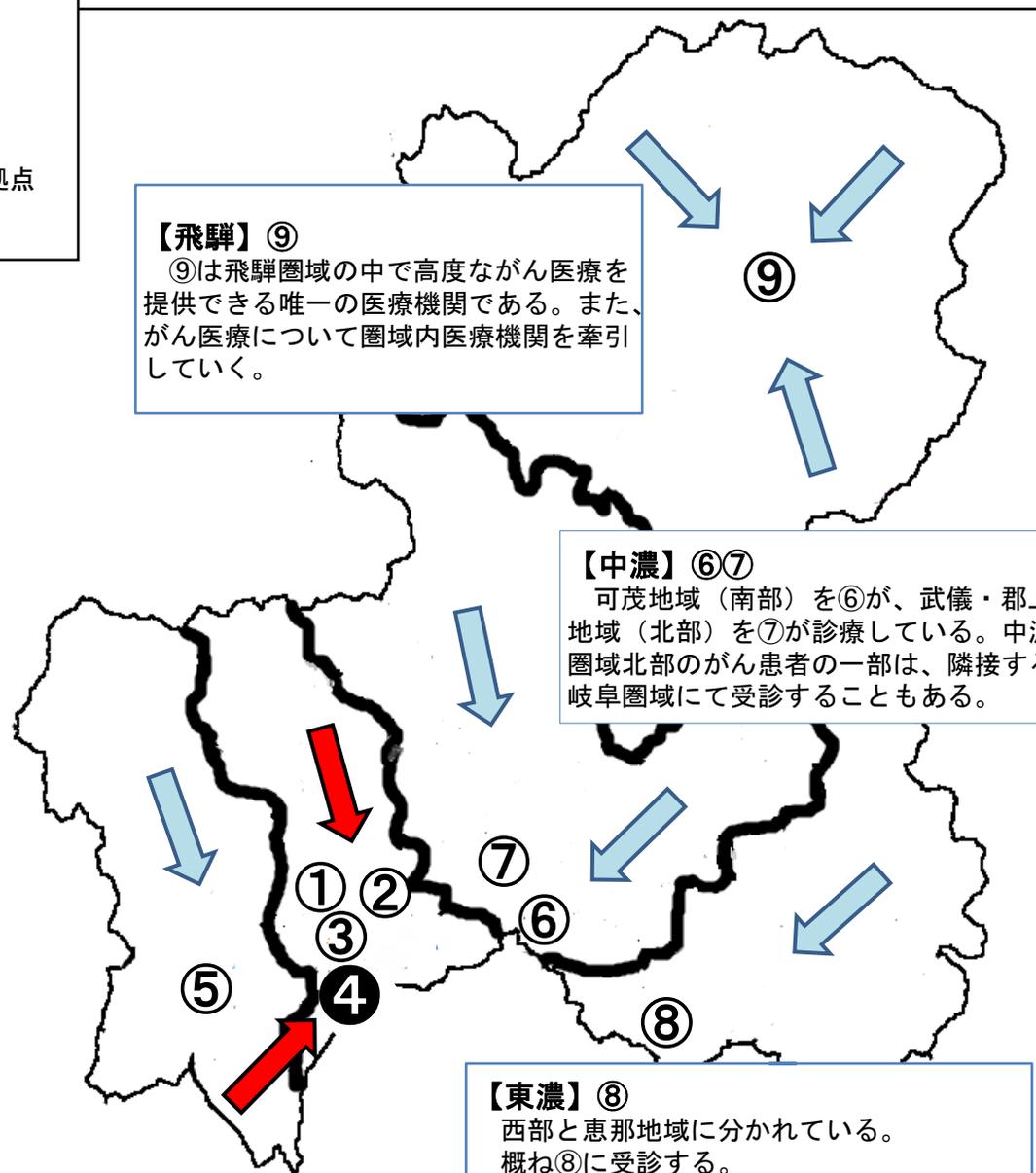
⑨は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関である。また、がん医療について圏域内医療機関を牽引していく。

【中濃】⑥⑦

可茂地域（南部）を⑥が、武儀・郡上地域（北部）を⑦が診療している。中濃圏域北部のがん患者の一部は、隣接する岐阜圏域にて受診することもある。

【東濃】⑧

西部と恵那地域に分かれている。概ね⑧に受診する。



①受診者の地域

- ・岐阜圏域の約20%の診療実績があり、近年では西濃圏域の患者の受療が増加傾向にあり、西濃圏域からの需要が見込まれる。

②生殖機能温存治療

- ・岐阜県の助成対象治療を実施できる指定医療機関となるための準備を進めている。指定医療機関となれば、がんの治療と生殖機能温存治療を一貫して提供することができ、患者の負担軽減につながる。

③医療従事者の育成と充実

- ・多くの研修医の受け入れを実施している。また、病理の資格取得に必要な剖検を多数実施しており、他の病院からの病理医志望者の受け入れも行っている。
- ・常勤病理医が3名在籍しており、術中や術後の精度の高い医療提供につながっている。
- ・血液腫瘍内科にがん薬物療法専門医が3名在籍しており、他の拠点病院と同等以上の配置で造血器疾患全般を広く扱っている。

④治療の選択肢

- ・がん温熱療法（健康保険適用）や手術支援ロボットによる手術等は拠点病院や近隣の病院からも紹介を受けており、がん患者の治療選択の幅を広げている。

⑤高齢者のがん

- ・高齢者総合的機能評価（CGA）を活用し、多岐にわたる項目を評価しているため、課題を把握し患者へ適切な治療を提供することができている。
そのため、他の病院では対応が難しい事例も積極的に受け入れ対応している。

⑥外来化学療法の提供体制

- ・金曜日の夜間、土曜日の午後、日曜日、祝日にも外来化学療法を提供できる体制整備を進めている。（金曜夜、日・祝日にも対応している拠点病院は他にない）

指定推薦等にかかる岐阜県の考え方

1. 基本的な考え方

第7期保健医療計画及び第3次岐阜県がん対策推進計画にある「患者本位のがん医療の実現」に向け、本県におけるがん医療水準の均てん化を図るとともに、がん患者の居住する地域で最適ながん医療及びがん相談支援が受けられるよう、全ての二次医療圏域に1か所以上のがん診療連携拠点病院等を整備することを目指しています。

2. がん診療連携拠点病院の指定継続の必要性について

現行の各拠点病院は、県民にがん医療の中核医療機関として認知されており、二次医療圏内でのがん患者診察割合も高く、当該地域におけるがん医療の担い手として必要とされています。

がん医療の均てん化、集約化のために、現在指定を受けている拠点病院については継続して指定が必要と考えています。

3. 新規指定（松波総合病院）の必要性について

松波総合病院は既に指定を受けている拠点病院と同等の診療実績があり、岐阜圏域のがん医療を支えている病院である。岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会による推薦可否の協議では、松波総合病院が拠点病院となることで岐阜圏域でより一体感のある対応が期待できるという意見や、患者の選択肢として身近な場所に拠点病院ができることは大きなメリットであるという意見があり、全会一致で拠点病院への推薦同意をいただきました。

岐阜県のがん医療の向上、均てん化が推進されることから、松波総合病院の新規指定病院として推薦いたします。

静岡県

静岡県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

がん医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
						推薦施設数	内訳				推薦施設数	内訳				推薦施設数	内訳				
							新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型変更	現況報告	
賀茂	583.55	55,827	1.6	95.7	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱海伊東	185.88	95,539	2.7	514.0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
駿東田方	1,276.93	621,856	17.5	487.0	46	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士	634.03	366,431	10.3	577.9	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	1,411.83	677,867	19.1	480.1	27	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
志太榛原	1,209.37	442,613	12.4	366.0	13	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中東遠	831.13	458,792	12.9	552.0	19	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部	1,644.62	836,893	23.5	508.9	34	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7,777.34	3,555,818	100.0	457.2	170	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

静岡県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①静岡県立静岡がんセンター★（令和5年4月1日）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（令和5年4月1日）
- ③富士市立中央病院（令和5年4月1日）
- ④静岡県立総合病院（令和5年4月1日）
- ⑤静岡市立静岡病院（令和5年4月1日）
- ⑥藤枝市立総合病院（令和5年4月1日）
- ⑦磐田市立総合病院（令和5年4月1日）
- ⑧中東線総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑨聖隷三方原病院（令和5年4月1日）
- ⑩聖隷浜松病院（令和5年4月1日）
- ⑪浜松医科大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ⑫浜松医療センター（令和5年4月1日）
- ⑬国際医療福祉大学熱海病院（令和5年4月1日）

志太榛原医療圏

⑥の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図っている。

駿東田方医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、当該2病院で駿東田方、賀茂、熱海伊東のがん医療を担っているため。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

熱海伊東医療圏 (空白の医療圏)

拠点病院が空白の賀茂及び熱海伊東医療圏のがん患者は、駿東田方医療圏の①及び②の拠点病院並びに⑬の地域がん診療病院を主に受診している。

賀茂医療圏 (空白の医療圏)

富士医療圏

③の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図っている。

静岡医療圏

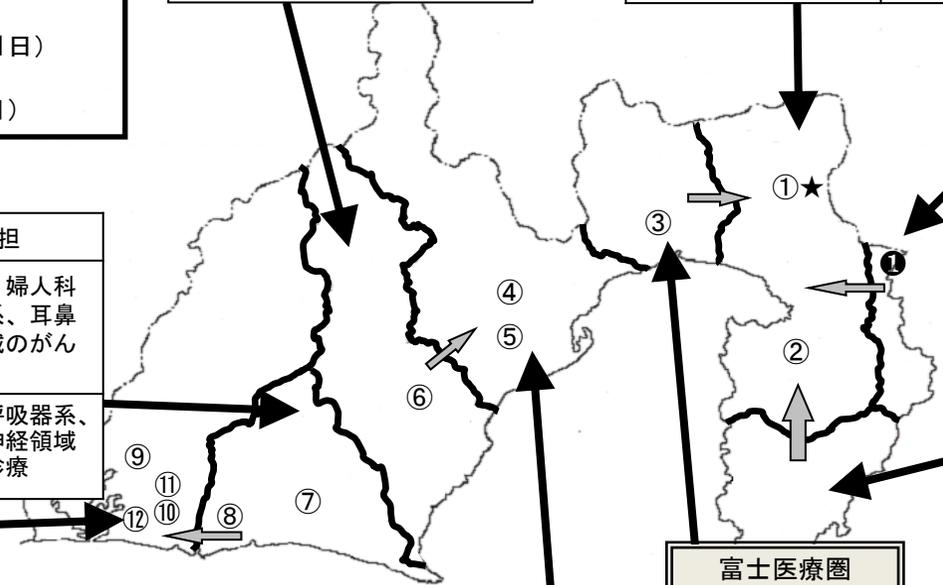
病院名	複数必要である理由	機能分担
④静岡県立総合病院	人口約68万人と県内で西部医療圏に次いで2番目に多い医療圏であり、当該2病院で約5割のがん患者を受け入れているため。	集学的治療
⑤静岡市立静岡病院		地域連携 共同診療

中東遠医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑦中東遠総合医療センター	互いに強みとしている領域で補完・連携し合うことで、がん診療機能が強化されるため。	泌尿器科系、婦人科系、皮膚科系、耳鼻咽喉科系領域のがん種の診療
⑧磐田市立総合病院		消化器系、呼吸器系、血液系、脳神経領域のがん種の診療

西部医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑨聖隷三方原病院	人口約84万人と県内医療圏で最も多く、また、地形も南北に広いことから、当該4病院が連携し、それぞれの特長を活かしながらか機能等を分担し、がん医療体制を維持しているため。また、隣接する医療圏のがん患者の受入れを行っているため。	地域における緩和ケアネットワークの構築（在宅緩和ケア）
⑩聖隷浜松病院		多職種チーム医療による集学的治療の実践（手術療法、放射線療法等）
⑪浜松医科大学医学部附属病院		がん専門医の育成と医師派遣（がんプロ、医師派遣、臨床試験）
⑫浜松医療センター		地域連携（在宅医療）体制の構築（共同診療、病診連携、就労支援）



静岡県 がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①-1

()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値 ★:都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 駿東田方	★	現況	静岡県立静岡がんセンター	(5,447)	(4,506)	(11,815)	(1,135)	(518)	(33)	(11,328)
				5,473	4,460	12,067	1,943	642	36	19,299
2 駿東田方		現況	順天堂大学医学部附属静岡病院	(1,425)	(849)	(1,393)	(258)	(231)	(16)	(1,157)
				1,340	930	1,312	396	126	15	899
3 富士		現況	富士市立中央病院	(862)	(513)	(1,030)	(225)	(97)	(36)	(837)
				903	551	1,043	249	132	39	805
4 静岡		現況	静岡県立総合病院	(2,837)	(1,911)	(3,868)	(843)	(551)	(37)	(3,819)
				2,810	1,953	4,083	865	439	40	2,907
5 静岡		現況	静岡市立静岡病院	(1,391)	(831)	(1,466)	(307)	(51)	(13)	(3,584)
				1,391	828	1,647	370	59	21	3,504
6 志太榛原		現況	藤枝市立総合病院	(978)	(673)	(1,324)	(446)	(118)	(27)	(2,079)
				1,115	718	1,384	463	107	22	2,079

静岡県 がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①-2

()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値 ★: 都道府県拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
7	中東遠		現況	中東遠総合医療センター	(964) 1,007	(683) 732	(1,209) 1,143	(268) 278	(148) 150	(25) 25	(2,135) 1,986
8	中東遠		現況	磐田市立総合病院	(1,201) 1,189	(748) 725	(1,804) 1,728	(425) 389	(196) 262	(36) 27	(2,492) 2,870
9	西部		現況	聖隷三方原病院	(1,336) 1,289	(817) 761	(1,357) 1,329	(338) 308	(253) 327	(26) 26	(2,335) 2,145
10	西部		現況	聖隷浜松病院	(2,079) 2,067	(1,811) 1,855	(2,078) 2,065	(611) 637	(171) 284	(29) 27	(4,387) 3,994
11	西部		現況	浜松医科大学医学部附属病院	(1,721) 1,758	(1,088) 1,151	(2,366) 2,660	(627) 618	(279) 301	(22) 22	(3,208) 3,510
12	西部		現況	浜松医療センター	(930) 1,076	(528) 638	(1,526) 1,644	(224) 251	(178) 288	(15) 17	(4,078) 3,838

静岡県 地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	熱海伊東	現況	国際医療福祉大学 熱海病院	(606) 422	(312) 302	(2,429) 2,207	(実施なし) 実施なし	(45) 50	(984) 979

静岡県 令和5年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

資料4

志太榛原医療圏

志太榛原医療圏のがん患者の一部は、隣接する医療圏の拠点病院を受診しているが、⑥の病院を中心に、医療圏内の更なるがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

富士医療圏

富士医療圏のがん患者の一部は、隣接する医療圏の拠点病院を受診しているが、③の病院を中心に、医療圏内の更なるがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

中東遠医療圏

中東遠医療圏のがん患者の一部は、隣接する西部医療圏の拠点病院を主に受診しているが、⑦、⑧の病院が中心となり互いに強みとしている領域で補完・連携し合い、医療圏内の更なるがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

- ①静岡県立静岡がんセンター★（現況）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（現況）
- ③富士市立中央病院（現況）
- ④静岡県立総合病院（現況）
- ⑤静岡市立静岡病院（現況）
- ⑥藤枝市立総合病院（現況）
- ⑦中東遠総合医療センター（現況）
- ⑧磐田市立総合病院（現況）
- ⑨聖隷三方原病院（現況）
- ⑩聖隷浜松病院（現況）
- ⑪浜松医科大学医学部附属病院（現況）
- ⑫浜松医療センター（現況）
- ⑬国際医療福祉大学熱海病院（現況）

駿東田方医療圏

病院名	地域分担	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター	①が県全域をカバーするほか、既存の2病院で駿東田方、賀茂及び熱海伊東医療圏における連携体制の充実・強化を図る。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携 ①のグループ指定先病院
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

賀茂医療圏 (空白の医療圏)

熱海伊東医療圏 (空白の医療圏)

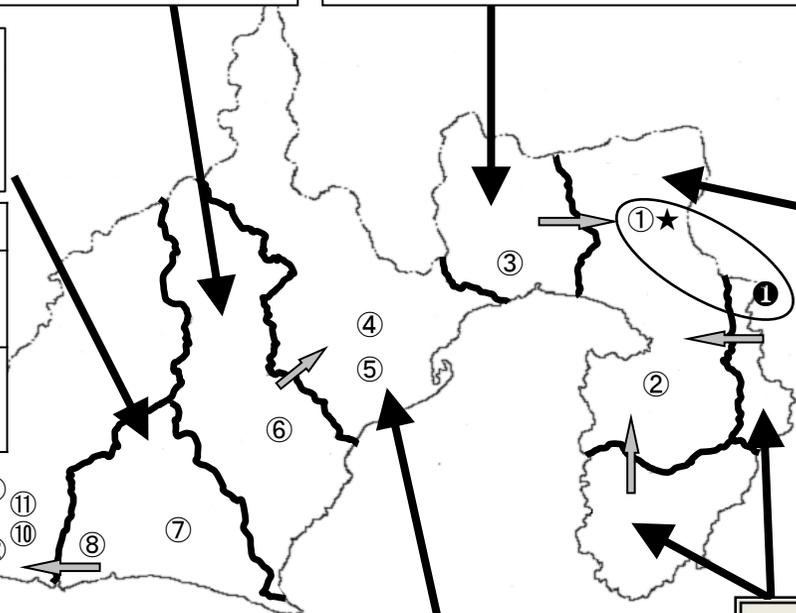
拠点病院が空白の賀茂及び熱海伊東医療圏のがん患者は、駿東田方医療圏の①及び②の拠点病院並びに⑬の地域がん診療病院を中心にカバーする。

西部医療圏

病院名	地域分担	機能分担
⑨聖隷三方原病院	北部～北西部	地域における緩和ケアネットワークの構築 (在宅緩和ケア、緩和ケア病棟)
⑩聖隷浜松病院	中部～南東部	多職種チーム医療による集学的治療の実践 (手術療法、放射線療法、化学療法)
⑪浜松医科大学医学部附属病院	東部～北東部	がん専門医の育成と医師派遣 (がんプロフェッショナル養成、医師派遣、臨床試験)
⑫浜松医療センター	西部～南西部	地域連携(在宅医療)体制の構築 (共同診療、病診連携)

静岡医療圏

病院名	地域分担	機能分担
④静岡県立総合病院	中心部～北部隣接医療圏の一部	集学的治療
⑤静岡市立静岡病院	中心部～南部	地域連携、共同診療



○ 静岡県がん対策推進計画におけるがん診療連携拠点病院等の位置付け

これまで静岡県では、県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるように2次医療圏ごとにがん診療連携拠点病院等を整備することを目標とし、医療体制の整備を進めてきたところである。

静岡県がん対策推進計画では、がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院が県指定のがん診療連携推進病院等と連携することにより、地域差のないがん対策を進めることとしている。

現行の第3次静岡県がん対策推進計画（計画期間：平成30年度～令和5年度）において、国指定病院が国の指定要件を満たしていくことを目標の1つとして設定しており、第4次静岡県がん対策推進計画（計画期間：令和6年度～令和11年度）においても、引き続き、同様の目標を設定することとしている。

○ 推薦方針

- 国の整備指針に従い、各2次医療圏に原則1か所の医療機関を「がん診療連携拠点病院」として指定推薦する。
- がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備がより一層図られることが明確である場合には、既にごがん診療連携拠点病院が指定されている2次医療圏においても、「がん診療連携拠点病院」を指定推薦する。
- 既指定がん診療連携拠点病院が複数存在する2次医療圏においては、指定要件を全て満たす医療機関について、指定更新の推薦をする。
- がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院が存在しない2次医療圏（賀茂医療圏）については、将来的に「地域がん診療病院」の指定要件を満たす医療機関を指定推薦する。

愛 知 県

愛知県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数 (R4.10.1)	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						新規申請 病院数	今回更新 病院数	現況報告 病院数	計	新規申請 病院数	今回更新 病院数	現況報告 病院数	新規申請 病院数	今回更新 病院数	現況報告 病院数
名古屋・尾張中部	370.97	2,495,119	33.4%	6725.9	125	0	2	6	8	0	0	0	0	0	0
海部	208.48	321,131	4.3%	1540.3	11	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
尾張東部	230.14	476,055	6.4%	2068.5	19	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
尾張西部	193.17	506,604	6.8%	2622.6	20	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張北部	295.96	726,882	9.7%	2456	26	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
知多半島	392.06	619,905	8.3%	1581.1	18	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河北部	950.51	478,493	6.4%	503.4	20	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部東	443.92	424,285	5.7%	955.8	16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部西	364.24	698,095	9.3%	1916.6	22	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
東三河北部	1052.43	49,881	0.7%	47.4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東三河南部	671.21	685,096	9.2%	1020.7	37	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
計	5173.09	7,481,546	100%	21438.3	317	0	6	13	19	0	0	0	0	0	0

愛知県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点

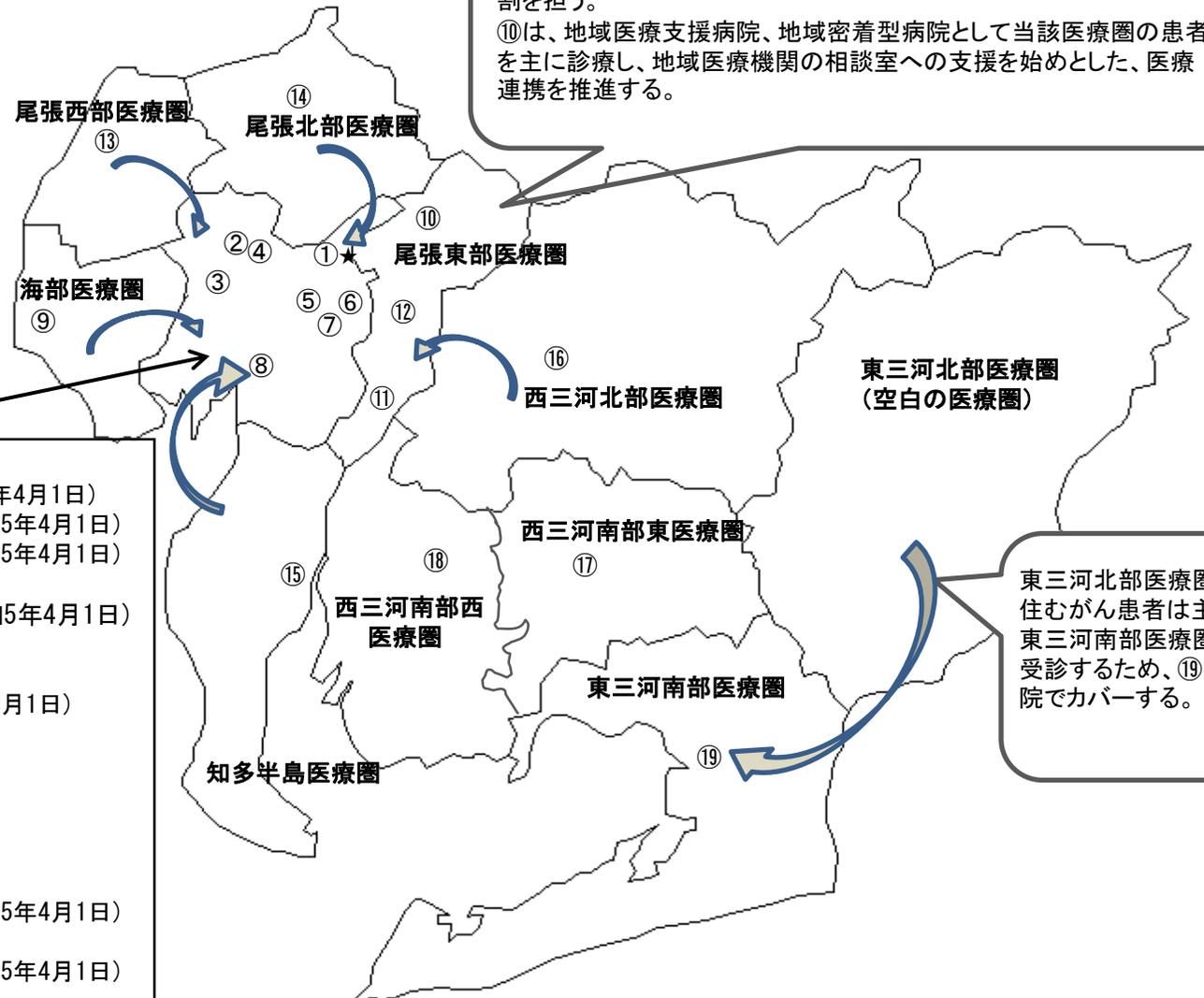
①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、⑤、⑦の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を②③④⑥⑧が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

②は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★(令和5年4月1日)
- ②名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(令和5年4月1日)
- ③日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院(令和5年4月1日)
- ④独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター(令和5年4月1日)
- ⑤名古屋大学医学部附属病院(令和5年4月1日)
- ⑥日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院(令和5年4月1日)
- ⑦名古屋市立大学病院(令和5年4月1日)
- ⑧地域医療推進機構中京病院(令和5年4月1日)
- ⑨愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院(令和5年4月1日)
- ⑩公立陶生病院(令和5年4月1日)
- ⑪藤田医科大学病院◇(令和5年4月1日)
- ⑫愛知医科大学病院(令和5年4月1日)
- ⑬一宮市立市民病院(令和5年4月1日)
- ⑭小牧市民病院(令和5年4月1日)
- ⑮半田市立半田病院(令和5年4月1日)
- ⑯愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院(令和5年4月1日)
- ⑰岡崎市民病院(令和5年4月1日)
- ⑱愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院(令和5年4月1日)
- ⑲豊橋市民病院(令和5年4月1日)



⑪、⑫の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑩は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	名古屋・尾張中部	★	更新	愛知県がんセンター	(3,185) 2,871	(3,167) 3,288	(6,941) 7,071	(1,047) 1,001	(614) 514	(6) 5	(5,418) 5,713
2	名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	(1,460) 1,400	(925) 872	(1,835) 1,536	(1,055) 1,237	(142) 152	(7) 7	(980) 1,049
3	名古屋・尾張中部		現況	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	(2,388) 2,519	(1,668) 1,785	(3,511) 4,041	(583) 639	(253) 279	(8) 5	(4,841) 6,827
4	名古屋・尾張中部		現況	名古屋医療センター	(1,460) 1,503	(701) 676	(2,350) 1,859	(307) 286	(689) 448	(4) 4	(4,064) 5,344
5	名古屋・尾張中部		現況	名古屋大学医学部附属病院	(2,770) 2,823	(2,469) 2,451	(3,295) 3,524	(924) 1,160	(233) 279	(3) 7	(909) 1,296
6	名古屋・尾張中部		現況	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	(1,972) 1,954	(1,089) 1,067	(2,151) 2,160	(396) 398	(123) 124	(5) 5	(648) 736
7	名古屋・尾張中部		更新	名古屋市立大学病院	(2,200) 2,357	(1,870) 1,893	(1,879) 1,890	(667) 677	(440) 414	(9) 10	(696) 839
8	名古屋・尾張中部		現況	中京病院	(1,030) 1,058	(699) 720	(1,348) 1,414	(273) 277	(99) 74	(5) 4	(1,712) 1,481
9	海部		現況	海南病院	(1,358) 1,422	(643) 687	(1,691) 1,653	(326) 354	(251) 266	(53) 35	(681) 905
10	尾張東部		更新	公立陶生病院	(1,256) 1,239	(829) 696	(1,534) 1,499	(212) 221	(250) 263	(29) 28	(3,168) 2,882

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
11	尾張東部		更新	藤田医科大学病院	(3,392) 3,606	(1,867) 2,387	(4,562) 4,732	(1,003) 983	(962) 729	(17) 18	(4,222) 2,858
12	尾張東部		現況	愛知医科大学病院	(2,076) 2,102	(1,181) 1,207	(1,969) 2,587	(670) 633	(380) 439	(22) 23	(3,335) 2,921
13	尾張西部		更新	一宮市立市民病院	(1,512) 1,458	(676) 659	(1,715) 1,847	(375) 355	(107) 101	(21) 22	(1,080) 1,023
14	尾張北部		現況	小牧市民病院	(1,798) 1,454	(1,101) 984	(1,483) 1,527	(547) 458	(300) 287	(13) 15	(337) 683
15	知多半島		更新	半田市立半田病院	(926) 1,129	(581) 712	(1,002) 1,001	(202) 203	(69) 65	(28) 18	(1,025) 1,162
16	西三河北部		現況	豊田厚生病院	(1,682) 1,726	(1,167) 1,261	(2,019) 2,233	(269) 297	(157) 167	(34) 35	(865) 824
17	西三河南部東		現況	岡崎市民病院	(1,578) 1,542	(1,153) 1,185	(1,839) 1,764	(278) 311	(240) 237	(44) 36	(2,160) 1,727
18	西三河南部西		現況	安城更生病院	(2,424) 2,409	(1,099) 1,105	(3,215) 3,214	(383) 506	(283) 219	(58) 61	(2,683) 1,734
19	東三河南部		現況	豊橋市民病院	(2,399) 2,392	(1,266) 1,092	(3,003) 3,029	(656) 595	(242) 164	(24) 47	(1,534) 2,084

愛知県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、⑤、⑦の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を②③④⑥⑧が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

②は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★(更新)
- ②名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(現況報告)
- ③日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院(現況報告)
- ④独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター(現況報告)
- ⑤名古屋大学医学部附属病院(現況報告)
- ⑥日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院(現況報告)
- ⑦名古屋市立大学病院(更新)
- ⑧地域医療推進機構中京病院(現況報告)
- ⑨愛知県厚生農業協同組合連合会 海南病院(現況報告)
- ⑩公立陶生病院(更新)
- ⑪藤田医科大学病院(更新)
- ⑫愛知医科大学病院(現況報告)
- ⑬一宮市立市民病院(更新)
- ⑭小牧市民病院(現況報告)
- ⑮半田市立半田病院(更新)
- ⑯愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院(現況報告)
- ⑰岡崎市民病院(現況報告)
- ⑱愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院(現況報告)
- ⑲豊橋市民病院(現況報告)



⑪、⑫の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑩は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

愛知県の拠点病院推薦にあたっての考え方

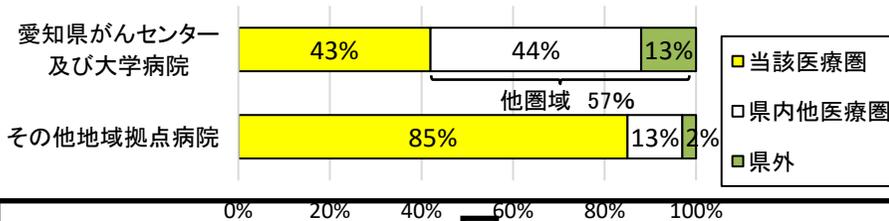
愛知県の地域特性

- ◇県の人口 約748万人
- ◇新規がん患者数 約5.1万人(4年間で約0.6万人増加)
- ◇名古屋・尾張中部医療圏の人口 約249万人(県人口の3分の1)
 ≪全国平均37万人の約6.7倍≫
- ◇上記以外の2次医療圏の平均人口 約50万人 ≪全国の約1.35倍≫

課題1

- ・都市部に人口が集中している
- ・2次医療圏に一つの病院では、人口に対し拠点病院が足りない

≪都道府県拠点である「愛知県がんセンター」及び大学病院であるがん診療連携拠点病院の入院患者の受け入れ割合≫



課題2

- ・大学病院が都市部及び近郊に集中している
- ・愛知県がんセンター及び大学病院へ他圏域から高度な医療を求めて患者が流入している

拠点病院の整備指針

県内どこに住んでいても病状に応じた適切ながん治療や緩和ケアを受けられるがん対策を推進するため、高度な医療を有する都道府県拠点病院と大学病院が地域の拠点病院を支援し、がん医療の均てん化を図る。

≪必要拠点病院数≫

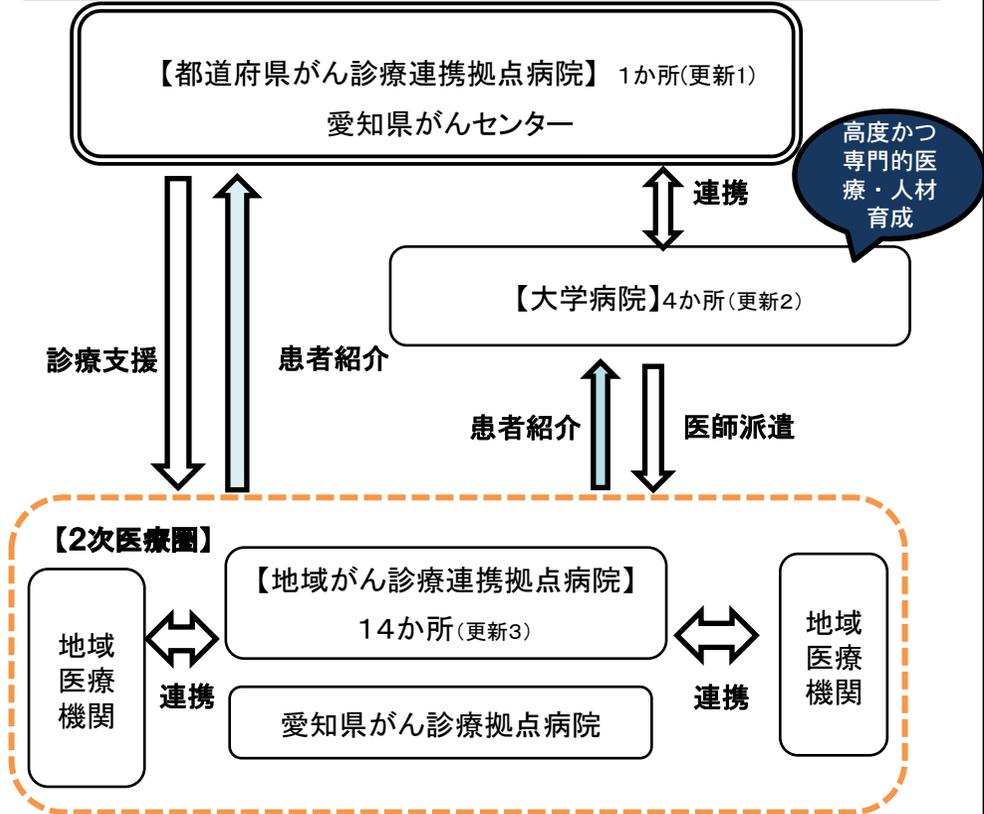
- 名古屋・尾張中部医療圏 人口249万人÷37万人=6.7か所
 - 上記以外の2次医療圏 人口500万人÷37万人=13.5か所
- 合計 **20か所**

現在、愛知県は都市部に人口が集中しており、県全体としても人口が多く、2次医療圏に一つの拠点病院では拠点病院が足りていない。

がん拠点病院の役割分担

都道府県拠点病院：拠点病院の統括
 大学病院：高度かつ専門的な医療の提供 **全県的な拠点**

その他の拠点病院：地域の患者の生活環境に合わせた医療の提供



三重県

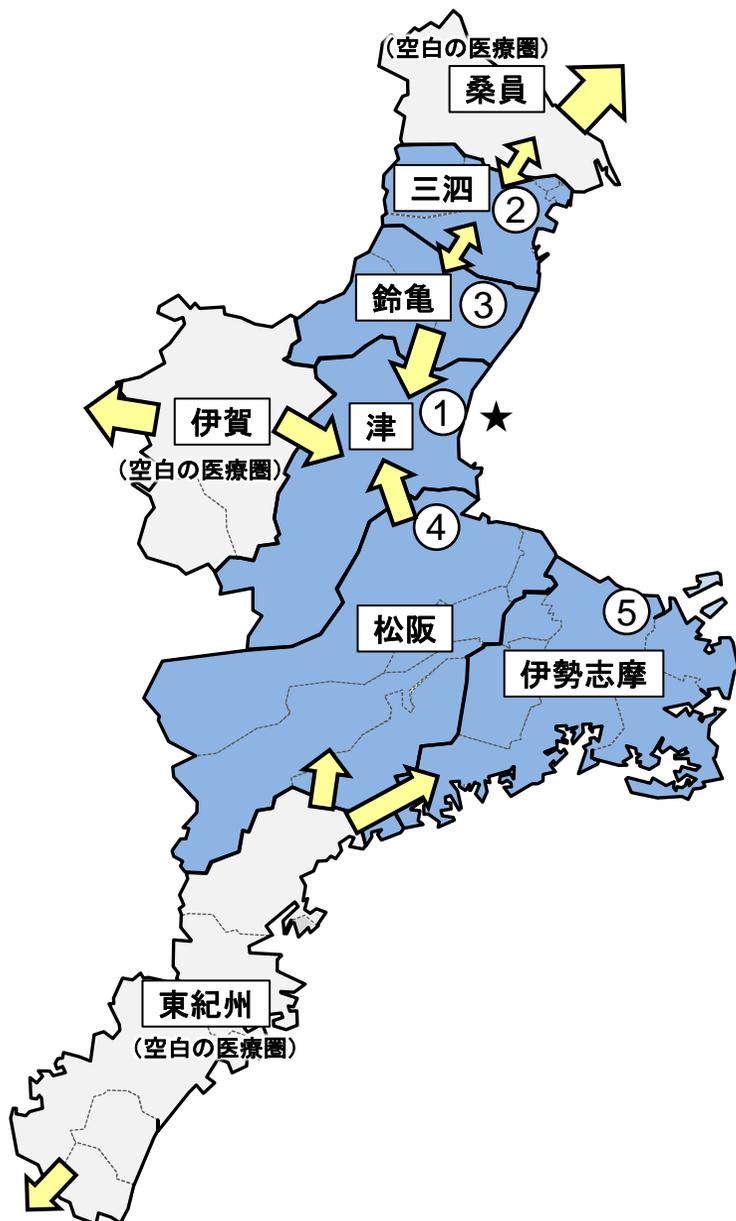
三重県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

二次医療圏名	がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
							新規申請	指定更新	指定類型 変更	新規申請	指定更新	指定類型 変更	新規申請	指定更新	指定類型 変更	
北勢	桑員	394.90	212,908	12.2	539.1	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	三泗	328.22	370,659	21.3	1129.3	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鈴亀	385.50	243,016	13.9	630.4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中勢伊賀	津	711.18	271,272	15.56	381.4	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	伊賀	688.00	161,341	9.3	234.5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南勢志摩	松阪	1363.88	207,942	11.9	152.5	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	伊勢志摩	912.43	214,064	12.3	234.6	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東紀州	東紀州	990.35	62,440	3.6	63.0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	5774.46	1,743,642	100	302.0	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

三重県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



- | | |
|---------------|------------|
| ①三重大学医学部附属病院★ | (令和5年4月1日) |
| ②市立四日市病院 | (令和5年4月1日) |
| ③鈴鹿中央総合病院 | (令和5年4月1日) |
| ④松阪中央総合病院 | (令和5年4月1日) |
| ⑤伊勢赤十字病院 | (令和5年4月1日) |

がん患者の受療動向

拠点病院のない桑員がん医療圏、伊賀がん医療圏、東紀州がん医療圏の流出率が比較的高くなっています。これらの医療圏では、県外への流出割合も高い状況にあります。

【がん患者の流出割合】

がん医療圏	入院(県外分)	外来(県外分)
桑員	30.4%(20.4%)	30.2%(20.1%)
三泗	17.7%(4.0%)	12.1%(3.9%)
鈴亀	25.2%(0.6%)	18.0%(1.1%)
津	7.6%(0.3%)	8.8%(0.9%)
伊賀	35.3%(21.2%)	23.8%(16.6%)
松阪	20.6%(0.2%)	12.5%(0.7%)
伊勢志摩	10.1%(0.9%)	5.5%(0.9%)
東紀州	39.1%(10.2%)	30.2%(14.1%)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

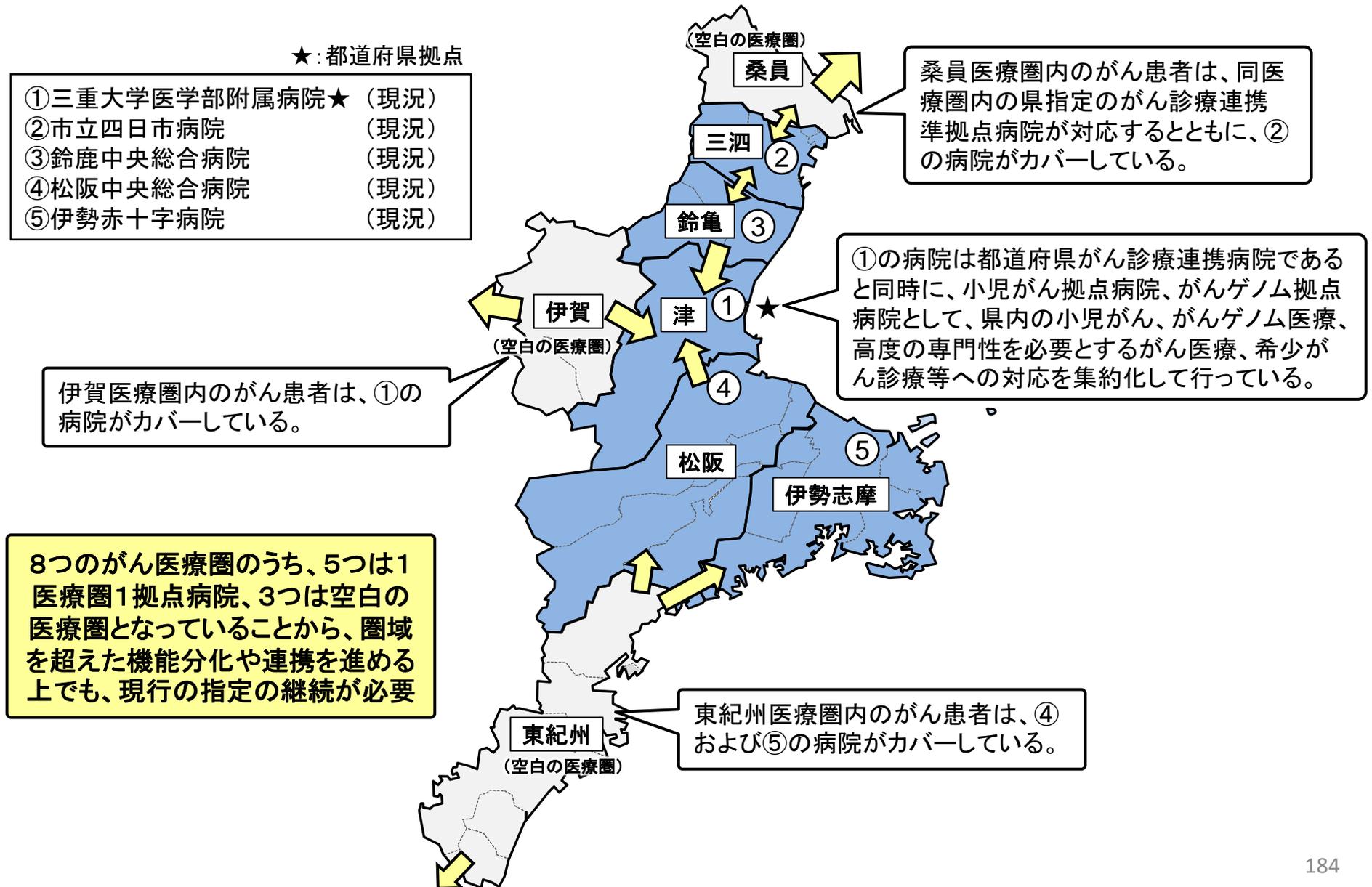
資料3-1-①

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	がん医療圏	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	津	★	現況	三重大学医学部 附属病院	(2,201) 3,114	(2,254) 2,342	(3,026) 3,017	(826) 857	(252) 219	(87) 68	(1,235) 707
2	三泗		現況	市立四日市病院	(1,568) 1,691	(1,045) 1,165	(1,864) 2,180	(255) 342	(68) 85	(27) 28	(2,568) 2,097
3	鈴亀		現況	鈴鹿中央総合病院	(899) 1,072	(451) 737	(1,107) 1,221	(218) 185	(77) 84	(39) 55	(647) 601
4	松阪		現況	松阪中央総合病院	(808) 792	(483) 412	(1,105) 1,085	(233) 265	(62) 82	(22) 20	(2,085) 4,618
5	伊勢志摩		現況	伊勢赤十字病院	(2,074) 1,947	(1,261) 1,204	(1,760) 1,899	(393) 372	(274) 140	(60) 35	(2,255) 2,323

三重県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



本県では、県内5施設のがん診療連携拠点病院を中心として各医療機関の連携による医療提供体制の整備・充実に取り組んでいます。がん医療の均てん化を図る観点から、がん医療圏は4つの2次医療圏を細分化した地域医療構想区域（桑員、三河、鈴鹿、津、伊賀、松阪、伊勢志摩、東紀州）を基本として設定しています。その上で、がん医療圏には1以上の拠点又は県独自の準拠点病院を配置することをめざしています。一方、高度医療・希少がん診療については集約化の観点から、全県域を中心にがん診療連携体制の構築を図ることが適切と考えます。

そのため、引き続き現在の県内5病院のがん診療連携拠点病院の指定を継続することで、がん診療連携体制の構築に努めるとともに、がん医療が高度化、複雑化してきていることを踏まえ、高度の専門性を必要とする医療の一定の集約化を行うなど、すべての県民が身近な地域においてより質の高いがん治療が受けられる体制づくりを推進することをめざします。

1 がん診療連携体制の整備にかかる課題

(1) 地勢上の特性

本県は南北に長い地勢であることに加え、一定規模の人口を擁する都市が長軸方向に点在しており、各地域で一定の生活圏が形成されています。

(2) がん医療圏ごとの人口割合

がん医療圏は概ね20万人以上の人口を基準として設定していますが、伊賀医療圏が約16万人、東紀州医療圏が約6万人の人口であり、特に東紀州医療圏の人口割合は4%弱と他の医療圏と大きな隔りがあることから、がん医療圏の状況を踏まえ、個別に対策を講じることが必要です。

(3) 受療動向

がん医療圏ごとの患者流出率は入院で7.6%～39.1%、外来で5.5%～30.2%（厚生労働省「NDB」令和3年度）となっており、特に桑員、伊賀、東紀州の各がん医療圏において高い流出状況にあることから、県民に、居住する地域で質の高いがん医療を提供するため、地域で一定の診療実績を有する医療機関に医療資源を一定程度集約化し、地域の拠点としての役割を担えるよう環境を整えることが必要です。

2 がん医療圏ごとの体制整備の考え方

これらの状況や課題に鑑み、各医療圏の特性を踏まえて拠点となる医療機関を整備することで、県内全域のがん診療提供体制の強化を図ります。

がん医療圏	体制整備の考え方
桑員	名古屋市への通勤圏内であり、愛知県との生活圏の結びつきが強い地域のため、同県への患者流出が見られますが、県独自の準拠点病院である桑名市総合医療センターが当医療圏のがん医療を主に担っており、地域内での一定の完結のためには機能強化が必要です。
三泗	本県人口の20%を超える県内最大の人口を有するがん医療圏で、市立四日市病院が地域内のがん医療を主に担うとともに、桑員医療圏、鈴亀医療圏もカバーしていることから、これらの医療圏とのさらなる連携強化が必要です。
鈴亀	鈴鹿中央総合病院が主に地域内のがん医療を担っていますが、隣接する三泗医療圏や津医療圏への流出も見られることから、これらの医療圏とのさらなる連携強化が必要です。
津	三重大学医学部附属病院が、県がん診療連携拠点病院として、高度の専門性を必要とするがん患者の受入など中心的な役割を担っています。
伊賀	奈良県や滋賀県と接し、生活圏の結びつきが強い地域のため、これらの県への患者流出が見られます。地域内の医療機関において一定のがん医療を担っていますが、隣接する津医療圏においてカバーしている現状にあることから、津医療圏との連携によるがん診療体制の強化が必要です。
松阪	松阪中央総合病院は松阪医療圏に加え東紀州医療圏のがん医療を補完する役割を担っています。空白の医療圏である東紀州医療圏に隣接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。
伊勢志摩	伊勢赤十字病院は地域に離島や多くの中山間地域を含む当医療圏において医療を提供する役割を担っています。空白の医療圏である東紀州医療圏に隣接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。
東紀州	拠点病院等のない空白の医療圏で、高齢化の進行に伴う医療需要への対応が求められます。当面は隣接する松阪医療圏、伊勢志摩医療圏の拠点病院等を中心にがん医療を提供するとともに、将来的にはそれらと連携した地域がん診療病院の整備等を検討する必要があります。

滋 賀 県

滋賀県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	今回指定 類型変更 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
大津保健医療圏	464.51	345,044	24.3	742.8	15		2		2		0				0
湖南保健医療圏	256.39	351,815	24.7	1372.2	13		1		1		0				0
甲賀保健医療圏	552.02	140,653	10.1	254.8	7			1	1		0				0
東近江保健医療圏	727.97	223,897	16.1	307.6	11				0		0				0
湖東保健医療圏	392.04	153,275	11.0	391.0	4		1		1		0				0
湖北保健医療圏	931.4	146,886	10.7	157.7	4		1		1		0				0
湖西保健医療圏	693.05	44,547	3.3	64.3	3				0		0		1		1
									0		0				0
計	4017.38	1,406,117	100	3290.3092	57	0	5	1	6	0	0	0	1		1

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★: 都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
①	大津		更新	大津赤十字病院	(1398) 1425	(805) 794	(1333) 1418	(309) 601	(174) 209	(40) 76	(704) 765
②	湖南	★	更新	滋賀県立総合病院	(1541) 1586	(961) 917	(1837) 1822	(458) 450	(181) 147	(15) 26	(2301) 2334
③	大津		更新	滋賀医科大学医学部附属病院	(1464) 1406	(794) 816	(1860) 2102	(418) 440	(136) 133	(24) 16	(176) 207
④	甲賀		更新	公立甲賀病院	(648) 596	(405) 346	(1446) 1843	(161) 120	(155) 107	(20) 49	(809) 826
⑤	湖東		類型変更	彦根市立病院	(699) 748	(305) 329	(1215) 1250	(117) 167	(59) 69	(25) 59	(405) 500
⑥	湖北		更新	市立長浜病院	(638) 657	(399) 405	(901) 855	(231) 219	(35) 43	(36) 35	(1068) 1093

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	湖西	更新	高島市民病院	(279)	(76)	(353)	(0)	(21)	(325)
				216	96	331	0	0	286

滋賀県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

- ① 大津赤十字病院(更新)
- ② 滋賀県立総合病院★(更新)
- ③ 滋賀医科大学医学部附属病院(更新)
- ④ 公立甲賀病院(更新)
- ⑤ 市立長浜病院(更新)
- ① 高島市民病院(更新)
- ② 彦根市立病院(類型変更)

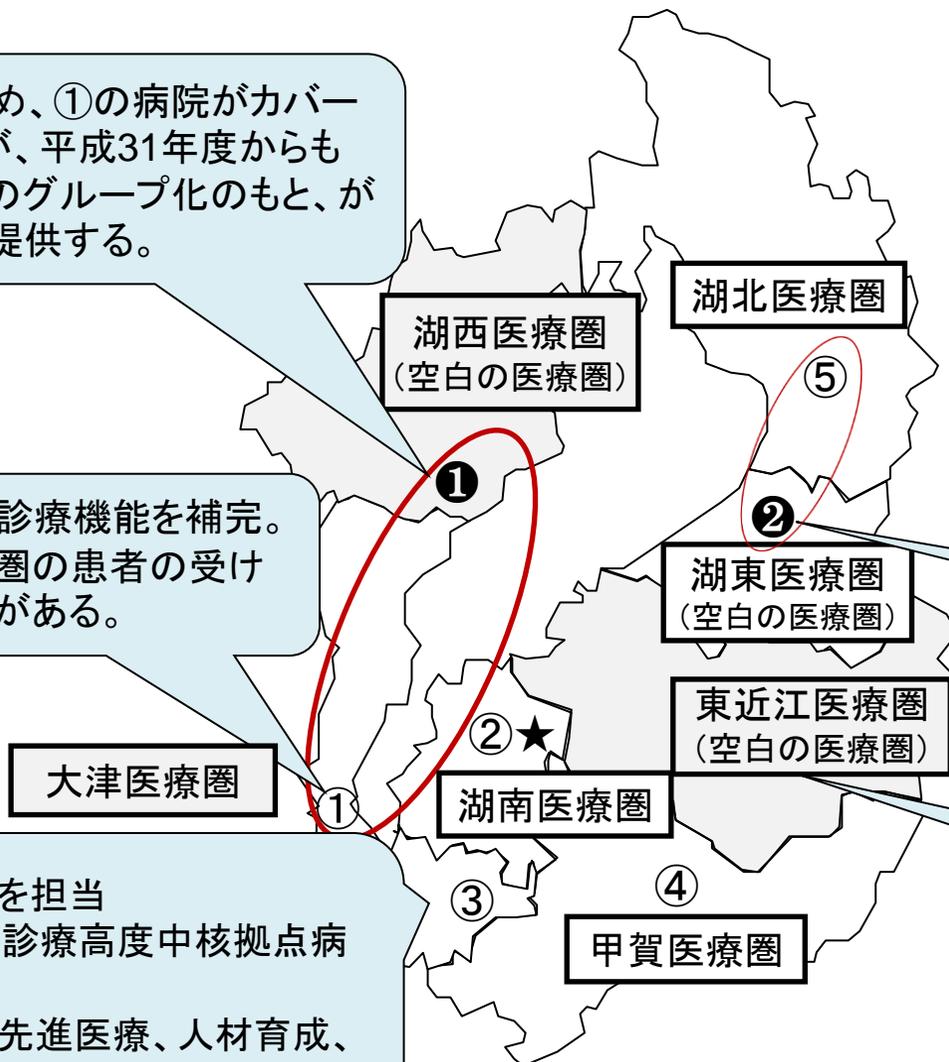
②の病院が類型変更のため、⑤の病院とのグループ化のもと、がん医療を提供する。

東近江医療圏に住むがん患者は
大津医療圏へ受診
→③の病院が担当

空白のため、①の病院がカバーしていたが、平成31年度からも①が①とのグループ化のもと、がん診療を提供する。

①にない診療機能を補完。湖西医療圏の患者の受け入れ体制がある。

・東近江医療圏を担当
・県指定「がん診療高度中核拠点病院」
(全県域の高度先進医療、人材育成、人材支援を担当)



滋賀県 指定推薦に係る考え方について（1）

1. がんに関する現状

本県において、がんは昭和56年から死因の1位となっており、全死亡の約3割を占め、現在では年間3,600人以上の県民ががんにより亡くなっている。今後、ますます高齢化が進行する中で、がんの罹患数や死亡数は増加することが予測される一方で、がん医療は年々進歩を遂げ、がんは長く付き合う慢性の病気になってきている。

こうしたことから、がんの予防、早期発見、適切な治療、ライフステージに応じた対策、治療と生活の両立支援などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってくる。

2. がん対策における基本理念（第3期滋賀県がん対策推進計画（平成30年3月策定））および目標

<基本理念>

県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現

～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

がん患者を含めた県民全体が、がんの予防およびがんの早期発見を進めるとともに、がんになっても、治療の説明を受けて選択ができ、納得した医療が受けられ、そのために必要な支援が受けられることで、自分らしく暮らせる滋賀を目指すことを基本理念とする。

<全体目標>

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

<取り組みの4つの分野>

- ・がんの予防
- ・がん医療の充実
- ・がんとの共生
- ・これらを支える基盤の整備

3. がん診療連携拠点病院等の現状、今後の役割

- 滋賀県のがん医療は、国指定のがん診療連携拠点病院（6病院）、地域がん診療病院（1病院）、県指定のがん診療連携支援病院（6病院）を中心に、我が国に多いがん（5大がん）について、集学的治療を提供する体制を整えている。今後も5大がん、その他専門とするがんについて、がん診療連携拠点病院等を中心にがん医療提供体制をさらに整備していく。
- 都道府県がん診療連携拠点病院（県立総合病院）は、地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援、医療従事者に対する研修の実施など、県内のがん医療のコーディネーターの役割を担う。また、地域がん診療連携拠点病院（大津赤十字病院他4病院）は、各医療圏域において、専門的ながん医療の提供を行うとともに、圏域内の医療機関に対する診療支援、医療従事者に対する研修、患者等に対する相談支援、情報提供などを行う。
- がん診療連携拠点病院等が中心となり、また、滋賀県がん診療連携協議会などでがん診療の連携協力体制を構築しながら、滋賀県内のがん医療の質の向上や安全確保のための取り組み、看護の質の向上、医療従事者の資質向上などを図っていく。

4. がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏への対策

- 湖西医療圏
高島市民病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の大津赤十字病院との連携を前提にグループとして指定。高島市民病院は、大津赤十字病院と連携しつつ、湖西医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。
- 東近江医療圏
空白の解消については現在協議中であり、現状は、大津医療圏に位置する滋賀医科大学医学部附属病院が担当する。
- 湖東医療圏
彦根市立病院を地域がん診療病院へ類型変更し推薦。隣接する湖北医療圏の市立長浜病院との連携を前提にグループとして指定。彦根市立病院は、市立長浜病院と連携しつつ、湖東医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。

5. 大津医療圏の2つの拠点病院の役割分担

大津赤十字病院

- ・大津医療圏のがん診療ならびに高島市民病院とのグループ元として湖西医療圏のがん診療を行う。

滋賀医科大学医学部附属病院

- ・空白の東近江医療圏を担当し、大津医療圏のがん診療についても積極的に行う。
- ・県全域の高度先進医療を提供する。
- ・県全域の人材育成、人材支援の中核を担う。

京 都 府

京都府 2 次医療圏の概要

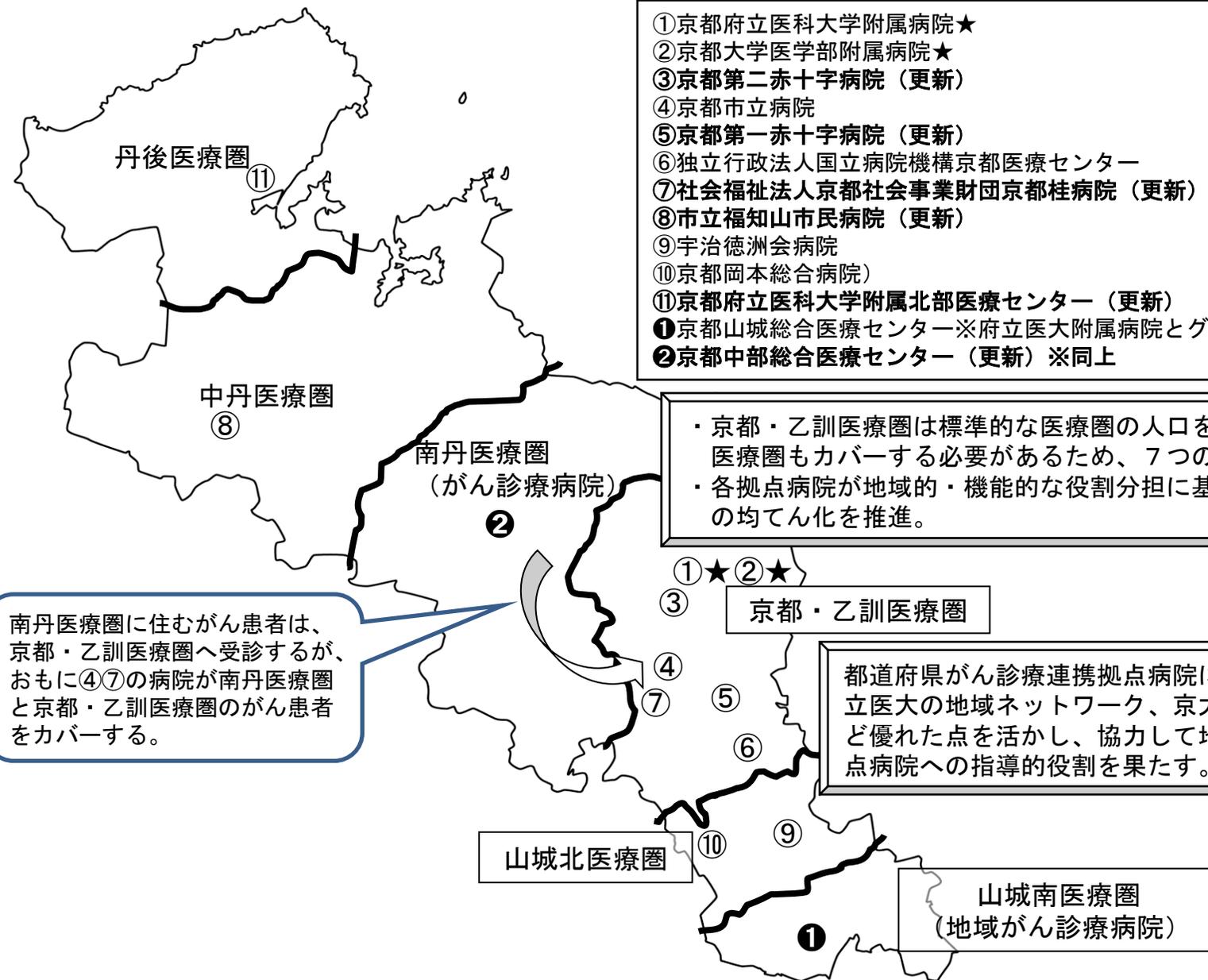
令和 5 年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん 診療連携拠点 病院		地域がん 診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
丹後医療圏	844.5	84,738	3.3	100.3	6		1	1		0				0
中丹医療圏	1241.76	183,015	7.2	147.4	16		1	1		0				0
南丹医療圏	1144.29	127,756	5.0	111.6	9			0		0		1		1
京都・ 乙訓医療圏	860.69	1,596,908	62.9	1855.4	103	4	3	7		0				0
山城北医療圏	257.58	348,578	13.7	1353.3	24	2		2		0				0
山城南医療圏	263.37	196,117	7.7	744.6	3			0		0	1			1
計	4,612.19	2,537,112	100	4312.7	161	6	5	11		0	0	1	1	2

京都府 令和5年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

- ① 京都府立医科大学附属病院★
- ② 京都大学医学部附属病院★
- ③ 京都第二赤十字病院（更新）
- ④ 京都市立病院
- ⑤ 京都第一赤十字病院（更新）
- ⑥ 独立行政法人国立病院機構京都医療センター
- ⑦ 社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院（更新）
- ⑧ 市立福知山市民病院（更新）
- ⑨ 宇治徳洲会病院
- ⑩ 京都岡本総合病院
- ⑪ 京都府立医科大学附属北部医療センター（更新）
- ① 京都山城総合医療センター※府立医大附属病院とグループ化
- ② 京都中部総合医療センター（更新）※同上

・ 京都・乙訓医療圏は標準的な医療圏の人口を大きく上回り、周辺医療圏もカバーする必要があるため、7つの拠点病院を指定。
 ・ 各拠点病院が地域的・機能的な役割分担に基づき、がん医療水準の均てん化を推進。



南丹医療圏に住むがん患者は、京都・乙訓医療圏へ受診するが、おもに④⑦の病院が南丹医療圏と京都・乙訓医療圏のがん患者をカバーする。

都道府県がん診療連携拠点病院については、京都府立医大の地域ネットワーク、京大病院の人材育成など優れた点を活かし、協力して地域がん診療連携拠点病院への指導的役割を果たす。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・令和5年10月31日提出の数値

No.	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規介入患者数50人以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合 2割程度(%)	がん相談支援センター相談件数
3		更新	京都第二赤十字病院	1,435	1,002	1,542	351	170	7.0	1,659
5		更新	京都第一赤十字病院	1,485	825	1,854	352	309	8.0	788
7		更新	京都桂病院	1,572	778	2,038	478	228	5.0	2,904
8		更新	福知山市民病院	895	507	1,295	302	134	36.0	2,256
11		更新	北部医療センター	510	424	2,557	203	68	64.0	579

地域がん診療病院

・令和5年10月31日提出の数値

	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
			院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者実数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規介入患者数	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	がん相談支援センター相談件数 (年間)
②	更新	京都中部総合医療センター	634	532	972	3,166	32	43.0%	84

京都府におけるがん診療体制の整備方針

資料 4

区分	推薦病院	特色	機能分担
都道府県拠点病院	京都府立医科大学附属病院	各地域への医師派遣 地域ネットワークの構築 質の高い緩和ケアの推進、陽子線治療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 緩和ケア部会・地域連携部会の事務局
	京都大学医学部附属病院	がん医療従事者の養成 臨床研究・医療技術開発 外来科学療法、ゲノム医療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 研修部会・外来化学療法部会の事務局
地域拠点病院	京都第二赤十字病院	消化器系がん治療 地域医療支援	肝がん地域連携パスWGの事務局
	京都市立病院	放射線治療 血液がん・小児がん治療	相談支援部会の事務局
	京都第一赤十字病院	救急医療(化学療法の副作用対策など) 消化器系・婦人科がん治療	乳がん地域連携パスWGの事務局
	国立病院機構京都医療センター	緩和ケア 地域・患者への情報提供	院内がん登録部会の事務局
	京都桂病院	肺がん治療,消化器系がん治療 がん患者支援	肺がん地域連携パスWGの事務局
	福知山市民病院	放射線治療 外来化学療法	大腸がん地域連携パスWGの事務局
	宇治徳洲会病院	消化器系がん治療 緩和ケア	胃がん地域連携パスWGの事務局
	京都岡本記念病院	地域医療支援 放射線治療	前立腺がん地域連携パスWGの事務局
	京都府立医科大学附属北部医療センター	内視鏡治療、R2リニアック導入	北部医療圏でがん診療の中核を担う
地域がん診療病院	京都中部総合医療センター	緩和ケア、 ²⁶ リニアック導入	京都府立医科大学附属病院とのグループ指定によりがん診療機能を向上させるとともに、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、地域におけるがん診療の中核を果たす。
	京都山城総合医療センター	内視鏡治療	



京都府立医科大学附属病院及び京都大学医学部附属病院を中心として、各地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院がそれぞれの機能・役割を果たすがん診療ネットワークを構築し、住み慣れた地域で、質の高いがん医療が受けられる環境づくりを推進する。

大阪府

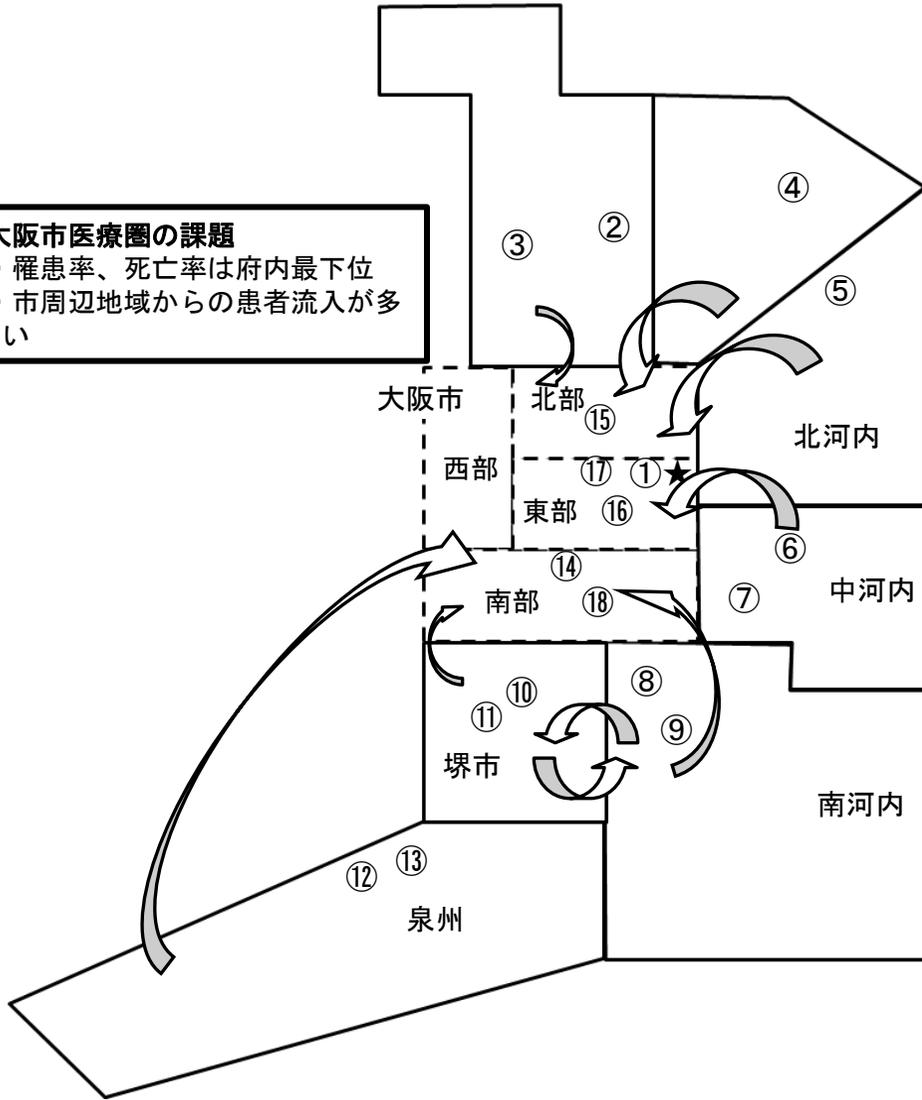
大阪府がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
豊能二次医療圏	275.61	1,058,968	12.1%	3842.3	47	2	0	0	2
三島二次医療圏	213.46	756,832	8.6%	3545.5	36	1	0	0	1
北河内二次医療圏	177.34	1,119,697	12.8%	6313.8	60	1	0	0	1
中河内二次医療圏	128.83	813,811	9.3%	6316.9	35	2	0	0	2
南河内二次医療圏	289.99	578,159	6.6%	1993.7	39	1	1	0	2
堺市二次医療圏	149.84	812,419	9.3%	5422.3	43	1	1	0	2
泉州二次医療圏	444.93	865,713	9.9%	1945.8	71	2	0	0	2
大阪市二次医療圏	225.35	2,768,671	31.6%	12287.2	175	4	2	0	6
北部基本保健医療圏	48.65	704,282	8.0%	14476.5	38	1	0	0	1
西部基本保健医療圏	60.68	491,475	5.6%	8099.5	29	0	0	0	0
東部基本保健医療圏	47.56	772,111	8.8%	16234.5	62	2	1	0	3
南部基本保健医療圏	68.46	800,803	9.1%	11697.4	46	1	1	0	2
計	1905.35	8,774,270	100.0%	41667.5	506	14	4	0	18

大阪市医療圏の課題

- ・罹患率、死亡率は府内最下位
- ・市周辺地域からの患者流入が多い



★：都道府県拠点 (括弧内は現在の指定開始日)

- ①大阪国際がんセンター★ (令和5年4月1日)
- ②大阪大学医学部附属病院 (令和5年4月1日)
- ③市立豊中病院 (令和5年4月1日)
- ④大阪医科大学附属病院 (令和5年4月1日)
- ⑤関西医科大学附属病院 (令和5年4月1日)
- ⑥市立東大阪医療センター (令和5年4月1日)
- ⑦八尾市立病院 (令和5年4月1日)
- ⑧近畿大学病院 (令和5年4月1日)
- ⑨大阪南医療センター (令和5年4月1日)
- ⑩大阪労災病院 (令和5年4月1日)
- ⑪堺市立総合医療センター (令和5年4月1日)
- ⑫市立岸和田市民病院 (令和5年4月1日)
- ⑬和泉市立総合医療センター (令和5年4月1日)
- ⑭大阪公立大学医学部附属病院 (令和5年4月1日)
- ⑮大阪市立総合医療センター (令和5年4月1日)
- ⑯大阪赤十字病院 (令和5年4月1日)
- ⑰大阪医療センター (令和5年4月1日)
- ⑱大阪急性期・総合医療センター (令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・ () 内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	大阪市	★	現況	大阪国際がんセンター	(4,566) 4,837	(4,006) 4,130	(8,582) 10,820	(2,110) 2,156	(209) 171	(8) 10.0	(16,754) 14,588
2	豊能		現況	大阪大学医学部附属病院	(2,456) 2,746	(2,283) 2,413	(3,293) 3,471	(924) 847	(250) 302	(14) 15.0	(730) 677
3	豊能		現況	市立豊中病院	(1,538) 1,665	(1,538) 860	(2,077) 2,299	(263) 265	(246) 244	(14) 14.1	(1,578) 1,754
4	三島		現況	大阪医科薬科大学病院	(2,634) 2,456	(1,264) 2,970	(4,170) 4,392	(835) 943	(299) 323	(34) 21.0	(2,978) 3,409
5	北河内		現況	関西医科大学附属病院	(3,115) 3,310	(3,414) 3,466	(7,187) 6,930	(1,979) 1,097	(935) 983	(23) 27.0	(9,325) 9,518
6	中河内		現況	市立東大阪医療センター	(1,323) 1,360	(1,100) 1,112	(1,157) 1,209	(286) 268	(212) 282	(14) 15.0	(723) 5,907
7	中河内		現況	八尾市立病院	(1,211) 1,256	(978) 1,006	(3,374) 3,684	(378) 411	(111) 148	(11) 10.0	(3,662) 3,427
8	南河内		更新	近畿大学病院	(3,523) 2,797	(3,237) 3,169	(4,051) 3,867	(819) 939	(396) 386	(22) 20.0	(3,221) 3,364
9	南河内		現況	大阪南医療センター	(865) 895	(470) 541	(2,479) 2,452	(202) 208	(96) 92	(11) 10.0	(2,435) 2,692
10	堺市		現況	大阪労災病院	(1,619) 1,823	(2,131) 2,124	(3,338) 3,552	(247) 338	(2,383) 2,290	(21) 26.0	(3,735) 3,823

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・ () 内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	のべ相談件数(年間)
11	堺市		更新	堺市立総合医療センター	(1,894) 1,644	(1,966) 1,300	(2,459) 2,358	(494) 583	(599) 514	(22) 24.0	(2,754) 2,757
12	泉州		現況	市立岸和田市民病院	(1,072) 1,072	(683) 641	(1,102) 1,038	(290) 301	(98) 112	(14) 13.0	(3,504) 3,089
13	泉州		現況	和泉市立総合医療センター	(1,184) 1,215	(822) 852	(1,511) 1,525	(323) 297	(229) 286	(19) 18.6	(2,014) 2,092
14	大阪市		更新	大阪公立大学医学部附属病院	(2,699) 2,728	(1,884) 1,792	(3,128) 2,981	(732) 663	(194) 206	(6) 4.0	(1,751) 1,736
15	大阪市		現況	大阪市立総合医療センター	(2,387) 2,310	(1,415) 1,379	(3,903) 3,703	(892) 835	(1,015) 776	(8) 8.0	(1,202) 1,166
16	大阪市		現況	大阪赤十字病院	(2,342) 2,422	(1,735) 1,738	(3,582) 3,321	(667) 637	(397) 356	(5) 4.7	(6,692) 5,543
17	大阪市		更新	大阪医療センター	(1,139) 1,093	(1,044) 991	(7,725) 7,563	(475) 330	(206) 226	(3) 3.5	(3,183) 2,686
18	大阪市		現況	大阪急性期・総合医療センター	(1,849) 1,510	(1,554) 1,412	(2,148) 1,994	(522) 507	(268) 241	(6) 4.0	(1,333) 1,144

大阪府 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

兵庫県

京都府

発達した交通網が患者の受療動向に大きな影響を与えており、医療圏を超える患者移動や他府県からの患者流入が多い
⇒大阪府と他都道府県との流出入（いずれも流入超過）

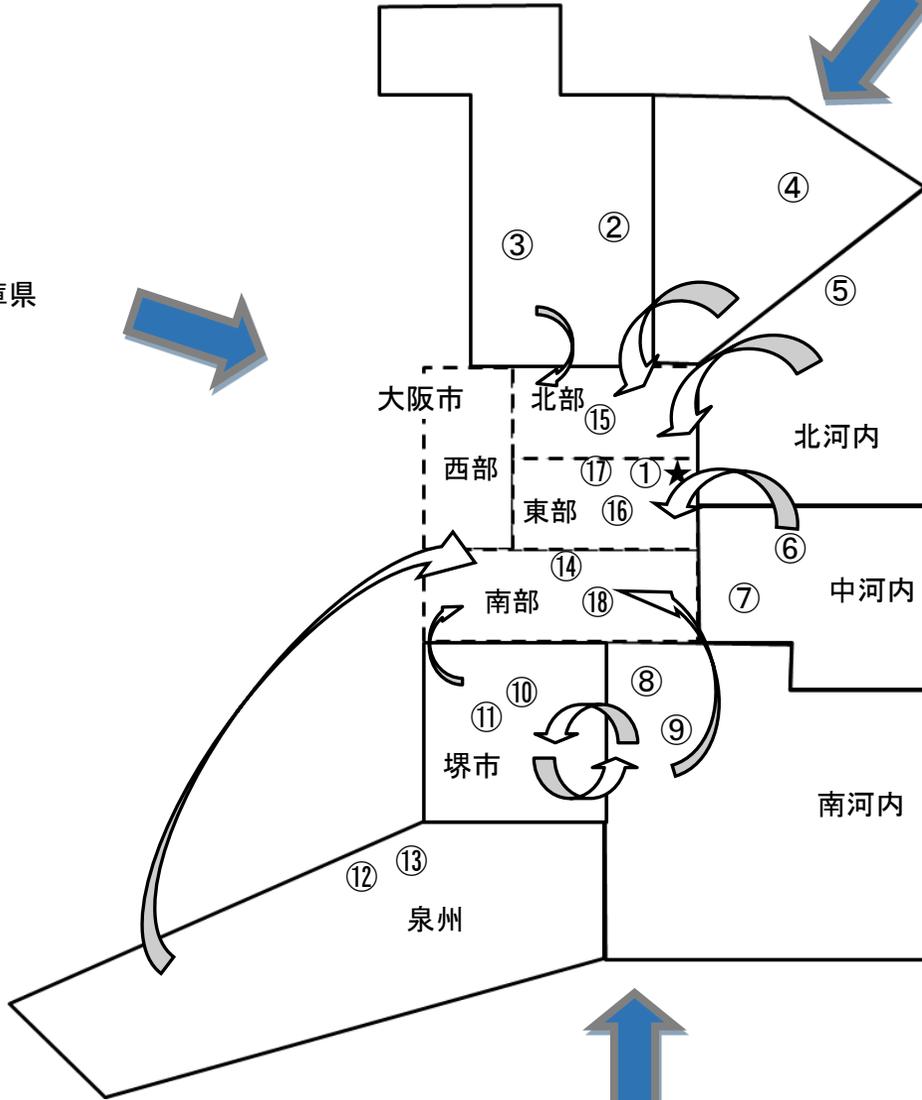
レセプト件数(件)	大阪府内に所在する医療機関における府外に住所を有する患者の算定件数(流入)	大阪府内に住所を有する患者に係る府外の医療機関における算定件数(流出)
外来	約32万件	約14万件
入院	約3万2千件	約1万5千件

奈良県

★：都道府県拠点

- ①大阪国際がんセンター★（現況）
- ②大阪大学医学部附属病院（現況）
- ③市立豊中病院（現況）
- ④大阪医科大学附属病院（現況）
- ⑤関西医科大学附属病院（現況）
- ⑥市立東大阪医療センター（現況）
- ⑦八尾市立病院（現況）
- ⑧近畿大学病院（更新）
- ⑨大阪南医療センター（現況）
- ⑩大阪労災病院（現況）
- ⑪堺市立総合医療センター（更新）
- ⑫市立岸和田市民病院（現況）
- ⑬和泉市立総合医療センター（現況）
- ⑭大阪公立大学医学部附属病院（更新）
- ⑮大阪市立総合医療センター（現況）
- ⑯大阪赤十字病院（現況）
- ⑰大阪医療センター（更新）
- ⑱大阪急性期・総合医療センター（現況）

和歌山県



地域特性

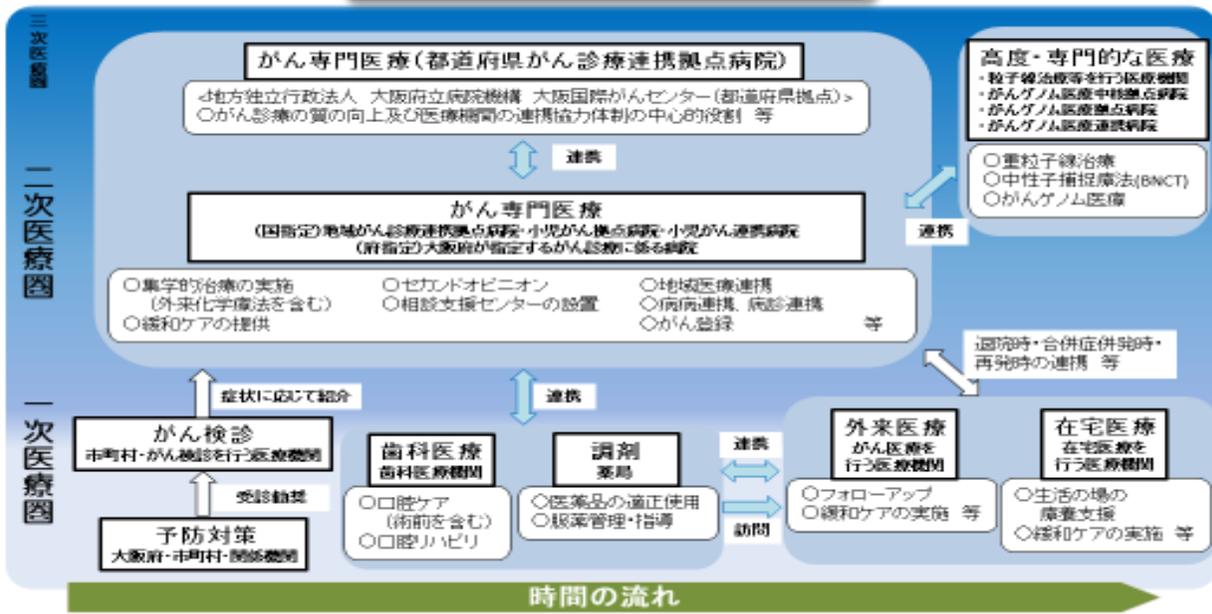
- 府の人口 約877万人
- がん罹患数 約7万人⇒ 約0.8%
- 2次医療圏の平均人口 約110万人⇒ 全国平均の約3倍
- 1拠点病院あたりの人口 約49万人⇒ 約1.6倍
- 1拠点病院あたりの医療機関数 約500機関⇒ 約2倍

死亡率 71.5⇒全国39位
 ※年齢調整死亡率(75歳未満・人口10万人対)

病院機能

- 1拠点病院あたりの手術件数 約1,800件

がん医療提供体制

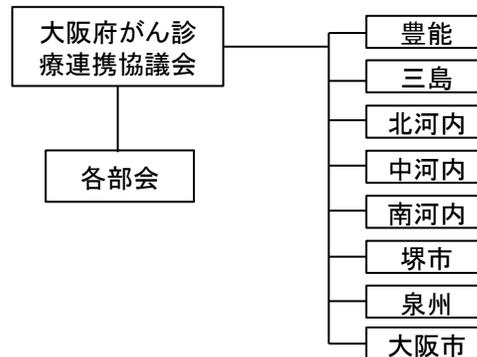


がん診療ネットワーク協議会

2次医療圏ごとに国拠点病院が中心となって運営

【メンバー】

圏域内の国・府拠点病院 医師会 保健所
 市町村担当課 大阪国際がんセンター 大阪府



大阪府においては、2次医療圏を基本としつつ、面で支えるがん医療提供体制の構築が重要

【既指定拠点病院の指定更新】

大阪府は人口が多く、がんによる死亡率も高い等の課題が多い。府内全域での役割分担と連携体制の強化を図り、より一層、がん医療の充実を図る必要があるため、既指定病院の指定更新が必要不可欠。

兵 庫 県

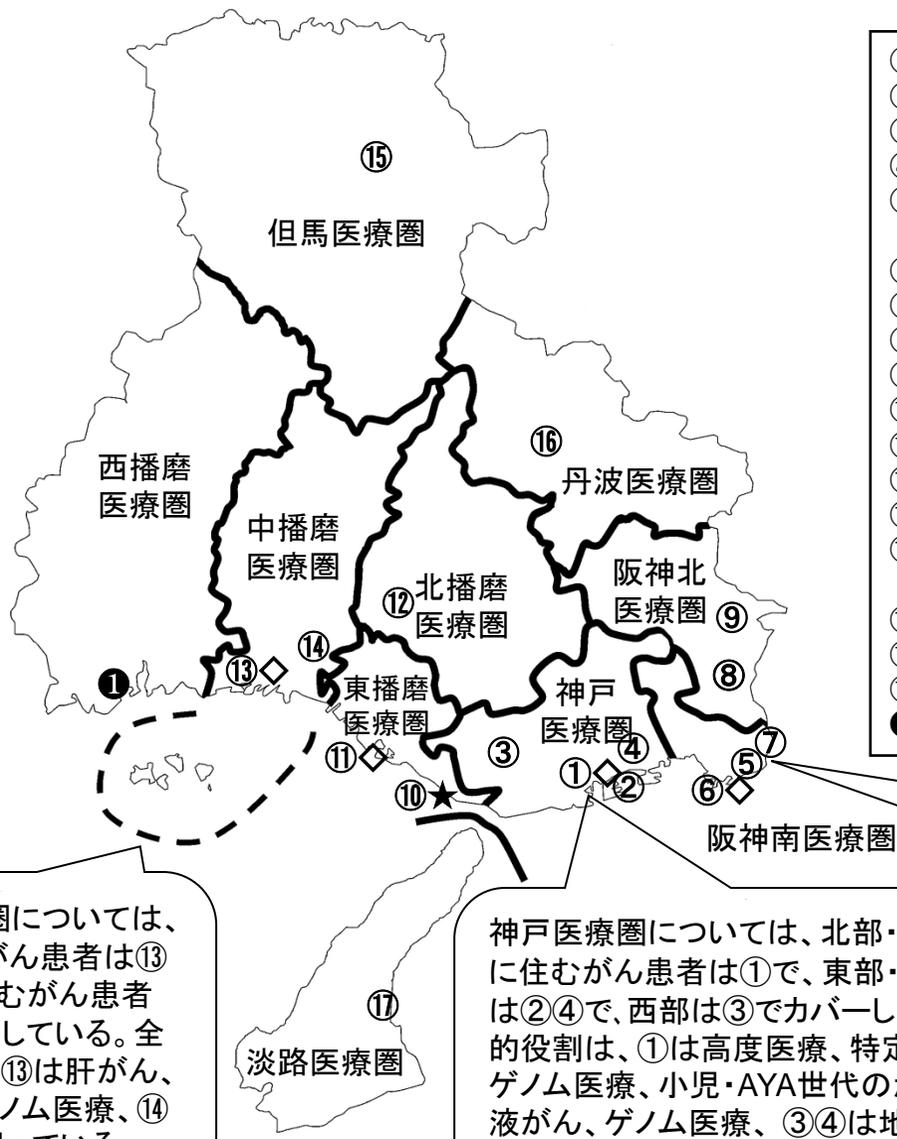
兵庫県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回 現況 病院数	新規 申請 病院数	計	既指定 病院数	今回 現況 病院数	新規 申請 病院数	計
神戸医療圏	557.1	1,500,693	27.9%	2,694	109	4	4	0	4	0	0	0	0
阪神南医療圏	169.1	1,032,032	19.2%	6,103	52	3	3	0	3	0	0	0	0
阪神北医療圏	480.9	703,015	13.1%	1,462	34	2	2	0	2	0	0	0	0
東播磨医療圏	266.3	711,660	13.2%	2,672	39	2	2	0	2	0	0	0	0
北播磨医療圏	895.6	255,744	4.8%	286	22	1	1	0	1	0	0	0	0
中播磨医療圏	865.3	561,910	10.5%	649	36	2	2	0	2	0	0	0	0
西播磨医療圏	1,567.0	236,820	4.4%	151	23	0	0	0	0	1	0	0	1
但馬医療圏	2,133.3	149,948	2.8%	70	11	1	1	0	1	0	0	0	0
丹波医療圏	870.8	97,590	1.8%	112	7	1	0	0	0	0	0	1	1
淡路医療圏	595.6	123,008	2.3%	207	11	1	1	0	1	0	0	0	0
計	8,401.0	5,372,420	100.0%	640	344	17	16	0	16	1	0	1	2

兵庫県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



- ①神戸大学医学部附属病院（令和5年4月1日）
- ②神戸市立医療センター中央市民病院（令和5年4月1日）
- ③神戸市立西神戸医療センター（令和5年4月1日）
- ④神鋼記念病院（令和5年4月1日）
- ⑤独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院（令和5年4月1日）
- ⑥兵庫医科大学病院◇（令和5年4月1日）
- ⑦兵庫県立尼崎総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑧公立学校共済組合近畿中央病院（令和5年4月1日）
- ⑨市立伊丹病院（令和5年4月1日）
- ⑩兵庫県立がんセンター★（令和5年4月1日）
- ⑪加古川中央市民病院（令和5年4月1日）
- ⑫北播磨総合医療センター（令和5年4月1日）
- ⑬姫路赤十字病院（令和5年4月1日）
- ⑭独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（令和5年4月1日）
- ⑮公立豊岡病院組合立豊岡病院（令和5年4月1日）
- ⑯兵庫県立丹波医療センター（令和5年4月1日）
- ⑰兵庫県立淡路医療センター（令和5年4月1日）
- ⑱赤穂市民病院（令和5年4月1日）

中播磨医療圏については、西部に住むがん患者は⑬で、東部に住むがん患者は⑭でカバーしている。全県的役割は、⑬は肝がん、血液がん、ゲノム医療、⑭は肺がんを担っている。

神戸医療圏については、北部・中部(西側)に住むがん患者は①で、東部・中部(東側)は②④で、西部は③でカバーしている。全県的役割は、①は高度医療、特定機能病院、ゲノム医療、小児・AYA世代のがん、②は血液がん、ゲノム医療、③④は地域連携のパスの推進を担っている。

阪神南医療圏については、東部に住むがん患者は⑤⑦で、西部に住むがん患者は⑥でカバーしている。全県的役割は、⑤⑦は中皮腫、ゲノム医療、⑥血液がん、中皮腫、ゲノム医療、小児・AYA世代のがんを担っている。

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

★: 都道府県拠点

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア849	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 神戸		現況	神戸大学医学部 附属病院	(2,864) 2,829	(1,644) 1,743	(5,096) 5,345	(928) 902	(570) 565	7	(1,207) 1,186
2 神戸		現況	神戸市立MC中央市 民病院	(2,441) 2,580	(4,606) 2,255	(3,128) 3,154	(719) 685	(332) 398	10	(696) 755
3 神戸		現況	神戸市立 西神戸MC	(1,597) 1,630	(1,478) 1,498	(2,948) 2,242	(408) 341	(525) 416	8	(490) 494
4 神戸		現況	神鋼記念病院	(1,631) 1,718	(948) 1,087	(1,360) 1,262	(391) 424	(86) 92	6	(107) 119
5 阪神南		現況	関西労災病院	(2,233) 2,073	(2,829) 2,829	(7,851) 7,755	(634) 599	(108) 145	11	(873) 595
6 阪神南		現況	兵庫医科 大学病院	(2,190) 2,260	(1,441) 1,688	(4,646) 6,129	(593) 587	(405) 453	22	(1,168) 1,239
7 阪神南		現況	県立尼崎総合MC	(2,123) 2,312	(1,404) 1,412	(1,228) 1,960	(620) 379	(246) 179	19	(837) 866
8 阪神北		現況	近畿中央病院	(512) 522	(406) 402	(1,085) 1,084	(143) 205	(97) 93	5	(65) 155
9 阪神北		現況	市立伊丹病院	(1,253) 985	(541) 583	(1,406) 1,405	(230) 241	(156) 112	11	(470) 530
10 東播磨	★	現況	県立がんC	(2,726) 2,610	(2,214) 1,872	(5,162) 5,286	(800) 849	(362) 361	22	(1,936) 1,818

がん診療連携拠点病院の診療実績等

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

・()内は令和3年10月提出の数値、下段は令和4年10月提出の数値

医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター	
				院内がん登 録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手 術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住するがん患者 の 診療の割合(%) 2割程度	相談件数	
11	東播磨		現況	加古川中央市民病院	(1,940) 1,831	(1,560) 1,297	(2,711) 2,744	(364) 369	(160) 214	21	(230) 368
12	北播磨		現況	北播磨総合MC	(1,457) 1,580	(835) 972	(2,678) 2,412	(278) 250	(99) 146	49	(376) 385
13	中播磨		現況	姫路赤十字病院	(2,311) 2,291	(1,835) 1,939	(2,058) 2,835	(484) 483	(421) 412	27	(1,408) 1,280
14	中播磨		現況	姫路MC	(1,470) 1,331	(935) 916	(2,572) 2,546	(473) 385	(200) 298	21	(155) 224
15	但馬		現況	公立豊岡病院	(1,126) 961	(649) 653	(1,191) 1,082	(128) 120	(99) 40	44	(29) 54
16	淡路		現況	県立淡路MC	(808) 791	(681) 512	(2,897) 3,493	(162) 206	(47) 48	37	(773) 771

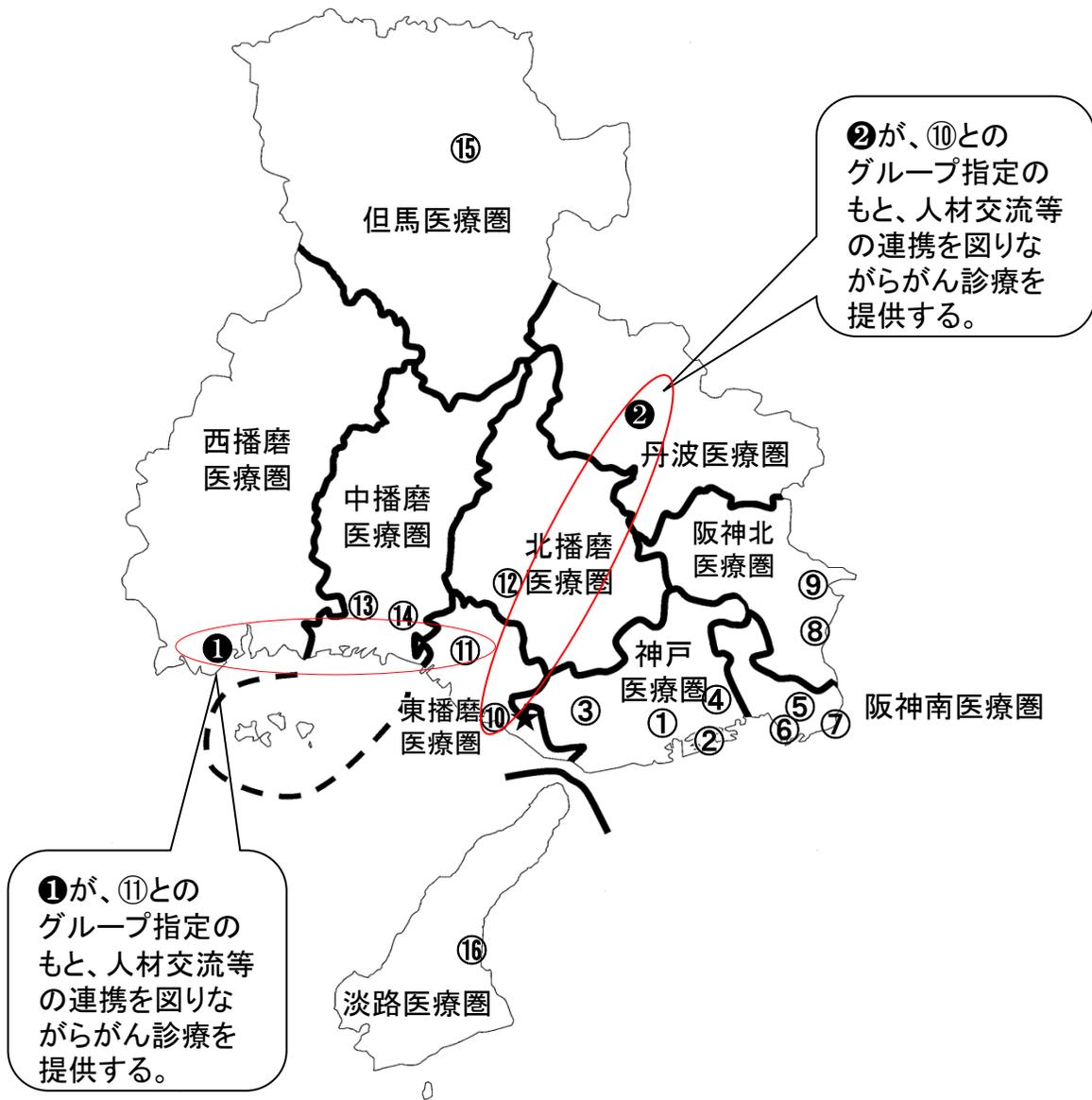
地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談 支援センター
			院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数
① 西播磨		赤穂市民病院	(536)	(365)	(525)	(79)	(25)	(1,421)
			367	319	625	91	17	1,139
② 丹波	類型 変更	県立丹波MC	(420)	(295)	(451)	(120)	(184)	(1,248)
			488	321	486	82	175	1,181

兵庫県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



- ①神戸大学医学部附属病院（現況）
- ②神戸市立医療センター中央市民病院（現況）
- ③神戸市立西神戸医療センター（現況）
- ④神鋼記念病院（現況）
- ⑤独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院（現況）
- ⑥兵庫医科大学病院（現況）
- ⑦兵庫県立尼崎総合医療センター（現況）
- ⑧公立学校共済組合近畿中央病院（現況）
- ⑨市立伊丹病院（現況）
- ⑩兵庫県立がんセンター★（現況）
- ⑪加古川中央市民病院（現況）
- ⑫北播磨総合医療センター（新規）
- ⑬姫路赤十字病院（現況）
- ⑭独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（現況）
- ⑮公立豊岡病院組合立豊岡病院（現況）
- ⑯兵庫県立淡路医療センター（現況）
- ⑰赤穂市民病院（現況）
- ⑱兵庫県立丹波医療センター（類型変更）

本県の拠点病院整備に関する基本的な考え方

- ・ 県内すべてののがんの医療圏に、がん医療提供体制を整備
- ・ 医療圏の人口規模、患者の通院圏及び拠点病院間の診療機能、役割分担等を考慮し、必要な場合は相乗的な効果を期待して複数箇所を整備

県がん対策推進計画上の重点対策がん

- ・ 肝がん（年齢調整死亡率の全国平均を上回る状況への対応）
- ・ 肺がん（本県が中皮腫好発地域であることから、中皮腫を含む肺がん対策の実施）
- ・ 小児・AYA世代のがん（小児がん拠点病院を中心とした診療ネットワークの構築）

「肺がん」診療の核となる病院

<医療機関名>

<役割・特徴>

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ○独)姫路医療センター | 中播磨、西播磨医療圏の肺がん手術の大半をカバー |
| ○神戸大学医学部附属病院 | 他圏域から患者を受入れ |
| ○神戸市立医療センター
中央市民病院 | |
| ○神戸市立
西神戸医療センター | |
| ○独)関西労災病院 | 全県的なアスベスト疾患に対応 |
| ○兵庫医科大学病院 | |
| ○県立尼崎総合医療センター | |

「肝がん」診療の核となる病院

<医療機関名>

<役割・特徴>

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| ○姫路赤十字病院 | 中播磨、西播磨医療圏の肝がん手術の大半をカバー |
| ○神戸大学医学部附属病院 | 先進医療(経皮的肝灌流、生体肝移植等)により高度進行肝がんに対応 |
| ○兵庫医科大学病院 | 肝疾患診療連携拠点病院 |

「小児・AYA世代のがん」診療の核となる病院
(がん診療連携拠点病院のみ掲載)

<医療機関名>

<役割・特徴>

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| ○神戸大学医学部附属病院 | 地域の小児がん診療を行う連携病院 |
| ○県立尼崎総合医療センター | |
| ○(県立がんセンター) | 特定のがん種等についての診療を行う連携病院 |
| ○神戸市立
西神戸医療センター | 小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院 |
| ○兵庫医科大学病院 | |
| ○加古川中央市民病院 | |
| ○北播磨総合医療センター | |
| ○姫路赤十字病院 | |

県立がんセンター・子ども病院を中心に、圏域内に複数整備された病院が、全県的役割を担う

地域がん診療病院

類型変更で指定推薦を行う 医療機関の特徴

- ・東播磨圏域の兵庫県立がんセンターとのグループ指定により、引き続き丹波医療圏域内の専門的ながん医療の提供が可能なことから、類型変更し地域がん診療病院として推薦する。

兵庫県立丹波医療センター（病床数320床）

- ・地域がん診療病院として、引き続き専門的ながん医療を提供することで、隣接する阪神北、北播磨、但馬医療圏への患者流出の抑制を期待。
- ・隣接する他県の医療圏域からもがん患者を受け入れ、多種のがんに対して、集学的治療を実施。
- ・地域の医療従事者や住民を対象とした講習会・研修会の開催により、圏域内の医療水準及び住民のがん治療に対する理解を促進。

奈良県

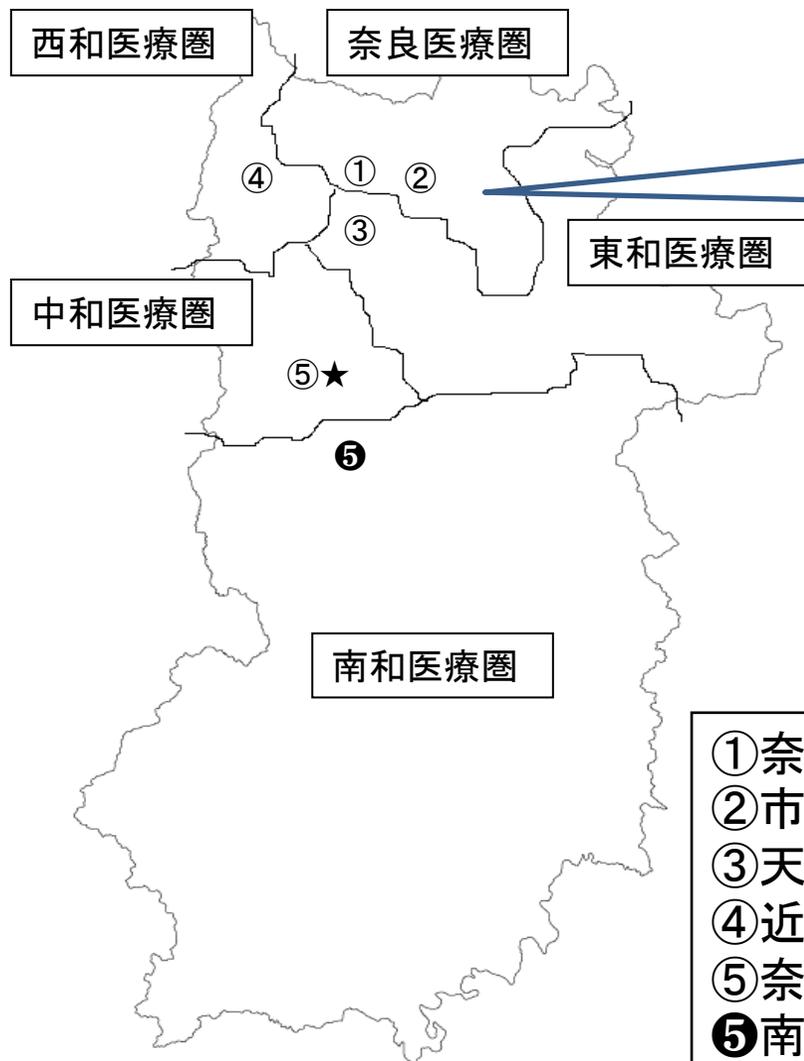
奈良県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域 がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院						
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳					
							新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		
1 奈良医療圏	276.94	349,943	26.9	1,263.6	22	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 東和医療圏	657.77	191,600	14.7	291.3	12	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 西和医療圏	168.49	332,465	25.6	1,973.2	18	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 中和医療圏	240.79	364,924	28.1	1,515.5	19	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 南和医療圏	2,346.92	60,328	4.6	25.7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	3,690.91	1,299,260	100	5,069.3	75	2	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

奈良県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|----------------|
| ①奈良県総合医療センター | (令和5年4月1日)(現況) |
| ②市立奈良病院 | (令和5年4月1日)(現況) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (令和5年4月1日)(更新) |
| ④近畿大学奈良病院 | (令和5年4月1日)(更新) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (令和5年4月1日)(現況) |
| ⑤南奈良総合医療センター | (令和5年4月1日)(現況) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

・()内は令和4年の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 奈良		現況	奈良県総合医療センター	(1,701) 1,654	(1,883) 1,362	(1,338) 1,896	(602) 562	(145) 124	(28) 22	(700) 639
2 奈良		現況	市立奈良病院	(869) 912	(726) 850	(2,152) 2,260	(304) 203	(101) 79	(29) 24	(2,184) 3,111
3 東和		更新	天理よろづ相談所病院	(1,999) 1,901	(1,315) 1,252	(2,256) 2,323	(462) 395	(94) 62	(42) 42	(594) 454
4 西和		更新	近畿大学奈良病院	(1,196) 1,179	(1,655) 1,621	(1,512) 1,486	(276) 309	(108) 113	(39) 24	(1,368) 1,431
5 中和	★	現況	奈良県立医科大学附属病院	(2,597) 2,290	(1,437) 1,405	(3,011) 3,223	(730) 1,000	(141) 174	(16) 18	(581) 666

地域がん診療病院の診療実績等

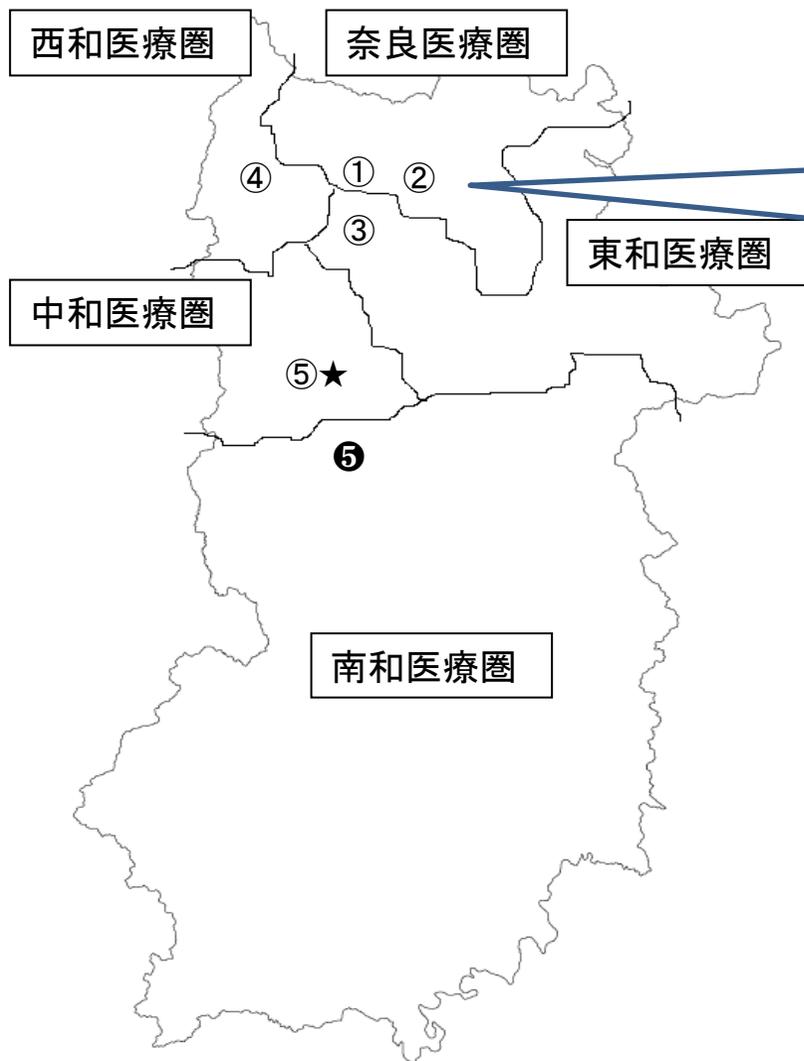
資料 3 - 2

・上段は令和4年の数値、下段は令和5年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する 新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住する がん患者の診療の 割合(%)	相談件数 (年間)
⑤	南和	現況	南奈良総合医療センター	(654) 402	(755) 194	(1,146) 925	実施なし	(51) 47	(49) 45	(23) 32

奈良県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)
①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- ① 奈良県総合医療センター (現況)
- ② 市立奈良病院 (現況)
- ③ 天理よろづ相談所病院 (更新)
- ④ 近畿大学奈良病院 (更新)
- ⑤ 奈良県立医科大学附属病院★ (現況)
- ⑤ 南奈良総合医療センター (現況)

◆今回のがん診療連携拠点病院等の推薦・現況報告に係る奈良県の考え方について

●第3期奈良県がん対策推進計画（平成30年3月策定）におけるがん診療連携拠点病院の位置づけ

都道府県がん診療連携拠点病院〔奈良県立医科大学附属病院〕

- ・県のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・「奈良県がん診療連携協議会」を運営し、地域がん診療連携拠点病院等と連携して、県全体におけるがん診療の水準の向上とがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療連携拠点病院〔奈良県総合医療センター、市立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院〕

- ・地域のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・都道府県がん診療連携拠点病院と連携して、その属する二次医療圏内のがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療病院〔南奈良総合医療センター〕

- ・地域のがん診療体制の中核的な存在として、がん診療連携拠点病院とのグループ指定により専門的ながん医療を提供



すべての医療圏に
拠点病院を整備

県内で、安全かつ安心
な質の高いがん医療
の提供を！！

●本県のがん診療連携拠点病院の現状

医療圏	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏
対象市町村数	1（奈良市のみ）	9	9	8	12
がん診療連携拠点病院	奈良県総合医療センター 市立奈良病院	天理よろづ相談所病院	近畿大学奈良病院	奈良県立医科大学附属病院	南奈良総合医療センター
人口割合（％）	26.9	14.7	25.6	28.1	4.6

●同一医療圏で重複するがん診療連携拠点病院の役割（奈良医療圏）

＜奈良医療圏の特徴＞

- ・奈良医療圏は奈良市のみで、市部では面積が最も大きく、県総面積の7.5%を占め、東西長32.02kmと東西に長い。
- ・奈良県の人口の4分の1以上を占める。

＜奈良医療圏におけるがん診療の状況＞

奈良県総合医療センター	相互協力により質の高い がん医療を提供！	市立奈良病院
主に奈良医療圏の西部のがん患者を受け持つ		主に奈良医療圏の東部のがん患者を受け持つ
治療：高度な治療や手術支援ロボットの導入の先進的な療法の実施 緩和ケア：緩和ケアチームの強化		治療：主に大腸がんの内視鏡手術や乳がん手術を多く実施 緩和ケア：緩和ケア病床の設置
へき地医療拠点病院としてへき地へ医師を派遣 へき地における住民の医療を確保・支援し、がん予防や早期発見の機能を担うなど地域医療を補完		

和歌山県

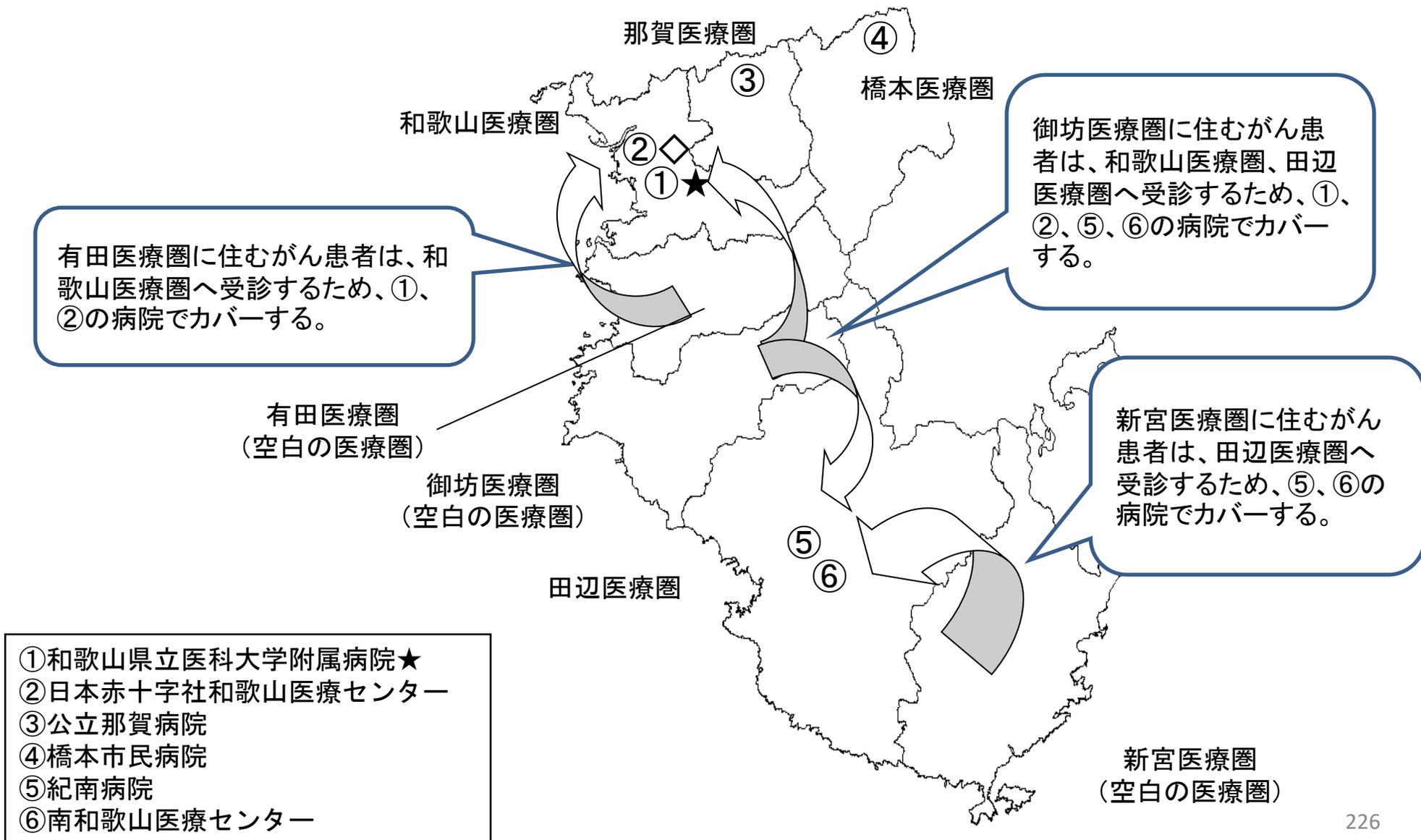
和歌山県のがんの医療圏の概要

(令和5年9月1日現在)

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
和歌山医療圏	438.25	403,580	45.0	929.9	43	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
那賀医療圏	266.72	111,587	12.5	418.4	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
橋本医療圏	463.42	80,605	9.0	173.9	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
有田医療圏	474.79	66,946	7.5	141.0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御坊医療圏	579.02	57,923	6.5	100.0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田辺医療圏	1,579.99	116,709	13.0	73.9	9	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
新宮医療圏	922.45	58,581	6.5	63.5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4,724.64	895,931	100	1891.6	83	3	3	0	6	0	0	0	0	0	0

和歌山県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

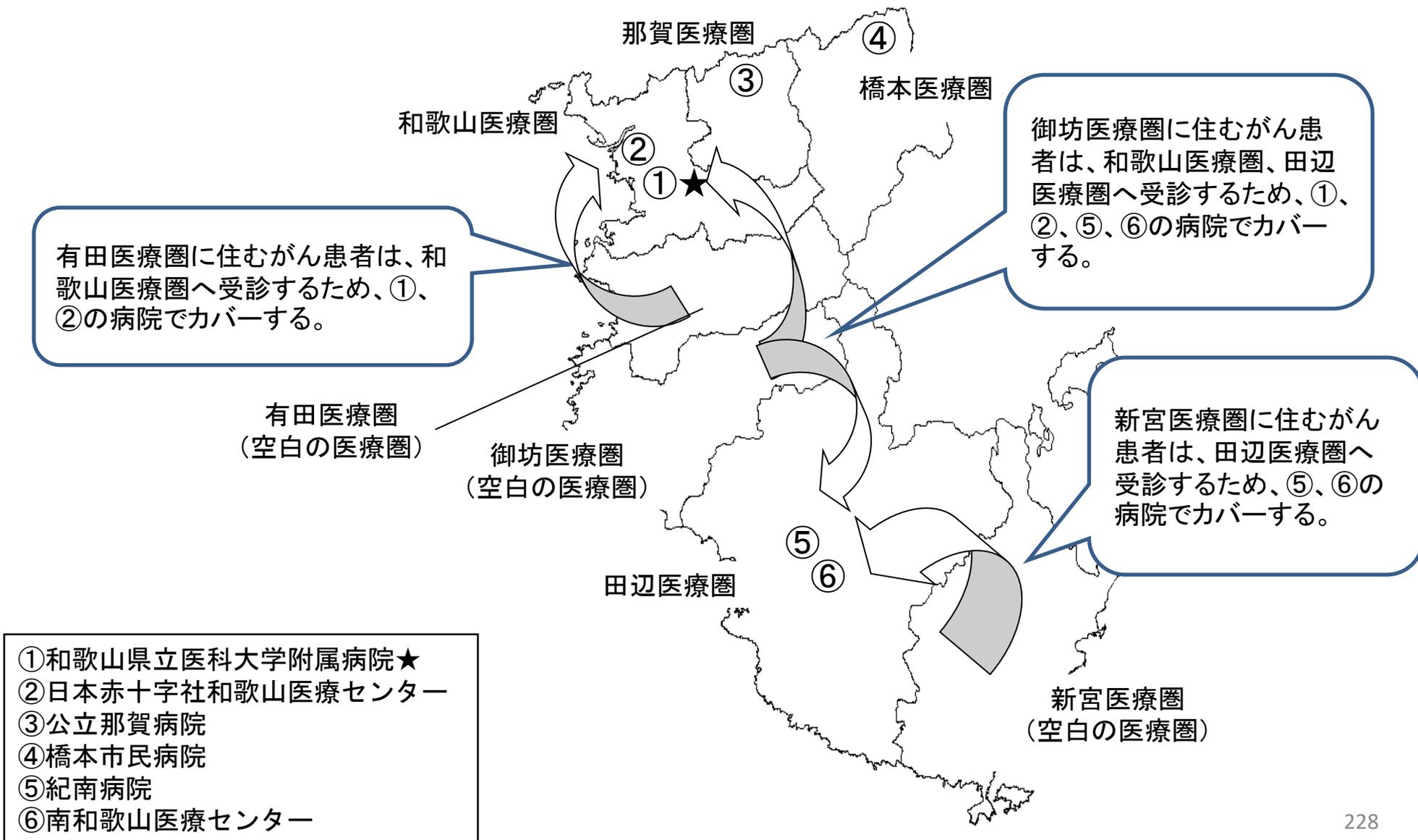
・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★: 都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1 和歌山	★	現況報告	和歌山県立医科大学附属病院	(3,158) 3,085	(2,382) 2,149	(10,358) 17,660	(878) 817	(341) 365	(29) 28	(6,655) 8,007
2 和歌山		現況報告	日本赤十字社和歌山医療センター	(2,602) 2,693	(1,964) 1,872	(3,718) 4,112	(625) 674	(522) 522	(33) 36	(1,491) 1,503
3 那賀		更新	公立那賀病院	(449) 400	(455) 368	(1,697) 1,532	(81) 107	(90) 104	(56) 37	(1,205) 1,362
4 橋本		更新	橋本市民病院	(420) 383	(284) 286	(355) 316	(160) 90	(98) 121	(54) 26	(844) 699
5 田辺		更新	紀南病院	(772) 733	(359) 389	(1,139) 931	(204) 207	(132) 94	(36) 38	(786) 940
6 田辺		現況報告	南和歌山医療センター	(808) 783	(447) 521	(1,611) 2,850	(214) 205	(144) 149	(39) 55	(1,874) 475

和歌山県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



今回の指定推薦に係る和歌山県の考え方

今回の指定推薦にあたっては、7つの二次医療圏の内3医療圏で計3施設の指定更新を推薦したい。

県がん診療連携拠点病院

和歌山県立医科大学附属病院(和歌山医療圏)

県内全域をカバー

- ◆和歌山県がん診療連携協議会の運営（地域連携・相談支援、がん登録、緩和ケア・研修教育、化学療法 の各部会）
- ◆地域がん診療連携拠点病院への支援 ◆がん診療に携わる医療従事者の養成 等

北部（和歌山、那賀、橋本、有田）

地域がん診療連携拠点病院

南部（御坊、田辺、新宮）

日本赤十字社和歌山医療センター(和歌山医療圏)

- ◆最も人口の多い和歌山医療圏で、県立医科大学と連携して高度な医療を提供
- ◆患者数が最も多く、隣接する有田医療圏や大阪府南部からも患者受け入れ

公立那賀病院(那賀医療圏・更新)

- ◆圏域内で中心的な病院であり、隣接する医療圏からも患者は多い
- ◆在宅緩和ケアなど地域との連携に積極的に取り組んでいる

橋本市民病院(橋本医療圏・更新)

- ◆県北東部で中心的な病院であり、隣接する奈良県南西部からも患者は多い
- ◆橋本医療圏で唯一の放射線治療が可能な病院

紀南病院(田辺医療圏・更新)

- ◆県南部で南和歌山医療センターと共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆地域の医療機関との連携も強い

協力・連携

南和歌山医療センター(田辺医療圏)

- ◆県南部で紀南病院と共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆緩和ケア病棟を備え、患者の病状に応じた医療体制を提供

未充足項目に関する考え方

- 【公立那賀病院】
 - ・専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数
⇒ 令和5年10月に、基準を満たす医師を配置済み
- 【紀南病院】
 - ・悪性腫瘍の手術件数（基準：年間400件以上）
 - ・がんに係る薬物療法のべ患者数（基準：年間1,000人以上）
⇒ 令和5年は要件である基準を達成する見込み

同一医療圏での複数設置について

和歌山医療圏

県内の人口の45%が集まる医療圏であり、県全体のがん診療の中心的な役割を担う和歌山県立医科大学附属病院と、診療実績も多い日本赤十字社和歌山医療センターで、当該医療圏と隣接する空白医療圏の有田医療圏のがん患者もカバーする必要があることから、複数設置が必要

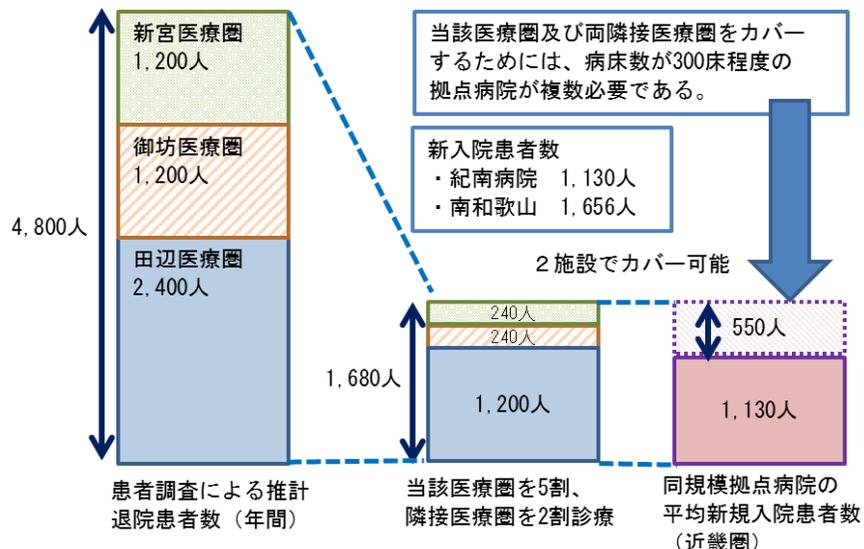
田辺医療圏

隣接空白医療圏の御坊、新宮両医療圏の患者を連携・協力のもとカバーしており、医師数の少ない当該医療圏ではどちらか一方の施設だけでは困難であるため、複数設置は必要。将来的に、両隣の空白医療圏内の基幹病院が「地域がん診療病院」の指定を目指すためのグループ連携を行っていく上でも、両施設の協力・連携が必要。
地域医療構想においても病院機能の分化・連携を進めているところであり、がん治療においても病院医師の専門性に基づき治療対象のがん種の棲み分けなどに取り組んでいる。

○田辺医療圏における地域拠点病院のそれぞれの役割（強み）

	紀南病院	南和歌山医療センター
がん種 (我が国に多いがんを除く)	咽頭がん、甲状腺がん 副腎腫瘍 等	脳腫瘍、脊椎腫瘍 縦隔腫瘍 等
診療機能	ロボット支援下内視鏡手術	緩和ケア病棟

○田辺医療圏及び隣接医療圏の診療について



空白医療圏に関する考え方

本県では空白医療圏が3圏域存在するが、それぞれ隣接医療圏等でカバーする。
また、御坊医療圏、新宮医療圏は、県が独自に指定する「県がん診療推進病院」を設置し、一定のがん診療機能の均てん化を図っている。

有田医療圏	和歌山医療圏に隣接。交通アクセスも良いことから和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターでカバー
御坊医療圏	田辺医療圏に隣接。ひだか病院（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）や和歌山医療圏（和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター）でカバー
新宮医療圏	田辺医療圏に隣接。新宮市立医療センター（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）でカバー

鳥 取 県

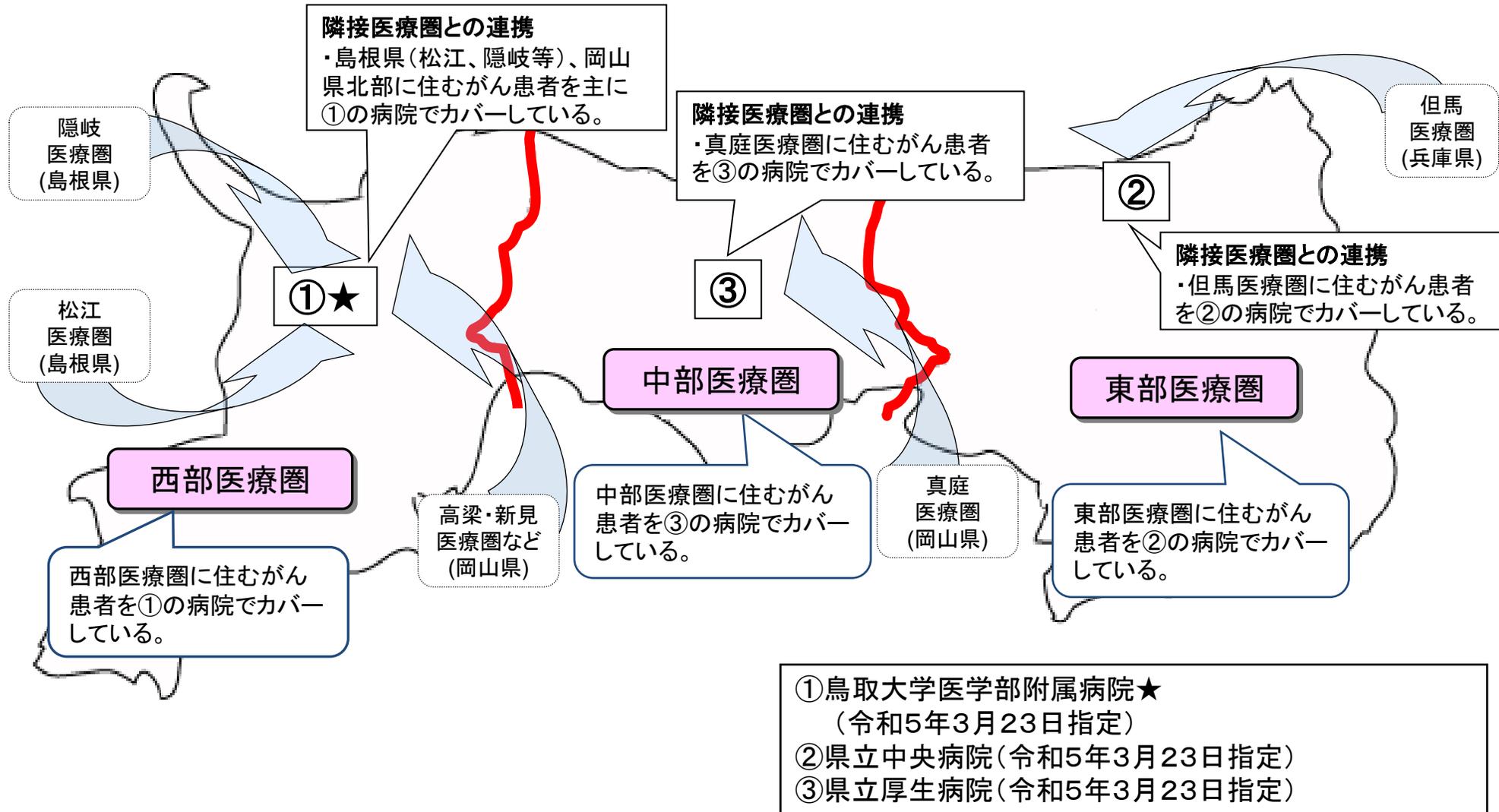
鳥取県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏域名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計
東部医療圏	1,518.67	218,213	40.6%	143.7	14	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
中部医療圏	780.63	95,256	17.7%	122.0	10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,207.98	224,299	41.7%	185.7	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3,507.28	537,768	100.0%	153.3	43	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0

鳥取県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1 西部医療圏	★	現況	鳥取大学医学部附属病院	(1,816) 1,899	(3,486) 1,662	(3,546) 1,999	(417) 424	(79) 105	(64) 64	(792) 1,272
2 東部医療圏		現況	県立中央病院	(1,153) 1,178	(462) 600	(1,102) 1,314	(201) 209	(175) 111	(42) 48	(8,744) 7,680
3 中部医療圏		現況	県立厚生病院	(560) 538	(476) 494	(338) 560	(107) 110	(65) 65	(80) 81	(3,097) 2,804

★: 都道府県拠点

※()内は令和3年、下段は令和4年の数値

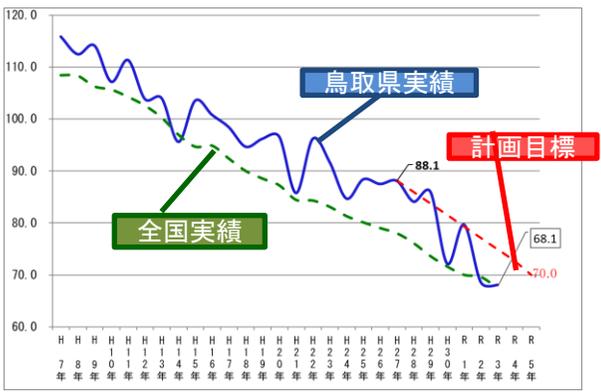
指定推薦に係る鳥取県の考え方

鳥取県の現状

- がんは昭和57年以降死因の第1位となり、全死亡の約3割を占めている。
- 「全国がん登録」のデータを基に公表された令和元年の年齢調整罹患率は全国ワースト4位
- 75歳未満年齢調整死亡率は、令和3年は68.1と全国28位であったが、平成29年、令和元年においては46位、45位であり、改善基調が確かなものか注視が必要

がん対策は喫緊の重要課題！

がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移



都道府県別がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移(順位)

都道府県	順位	2017		2018		2019		2020		2021	
		都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値
全部位	男女計	23	石川県 71.8	神奈川県 70.2	香川県 69.1	鳥取県 68.6	徳島県 66.3	千歳県 66.4	千歳県 66.4	千歳県 66.4	千歳県 66.4
全部位	男女計	24	宮城県 72.2	東京都 70.3	千葉県 69.3	R2: 23位	兵庫県 66.9	兵庫県 66.9	兵庫県 66.9	兵庫県 66.9	兵庫県 66.9
全部位	男女計	25	埼玉県 72.3	埼玉県 70.5	鹿児島県 70.5	宮城県 70.1	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7
全部位	男女計	26	東京都 72.4	宮城県 70.6	宮城県 70.1	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7	宮城県 67.7
全部位	男女計	27	愛知県 72.6	山形県 70.6	福島県 70.5	福島県 67.9	福島県 67.9	福島県 67.9	福島県 67.9	福島県 67.9	福島県 67.9
全部位	男女計	28	千葉県 73.2	新潟県 72.0	福島県 71.2	山口県 70.0	鳥取県 68.1	鳥取県 68.1	鳥取県 68.1	鳥取県 68.1	鳥取県 68.1
全部位	男女計	29	兵庫県 73.4	群馬県 72.2	群馬県 71.3	徳島県 70.7	徳島県 68.2	徳島県 68.2	徳島県 68.2	徳島県 68.2	徳島県 68.2
全部位	男女計	30	鳥取県 73.5	鳥取県 72.2	佐賀県 71.6	鹿児島県 71.0	R3: 28位	鹿児島県 71.0	鹿児島県 71.0	鹿児島県 71.0	鹿児島県 71.0
全部位	男女計	31	愛媛県 75.2	H30: 30位	佐賀県 71.9	佐賀県 71.3	佐賀県 71.3	佐賀県 71.3	佐賀県 71.3	佐賀県 71.3	佐賀県 71.3
全部位	男女計	32	山口県 75.4	H29: 46位	新潟県 72.0	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5
全部位	男女計	33	宮城県 75.5	H1: 45位	新潟県 72.0	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5	愛媛県 71.5
全部位	男女計	34	茨城県 76.5	山口県 74.1	茨城県 73.2	埼玉県 71.8	埼玉県 71.8	埼玉県 71.8	埼玉県 71.8	埼玉県 71.8	埼玉県 71.8
全部位	男女計	35	新潟県 77.0	栃木県 74.3	山口県 73.5	沖縄県 72.1	岩手県 69.2	岩手県 69.2	岩手県 69.2	岩手県 69.2	岩手県 69.2
全部位	男女計	36	大阪府 77.5	茨城県 74.4	愛媛県 73.6	香川県 72.7	鳥取県 71.1	鳥取県 71.1	鳥取県 71.1	鳥取県 71.1	鳥取県 71.1
全部位	男女計	37	栃木県 77.6	福岡県 74.4	福岡県 74.9	福岡県 72.7	福岡県 71.1	福岡県 71.1	福岡県 71.1	福岡県 71.1	福岡県 71.1
全部位	男女計	38	和歌山県 77.9	和歌山県 75.2	長崎県 74.9	高知県 72.8	佐賀県 71.1	佐賀県 71.1	佐賀県 71.1	佐賀県 71.1	佐賀県 71.1
全部位	男女計	39	福島県 78.7	福島県 75.7	大阪府 75.1	大阪府 73.5	大阪府 71.5	大阪府 71.5	大阪府 71.5	大阪府 71.5	大阪府 71.5
全部位	男女計	40	長崎県 79.0	大阪府 75.8	和歌山県 75.6	岩手県 74.2	高知県 72.2	高知県 72.2	高知県 72.2	高知県 72.2	高知県 72.2
全部位	男女計	41	佐賀県 79.8	佐賀県 77.2	油断県 76.0	福岡県 74.3	長崎県 72.3	長崎県 72.3	長崎県 72.3	長崎県 72.3	長崎県 72.3
全部位	男女計	42	鳥取県 80.3	高知県 77.4	福岡県 74.3	宮城県 74.7	宮城県 73.3	宮城県 73.3	宮城県 73.3	宮城県 73.3	宮城県 73.3
全部位	男女計	43	H29: 46位	岩手県 78.0	宮城県 74.7	宮城県 74.7	宮城県 73.3	宮城県 73.3	宮城県 73.3	宮城県 73.3	宮城県 73.3
全部位	男女計	44	H29: 46位	長崎県 78.7	高知県 78.3	高知県 78.3	福島県 74.1	福島県 74.1	福島県 74.1	福島県 74.1	福島県 74.1
全部位	男女計	45	北海道 84.1	秋田県 80.0	鳥取県 79.7	長崎県 77.0	秋田県 77.2	秋田県 77.2	秋田県 77.2	秋田県 77.2	秋田県 77.2
全部位	男女計	46	鳥取県 86.0	北海道 81.6	北海道 82.0	北海道 79.9	北海道 77.5	北海道 77.5	北海道 77.5	北海道 77.5	北海道 77.5
全部位	男女計	47	青森県 88.9	青森県 91.1	青森県 90.8	青森県 87.6	青森県 86.9	青森県 86.9	青森県 86.9	青森県 86.9	青森県 86.9
全部位	男女計	47	全国 73.8	全国 71.6	全国 70.0	全国 69.8	全国 69.8	全国 69.8	全国 69.8	全国 69.8	全国 69.8

第3次鳥取県がん対策推進計画

- 全体目標: 1 がんによる死亡者の減少
 75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人対)を70.0未満とする。(男性:90.0未満、女性50.0未満)
 2 がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する。

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備するが、必要に応じて複数を整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(鳥根県、岡山県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

島根県

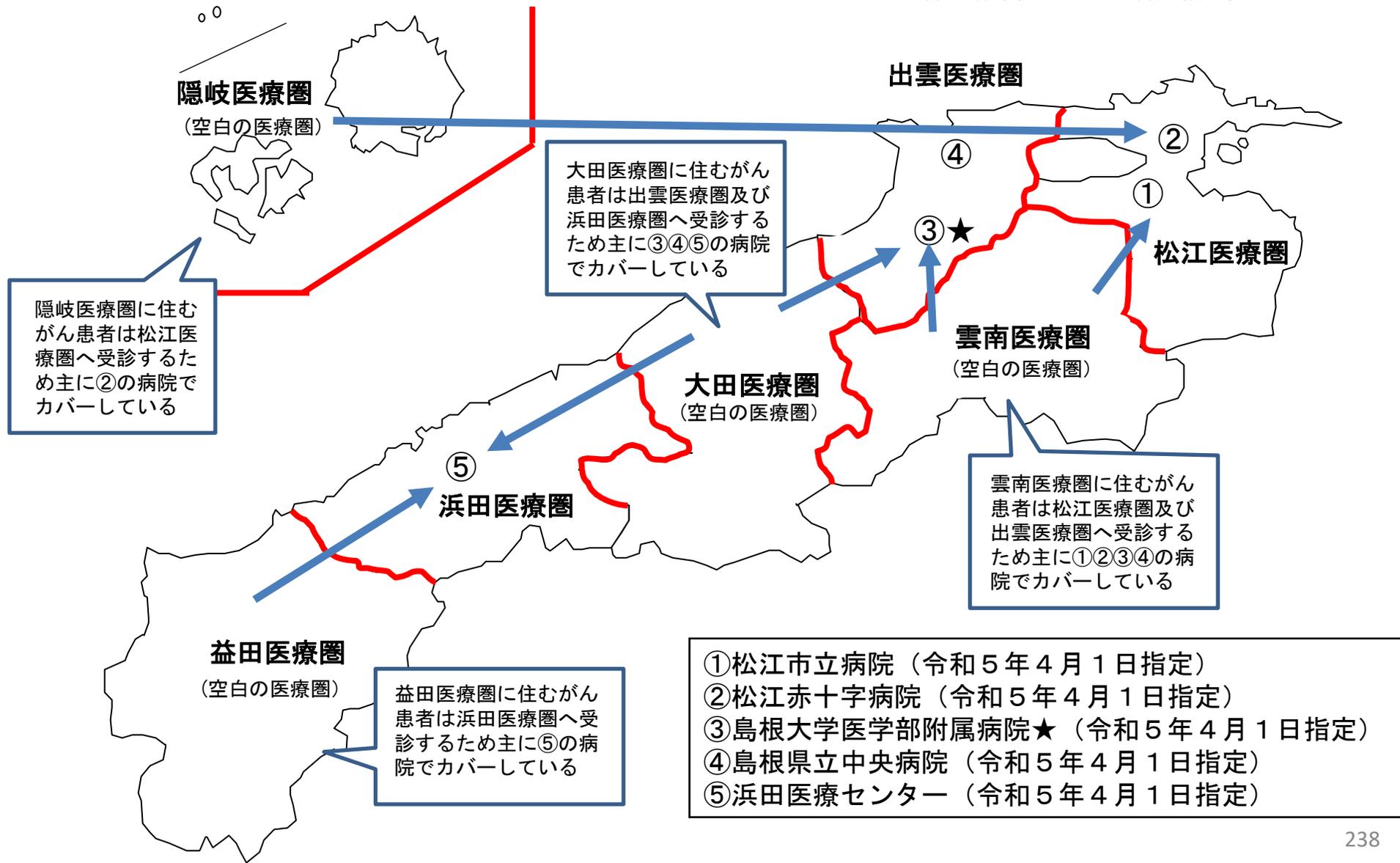
島根県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院							
						推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳						
							新規申請	指定更新	指定類型 変更		現況報告	新規申請	指定更新		指定類型 変更	現況報告	新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告	
1 松江	993.92	234,307	36.1	235.7	13	0			2	0				0							
2 雲南	1,164.07	49,372	7.6	42.4	5	0				0				0							
3 出雲	624.32	170,961	26.3	273.8	11	0			2	0				0							
4 大田	1,243.97	47,895	7.4	38.5	4	0				0				0							
5 浜田	958.88	73,526	11.3	76.7	6	0			1	0				0							
6 益田	1,376.72	55,134	8.5	40.0	5	0				0				0							
7 隠岐	345.93	18,484	2.8	53.4	2	0				0				0							
計	6,707.81	649,679	100.0	96.9	46	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

島根県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

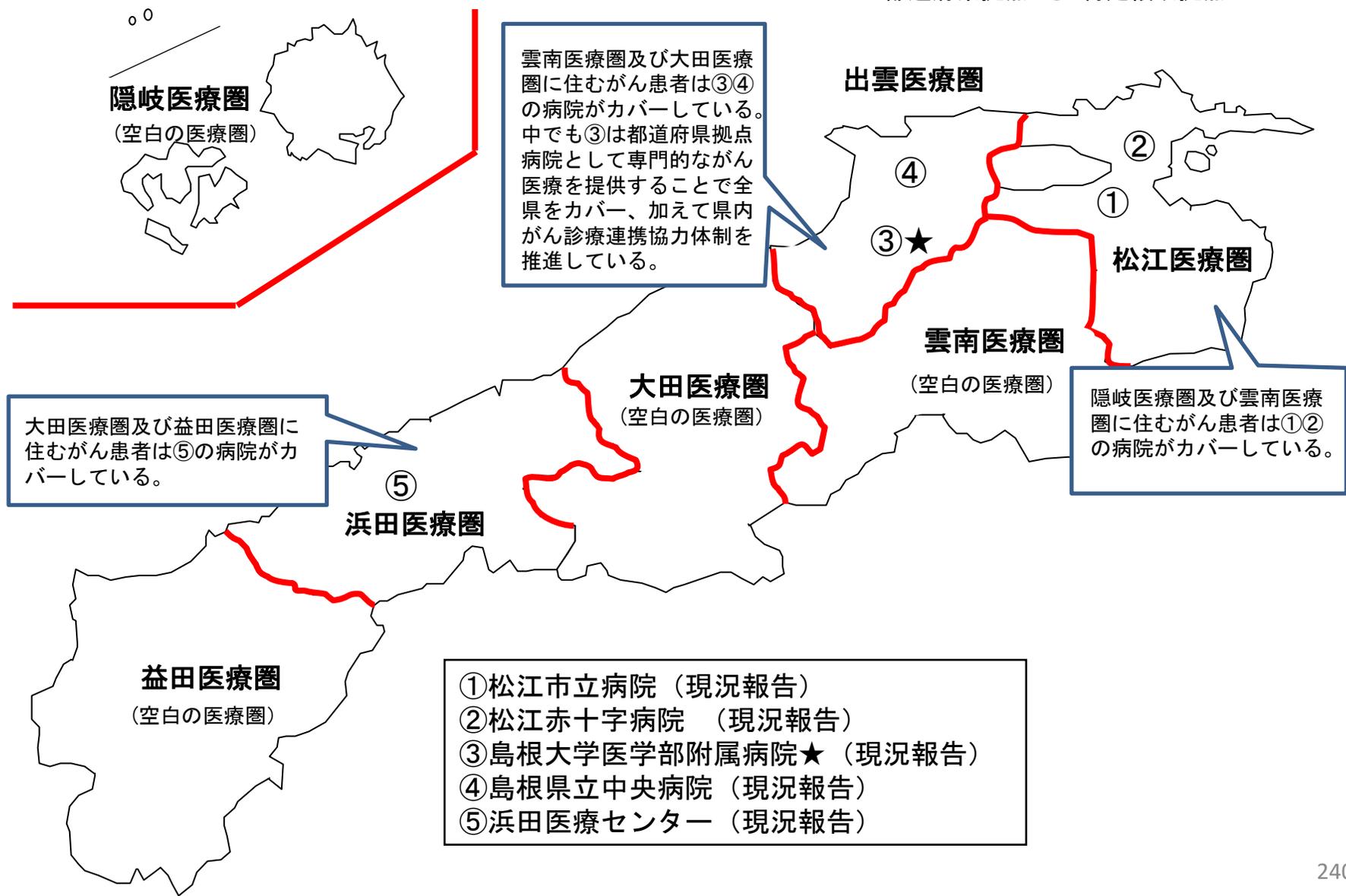
資料3-1-①

- ・ () 内は令和3年1月～12月の数値、下段は令和5年10月提出の数値
 - ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】，【資料3-1-①-2】としてください)
- ★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 松江		現況報告	松江市立病院	(705) 663	(501) 433	(2,016) 1,818	(236) 207	(277) 255	(31) 23	(307) 1,530
2 松江		現況報告	松江赤十字病院	(1,196) 1,123	(1,355) 1,571	(1,406) 1,358	(219) 214	(204) 195	(54) 43	(841) 1,187
3 出雲	★	現況報告	島根大学医学部附属病院	(1,372) 1,462	(1,364) 1,288	(1,382) 1,347	(508) 506	(321) 345	(39) 43	(2,401) 2,274
4 出雲		現況報告	島根県立中央病院	(1,028) 988	(494) 546	(1,177) 1,114	(235) 219	(255) 260	(44) 41	(1,316) 1,248
5 浜田		現況報告	浜田医療センター	(874) 855	(431) 435	(1,228) 1,253	(156) 120	(54) 161	(52) 96	(559) 599

島根県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点



新規指定及び指定更新推薦に係る島根県の考え方

1. 患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

東西に長く離島や中山間地域からなる本県特有の地理的要因に関わらず、県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられ、患者や家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している状態を目指す。

2. がん医療体制の目指すべき姿

- ①拠点病院体制の維持とがん医療機能の向上
- ②拠点病院と地域の病院の連携・機能分担の促進
- ③都道府県拠点病院を中心に集約化されている医療等へのアクセスの推進

3. 推薦の概要

目指すべき姿の実現のため、都道府県拠点病院及び地域拠点病院について、引き続き推薦を行う。

4. 指定により期待される効果

拠点病院と空白の医療圏及び拠点病院のある医療圏にある地域の病院等との連携・機能分担を促進させることにより、「できる治療は患者に身近な病院・場所で開催する仕組み」を実現する。

岡山県

岡山県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

がん医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	今回新 規指定	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回 更新 病院数	計	
県南東部	1,906.53	899,996	49	472.1	75	2	2	1	5	0	0	0	0	0	0
県内西部	1,124.51	686,433	37	610.4	53	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高梁・新見	1,340.28	52,981	3	39.5	8	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
真庭	895.64	41,072	2	45.9	7	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
津山・英田	1,847.66	166,534	9	90.1	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
計	7,114.62	1,847,016	100	259.6	159	4	3	1	8	0	0	1	1	2	

岡山県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

川崎医科大学附属病院は、高梁・新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。岡山大学病院は県拠点病院として、他の拠点病院等を牽引。

岡山済生会総合病院は、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

岡山赤十字病院は、相談支援について中心的役割を担う。

岡山医療センターは、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

- ①岡山大学病院★
(令和5年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院
(令和5年4月1日)
- ③岡山赤十字病院
(令和5年4月1日)
- ④岡山医療センター
(令和5年4月1日)
- ⑤川崎医科大学附属病院
(令和5年4月1日)
- ⑥倉敷中央病院
(令和5年4月1日)
- ⑦津山中央病院
(令和5年4月1日)
- ④金田病院
(令和5年4月1日)
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院
(令和5年4月1日)
※⑤を中心に①ともグループ指定

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

①	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者延べ数	年間新入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	県南東部	★	現況報告	岡山大学病院	7,474	37.8	(3,277) 2,568	(1,810) 1,744	(6,474) 6,796	(719) 707	(433) 3,94	(18.2) 21	(1,958) 1,794
②	県南東部		現況報告	岡山済生会総合病院	2,908	25.0	(1,219) 1,259	(1,061) 973	(1,031) 1,115	(223) 216	(150) 128	(8.1) 13	(997) 1,268
③	県南東部		更新	岡山赤十字病院	1,658	15.7	(1,173) 1,431	(746) 696	(1,570) 1,715	(285) 245	(187) 192	(8.4) 7	(775) 755
④	県南東部		更新	岡山医療センター	2,863	25.1	(1,163) 1,219	(734) 709	(1,351) 1,400	(249) 273	(56) 156	(7.0) 7	(2,354) 2,614
⑤	県南東部		新規指定	川崎医科大学総合医療センター	2,247	26.9	787	648	1,416	419	114	7	1,902
⑥	県南西部		現況報告	川崎医科大学附属病院	3,521	22.8	(1,752) 1,438	(1,015) 1,014	(6,309) 6,198	(387) 362	(181) 151	(14.7) 15	(2,002) 1,893
⑦	県南西部		現況報告	倉敷中央病院	6,361	22.0	(3,173) 3,133	(2,182) 2,157	(4,605) 4,662	(921) 850	(236) 225	(40.2) 40	(2,858) 3,062
⑧	津山英田		更新	津山中央病院	1,784	16.8	(1,371) 1,136	(731) 537	(1,005) 1,125	(259) 290	(105) 66	(54.4) 41	(1,063) 729

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
④	真庭	現況報告	金田病院	162	12.8	(181) 68	(9) 8	(255) 125	実施なし	(7) 12	(693) 331
⑤	高梁・新見	更新	高梁中央病院	93	6.3	(72) 126	(20) 26	(22) 19	実施なし	(34) 19	(259) 333

岡山県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

高梁・新見医療圏及び真庭医療圏に、引き続き地域がん診療病院を指定することにより、患者が自らの医療圏において基本的ながん診療を受けることが可能となる。

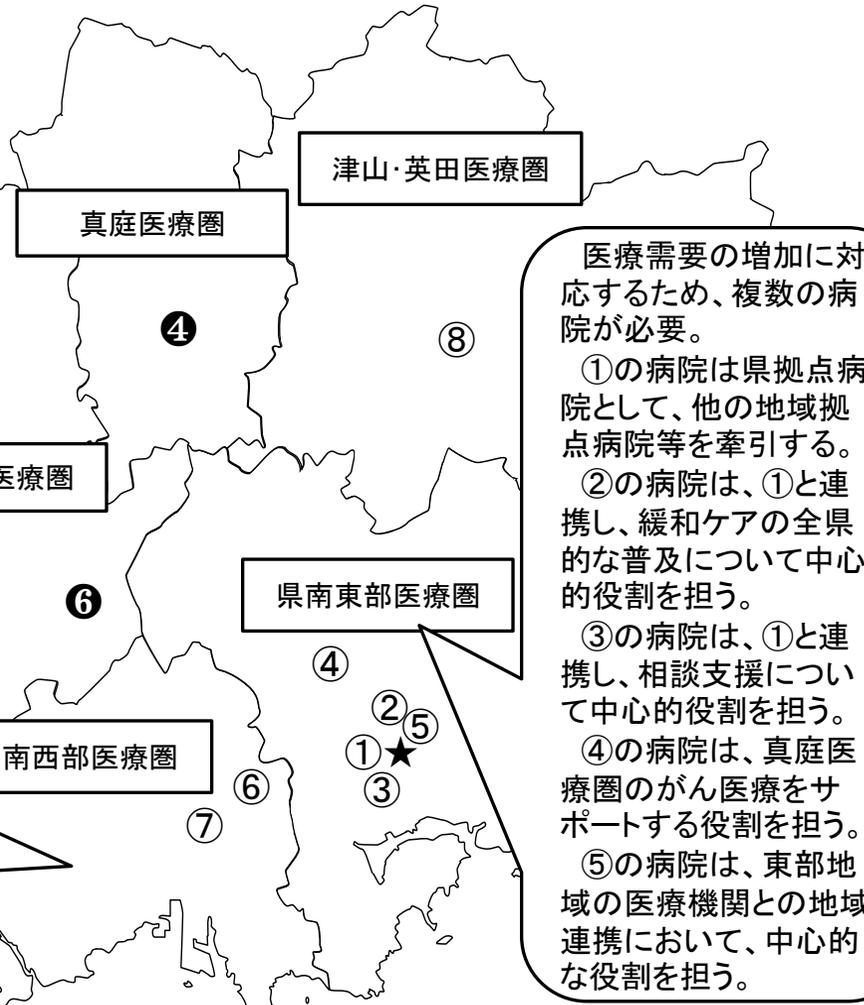
なお、高度ながん医療が必要な場合には、グループ先の拠点病院において提供できる体制を構築する。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

⑥の病院は、高梁新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑦の病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

県南の医療圏においては、各拠点病院が自らの医療圏に居住する患者へがん診療を提供する。また、グループを形成する拠点病院(主に④、⑥等)が、地域がん診療病院をサポートする。



医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

①の病院は県拠点病院として、他の地域拠点病院等を牽引する。

②の病院は、①と連携し、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

③の病院は、①と連携し、相談支援について中心的役割を担う。

④の病院は、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑤の病院は、東部地域の医療機関との地域連携において、中心的な役割を担う。

- ①岡山大学病院★（現況報告）
（令和5年4月1日）
- ②岡山済生会総合病院（現況報告）
（令和5年4月1日）
- ③岡山赤十字病院（更新）
（令和5年5月1日）
- ④岡山医療センター（更新）
（令和5年4月1日）
- ⑤川崎医科大学総合医療センター
（新規指定）
- ⑥川崎医科大学附属病院（現況報告）
（令和5年4月1日）
- ⑦倉敷中央病院（現況報告）
（令和5年4月1日）
- ⑧津山中央病院（更新）
（令和5年4月1日）
- ④金田病院（現況報告）
（令和5年4月1日）
※④を中心に⑧ともグループ指定
- ⑥高梁中央病院（更新）
（令和5年4月1日）
※⑥を中心に①ともグループ指定

第3次岡山県がん対策推進計画

がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図る

県南東部二次医療圏

- 人口約90万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

岡山大学病院★(853床・現況報告)

- ・ 県拠点病院として、地域拠点病院・地域がん診療病院を牽引
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成

岡山済生会総合病院(473床・現況報告)

- ・ 緩和ケア推進の中心的役割
- ・ 岡山市中心域からのアクセスが良好
- ・ 地域の医療機関との医療連携を積極的に推進

岡山赤十字病院(500床・更新)

- ・ がんに特化した相談支援センターを設け、がん相談に注力
- ・ 独立型緩和ケア病棟12床を開設
- ・ 圏域南部からのアクセスが良好

岡山医療センター(609床・更新)

- ・ グループ指定を受ける金田病院が属する真庭医療圏との連携強化
- ・ 血液悪性腫瘍に対応する無菌室23床を設置
- ・ 圏域北部及び圏域外からのアクセスが良好

川崎医科大学総合医療センター(647床・新規指定)

- ・ 県東部地域の医療機関との連携強化
- ・ 地域のがん医療に携わる人材の育成

県南西部二次医療圏

- 人口約70万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

川崎医科大学附属病院(1,182床・現況報告)

- ・ 最新の機器を用いての高精度放射線治療や先進医療を实践
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成
- ・ 緩和ケア病床25床を設置
- ・ グループ指定を受ける高梁中央病院が属する高梁・新見医療圏との連携強化

倉敷中央病院(1,172床・現況報告)

- ・ 年間外来患者延べ62万人、うちがん患者が約15万人
- ・ 病床数、職員数、標榜診療科数等、日本でも最大規模
- ・ 5大がん地域連携クリティカルパスを積極的に運用し、県内最大の活用実績
- ・ がん医療に係るさまざまなセンターを設け、設備を充実
- ・ 緩和ケア病床14床を設置

相互に連携、協力

高梁・新見二次医療圏

- 人口約5万人
- 地域がん診療連携拠点病院との密接な連携により、圏域内でのがん医療を提供

真庭二次医療圏

- 人口約4万人

地域がん診療病院

高梁中央病院(160床・更新)

- ・ 地域の中核病院として、救急医療等に尽力
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 高梁市の中心部に位置し、交通アクセス良好

金田病院(160床・現況報告)

- ・ 地域の中核病院として、外来薬物療法室を設置
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 医療圏内の主要な地域から通院が容易

津山・英田二次医療圏

- 人口約17万人

津山中央病院(515床・更新)

- ・ 県北の中核病院であり、医療圏のほぼ中央に位置している
- ・ 県北で唯一、放射線治療に対応
- ・ がん陽子線治療センターを整備(岡山大学との共同運用)
- ・ プライバシーに配慮した薬物療法室を設置

○本県の指定推薦の考え方

本県では、「第3次岡山県がん対策推進計画」に基づき、各種施策を推進しているが、がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図ることを目標の一つとしている。

このため、現在のがん医療提供体制を維持し、県拠点病院を中核として、地域拠点病院や地域診療病院等がそれぞれの特徴を活かし、相互に連携、協力することにより、がん医療の均てん化と医療水準の向上を図っていく必要がある。

○がん医療圏における指定推薦の考え方

【県南東部がん医療圏】

県南東部がん医療圏は、面積が広大で、県内で最多の人口を擁する医療圏であり、交通網も発達し、高度ながん医療の提供が可能な病院も多く存在しており、今後ながん医療需要の増大が見込まれるため、複数の地域拠点病院が必要である。岡山大学病院は、県拠点病院として地域拠点病院や地域診療病院を牽引するとともに、各地域拠点病院はそれぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。

【県南西部がん医療圏】

県南西部がん医療圏は、多数の人口を擁し、人口密度が県内で最も高く、交通の利便性もあることから、今後ながん医療需要の増大が見込まれ、複数の地域拠点病院が必要である。各地域拠点病院は、それぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。川崎医科大学附属病院は、高梁中央病院のグループ指定先として高梁・新見がん医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。また、倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーし、地域連携について中心的な役割を担う。

【高梁・新見がん医療圏】

高梁中央病院は、県南西部がん医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【真庭がん医療圏】

金田病院は、県南東部がん医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【津山・英田がん医療圏】

津山中央病院は、県北におけるがん医療の中核的な役割を担い、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

広島県

広島県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院					
						推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳			推薦 施設数	内訳				
							新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更		現 況 報告	新規 申請	指定 更新		指定 類型 変更	現 況 報告	新規 申請	指定 更新	指定 類型 変更
広島	2506.14	1,350,070	49.3	538.7	93	4		4	1										
広島西	568.15	138,760	5.1	244.2	13	1		1											
呉	453.48	222,942	8.1	491.6	30	0			1										
広島中央	796.49	227,194	8.3	285.2	20	0			1										
尾三	1034.53	226,073	8.2	218.5	21	0			1										
福山・府中	1095.45	495,531	18.1	452.4	45	2		2											
備北	2024.67	79,867	2.9	39.5	10	1		1											
計	8478.91	2,740,437	100	2270.1	232	8	0	8	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0

広島県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

ネットワーク型がんセンター (①★、②、③、④)

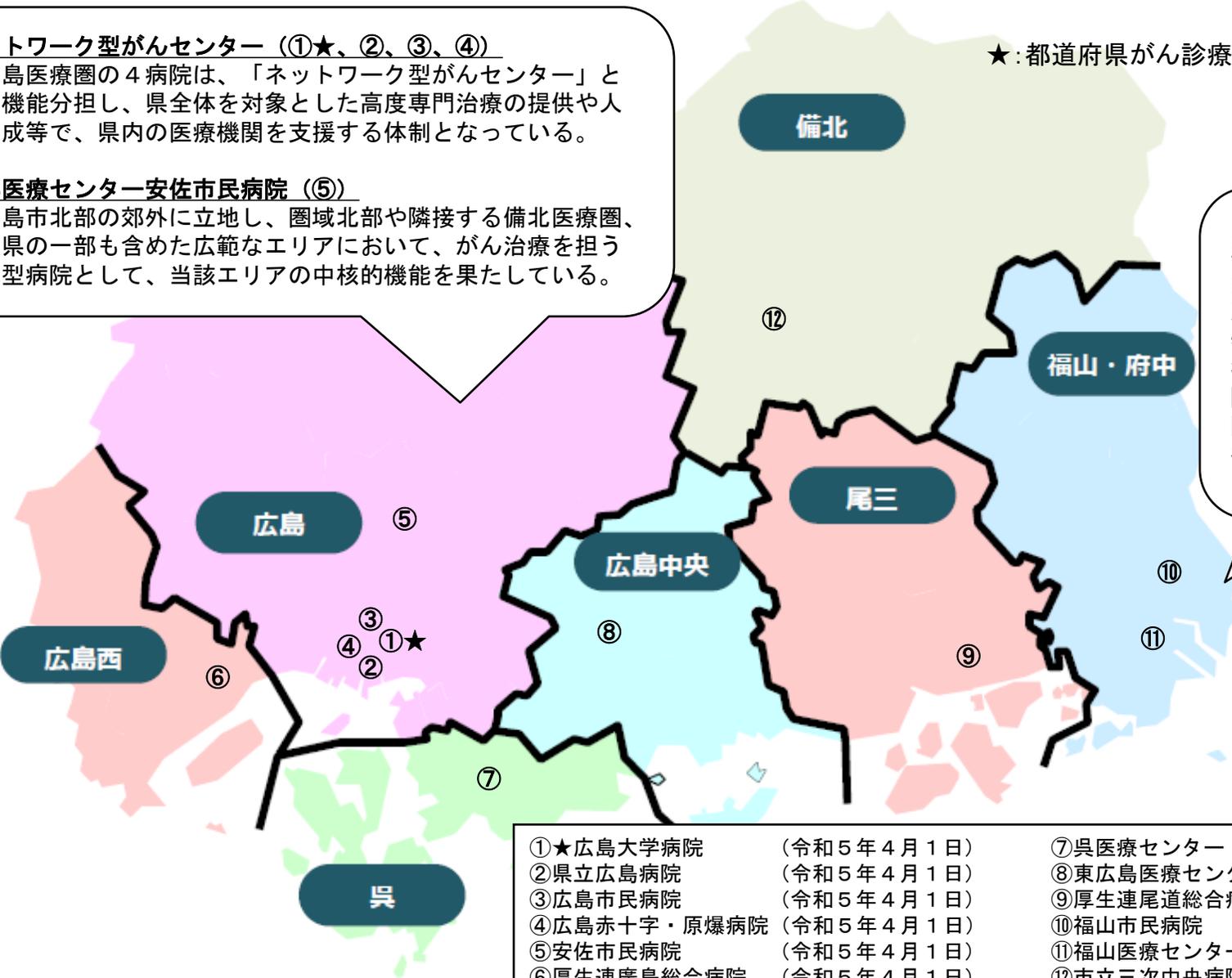
広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関を支援する体制となっている。

北部医療センター安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏、島根県の一部も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を果たしている。

★: 都道府県がん診療連携拠点病院

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんの特長があり、患者支援にも積極的な⑫が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



①★広島大学病院	(令和5年4月1日)	⑦呉医療センター	(令和5年4月1日)
②県立広島病院	(令和5年4月1日)	⑧東広島医療センター	(令和5年4月1日)
③広島市民病院	(令和5年4月1日)	⑨厚生連尾道総合病院	(令和5年4月1日)
④広島赤十字・原爆病院	(令和5年4月1日)	⑩福山市民病院	(令和5年4月1日)
⑤安佐市民病院	(令和5年4月1日)	⑪福山医療センター	(令和5年4月1日)
⑥厚生連広島総合病院	(令和5年4月1日)	⑫市立三次中央病院	(令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	広島	★	更新	広島大学病院	(2,685) 2,754	(2,925) 2,883	(3,550) 3,657	(716) 702	(379) 400	(21) 21	(1,263) 1,702
2	広島		更新	県立広島病院	(1,629) 1,799	(1,689) 1,866	(2,515) 2,396	(334) 142	(302) 206	(16) 16	(901) 851
3	広島		現況	広島市民病院	(3,183) 3,410	(2,219) 2,307	(5,404) 3,087	(745) 805	(287) 220	(12) 12	(1,330) 1,638
4	広島		更新	広島赤十字病院	(1,435) 1,389	(579) 555	(3,591) 3,453	(318) 346	(57) 173	(13) 13	(516) 406
5	広島		更新	安佐市民病院	(2,081) 2,070	(1,424) 1,526	(1,989) 1,663	(385) 240	(84) 75	(6) 12	(1,766) 1,778
6	広島西		更新	広島総合病院	(1,418) 1,397	(1,023) 906	(1,422) 1,436	(240) 225	(130) 97	(44) 43	(489) 624
7	呉		現況	呉医療センター	(1,768) 1,773	(816) 702	(1,176) 1,877	(513) 440	(476) 475	(28) 50	(239) 446
8	広島中央		現況	東広島医療センター	(1,195) 1,220	(662) 748	(1,259) 1,166	(281) 415	(97) 99	(46) 45	(310) 326
9	尾三		現況	尾道総合病院	(1,282) 1,307	(1,892) 1,190	(1,224) 1,313	(176) 443	(229) 219	(44) 36	(312) 372
10	福山府中		更新	福山市民病院	(1,897) 1,838	(1,531) 1,442	(2,493) 2,295	(500) 481	(223) 154	(31) 31	(1,897) 2,306

広島県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点

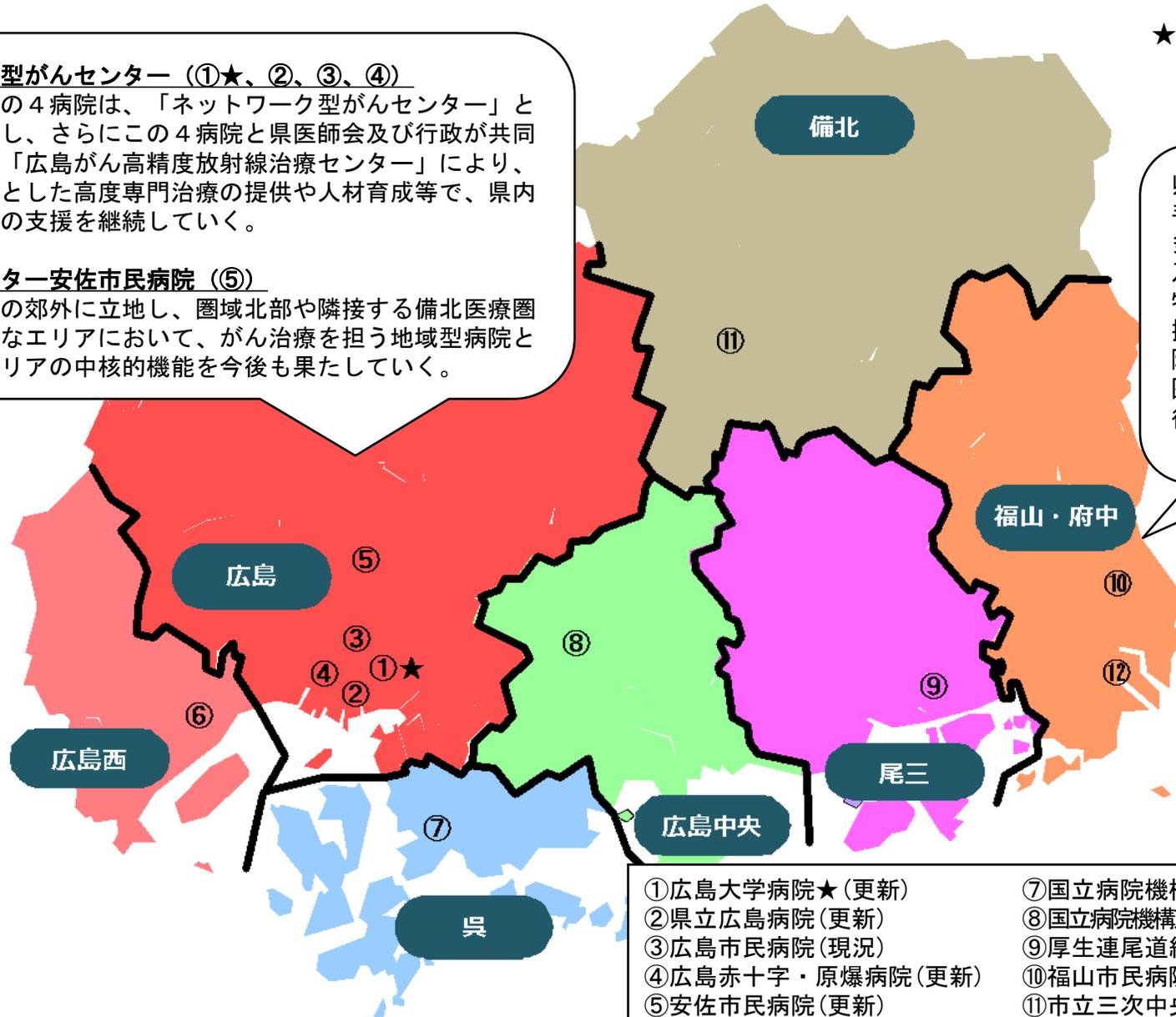
ネットワーク型がんセンター (①★、②、③、④)

広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、さらにこの4病院と県医師会及び行政が共同運営している「広島がん高精度放射線治療センター」により、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関への支援を継続していく。

北部医療センター安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を今後も果たしていく。

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんの特長があり、患者支援にも積極的な⑫が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



- | | |
|------------------|-----------------------|
| ① 広島大学病院★(更新) | ⑦ 国立病院機構呉医療センター(現況) |
| ② 県立広島病院(更新) | ⑧ 国立病院機構東広島医療センター(現況) |
| ③ 広島市民病院(現況) | ⑨ 厚生連尾道総合病院(現況) |
| ④ 広島赤十字・原爆病院(更新) | ⑩ 福山市民病院(更新) |
| ⑤ 安佐市民病院(更新) | ⑪ 市立三次中央病院(更新) |
| ⑥ 厚生連広島総合病院(更新) | ⑫ 国立病院機構福山医療センター(更新) |

指定更新等に係る広島県の推薦方針

ネットワークで構築する広島のがん医療提供体制

- 広島医療圏の広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字・原爆病院の4病院については、「ネットワーク型がんセンター」としてそれぞれの特色を組み合わせ、連携した高度な専門医療機能や人材育成など、県全体のがん対策推進に貢献している。

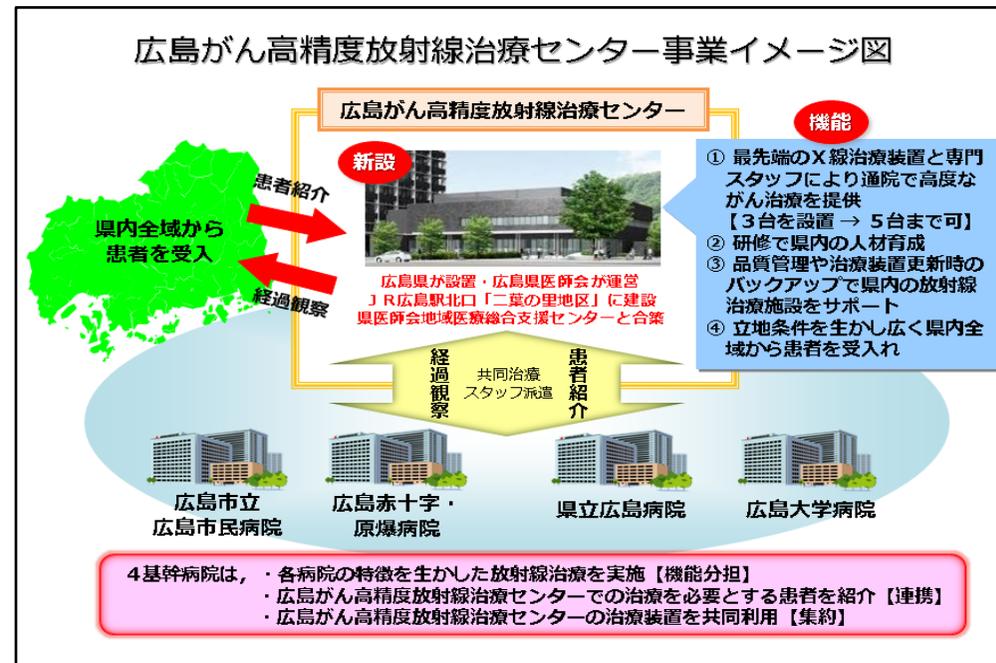
【具体的な成果】

- 高精度放射線治療が提供可能な「広島がん高精度放射線治療センター」を整備し、4病院からの患者紹介を中心に、県内全域や県外からの紹介患者に対応している。

- また、広島市立安佐市民病院は、広島圏域北部や他県の一部も含めた隣接する圏域の広範なエリアにおいて中核的な機能を果たしている。

- 福山市民病院、福山医療センターの2病院は、両院の機能的特徴と、人口規模が大きく南北に長いといった福山・府中圏域の地域的特徴を踏まえた役割分担を行い、隣接県も含めた広範なエリアにおける患者のニーズに対応する。

- 広島医療圏及び福山・府中医療圏を除く5つの医療圏については、住民が身近な地域で、良質ながん医療や相談支援などのサービスを受けられるように、それぞれ1施設ずつ地域拠点病院を配置し、更なるがん医療水準の向上を推進する。



山口県

山口県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



①岩国医療センター (令和5年4月1日)	(1年間)
②周東総合病院 □ (令和5年4月1日)	(1年間)
③徳山中央病院 (令和5年4月1日)	(1年間)
④県立総合医療センター (令和5年4月1日)	(4年間)
⑤山口大学医学部附属病院 ★ (令和5年4月1日)	(1年間)
⑥済生会下関総合病院 (令和5年4月1日)	(4年間)
⑦長門総合病院 (令和5年4月1日)	(1年間)
⑧都志見病院 (令和5年4月1日)	(4年間)

山口県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院		
						指定更新	指定類型 変更	現況報告	計	指定更新	現況報告	計
岩国医療圏	884.24	131,686	10.0%	148.9	17	1			1			0
柳井医療圏	397.79	71,476	5.4%	179.7	8		1		1			0
周南医療圏	837.76	239,259	18.2%	285.6	23	1			1			0
山口・防府 医療圏	1,212.59	304,404	23.2%	251.0	27			1	1			0
宇部・小野田 医療圏	892.38	240,992	18.4%	270.1	28	1			1			0
下関医療圏	716.17	248,236	18.9%	346.6	24			1	1			0
長門医療圏	357.31	31,142	2.4%	87.2	5				0		1	1
萩医療圏	814.26	45,755	3.5%	56.2	7				0	1		1
計	6,112.50	1,312,950	100.0%	1,625.3	139	3	1	2	6	1	1	2

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点 □：地域拠点(特例型)

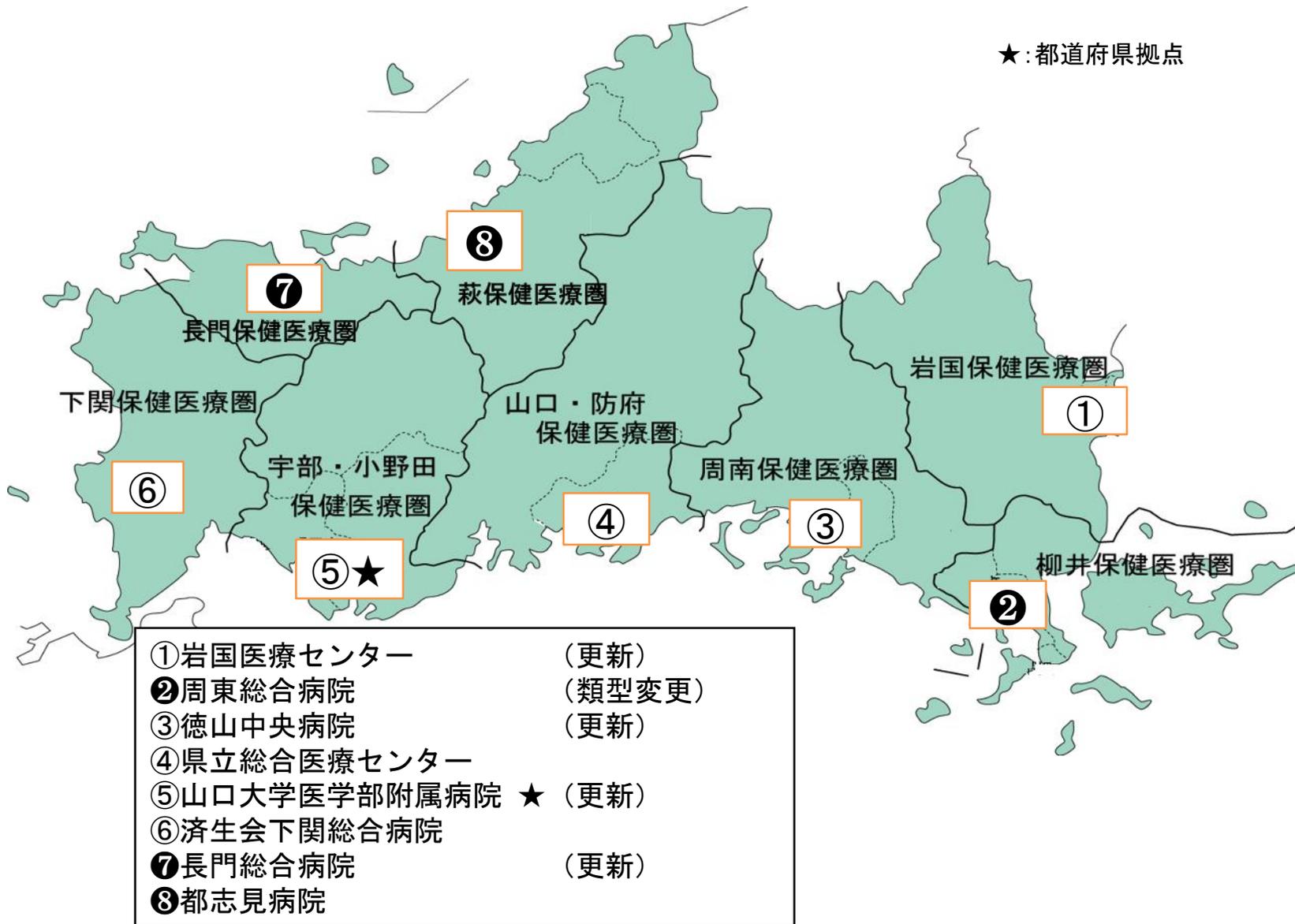
医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	のべ相談件数 (年間)
1 岩国		更新	岩国医療 センター	(1,222)	(742)	(3,563)	(212)	(88)	(47)	(1,436)
				1,166	824	3,074	197	94	42	1,327
2 柳井	□	類型 変更	周東総合 病院	(545)	(419)	(683)	(113)	(53)	(100)	(1,619)
				543	435	684	113	50	54	1,505
3 周南		更新	徳山中央 病院	(1,477)	(637)	(2,288)	(328)	(79)	(48)	(2,356)
				1,682	788	2,419	353	52	73	2,075
4 山口・ 防府		現況 報告	県立総合 医療セン ター	(796)	(529)	(1,564)	(210)	(162)	(24)	(1,324)
				823	504	1,599	241	113	21	2,235
5 宇部・ 小野 田	★	更新	山口大学 医学部附 属病院	(1,964)	(1,541)	(7,784)	(454)	(94)	(50)	(883)
				1,923	1,473	7,619	473	106	32	1,118
6 下関		現況 報告	済生会下 関総合病 院	(845)	(467)	(3,607)	(159)	(48)	(43)	(1,101)
				1,131	482	3,242	181	42	24	1,401

地域がん診療病院の診療実績等

・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	のべ相談件数 (年間)
⑦	長門	現況報告	長門総合病院	(240)	(289)	(206)	(68)	(1)	(942)
				250	267	618	103	4	984
⑧	萩	更新	都志見病院	(151)	(109)	(84)	(一)	(20)	(180)
				168	98	157	—	14	121

山口県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る本県の考え方について

- がんは昭和56年以来、本県の死亡原因の1位であり、年間約5千人の県民ががんにより亡くなっている。
これまで、がん予防や検診に関する普及啓発、がん登録事業、緩和ケア病棟の整備等、各段階に応じたがん対策を講じてきたが、がんによる死亡は今なお増加しており、がん対策は本県の保健・医療施策の中で非常に重要な課題となっている。
- こうしたことから、県では、地域のがん医療の中核を担うがん診療連携拠点病院の整備を推進してきたところであり、平成30年3月に策定した「第3期山口県がん対策推進計画」に基づき、がん医療水準の更なる向上を目指して、診療機能の充実等を図ることとしている。
なお、本県においてがんの医療圏（以下「医療圏」という。）と2次医療圏は一致している。
- がん診療連携拠点病院については、各地域において等しく質の高いがん医療を提供するため、医療圏に1箇所の整備を基本とするとともに、その指定要件を充たす病院が医療圏内にない場合には、地理的に隣接する医療圏において、当該医療圏からの患者受入が多いがん診療連携拠点病院とのグループ指定により、地域がん診療病院を整備することで、圏域全体をカバーできるようにすることとしている。
- 本県では、8つの医療圏のうち6医療圏においてがん診療連携拠点病院の指定を受けており、そのうち、宇部・小野田医療圏の山口大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として本県がん診療連携の中核的役割を担っている。
また、がん診療連携拠点病院のない2医療圏については地域がん診療病院を整備し、がん診療連携拠点病院と連携して専門的ながん医療の提供等を行っている。
- 今回、3医療圏のがん診療連携拠点病院と1医療圏の地域がん診療病院について指定更新推薦を行うとともに、1医療圏においてがん診療連携拠点病院から地域がん診療病院への類型変更推薦を行う。

徳 島 県

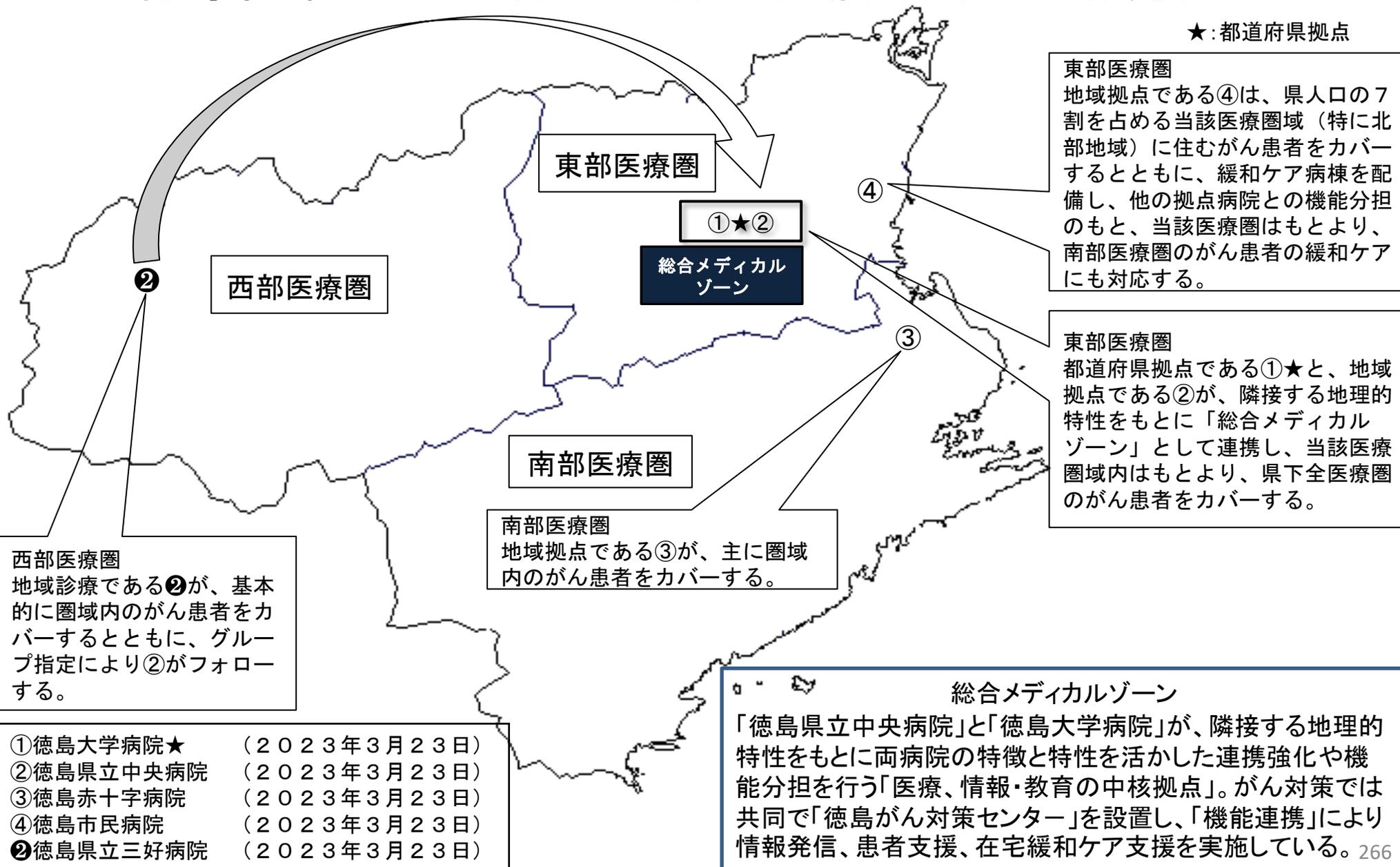
徳島県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	1,017.02	496,516	71.39	488.21	71	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
南部医療圏	1,724.09	130,764	18.80	75.85	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,405.88	68,170	9.80	48.49	16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4,146.99	695,450	100	612.54	106	4	0	0	4	0	0	0	1	0	0

徳島県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値

★:都道府県拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
①	東部	★	現況	徳島大学病院	(2,041) 1,985	(1,582) 1,498	(16,380) 16,651	(806) 765	(116) 130	(32.3) 31.0	(3,056) 1,831
②	東部		現況	徳島県立中央病院	(942) 1,055	(622) 715	(1013) 1,190	(208) 233	(123) 144	(14.0) 24.0	(863) 657
③	南部		現況	徳島赤十字病院	(1,256) 1,208	(946) 997	(1154) 1,220	(245) 235	(57) 85	(60.5) 37.0	(530) 816
④	東部		現況	徳島市民病院	(853) 567	(535) 462	(1062) 1,114	(210) 253	(101) 70	(17.8) 13.0	(1,558) 1,363

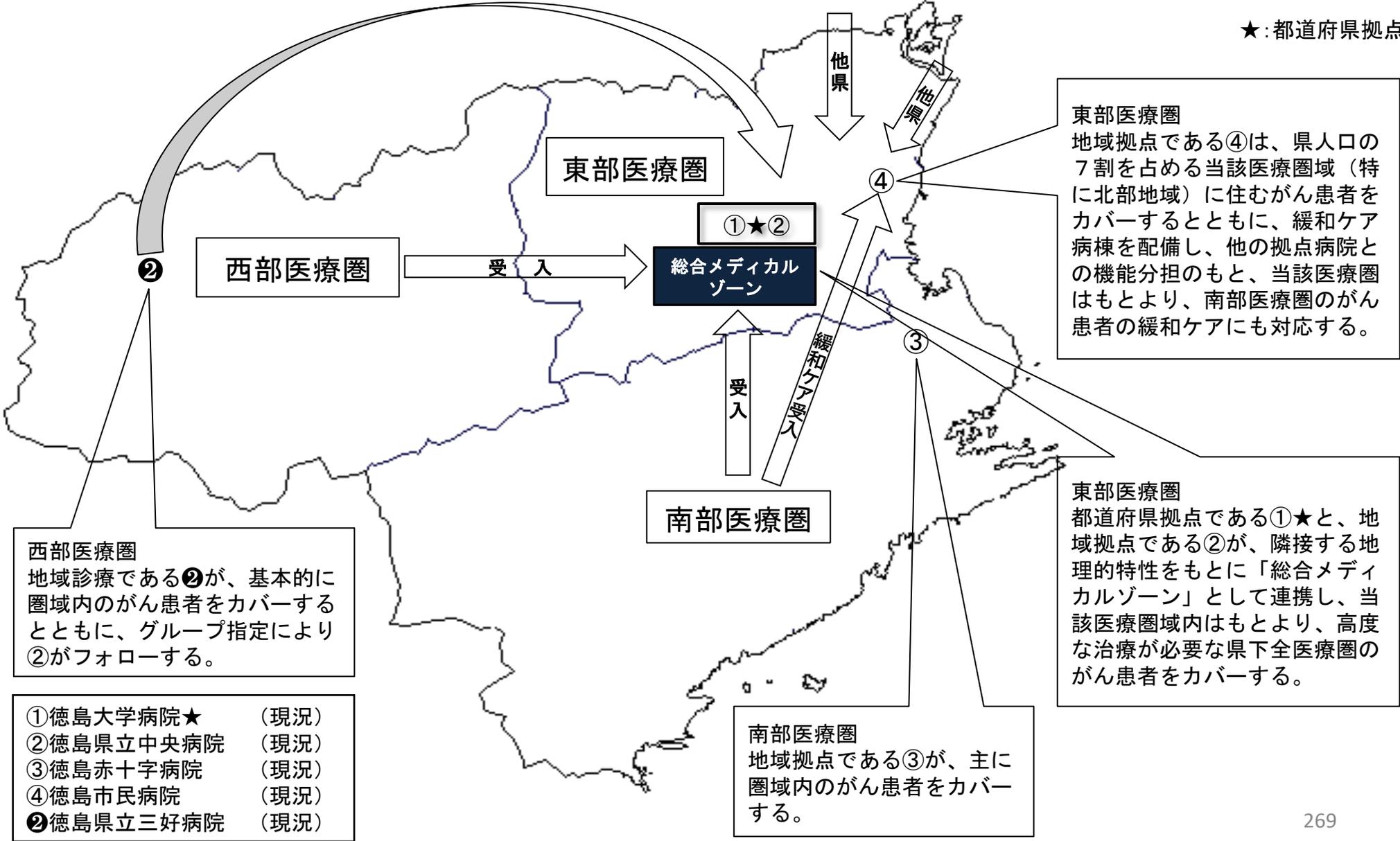
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年9月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
②	西部	現況	徳島県立三好病院	(332) 204	(87) 99	(715) 157	(47) 37	(68) 65	(81) 133

徳島県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



東部医療圏
 地域拠点である④は、県人口の7割を占める当該医療圏域（特に北部地域）に住むがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、他の拠点病院との機能分担のもと、当該医療圏はもとより、南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

東部医療圏
 都道府県拠点である①★と、地域拠点である②が、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン」として連携し、当該医療圏域内はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。

西部医療圏
 地域診療である②が、基本的に圏域内のがん患者をカバーするとともに、グループ指定により②がフォローする。

南部医療圏
 地域拠点である③が、主に圏域内のがん患者をカバーする。

- ①徳島大学病院★ (現況)
- ②徳島県立中央病院 (現況)
- ③徳島赤十字病院 (現況)
- ④徳島市民病院 (現況)
- ②徳島県立三好病院 (現況)

1. 東部医療圏（県人口の7割）

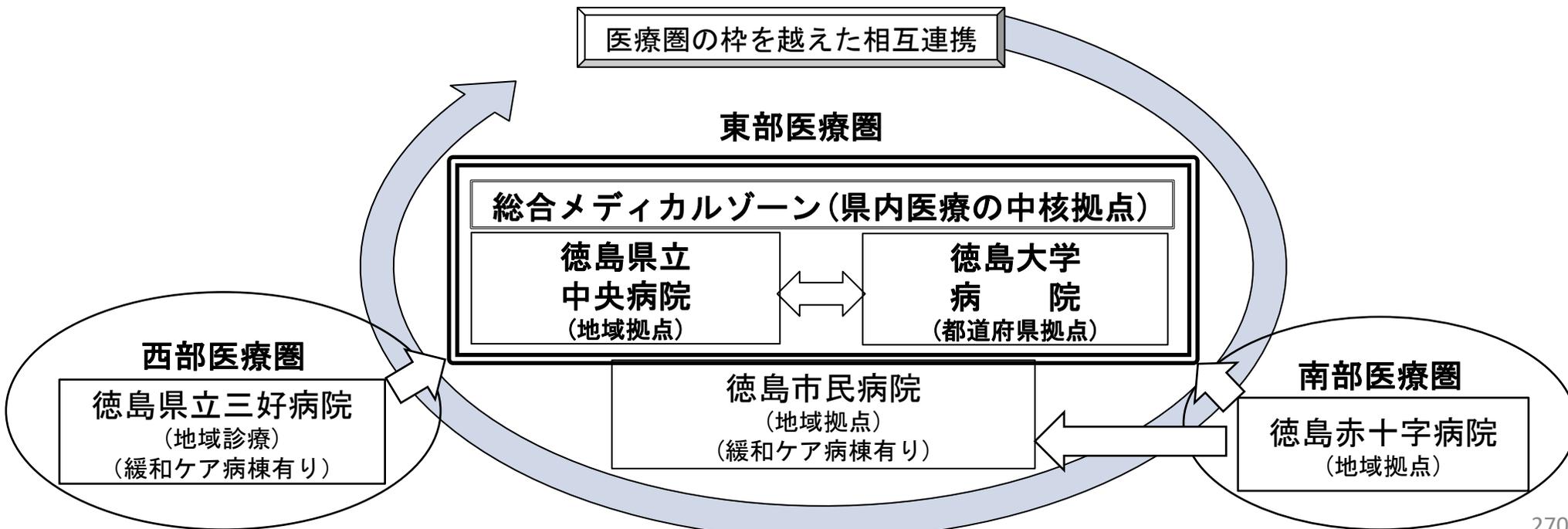
- 都道府県拠点である徳島大学病院と、専門的ながん診療機能を有する地域拠点である徳島県立中央病院は、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン（県内医療の中核拠点）」として当該医療圏はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。
- さらに、地域拠点である徳島市民病院は、人口が集中する当該医療圏（特に北部地域）のがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、当該医療圏はもとより南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

2. 南部医療圏（県人口の2割）

地域拠点である徳島赤十字病院が、当該医療圏内のがん患者をカバーする。

3. 西部医療圏（県人口の1割）

地域診療である徳島県立三好病院は、緩和ケア病棟を有し、連携する徳島県立中央病院とともに、当該医療圏内のがん患者をカバーする。



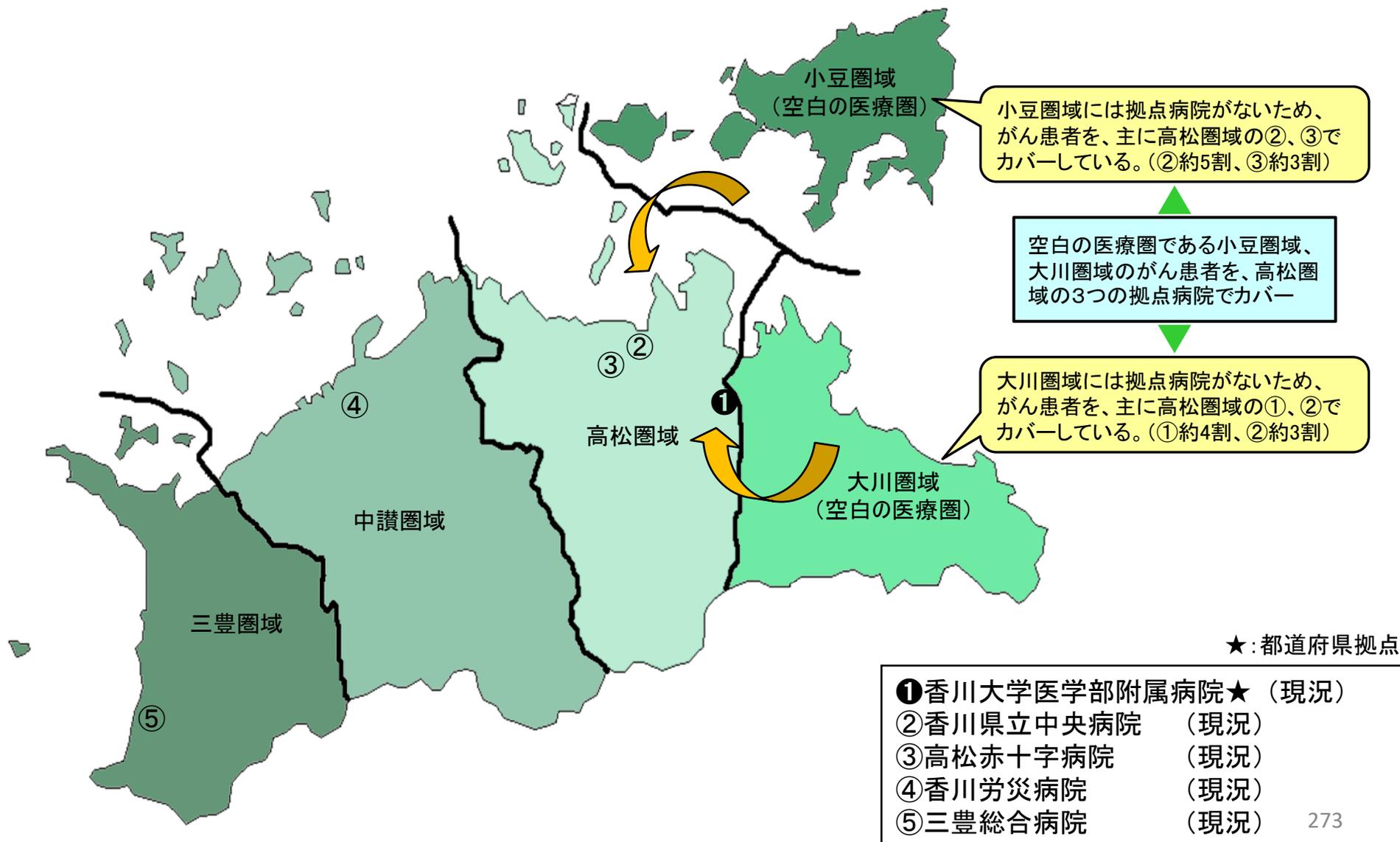
香川県

香川県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域がん診療 連携拠点病院					地域がん診療病院				
						推薦 施設 数	新規 申請	指定 更新	類型 変更	現況 報告	推薦 施設 数	新規 申請	指定 更新	類型 変更	現況 報告	推薦 施設 数	新規 申請	指定 更新	類型 変更	現況 報告
大川圏域	311.46	74,320	8%	238.62	5															
小豆圏域	169.97	26,616	3%	156.59	3															
高松圏域	465.41	452,683	47%	972.65	36					3										
中讃圏域	589.37	283,172	30%	480.47	31					1										
三豊圏域	340.57	119,996	13%	352.34	12					1										
計	1,876.78	956,787	100%	509.80	87	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

香川県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



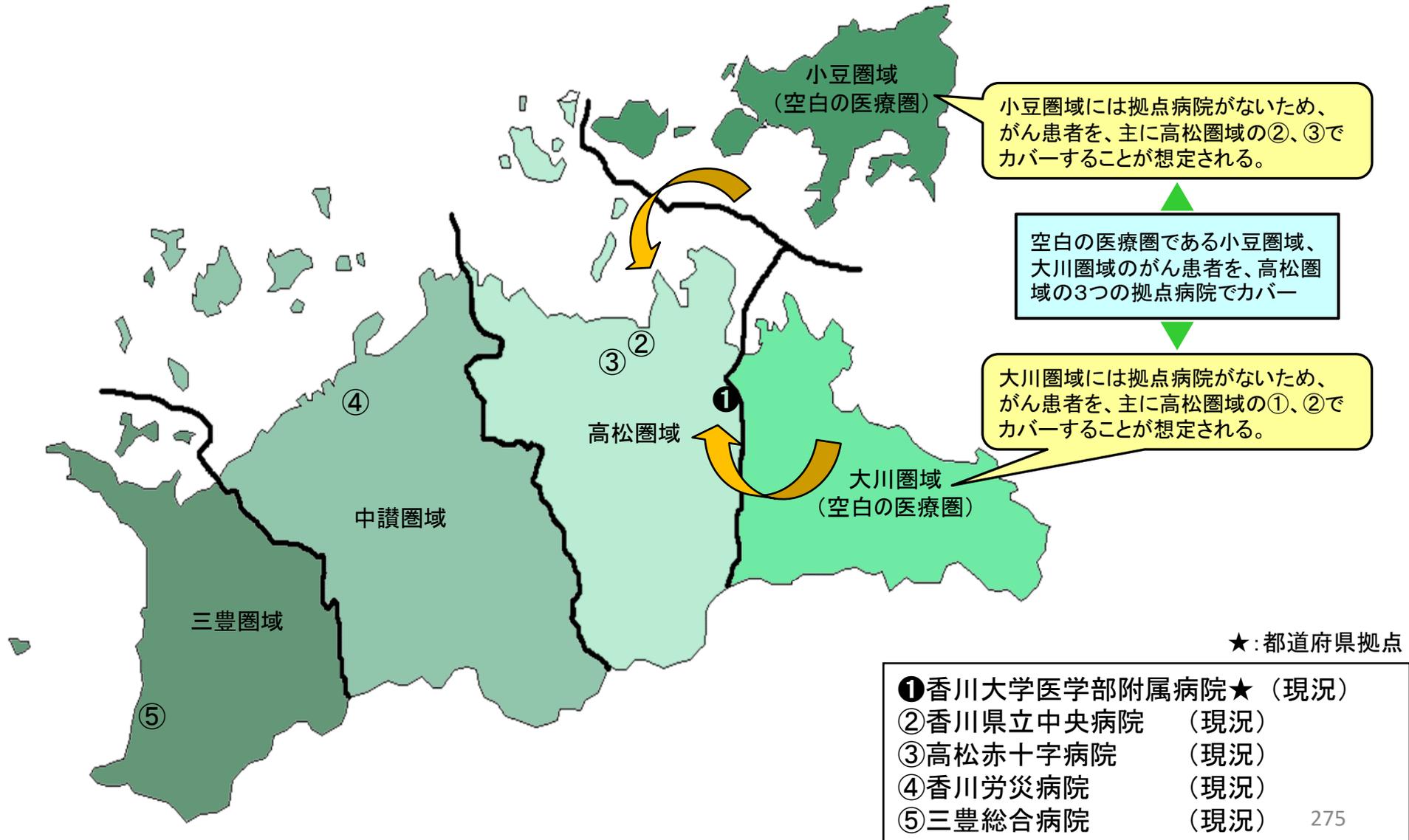
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・（ ）内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
					500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1	高松	★	現況報告	香川大学医学部附属病院	(1,374) 1,372	(1,243) 1,216	(1,860) 2,451	(435) 428	(130) 116	(17) 16	(1,655) 414
2	高松		現況報告	香川県立中央病院	(1,654) 1,587	(1,372) 1,364	(2,153) 2,126	(331) 318	(252) 235	(23) 23	(2,840) 7,416
3	高松		現況報告	高松赤十字病院	(1,527) 1,447	(932) 835	(2,503) 2,637	(206) 224	(83) 89	(19) 19	(2,457) 3,644
4	中讃		現況報告	香川労災病院	(1,158) 1,212	(583) 538	(2,596) 2,625	(304) 240	(237) 156	(37) 32	(6,084) 5,414
5	三豊		現況報告	三豊総合病院	(744) 692	(468) 588	(763) 848	(88) 92	(93) 57	(58) 55	(718) 705

香川県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る香川県の考え方について

1. 本県のがんの状況

- 昭和52年以来、がんは死亡原因の第1位であり、毎年約3千人の県民が亡くなっている。(令和3年のがんの死亡割合は24.4%、他要因を大きく上回る。)
- 高齢化が全国平均を上回って進行している。(令和4年の高齢化率は32.4%。全国平均より10年以上早いペース)

がんは、県民の生命と健康にとって重要な課題

2. がん診療連携拠点病院の整備の考え方

- 県内の5つのがんの医療圏に対し、5つの拠点病院を整備
- 空白医療圏となっている2医療圏(小豆圏域、大川圏域)を、隣接する医療圏(高松圏域)の3つの拠点病院でカバー

※第七次香川県保健医療計画(計画期間:2018年4月1日～2024年3月31日)で、二次医療圏を従来の5医療圏から3医療圏に見直したが、当該計画の期間中における5疾病・5事業及び在宅医療の圏域は、医療提供体制の継続性や激変緩和の観点からそれぞれ設定。第3次香川県がん対策推進計画においても、この圏域に基づいて、地域に根差したがん医療を行うこととしている。

がんの医療圏	拠点病院
大川	(高松圏域にある3病院でカバー)
小豆	(高松圏域にある3病院でカバー)
高松	香川大学医学部附属病院★ 香川県立中央病院 高松赤十字病院
中讃	香川労災病院
西讃	三豊総合病院

★:都道府県拠点

- がん診療連携拠点病院では、専門的ながん医療を提供するとともに、緩和ケア等がん医療に関する研修や合同カンファレンスの開催、地域連携クリティカルパスの運用等により、地域のがん診療を行っている医療機関との連携協力・支援体制を強化。

愛媛県

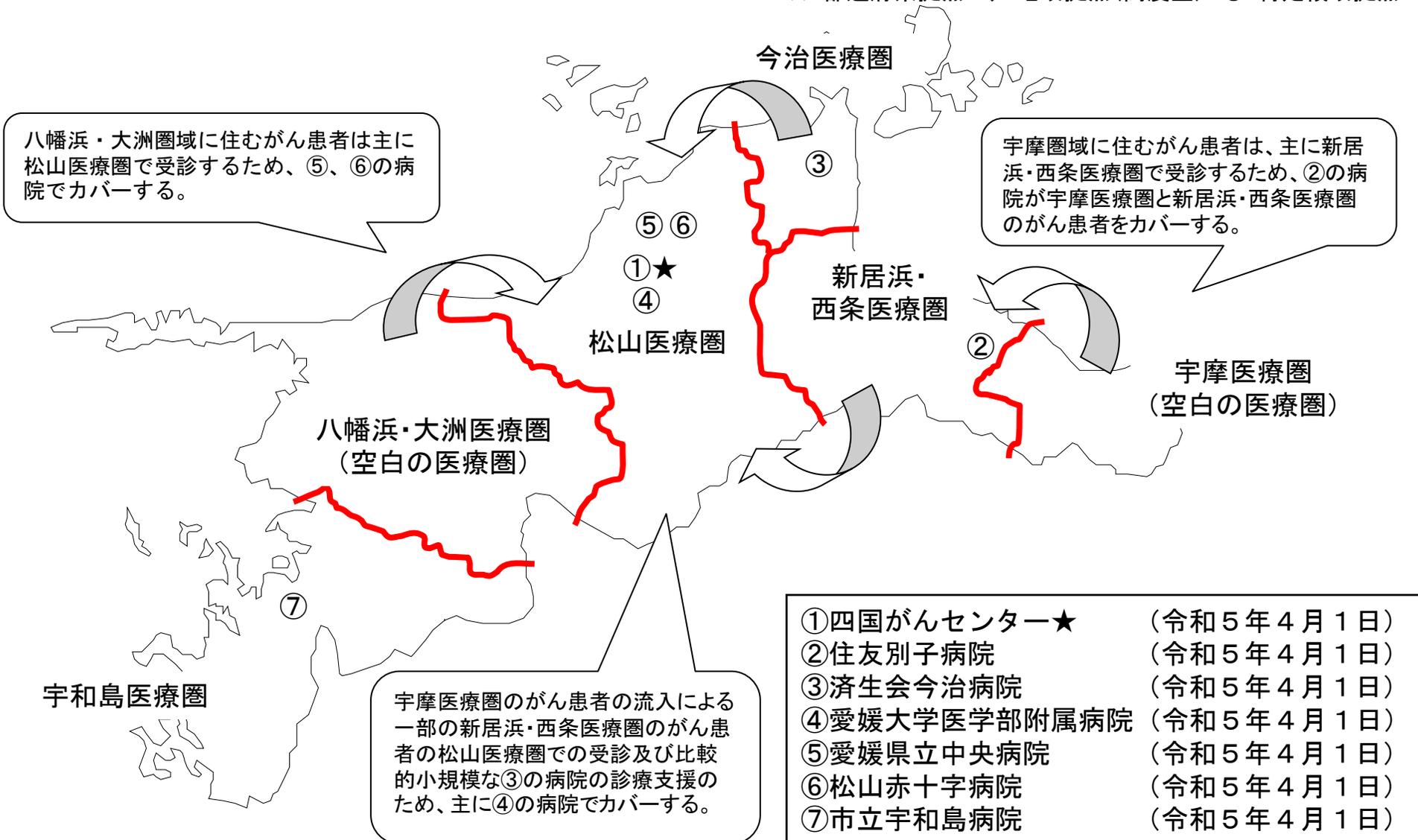
愛媛県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
宇摩	421.24	82,849	6.2%	196.68	9				0							1
新居浜・西条	744.48	220,884	16.5%	296.70	21		1		1							
今治	449.52	158,266	11.8%	352.08	28	1			1							
松山	1540.83	638,197	47.8%	414.19	50	1	3		4							
八幡浜・大洲	1472.65	131,792	9.9%	89.43	15				0							
宇和島	1047.51	103,792	7.8%	99.08	12		1		1							
計	5676.23	1,335,694	100%	235.96	135	2	5	0	7	0	0	0	0	0	0	1

愛媛県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 松山	★	更新	四国がんセンター	(2008) 1992	(1314) 1261	(5218) 5458	(738) 843	(349) 326	(29) 27	(6918) 6163
2 新居 浜・西条		更新	住友別子病院	(550) 517	(534) 503	(580) 693	(133) 118	(127) 92	(25) 29	(643) 647
3 今治		現況報告	済生会今治病院	(531) 514	(383) 401	(721) 557	(291) 293	(55) 145	(42) 20	(3524) 4248
4 松山		更新	愛媛大学医学部附属病院	(1881) 2334	(1326) 1356	(4240) 3396	(519) 473	(195) 163	(6) 6	(1294) 1159
5 松山		更新	愛媛県立中央病院	(2010) 2042	(1267) 1295	(2509) 2807	(502) 500	(99) 99	(16) 23	(3757) 3342
6 松山		現況報告	松山赤十字病院	(1462) 1706	(1062) 1013	(1763) 1807	(282) 272	(215) 198	(23) 23	(1940) 1874
7 宇和島		更新	市立宇和島病院	(955) 1064	(864) 944	(1099) 1058	(215) 216	(87) 65	(52) 28	(1820) 1992

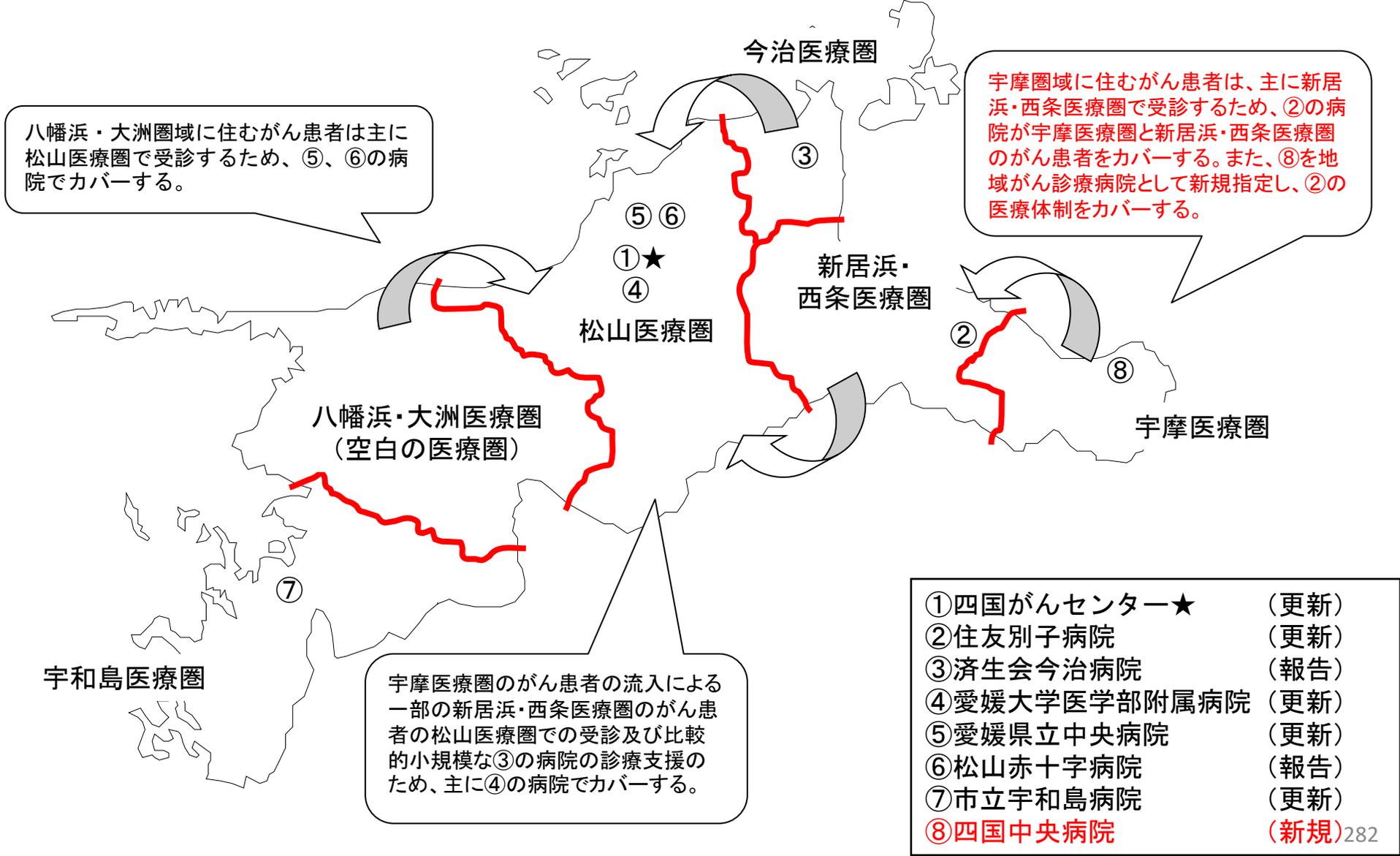
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
1	宇摩	新規	四国中央病院	417	94	276	34	43	483

愛媛県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型) ◎：特定領域拠点



- | | |
|--------------|------|
| ①四国がんセンター★ | (更新) |
| ②住友別子病院 | (更新) |
| ③済生会今治病院 | (報告) |
| ④愛媛大学医学部附属病院 | (更新) |
| ⑤愛媛県立中央病院 | (更新) |
| ⑥松山赤十字病院 | (報告) |
| ⑦市立宇和島病院 | (更新) |
| ⑧四国中央病院 | (新規) |

○愛媛県におけるがん診療体制について

本県の6つの二次医療圏のうち、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域については、がん診療連携拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条圏域、松山圏域と一体的な診療体制を整備することにより、県内を4圏域に区分した上で、各圏域に拠点病院を配置することにより、県内全域をカバーできる体制を整備している。

○二次医療圏の数を上回る拠点病院を整備する理由

本県では、松山圏域に、県拠点病院を含め4拠点病院を整備することに伴い、県全体の拠点病院数は、二次医療圏の数である6を上回る7病院となるが、その理由は次のとおり。

1 患者の受療動向

県内のがんによる入院患者(病院の入院患者。以下同じ。)の約63%が松山圏域に集中し、松山圏域に所在する病院の入院患者の35%は他の圏域からの流入患者であり、県内の入院患者の49%、松山圏域に所在する病院の入院患者の84%を当該4病院で受け入れている。

2 他の二次医療圏との関係

宇摩圏域の患者は、3割が隣接の新居浜・西条圏域、4割が松山圏域に流出し、新居浜・西条圏域の患者の4割近くも松山圏域に流入しているほか、八幡浜・大洲圏域の患者の5割強は、隣接する松山圏域に流出していることから、松山圏域の拠点病院の診療支援は不可欠である。

また、今治圏域は、離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには、松山圏域の拠点病院との連携が必要である。

3 拠点病院間の機能分担等

次項「医療機関の機能・役割」のとおり。

以上のことから、医療機関相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築し、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するため、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とするとともに、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

【県内のがん診療連携拠点病院の機能・役割分担（総括）】

◆都道府県拠点病院（1病院）

医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○全国がん(成人病)センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。 ○都道府県拠点病院として、県がん診療連携協議会を主宰する。 ○がん専門病院として、全県の医療機関に対する支援を行う。

◆地域拠点病院及び地域がん診療病院（7病院）

がん診療の医療圏	医療機関名 (所在圏域)	対象とする2次医療圏 (支援医療圏)	医療機関の機能・役割
東 予	四国中央病院 (宇摩圏域)	宇摩圏域	○拠点病院が存在しない「宇摩圏域」において、地域がん診療病院として拠点病院の機能をカバーするための医療を行う。
	住友別子病院 (新居浜・西条圏域)	宇摩圏域 新居浜・西条圏域	○新居浜・西条圏域及び隣接する「宇摩圏域」が所在する東予地域において、高度ながん診療を行う。
今 治	済生会今治病院 (今治圏域)	今治圏域	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。 ○特に、離島の住民の診療、圏域内の中小医療機関の支援を重点的に行う。
中 予	愛媛大学医学部 附属病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (新居浜・西条 圏域、今治圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関人の医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ○特に、「新居浜・西条圏域」、「今治圏域」のがん患者診療と医療機関の診療支援を行う。
	県立中央病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。 ○県内4圏域にある県立4病院の拠点として、遠隔医療システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。 ○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等を特徴とする。 ○PET-CTセンターを移動させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
	松山赤十字病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、松山圏域の地域医療支援病院として圏域内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果たしている。 ○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
南 予	市立宇和島病院 (宇和島圏域)	宇和島圏域	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、圏域内完結のがん診療体制を構築する。

高知県

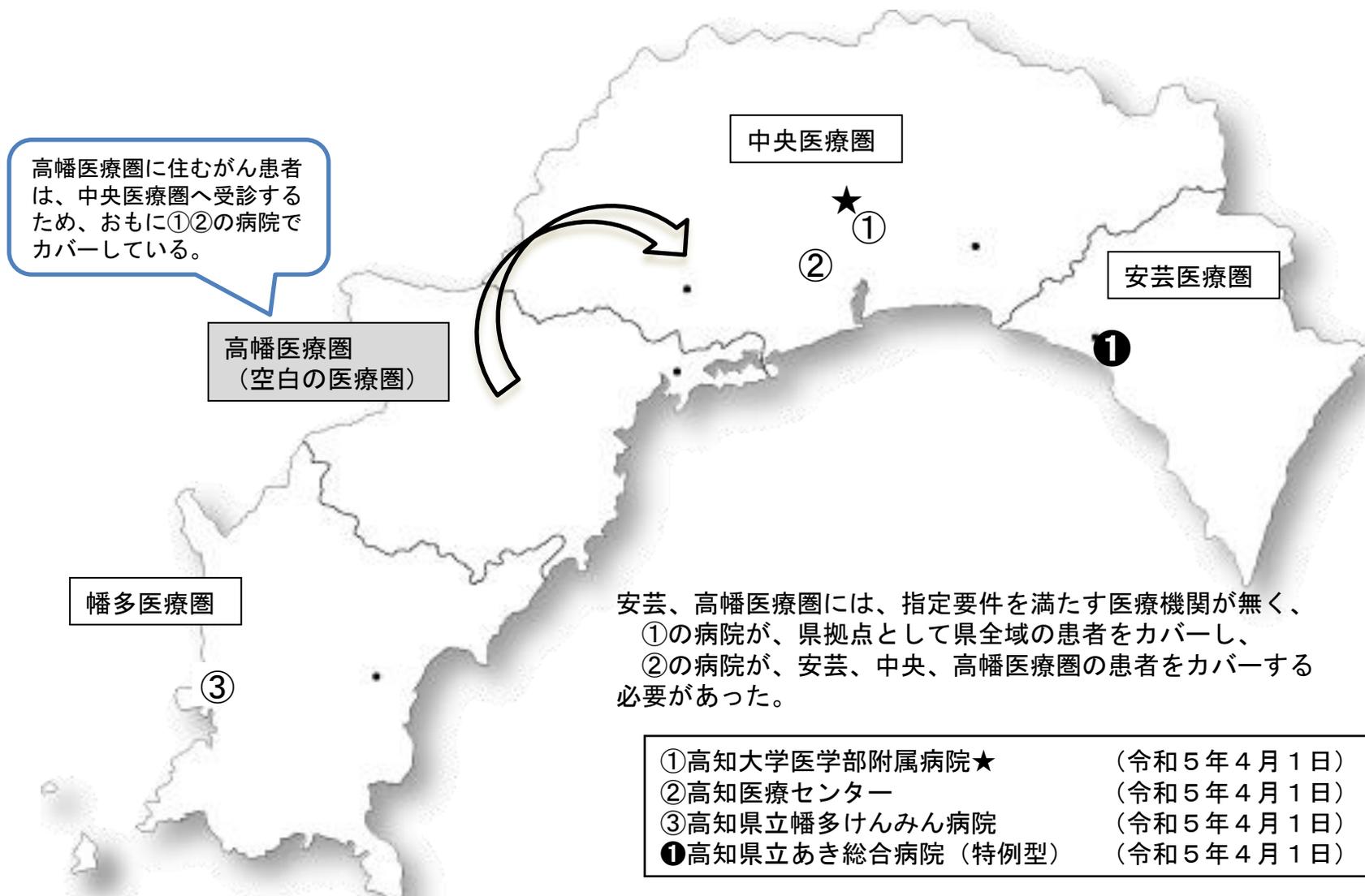
高知県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
安芸医療圏	1128.92	40,863	6.1	36.2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
中央医療圏	3008.75	502,189	75.4	166.9	90	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高幡医療圏	1405.44	47,472	7.1	33.8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幡多医療圏	1561.9	75,769	11.4	48.5	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	7105.01	666,293	100	285.4	119	3	0	0	3	0	0	0	0	1	0

高知県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び 特定領域がん診療連携拠点病院

- ・ ()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
 - ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	中央	★	現況	高知大学医学部附属病院	(1,687) 1,540	(1,243) 1,309	(2,582) 2,574	(474) 471	(184) 169	(22.3) 21	(836) 925
2	中央		現況	高知医療センター	(1,544) 1,443	(996) 924	(1,935) 1,944	(267) 293	(183) 218	(11.9) 12	(960) 872
3	幡多		現況	高知県立幡多けんみん病院	(493) 530	(313) 334	(665) 635	(51) 75	(85) 79	(34.8) 34	(1,011) 1,116

地域がん診療病院の診療実績等

- ・ 上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	安芸	更新	高知県立あき総合病院	(253) 282	(58) 60	(95) 563	(実施なし) 実施なし	(64) 62	(320) 268

高知県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

空白の医療であったため、高幡医療圏に住むがん患者は、中央医療圏へ受診するため、おもに①②の病院がカバーする体制が整備されている。



①の病院が、県拠点として県全域の患者をカバーし、
②の病院が、安芸、中央、高幡医療圏の患者をカバーする。

①高知大学医学部附属病院★	(現況)
②高知医療センター	(現況)
③高知県立幡多けんみん病院	(現況)
④高知県立あき総合病院 (特例型)	(更新)

指定推薦に係る高知県の考え方（1）

（1）拠点病院の位置づけ

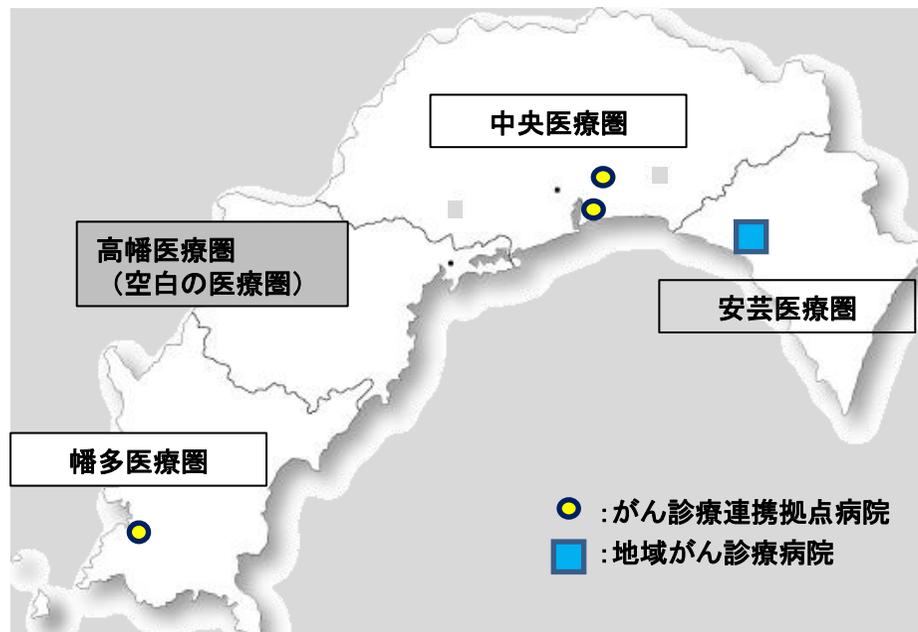
本県では、保健医療計画において4つの二次医療圏（安芸・中央・高幡・幡多）を設定しているが、がん医療提供体制については、次のような医療機能の集積状況やがん患者の医療圏間移動、地理的条件等を踏まえ、県全体として高度医療の確保と患者の利便性の双方を確保できるよう、中央医療圏の拠点病院が中央医療圏に加え安芸・高幡医療圏の患者支援を、幡多医療圏の拠点病院が幡多医療圏の患者支援の患者支援を主に行っている。

- ①本県では、安芸及び高幡医療圏では、単独で集学的治療を実施できる医療機関がないことから、その役割を中央医療圏の医療機関が担っている。また、幡多医療圏内で集学的治療ができる医療機関は1か所のみとなっている。
- ②がんの入院患者についても、中央医療圏への流出が多い。

二次医療圏名	入院	
	自圏内	中央医療圏への流出
安芸医療圏	43.3%(50.8%)	56.7%(49.2%)
中央医療圏	99.5%(99.5%)	—
高幡医療圏	37.5%(36.8%)	62.5%(63.2%)
幡多医療圏	53.9%(71.0%)	45.1%(28.2%)

※令和4年度高知県患者動態調査結果による
() 内は平成28年度調査結果

- ③本県は、東西に長い地形に加えて、中山間部では過疎化が進行するなど地理的条件が厳しい。
- ④幡多医療圏については、中央圏域から地理的に離れた圏域であり、一部患者が中央医療圏や県外に流出しているものの、半数以上、自圏域内で医療が完結している。



指定推薦に係る高知県の考え方（2）

（2）がん診療連携拠点病院等の整備方針及び地域連携体制

○がん診療連携拠点病院等の整備方針について

- ・都道府県がん診療連携拠点病院として、高知大学医学部附属病院を整備している。
- ・地域がん診療連携拠点病院としては、高知医療センターが高知大学医学部附属病院とともに、安芸・中央・高幡医療圏をカバーし、高知県立幡多けんみん病院が幡多医療圏をカバーするよう整備している。
- ・地域がん診療病院として、高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、高知県立あき総合病院が安芸医療圏をカバーするよう整備している。

【本県のがん診療体制を整備するうえでの必要性】

がん診療については、最新の医療を本県でも提供しうる体制づくりを目標とし、医療従事者の育成、診療の相互支援、がんに係る情報の収集・提供等を行うこととしている。その推進体制としては、特定機能病院及び大学病院である高知大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん治療水準の向上と人材の育成、治療連携体制を構築している。

また、安芸・高幡医療圏にがん診療連携拠点病院としての要件を満たす病院が無いことから、高知医療センターと高知大学医学部附属病院が安芸医療圏・中央医療圏・高幡医療圏を、高知県立幡多けんみん病院が幡多圏域の基幹病院として幡多医療圏をカバーしている。

さらに、高知県立あき総合病院が安芸圏域の基幹病院として高知大学医学部附属病院とのグループ指定により安芸医療圏をカバーすることで、中央医療圏まで診療・治療に行っていた患者を安芸医療圏で一定の診療が完結できる体制を構築する方針である。

圏域	医療機関名	各医療機関の機能等
全域	高知大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成18年度に都道府県拠点病院として指定を受けた国立大学法人の附属病院。 ◆大学病院として、県内全域を対象に、高度ながん診療のみならず、次の機能も発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修。 ・県内医療機関への医師派遣。 ◆県内医療機関の拠点として、遠隔画像システム等を通じて、診療支援を行う。
安芸	高知県立あき総合病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度に地域がん診療病院として指定。 ◆都道府県拠点病院である高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、集学的治療等を提供する。
安芸 中央 高幡	高知医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知大学とともに、安芸・中央・高幡医療圏の患者の診療と、これら医療圏の医療機関の診療支援を行う。 ◆救命救急センター・総合周産期母子医療センター・がんセンター・循環器病センター・地域医療センターといった高度医療機能を備え、県全体の基幹病院と位置付けられている。
幡多	高知県立幡多けんみん病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成24年度に地域拠点病院として整備。 ◆幡多圏域の基幹病院として、高度ながん診療を行うとともに、地域の関係機関との連携のもとに、地域でほぼ完結できる医療の提供を行っている。

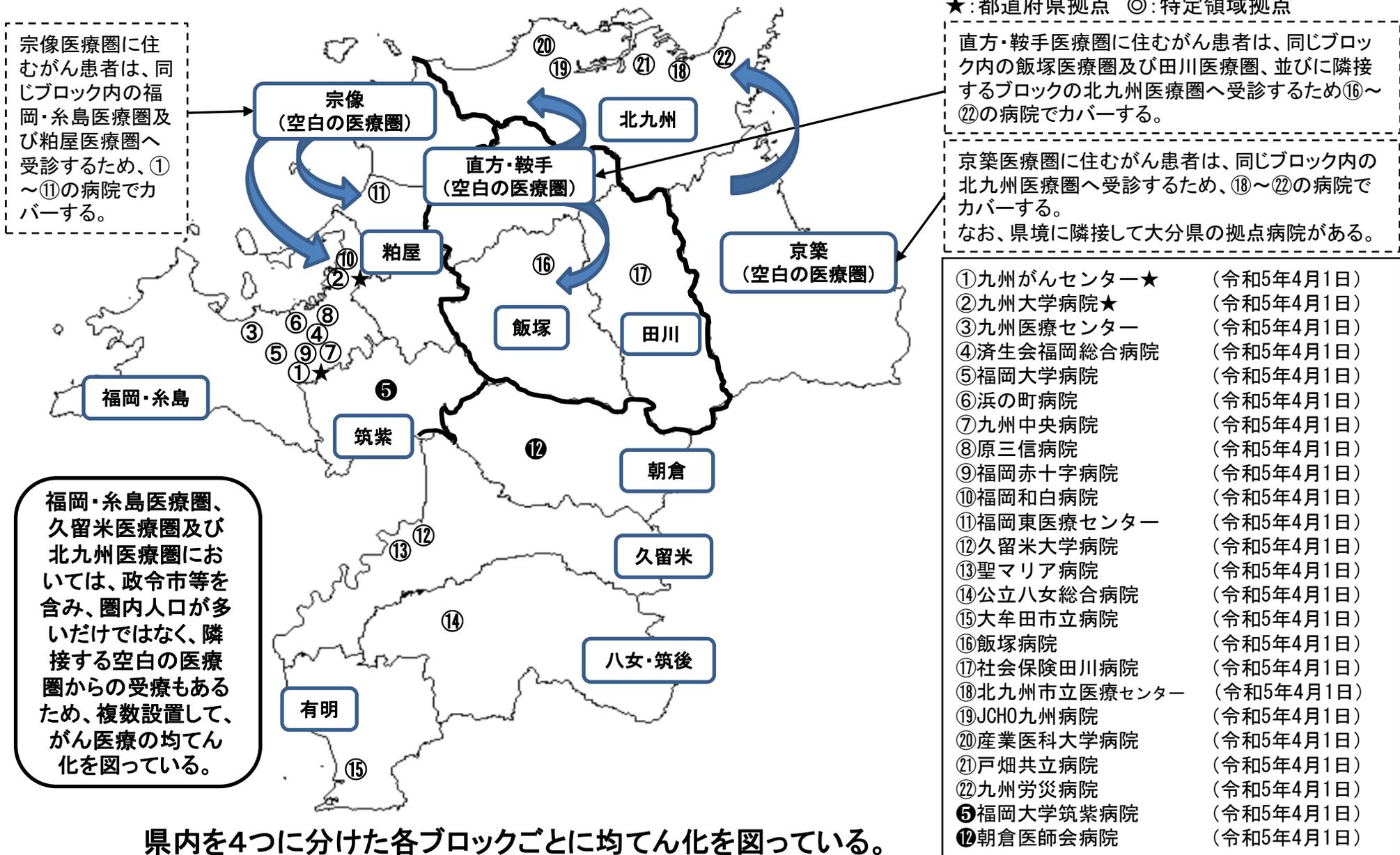
福岡県

福岡県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
福岡・糸島	559.16	1,741,901	34.1	3,115.2	123	9	1		10							
粕屋	206.71	292,603	5.7	1,415.5	26	1			1							
宗像	172.7	165,704	3.2	959.5	14				0							
筑紫	233.32	440,958	8.6	1,889.9	27			1	1							
朝倉	365.78	80,375	1.6	219.7	8				0						1	
久留米	467.83	447,141	8.8	955.8	47	2			2							
八女・筑後	562.16	127,031	2.5	226.0	14	1			1							
有明	263.81	202,413	4.0	767.3	31	1			1							
飯塚	369.21	169,890	3.3	460.1	20	1			1							
直方・鞍手	251.63	101,872	2.0	404.8	12				0							
田川	363.73	112,456	2.2	309.2	16			1	1							
北九州	601.84	1,045,719	20.5	1,737.5	101	4	1		5							
京築	569.76	179,795	3.5	315.6	14				0							
計	4,987.64	5,107,858	100	1024.1	453	19	3	1	23	0	0	0	0	1	0	0

福岡県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居 住する がん患者の診療の割 合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	福岡・糸島	★	現況報告	九州がんセンター	(2,235) 2,185	(1,504) 1,628	(5,471) 4,367	(895) 911	(429) 401	(9.5) 10	(3,006) 6,459
2	福岡・糸島	★	現況報告	九州大学病院	(3,094) 2,832	(4,446) 4,529	(18,197) 19,540	(1,066) 1,068	(222) 277	(12.0) 12	(1,493) 1,537
3	福岡・糸島		現況報告	九州医療センター	(2,023) 2,020	(1,744) 1,742	(1,302) 1,326	(407) 416	(372) 364	(15.5) 13	(234) 420
4	福岡・糸島		現況報告	済生会福岡総合病院	(1,189) 1,196	(773) 807	(1,115) 1,166	(321) 281	(191) 173	(4.1) 4	(2,207) 2,376
5	福岡・糸島		更新	福岡大学病院	(2,056) 1,917	(1,468) 1,050	(3,761) 1,903	(490) 416	(219) 187	(9.8) 9	(1,199) 1,073
6	福岡・糸島		現況報告	浜の町病院	(1,195) 1,183	(821) 663	(1,883) 1,874	(303) 300	(199) 240	(9.0) 12	(1,348) 1,403
7	福岡・糸島		現況報告	九州中央病院	(888) 978	(720) 790	(1,040) 1,085	(246) 308	(188) 74	(3.8) 4	(427) 397
8	福岡・糸島		現況報告	原三信病院	(1,105) 1,282	(477) 523	(1,102) 1,095	(206) 217	(68) 55	(5.0) 6	(822) 732
9	福岡・糸島		現況報告	福岡赤十字病院	(1,142) 1,085	(686) 734	(1,371) 1,368	(215) 135	(155) 148	(5.8) 6	(44) 95
10	福岡・糸島		現況報告	福岡和白病院	(636) 805	(510) 583	(2,390) 1,039	(415) 403	(101) 100	(2.4) 17	(121) 606

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住 する がん患者の診療の割 合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
11	粕屋	現況報告	福岡東医療センター	(659) 675	(417) 426	(1,072) 1,468	(195) 196	(105) 79	(15.1) 8	(549) 492	
12	筑紫	新規申請	福岡徳洲会病院	895	506	1,976	202	127	17	161	
13	久留米	現況報告	久留米大学病院	(2,577) 2,519	(2,373) 2,360	(2,183) 1,873	(847) 770	(158) 139	(29.3) 71	(793) 821	
14	久留米	現況報告	聖マリア病院	(1,196) 1,259	(534) 764	(1,319) 1,447	(250) 252	(190) 171	(23.9) 20	(729) 427	
15	八女・筑後	現況報告	公立八女総合病院	(268) 295	(128) 114	(357) 321	(118) 147	(170) 205	(31.3) 19	(227) 179	
16	有明	現況報告	大牟田市立病院	(622) 664	(532) 539	(694) 803	(71) 141	(55) 44	(34.9) 29	(926) 1,690	
17	飯塚	現況報告	飯塚病院	(2,030) 1,819	(2,018) 2,018	(1,515) 1,579	(336) 407	(798) 740	(51.3) 77	(284) 259	
18	田川	更新	社会保険田川病院	(365) 365	(264) 242	(331) 264	(112) 112	(67) 71	(68.8) 22	(301) 183	
19	北九州	現況報告	北九州市立医療センター	(2,126) 2,245	(1,622) 1,779	(5,964) 5,832	(490) 490	(211) 282	(13.1) 13	(913) 1,105	
20	北九州	現況報告	JCHO九州病院	(1,840) 1,810	(1,153) 1,208	(1,808) 1,879	(408) 454	(300) 366	(13.3) 13	(643) 1,196	

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-3

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

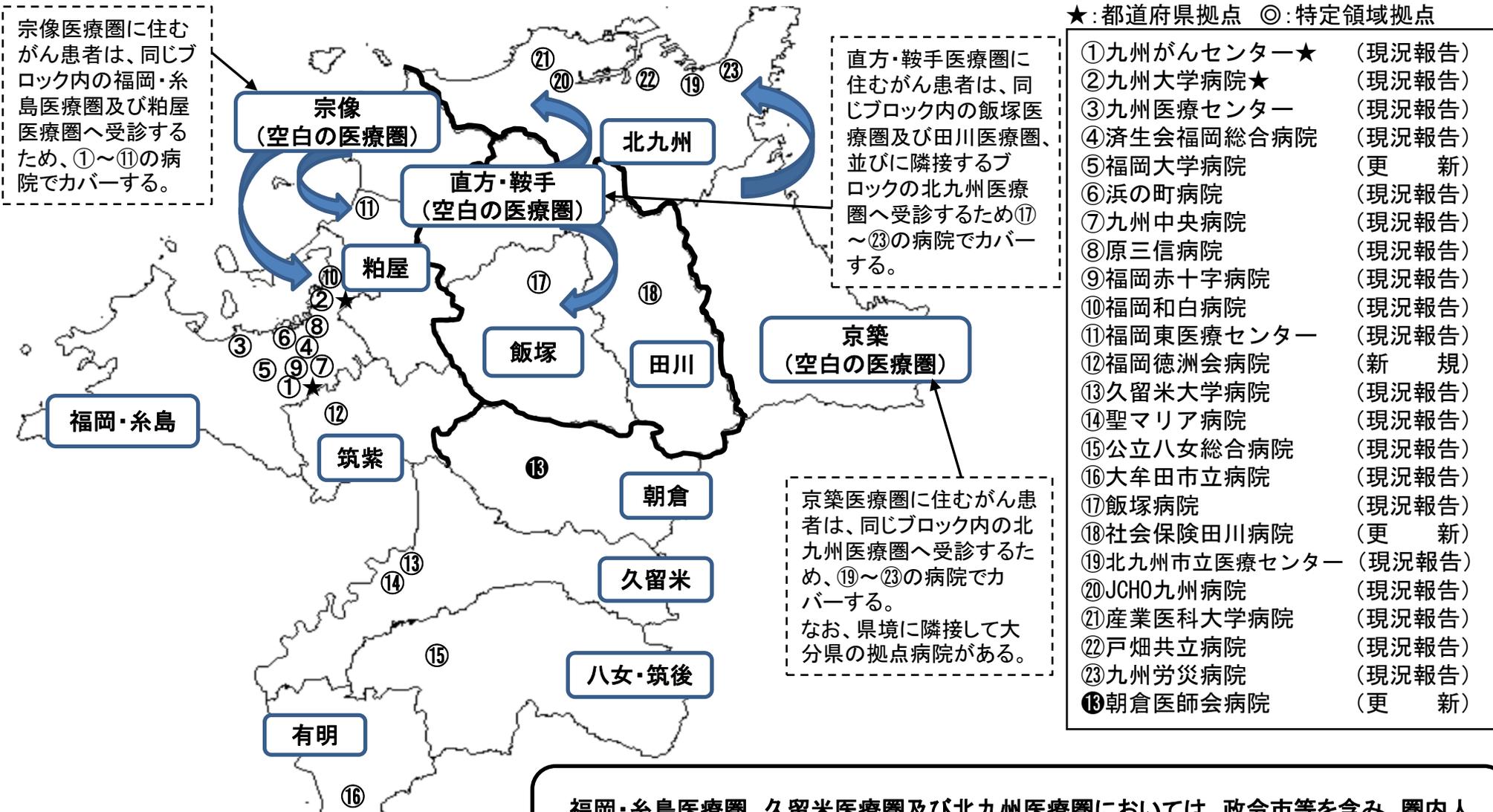
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居 住する がん患者の診療の割 合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
21	北九州		更新	産業医科大学病院	(1,959) 1,490	(1,684) 1,690	(1,279) 8,907	(421) 919	(224) 219	(16.0) 15	(1,162) 1,521
22	北九州		現況 報告	戸畑共立 病院	(554) 555	(380) 402	(1,127) 1,136	(683) 661	(648) 702	(4.2) 5	(1,140) 1,084
23	北九州		現況 報告	九州労災 病院	(915) 891	(609) 601	(1,153) 1,492	(218) 237	(96) 98	(6.2) 3	(991) 622

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
⑬	朝倉	更新	朝倉医師会病院	(288) 542	(186) 135	(1,365) 1,725	実施なし	(73) 141	(825) 945

福岡県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

福岡・糸島医療圏、久留米医療圏及び北九州医療圏においては、政令市等を含み、圏内人口が多いだけではなく、隣接する空白の医療圏からの受療もあるため、複数設置して、がん医療の均てん化を図っている

福岡県のがん診療連携拠点病院等整備の考え方

1 本県の状況

(1) がん患者等

- ① 本県におけるがんによる死亡者は16,150人（令和4年人口動態統計）、死亡者全体に占める割合は26.3%と、全国平均の24.6%を上回っている。
- ② 「全国がん登録」における令和元年の年齢調整罹患率は396.3と、全国平均の387.4を上回っている。
- ③ 75歳未満年齢調整死亡率は、全国平均67.4を上回る71.1（令和3年人口動態統計）である。

(2) 医療圏等

- ① 100万人を超える2次医療圏（福岡・糸島、北九州）を有している一方で、指定要件を満たす医療機関がない2次医療圏（宗像、直方・鞍手、京築）が存在している。
- ② 県内の推計入院患者の動向は、ほとんどが当該2次医療圏の所在する4ブロック（福岡、筑後、筑豊、北九州）内で、流入・流出している。また、他県からの流入患者が、10%超の2次医療圏が複数存在している。

2 整備方針

現在2か所の都道府県がん診療連携拠点病院、20か所の地域がん診療連携拠点病院及び2か所の地域がん診療病院を整備している。

(1) 地域がん診療連携拠点病院

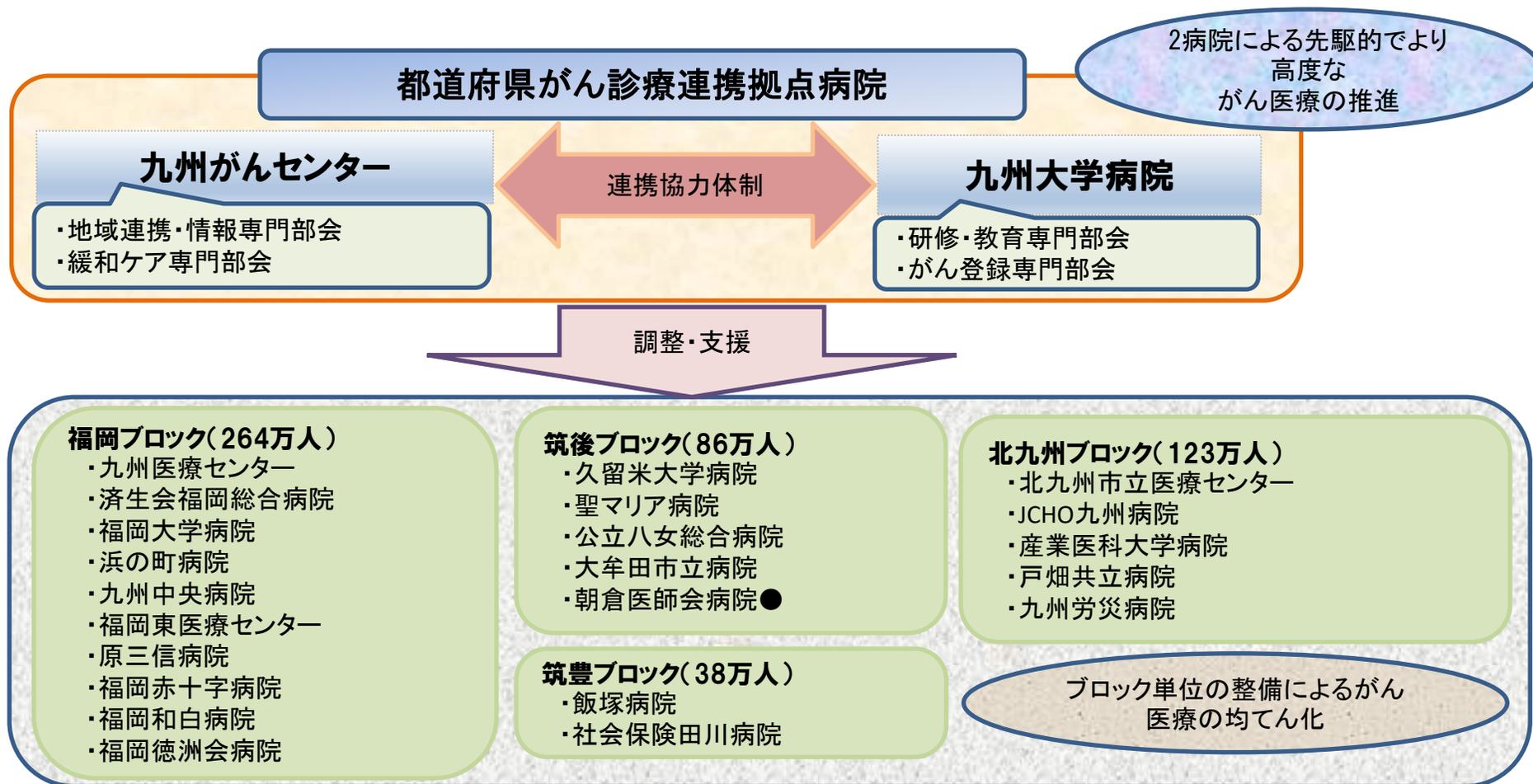
県内13のがん医療圏（2次医療圏）を基準としながら、県内の医療等の状況を踏まえ、引き続き、県内4ブロック単位で整備するという考え方を基本とする。

3 総括

本県のがんにかかる状況を踏まえ、「第3期福岡県がん対策推進計画」において、「がんによる死亡率（75歳未満調整死亡率）を6年間で10%減少させること」を数値目標に掲げている。

この達成のためには、全ての県民が県内どこに居ても質の高いがん医療を等しく受けられるがん医療の均てん化が必要不可欠である。

今後とも、県、がん診療連携協議会、拠点病院等との連携・協力体制を強化し、これを推進していく。



佐賀県

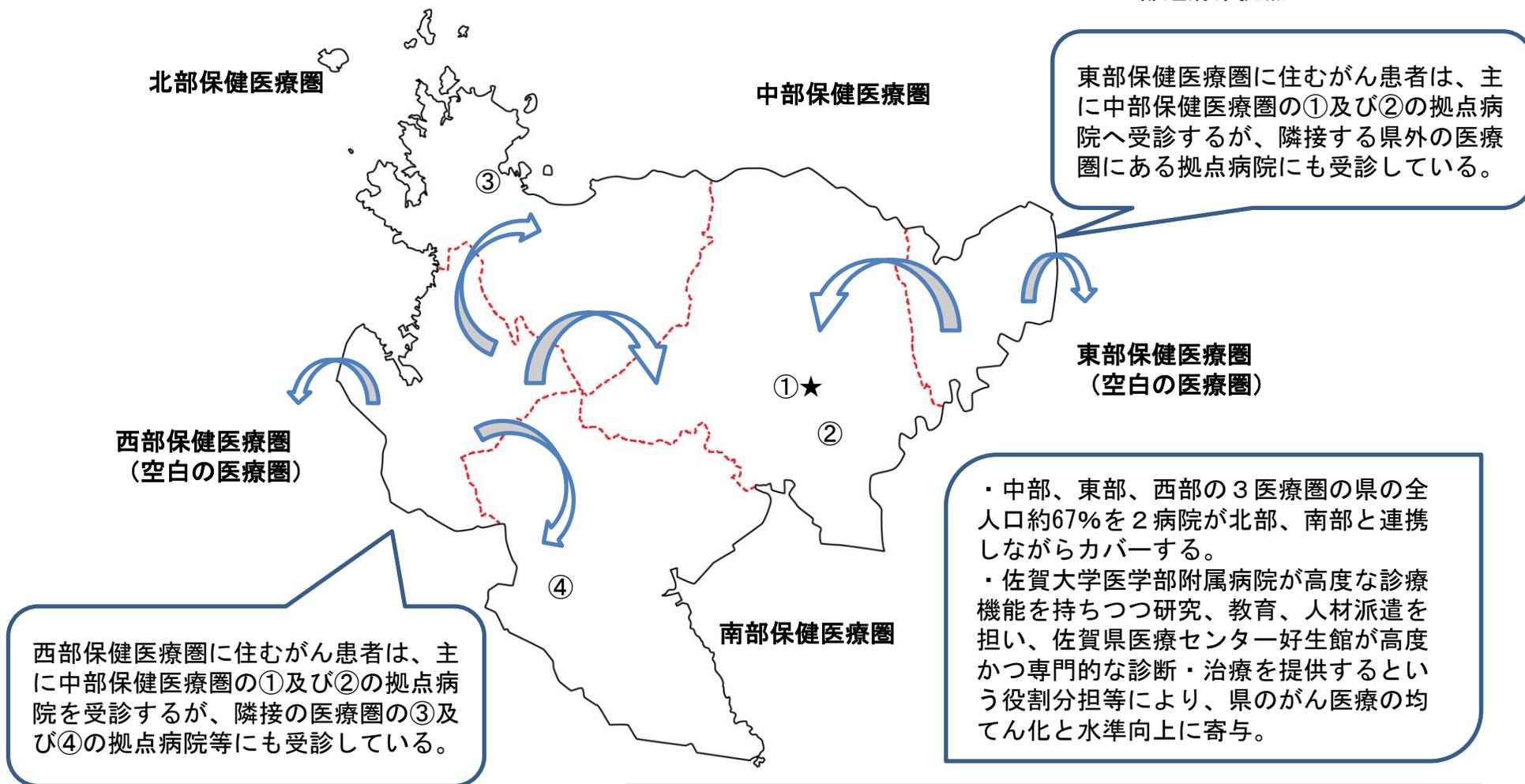
佐賀県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中部保健医療圏	793.73	339,228	42.38	427.4	37	2			2						
東部保健医療圏	158.59	127,093	15.88	801.4	13				0						
北部保健医療圏	523.50	119,929	14.98	229.1	17	1			1						
西部保健医療圏	321.10	70,013	8.75	218	9				0						1
南部保健医療圏	643.78	144,248	18.01	224.1	21	1			1						
計	2440.7	800,511	100	1900	97	4	0	0	4	0	0	0	0	0	1

佐賀県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



- | | |
|---------------|--------------|
| ①佐賀大学医学部附属病院 | ★ (令和5年4月1日) |
| ②佐賀県医療センター好生館 | (令和5年4月1日) |
| ③唐津赤十字病院 | (令和5年4月1日) |
| ④嬉野医療センター | (令和5年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

- ・令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50人以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 中部保健医療圏	★	現況報告	佐賀大学医学部附属病院	3,234	1.9	1,713	926	1,788	342	95	30	2,809
2 中部保健医療圏		現況報告	佐賀県医療センター好生館	3,205	24.4	1,329	748	2,133	288	476	74	4,456
3 北部保健医療圏		現況報告	唐津赤十字病院	1,373	21	616	411	1,013	120	111	38	3,365
4 南部保健医療圏		現況報告	嬉野医療センター	1,736	18	716	507	946	180	98	32	1,234

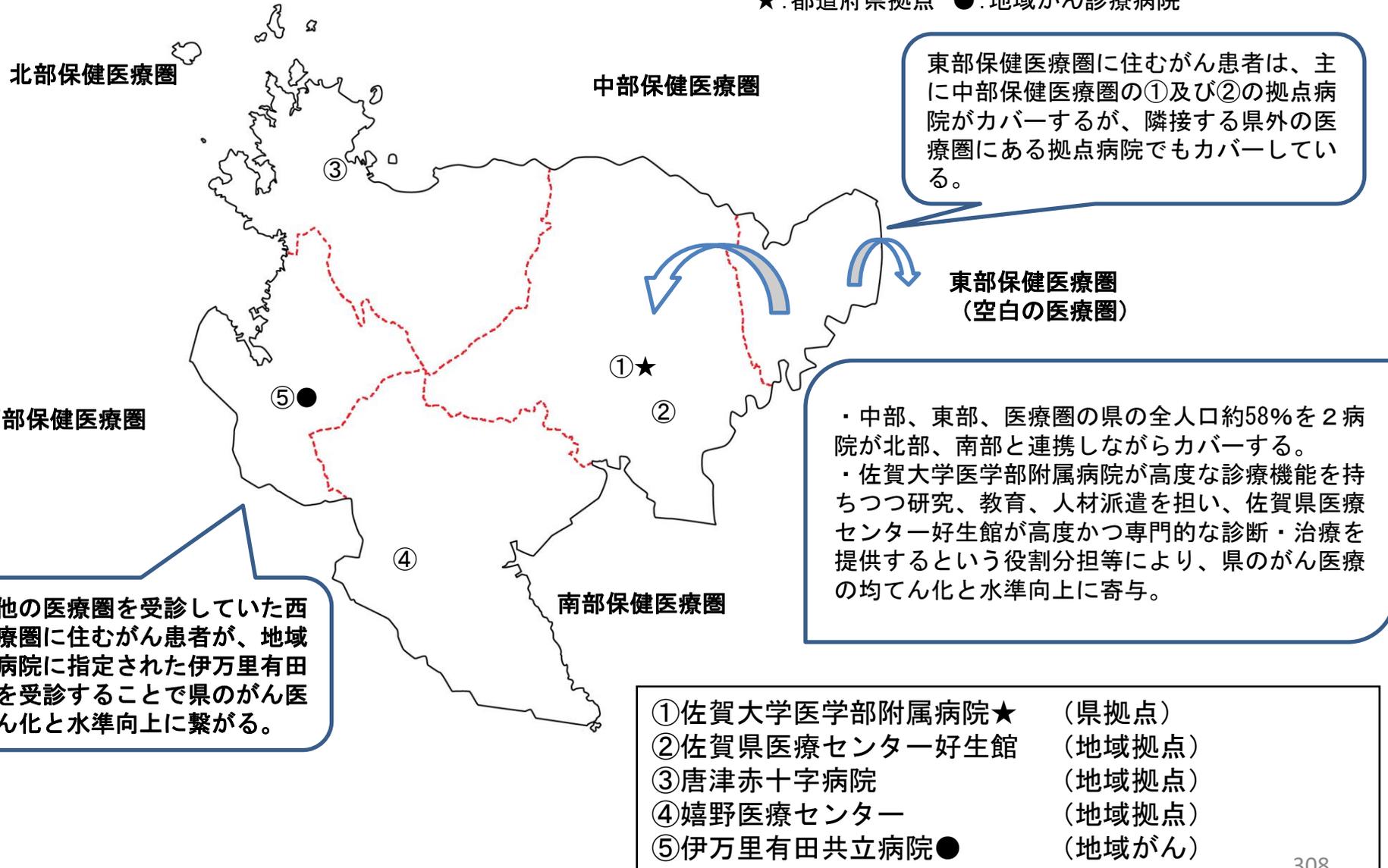
地域がん診療病院の診療実績等

- ・令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)							
1	西部保健医療圏		新規申請	伊万里有田共立病院	352	1.0	0	80	710	0	124	12	0

佐賀県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ●：地域がん診療病院



今回の推薦等に係る佐賀県の考え方について

佐賀県の現状

- ・ がんによる死亡率（75歳未満年齢調整死亡率）は全国と比較すると高い水準にある。
- ・ がん医療に関し、拠点病院を地域診療の核として、かかりつけ医を支援しながら、県民に等しく質の高いがん医療を提供する。

拠点病院の整備

- ・ 5医療圏に対し、4病院を指定。
- ・ 人口、医療資源が中部保健医療圏に集中しており、空白の医療圏である西部保健医療圏、東部保健医療圏には指定要件を満たす病院がない。

空白の医療圏への対応が課題



中部保健医療圏を中心に西部保健医療圏のがん患者をカバーしていたが、今回、地域がん診療病院を指定し、西部保健医療圏のがん患者をカバーする。

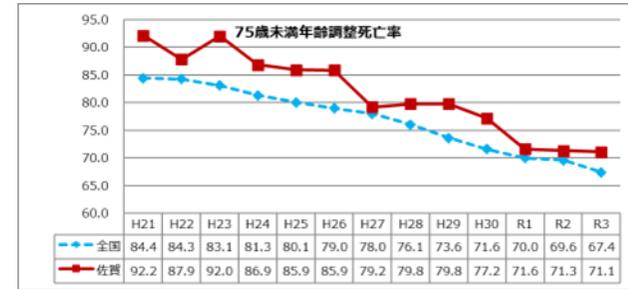
西部保健医療圏に地域がん診療病院を推薦する意義

伊万里有田共立病院

地域がん診療病院として、グループとなるがん診療連携拠点病院と連携しながら、がん診療機能の提供、西部医療圏への人材派遣等を受け、西部保健医療圏のがん医療を充実させる



がん診療連携拠点病院と協力、連携することで、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与することができる。



医療圏	人口	人口割合(%)	病院数
中部	339,228	42.38	37
西部	70,013	8.75	9
東部	127,093	15.88	13
南部	144,248	18.01	21
北部	119,929	14.98	17
計	800,511	100	97

長崎県

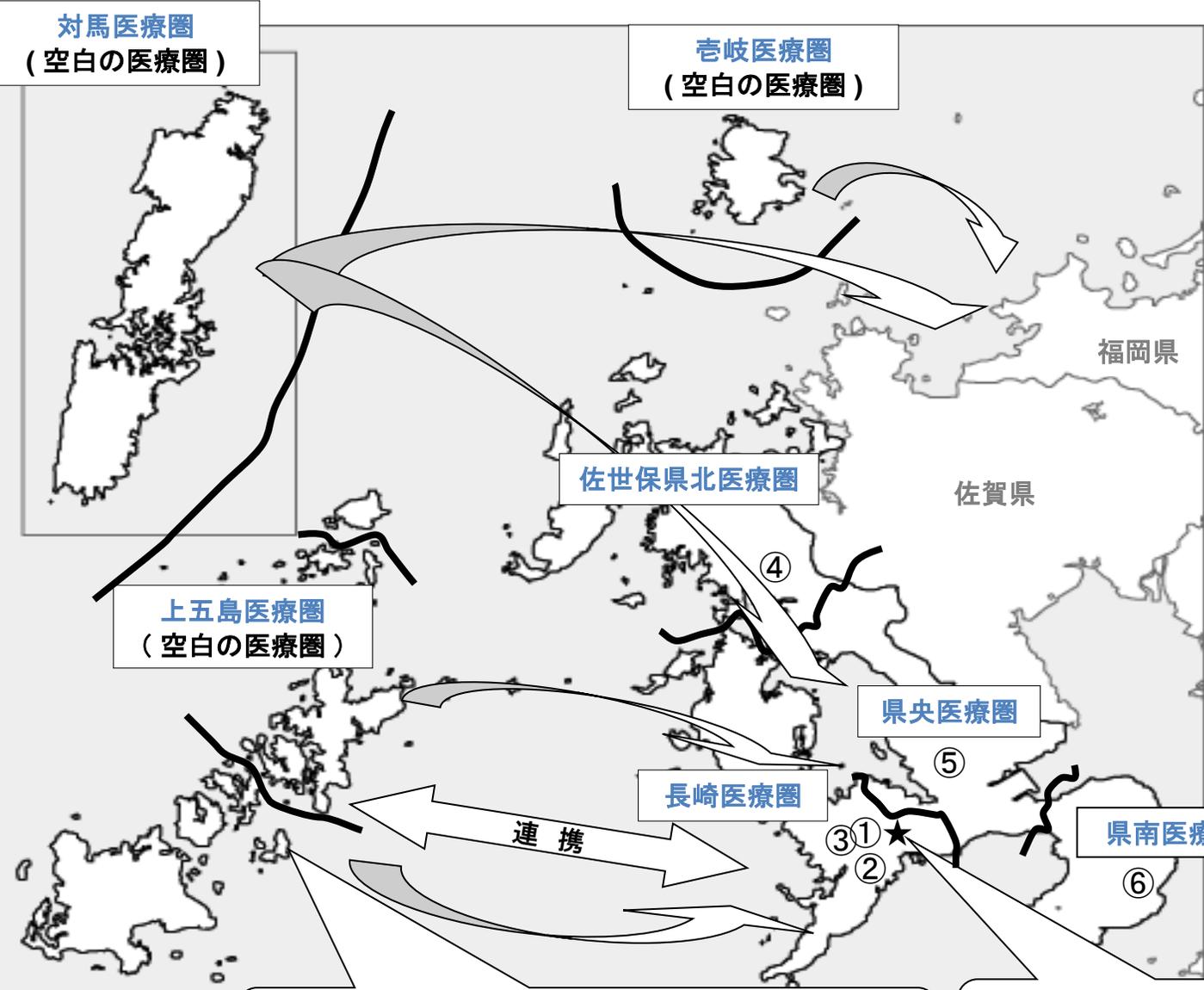
長崎県 がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
長崎医療圏	697.07	487,023	38	698.7	48	1	2		3						
佐世保県央 医療圏	824.20	295,342	23	358.3	34	1			1						
県央医療圏	626.12	262,645	21	419.5	31		1		1						
県南医療圏	467.35	120,831	10	258.5	15	1			1						
五島医療圏	420.04	32,676	3	77.8	4				0						
上五島医療圏	239.47	18,410	1	76.9	1				0						
壱岐医療圏	139.42	23,420	2	168	5				0						
対馬医療圏	708.63	26,701	2	37.7	2				0						
計	4,122.30	1,267,048	100	2095.4	140	3	3	0	6	0	0	0	0	0	0

長崎県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



- ①長崎大学病院 ★
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)
- ②長崎みなとメディカルセンター
(令和5年4月1日～令和9年3月31日)
- ③日本赤十字社 長崎原爆病院
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)
- ④佐世保市総合医療センター
(令和5年4月1日～令和9年3月31日)
- ⑤長崎医療センター
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)
- ⑥長崎県島原病院
(令和5年4月1日～令和9年3月31日)

【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」中心に主に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

医療圏数	8ヶ所
拠点病院数	6
現況	3
更新	3
新規	なし

五島医療圏
(空白の医療圏)

五島並びに上五島医療圏は、医療圏内のがん診療離島中核病院と、本土地区の長崎みなとメディカルセンター並びに日本赤十字社 長崎原爆病院等が中心となり支援

長崎大学病院は、県全体の調整と連携支援、並びに人材育成等に主導
長崎県がん診療連携協議会を主宰

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値

★:都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療実績	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	長崎医療圏	★	更新	長崎大学病院	(2, 254) 2, 284	(1, 850) 1, 577	(2, 130) 2, 306	(699) 651	(531) 496	(22) 37	(822) 1012
2	長崎医療圏		現況	長崎みなとメディカルセンター	(946) 974	(445) 608	(1, 015) 1, 031	(422) 424	(154) 159	(17) 16	(1, 339) 2, 126
3	長崎医療圏		更新	日本赤十字社長崎原爆病院	(1, 024) 1, 176	(714) 772	(1, 305) 1, 268	(309) 309	(126) 146	(9) 17	(1, 312) 1, 371
4	佐世保 県北 医療圏		現況	佐世保市総合医療センター	(1, 958) 2, 003	(1, 336) 1, 440	(2, 813) 1, 639	(497) 567	(374) 454	(49) 51	(1, 022) 838
5	県央 医療圏		更新	長崎医療センター	(1, 273) 1, 311	(677) 1, 359	(1, 303) 1, 436	(391) 379	(127) 151	(34) 40	(1, 304) 1, 430
6	県南 医療圏		現況	長崎県島原病院	(475) 481	(415) 377	(863) 608	(197) 171	(406) 411	(36) 36	(669) 500

長崎県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

対馬医療圏
(空白の医療圏)

壱岐医療圏
(空白の医療圏)

★:都道府県拠点

空白の医療圏である4つの離島医療圏は、第1期長崎県がん対策推進計画において位置づけたがん診療離島中核病院と本土地区の地域がん診療病院が連携し、がん医療の質の向上と均てん化を図っている。但し、壱岐・対馬医療圏については、経済圏の関係から、一部の患者は、福岡県の医療機関で受療している。

【長崎医療圏複数指定の理由】

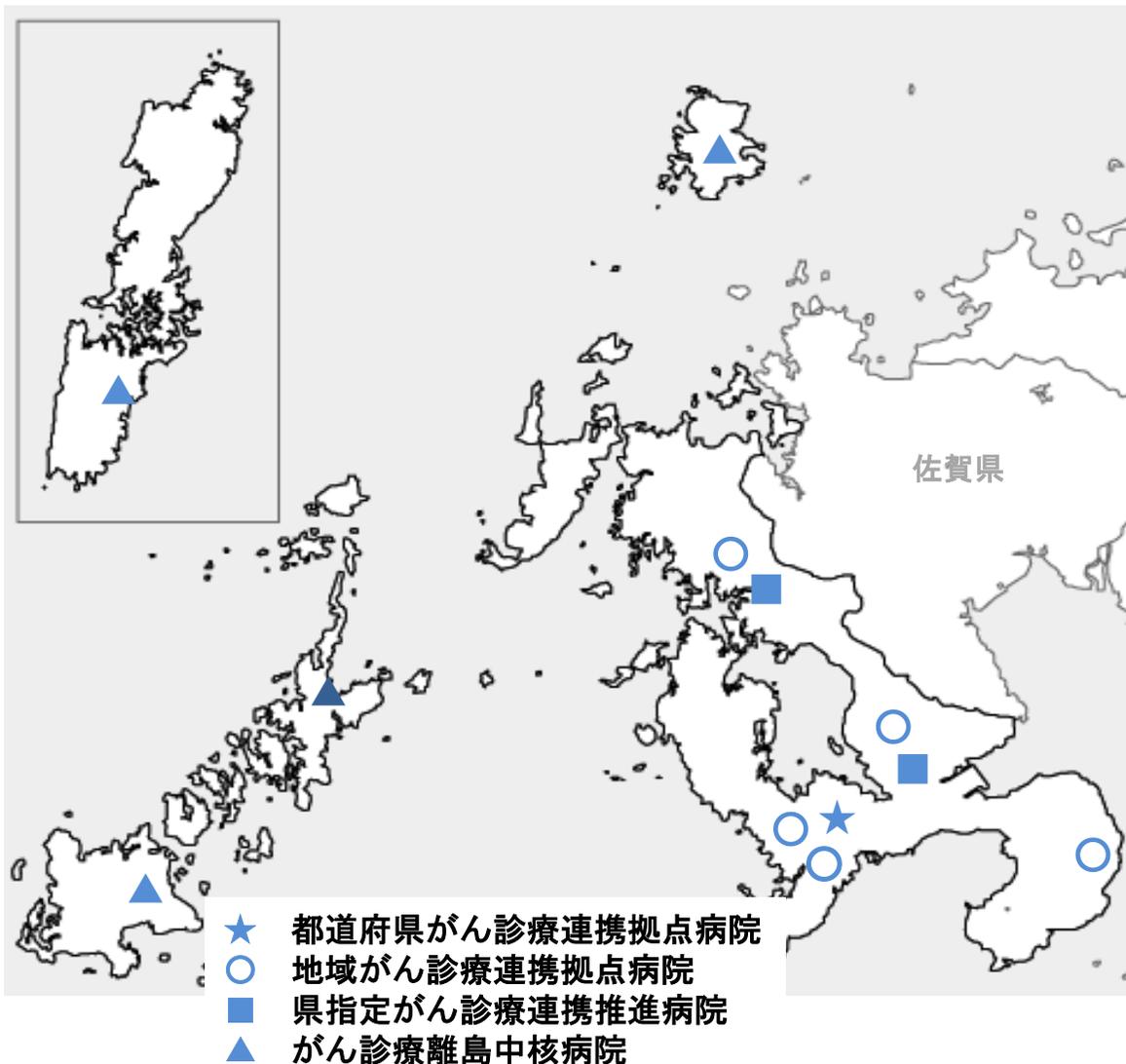
- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」を中心に主に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

県南医療圏

- ⑥
- ①長崎大学病院 ★ (更新)
 - ②長崎みなとメディカルセンター (現況)
 - ③日本赤十字社長崎原爆病院 (更新)
 - ④佐世保市総合医療センター (現況)
 - ⑤長崎医療センター (更新)
 - ⑥長崎県島原病院 (現況)

今回の指定推薦等に係る長崎県の考え方

長崎県のがん医療提供体制



人口 約126.7万人
医療圏 8か所（本土4か所 離島4か所）

本県のがん医療は、以下の病院の連携により提供
【国指定】

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院
長崎大学病院（長崎医療圏）
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
長崎みなとメディカルセンター（長崎医療圏）
日本赤十字社 長崎原爆病院（長崎医療圏）
佐世保市総合医療センター（佐世保県北医療圏）
長崎医療センター（県央医療圏）
長崎県島原病院（県南医療圏）

【県指定】

- ※国の地域がん診療連携拠点病院の指定要件をほぼ充足
- ・ がん診療推進病院
諫早総合病院（県央医療圏）
佐世保中央病院（佐世保県北医療圏）

【長崎県がん対策推進計画で位置づけ】

- ・ がん診療離島中核病院
長崎県五島中央病院
長崎県上五島病院
長崎県杵岐病院
長崎県対馬病院

【 長崎県が目指すがん医療連携体制 】

資料 5

■現状

本県の医療圏の半数は、国指定の拠点病院等がない空白の医療圏で、医療資源の偏在が課題である。空白の医療圏は、全て離島で、近隣の医療圏とは隣接しておらず、支援には多くの課題がある。

県指定がん診療連携推進病院は、地域がん診療連携拠点病院の要件をほぼ充足（一部未充足）し、本県のがん医療の一翼を担っているが、同一医療圏に国指定地域がん診療連携拠点病院があり、現時点で新たに指定を受けるのは困難な状況にある。

■今後の整備方針

空白の医療圏である離島地域の医療資源の偏在を補うために長崎大学病院を中心として、病理診断におけるあじさいネットの活用等によりがん医療の質の向上に努める。また離島中核病院のがん診療連携協議会への参加や医療機器の整備、研修会の開催等引き続き県内がん医療体制の強化を図る。

空白の医療圏との連携は、患者受療動向も錯綜していることから複数病院での支援体制が必要となる。現在国の指定を受けている地域がん診療連携拠点病院と、県指定がん診療連携推進病院の体制強化を図りつつ空白の医療圏の支援体制を構築したい。

■長崎医療圏に対する考え方

長崎市は南北に長く、患者動向からみると概ね3病院に分かれて受療。

各医療機関は、それぞれの特徴を活かした分野を中心に重責を担っており、本県のがん医療に必要不可欠な医療機関である。

・長崎みなとメディカルセンター

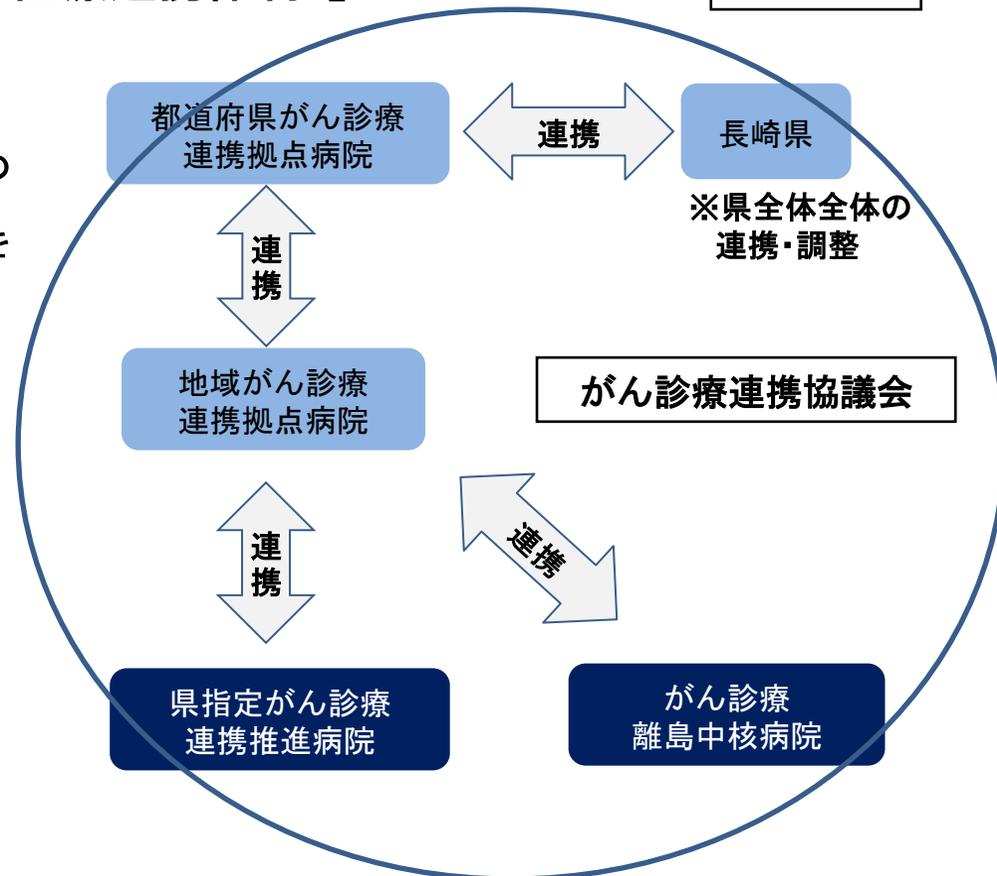
主に五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（南部地域）の中核病院としての実績とともに、サイバーナイフ導入等高精度放射線治療の一翼を担う。

・日本赤十字社 長崎原爆病院

被爆県である本県の特殊性から、被爆者（・二世）に対するがん診療の実績が多い。主に上五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（北部地域）の中核病院としての役割を担う。緩和ケア病棟を新設し、緩和ケア医療の充実を図っている。

・長崎大学病院

県全域（一部、佐賀県等を含む）のがん診療の質の向上に貢献。がんゲノム医療拠点病院、小児がん連携病院として、特に、合併症、小児、妊婦、多重がん等、特殊な治療を担うとともに、都道府県拠点病院として県内のがん診療医療従事者研修の企画・開催等、人材育成において主導的な立場を担っている。また、がん診療連携協議会において中心的役割を果たしている。



熊本県

熊本県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	計	既指定病院数	計	既指定病院数	計
熊本上益城	1,174.3	819,613	47.7%	698.0	102	4	0	0	4	0	0	0	0
宇城	406.9	99,824	5.9%	247.7	11	0	0	0	0	0	0	0	0
有明	421.4	148,233	8.7%	356.2	11	1	0	0	1	0	0	0	0
鹿本	299.7	46,916	2.8%	159.1	6	0	0	0	0	0	0	0	0
菊池	466.6	188,682	11.0%	403.9	16	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇	1,079.6	56,908	3.3%	53.1	6	0	0	0	0	0	0	0	0
八代	714.7	129,895	7.6%	183.5	11	1	0	0	1	0	0	0	0
芦北	431.4	40,384	2.4%	96.2	10	0	0	0	0	0	0	0	0
球磨	1,536.6	77,033	4.6%	51.2	11	0	1	0	1	0	0	0	0
天草	878.4	100,386	6.0%	117.3	18	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7,409.6	1,707,874	100.0%	230.5	202	6	1	0	7	0	0	0	0

熊本県 令和5年度の指定推薦等状況等予想される患者受療動向

★:都道府県拠点

空白の圏域については他の拠点病院の他、熊本県独自の拠点病院（熊本県指定がん診療連携拠点病院…■）を設置することでカバー。

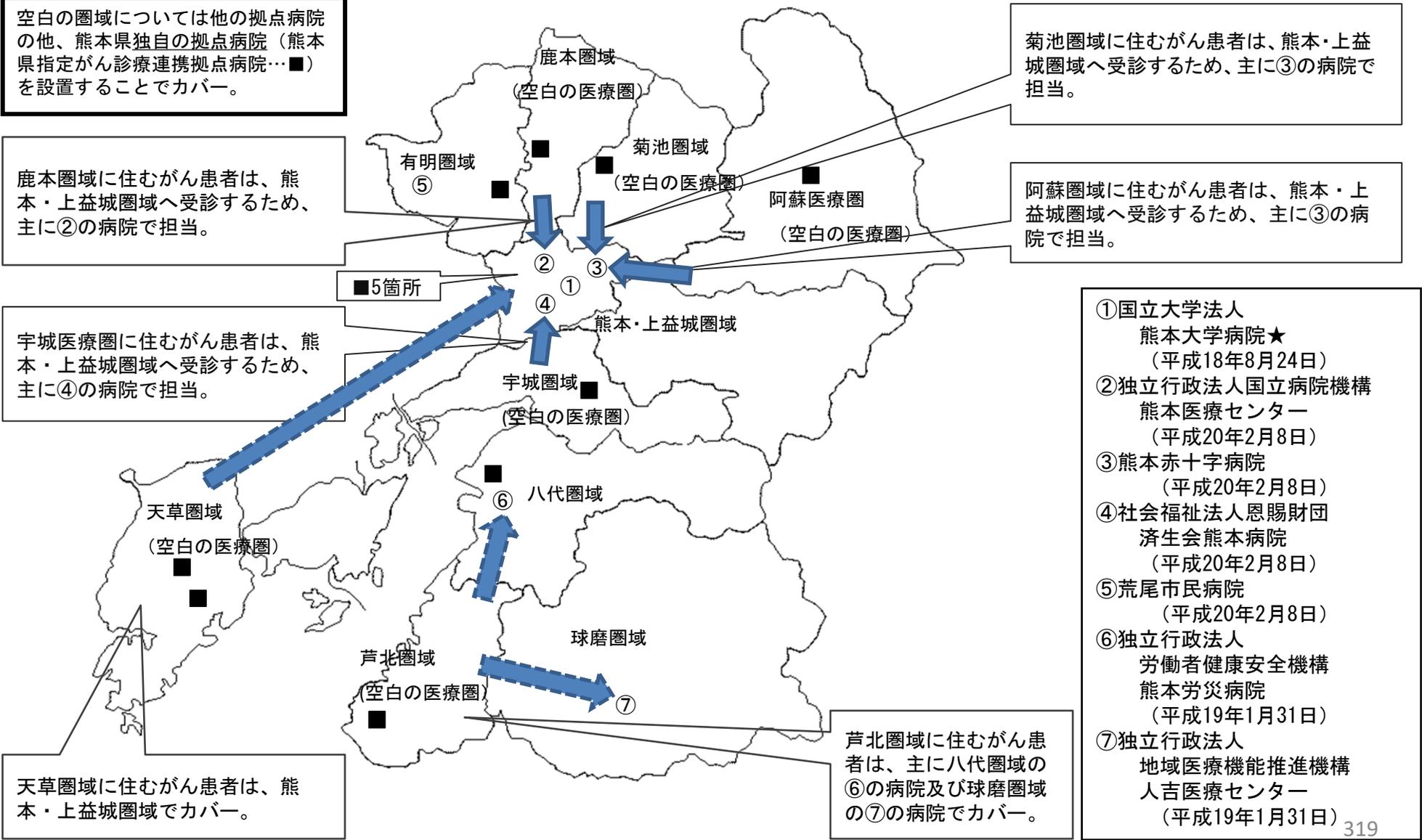
鹿本圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に②の病院で担当。

宇城医療圏に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に④の病院で担当。

天草圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域でカバー。

菊池圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に③の病院で担当。

阿蘇圏域に住むがん患者は、熊本・上益城圏域へ受診するため、主に③の病院で担当。



- ① 国立大学法人
熊本大学病院★
(平成18年8月24日)
- ② 独立行政法人国立病院機構
熊本医療センター
(平成20年2月8日)
- ③ 熊本赤十字病院
(平成20年2月8日)
- ④ 社会福祉法人恩賜財団
済生会熊本病院
(平成20年2月8日)
- ⑤ 荒尾市民病院
(平成20年2月8日)
- ⑥ 独立行政法人
労働者健康安全機構
熊本労災病院
(平成19年1月31日)
- ⑦ 独立行政法人
地域医療機能推進機構
人吉医療センター
(平成19年1月31日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

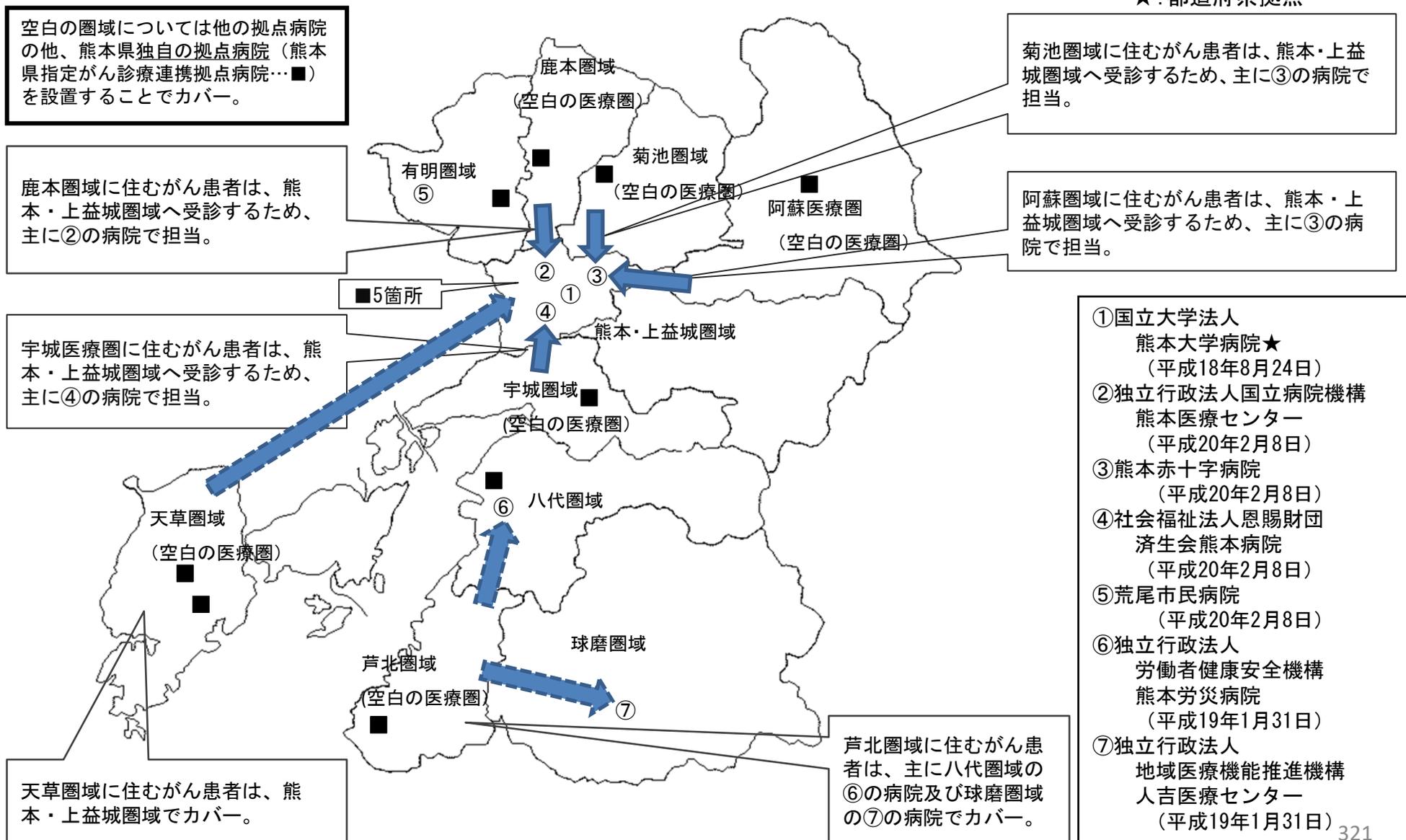
・()内は令和4年度提出の数値、下段は令和5年度の数値

★: 都道府県拠点

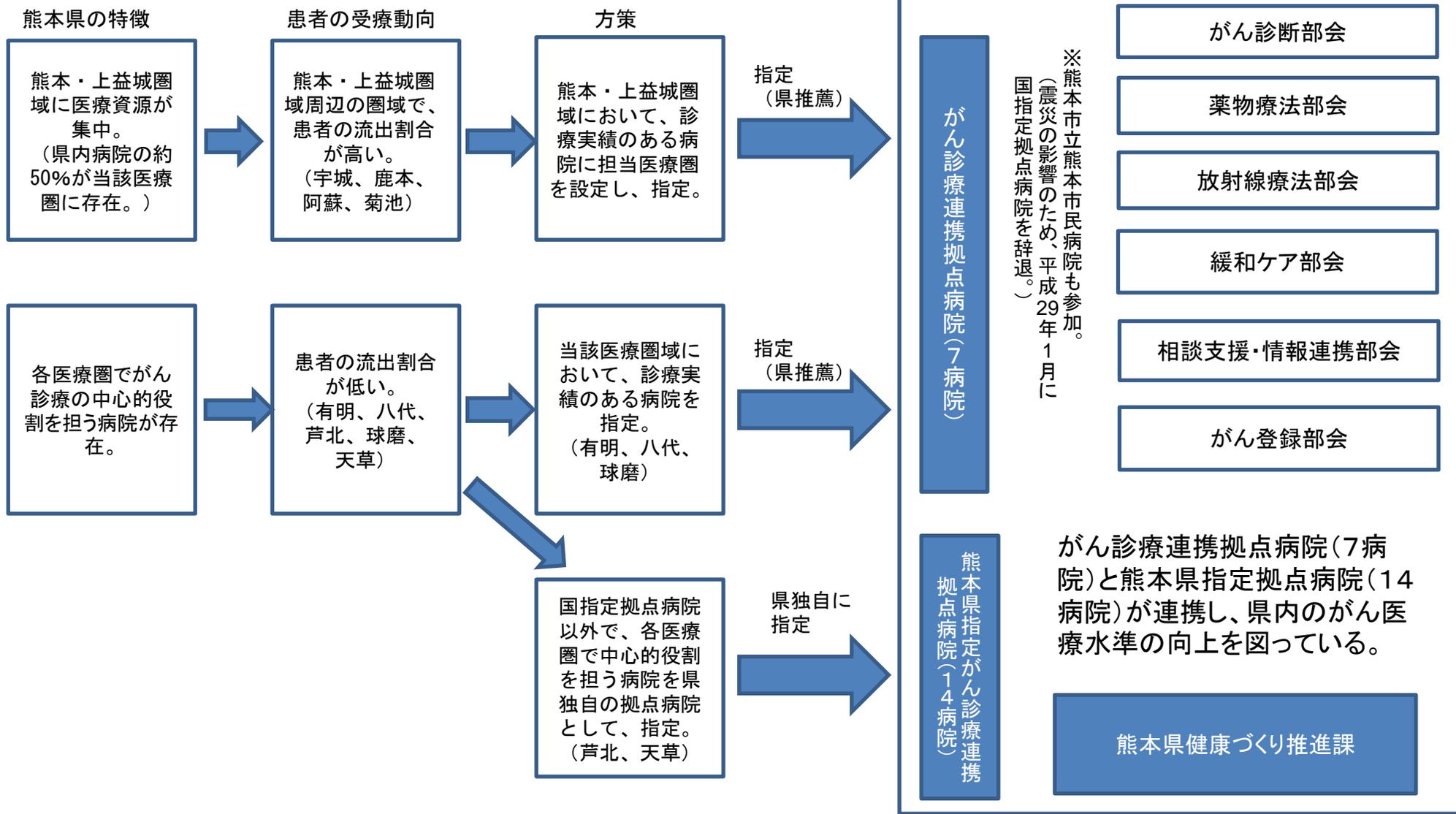
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の 手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する新規 介入患者数 (年間) <u>50人以上</u>	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	熊本・上益城	★	報告	熊本大学病院	(2,331) 2,916	(2,694) 2,590	(2,158) 2,229	(682) 728	(643) 651	(12.6) 14.0	(2,374) 2,784
2	熊本・上益城		報告	熊本医療センター	(1,320) 1,291	(1,074) 1,009	(1,340) 1,403	(319) 426	(160) 141	(11.4) 7.1	(905) 1,152
3	熊本・上益城		報告	熊本赤十字病院	(1,520) 2,002	(1,149) 1,035	(1,532) 1,479	(518) 452	(171) 155	(7.1) 8.6	(513) 510
4	熊本・上益城		報告	済生会熊本病院	(1,427) 1,440	(1,372) 1,368	(1,625) 1,665	(359) 372	(210) 154	(7.0) 6.2	(1,637) 1,595
5	有明		報告	荒尾市民病院	(364) 341	(237) 229	(965) 731	(196) 157	(163) 103	(39.5) 32.7	(706) 821
6	八代		報告	熊本労災病院	(567) 605	(420) 457	(512) 2,316	(152) 132	(86) 91	(43.3) 55.1	(1,653) 1,454
7	球磨		更新	人吉医療センター	(543) 489	(364) 298	(539) 443	(126) 133	(72) 25	(81.5) 88.6	(409) 491

熊本県 令和5年度の指定推薦等状況等予想される患者受療動向

★:都道府県拠点



熊本県におけるがん診療体制について



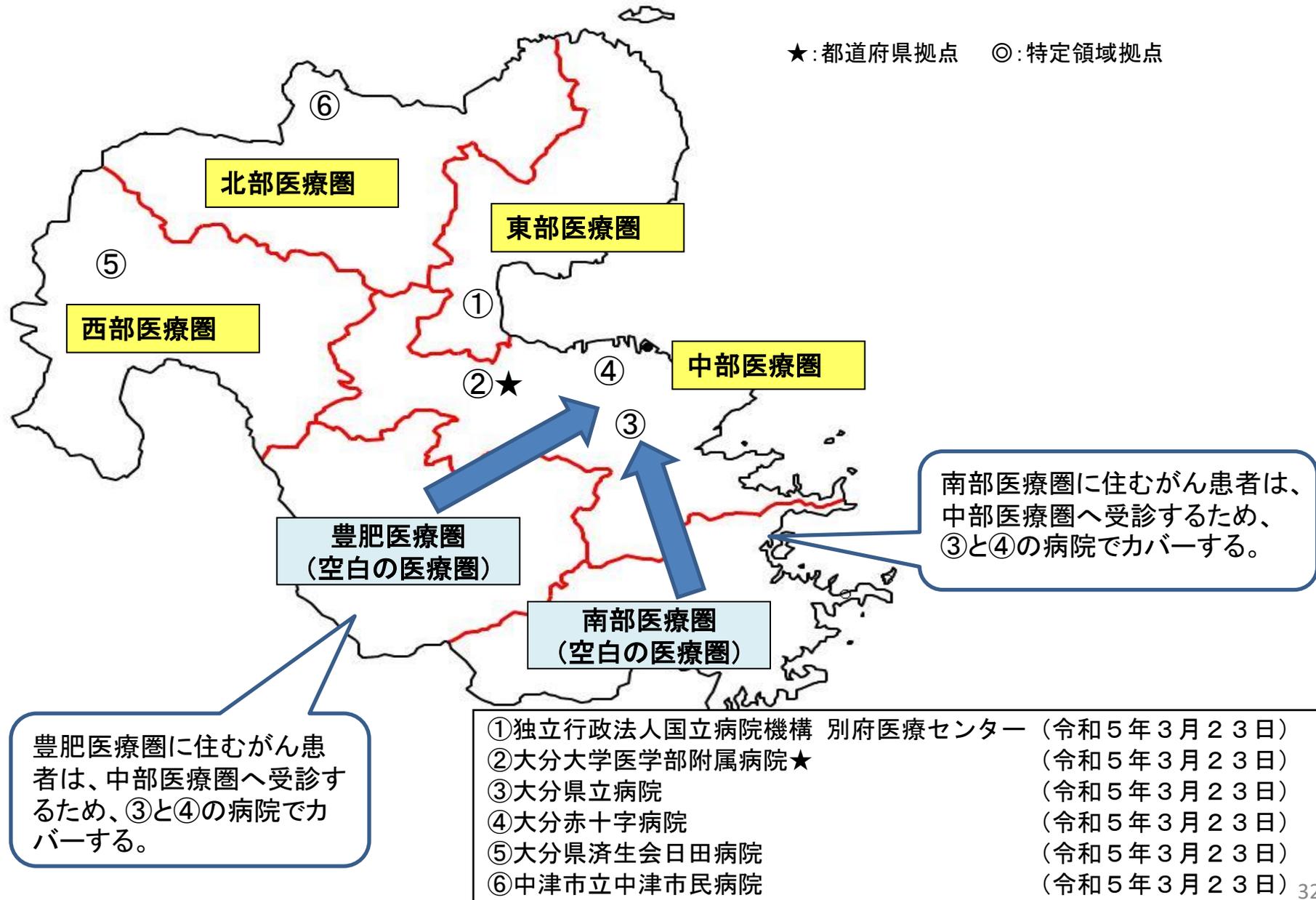
大分県

大分県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	803.83	193,075	17.6	240.19	33	1			1						
中部医療圏	1,192.41	554,018	50.5	464.62	62	3			3						
南部医療圏	903.12	63,144	5.8	69.92	8				0						
豊肥医療圏	1,080.67	50,727	4.6	46.94	6				0						
西部医療圏	1,224.00	81,375	7.4	66.48	20				0						1
北部医療圏	1,136.73	154,196	14.1	135.65	22	1			1						
計	6,340.76	1,096,535	100	1033.39	152	5	0	0	5	0	0	0	0	0	1

大分県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

- ・()内は令和4年10月提出の数値、下段は令和5年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 東部		現況報告	別府医療センター	(775)	(526)	(1,123)	(135)	(153)	(32.6)	(3,693)
				822	504	1,199	157	184	50	1,184
2 中部	★	現況報告	大分大学附属病院	(1,456)	(1,832)	(9,575)	(284)	(137)	(18.4)	(1,128)
				1,364	1,083	9,024	291	141	19	991
3 中部		現況報告	大分県立病院	(1,592)	(669)	(2,117)	(471)	(179)	(23.8)	(578)
				1,541	892	1,701	474	149	22	829
4 中部		現況報告	赤十字病院	(836)	(601)	(3,871)	(209)	(175)	(20.5)	(537)
				785	591	2,422	234	142	23	327
5 西部		指定類型変更	済生会日田病院	(228)	(175)	(345)	(82)	(61)	(55.0)	(173)
				216	127	271	106	70	41	261
6 北部		現況報告	中津市民病院	(624)	(403)	(1,370)	(184)	(46)	(35.4)	(1,008)
				652	398	1,261	201	37	43	924

大分県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

拠点病院の数、配備に変更がないため、想定される患者受療動向についても変化はない

南部医療圏及び豊肥医療圏の患者は中部医療圏の病院を受診するため③、④の病院でカバーする

- ①独立行政法人国立病院機構別府医療センター (現況)
- ②大分大学医学部附属病院★ (現況)
- ③大分県立病院 (現況)
- ④大分赤十字病院 (現況)
- ⑤大分県済生会日田病院 (変更)
- ⑥中津市立中津市民病院 (現況)

拠点病院の指定推薦の考え方

現状

- 本県では、平成20年3月に「大分県がん対策推進計画」を策定し、「がんによる死亡者の減少」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」を全体目標として、がん診療連携拠点病院の整備など、がん対策を推進してきた。
- 現在指定されている6つのがん診療連携拠点病院については、県内におけるがん対策の拠点として、県全体のがん医療水準の向上、均てん化に大きな役割を果たしてきた。
- 現在策定中である「大分県がん対策推進計画(第4期)」では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ことを目標に掲げ、さらなるがん対策に取り組むこととしており、その達成に向けて、現在の1県拠点病院・6県域5拠点病院体制は必要不可欠のものとなっている。

拠点病院の役割

○都道府県がん診療連携拠点病院について

大分大学医学部附属病院は、平成20年に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されて以来、「地域がん診療連携拠点病院」間の連携を図り、「都道府県がん診療連携協議会」の幹事として連携協力体制や医師派遣などの診療派遣、情報の共有化に積極的に努めているほか、「地域がん診療連携拠点病院」に対する積極的な研修の開催等、高度のがん医療の均てん化に大きく寄与しており、その役割を十分に果たしている。

○地域がん診療連携拠点病院について

本県の医療圏は「東部」、「中部」、「南部」、「豊肥」、「西部」、「北部」の6医療圏で構成され、「南部」、「豊肥」の2医療圏は拠点病院のない空白医療圏となっている。

本県の病院・診療所の数、医師等の人数等は、概ね全国水準を上回っているものの、東部、中部医療圏に約半数が集中しており、医療資源の集中化が見られる。特に、中部医療圏内の人口は、約55万人で本県人口(約110万人)の約半数を占めている。さらに高速道路網等の道路整備により、中部医療圏内の病院での受療の増加が見られるため、中部医療圏の拠点病院の整備はさらに充実・強化が必要であると考えている。

南部、豊肥の各医療圏では指定要件を充たす病院がなく、両医療圏とも高速道路等の整備促進により、中部医療圏の医療機関での受療動向が高くなっている。

以上のことから、中部医療圏については、2つの地域がん診療連携拠点病院を維持し、本県のがん医療に対する体制を維持・強化していきたいと考えている。また、「東部」、「北部」の医療圏についても、これまでの実績及び他に指定要件を充足する病院が無いことから拠点病院の設置を維持していきたいと考えている。

○地域がん診療病院について

「西部」医療圏は、大分県済生会日田病院が「地域がん診療連携拠点病院」として地域のがん患者に良質な治療を提供している。令和4年度更新時、指定要件未充足があったため「地域がん診療連携拠点病院(特例型)」に指定され、令和5年度においても同要件が未充足のため、新たに「地域がん診療病院」として推薦した。同病院は、未充足要件以外は他の地域がん診療連携拠点病院と同様に機能しており、また、他に指定要件を充足する病院が無いことから、「西部」医療圏のがん医療体制の維持向上のため、同病院を「地域がん診療病院」として設置したいと考えている。

宮 崎 県

宮崎県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院					特定領域 がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院					
						推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				推薦 施設数	内訳				
							新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告		新規申請	指定更新	指定類型 変更	現況報告	
県北がん医療圏	3,185.9	213,321	20.5	67.0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県央がん医療圏	2,023.2	514,488	49.4	254.3	43	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南がん医療圏	830.4	63,711	6.1	76.7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県西がん医療圏	1,694.7	250,243	24.0	147.7	37	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7,734.2	1,041,763	100.0	545.6	115	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

宮崎県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①宮崎県立宮崎病院（令和5年3月23日）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（令和5年3月23日）
- ③国立病院機構都城医療センター（令和5年3月23日）

★：都道府県拠点

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院で、カバーしている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

() 内は令和3年1月～12月の実績、下段は令和4年1月～12月の実績

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術 件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	新規介入患者数 (年間) <u>50件以上</u>	診療実績の割合 (%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	県央		更新	宮崎県立 宮崎病院	(1,021) 1,116	(804) 741	(1,005) 1,887	(257) 260	(121) 111	(22.8) 33	(245) 232
2	県央	★	更新	宮崎大学 医学部 附属病院	(943) 981	(1,048) 1,075	(1,102) 1,109	(270) 264	(115) 126	(17.7) 13	(3,091) 3,356
3	県西		更新	都城医療 センター	(1,022) 826	(444) 417	(8,370) 6,972	(221) 201	(128) 121	(23.4) 42	(1,218) 1,174

地域がん診療病院の診療実績等

該当ありません

宮崎県 令和5年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

- ①宮崎県立宮崎病院（更新）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（更新）
- ③国立病院機構都城医療センター（更新）

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、引き続き、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院でカバーする。

がん医療提供体制に係る本県の考え方

宮崎県の地域特性

- 地理的制約 . . . 県土が南北に長く、公共交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 . . . 7つの二次医療圏を4つのがん医療圏として再編しても、空白の医療圏が2つ残る
- 医療従事者の不足 . . . がん専門の医療従事者の不足

指定推薦等に係る考え方

- 地域特性を踏まえ、現在の拠点病院を中心とした連携体制を維持し、県内がん医療の均てん化を図る。

宮崎大学医学部附属病院（★都道府県がん診療連携拠点病院）

- ・ 県内の医療連携の中心
- ・ 県内唯一の特定機能病院

宮崎県立宮崎病院

（地域がん診療連携拠点病院：県央がん医療圏）

- ・ 県央がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 空白のがん医療圏の患者の受入も多い

国立病院機構都城医療センター

（地域がん診療連携拠点病院：県西がん医療圏）

- ・ 県西がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 政策医療の中でもがん医療に注力

空白のがん医療圏（県北がん医療圏・県南がん医療圏）

がん診療指定病院（宮崎県指定）である県立延岡病院、県立日南病院で標準的ながん医療を実施³³⁵

鹿児島県

鹿児島県がんの医療圏の概要

令和5年9月1日現在

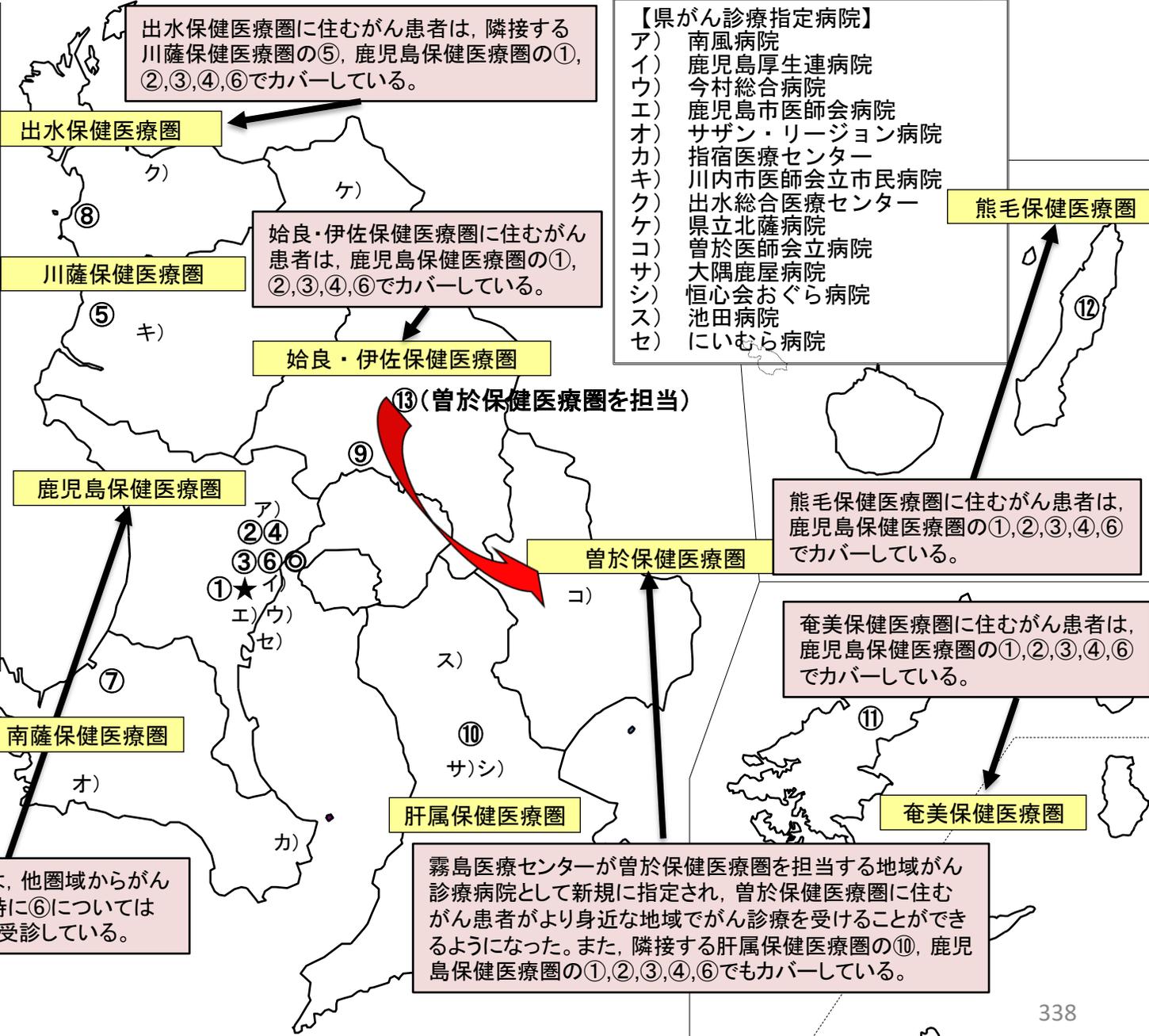
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
鹿児島保健医療圏	1,045.5	660,669	42.7	631.9	100	3	1		4	1					
南薩保健医療圏	865.1	118,214	7.6	136.6	30				0					1	
川薩保健医療圏	986.8	109,261	7.1	110.7	15		1		1						
出水保健医療圏	580.5	77,888	5.0	134.2	8				0				1		
始良・伊佐保健医療圏	1,371.3	230,740	14.9	168.3	33				0				1		
曾於保健医療圏	781.0	71,118	4.6	91.1	8				0				1		
肝属保健医療圏	1,322.9	143,050	9.2	108.1	17				0				1		
熊毛保健医療圏	992.9	37,670	2.4	37.9	4				0				1		
奄美保健医療圏	1,240.3	99,926	6.5	80.6	15				0				1		
計	9,186.2	1,548,536	100.0	1499.5	230	3	2	0	5	1	0	0	6	1	0

※がんの医療圏と二次保健医療圏は同一

鹿児島県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ① 鹿児島大学病院★ (現況)
(令和5年3月23日)
- ② 鹿児島医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ③ 鹿児島市立病院 (現況)
(令和5年3月23日)
- ④ いまきいれ総合病院 (更新)
(令和5年3月23日)
- ⑤ 済生会川内病院 (更新)
(令和5年3月23日)
- ⑥ 博愛会相良病院◎ (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑦ 県立薩南病院 (更新)
(令和5年3月23日)
- ⑧ 出水郡医師会広域医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑨ 南九州病院 (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑩ 鹿屋医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑪ 県立大島病院 (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑫ 種子島医療センター (現況)
(令和5年3月23日)
- ⑬ 霧島市立医師会医療センター (現況)
(令和5年3月23日)

- 【県がん診療指定病院】
- ア) 南風病院
 - イ) 鹿児島厚生連病院
 - ウ) 今村総合病院
 - エ) 鹿児島市医師会病院
 - オ) サザン・リージョン病院
 - カ) 指宿医療センター
 - キ) 川内市医師会立市民病院
 - ク) 出水総合医療センター
 - ケ) 県立北薩病院
 - コ) 曾於医師会立病院
 - サ) 大隅鹿屋病院
 - シ) 恒心会おぐら病院
 - ス) 池田病院
 - セ) にいむら病院



鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診している。

霧島医療センターが曾於保健医療圏を担当する地域がん診療病院として新規に指定され、曾於保健医療圏に住むがん患者がより身近な地域でがん診療を受けることができた。また、隣接する肝属保健医療圏の⑩、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でもカバーしている。

鹿児島保健医療圏

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・上段()内は令和3年の数値, 下段は令和4年の数値

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談件数
					院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談支援センター相談件数(年間)
					500件以上	400件以上	1000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1	鹿児島	★	現況	鹿児島大学病院	(2,059) 2,027	(970) 1,911	(1,500) 2,450	(600) 544	(560) 434	(22) 19	(5,365) 4,963
2	鹿児島		現況	鹿児島医療センター	(986) 978	(561) 759	(1,480) 1,308	(246) 201	(101) 119	(11) 11	(3,363) 2,131
3	鹿児島		現況	鹿児島市立病院	(1,695) 1,605	(2,431) 2,381	(11,351) 11,519	(355) 316	(289) 274	(16) 16	(4,847) 4,004
4	鹿児島		更新	いまきいれ総合病院	(725) 715	(574) 658	(2,932) 3,676	(212) 208	(314) 361	(9) 9	(408) 390
5	川薩		更新	済生会川内病院	(527) 585	(351) 462	(535) 517	(234) 240	(57) 63	(49) 50	(602) 542
6	鹿児島	◎	現況	相良病院	(889) 1,270	(815) 858	(1,128) 1,239	(496) 503	(61) 58	(6) 2	(2,610) 2,577

地域がん診療病院の診療実績等

・上段()内は令和3年の数値, 下段は令和4年の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談件数
				院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談支援センター相談件数(年間)
1	南薩	更新	県立薩南病院	(165) 172	(53) 66	(852) 630	(42) 36	(21) 22	(54) 53	(1,587) 1,570
2	出水	現況	出水郡医師会広域医療センター	(210) 219	(172) 186	(939) 1,070	(実施なし) 実施なし	(62) 92	(49) 29	(757) 1,255
3	始良・伊佐	現況	南九州病院	(375) 375	(96) 140	(1,271) 1,508	(2,163) 144	(165) 37	(3) 5	(1,887) 2,456
4	肝属	現況	鹿屋医療センター	(164) 214	(62) 74	(231) 1,444	(140) 144	(63) 153	(21) 16	(365) 194
5	奄美	現況	県立大島病院	(421) 465	(155) 171	(2,545) 2,430	(97) 85	(178) 222	(26) 42	(671) 576
6	熊毛	現況	種子島医療センター	(192) 172	(24) 18	(179) 900	(実施なし) 実施なし	(24) 16	(34) 36	(122) 846
7	曾於	現況	霧島市立医師会医療センター	(393) 415	(247) 246	(621) 616	(実施なし) 実施なし	(60) 26	(29) 17	(520) 1,264

鹿児島県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ① 鹿児島大学病院★ (令和5年3月23日)
- ② 鹿児島医療センター (令和5年3月23日)
- ③ 鹿児島市立病院 (令和5年3月23日)
- ④ いまきいれ総合病院 (令和5年3月23日)
- ⑤ 済生会川内病院 (令和5年3月23日)
- ⑥ 博愛会相良病院◎ (令和5年3月23日)
- ⑦ 県立薩南病院 (令和5年3月23日)
- ⑧ 出水郡医師会広域医療センター (令和5年3月23日)
- ⑨ 南九州病院 (令和5年3月23日)
- ⑩ 鹿屋医療センター (令和5年3月23日)
- ⑪ 県立大島病院 (令和5年3月23日)
- ⑫ 種子島医療センター (令和5年3月23日)
- ⑬ 霧島市立医師会医療センター (令和5年3月23日)
- 【県がん診療指定病院】
- ア) 南風病院
- イ) 鹿児島厚生連病院
- ウ) 今村総合病院
- エ) 鹿児島市医師会病院
- オ) サザン・リージョン病院
- カ) 指宿医療センター
- キ) 川内市医師会立市民病院
- ク) 出水総合医療センター
- ケ) 県立北薩病院
- コ) 曾於医師会立病院
- サ) 大隅鹿屋病院
- シ) 恒心会おぐら病院
- ス) 池田病院
- セ) にいむら病院

出水保健医療圏に住むがん患者は、隣接する川薩保健医療圏の⑤、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

始良・伊佐保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

奄美保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診する。

隣接する肝属保健医療圏の⑩、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーする。

鹿児島保健医療圏

出水保健医療圏

川薩保健医療圏

始良・伊佐保健医療圏

⑬(曾於保健医療圏を担当)

鹿児島保健医療圏

曾於保健医療圏

熊毛保健医療圏

南薩保健医療圏

肝属保健医療圏

奄美保健医療圏

【現状】

- 全9保健医療圏に13医療機関(都道府県:1, 地域がん連携:4, 特定:1, 地域がん:7)が指定されている。
- 本県独自の「県がん診療指定病院」を14医療機関指定している。

【指定推薦の考え方】

① 地域がん診療連携拠点病院の指定更新について

- 鹿児島保健医療圏にいまきいれ総合病院, 川薩保健医療圏に済生会川内病院が地域がん診療連携拠点病院として指定されている。

2医療機関のうち川内病院のみ, 指定要件を充足していない項目(日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けていること。)があるが, 令和5年4月1日から2年間の猶予が設けられた項目であり, 令和6年4月に充足見込みであることから, 引き続き, 患者の住んでいる二次保健医療圏における質の高いがん医療提供体制を確保するため, 2医療機関全ての指定更新を推薦することとした。

② 地域がん診療病院の指定更新について

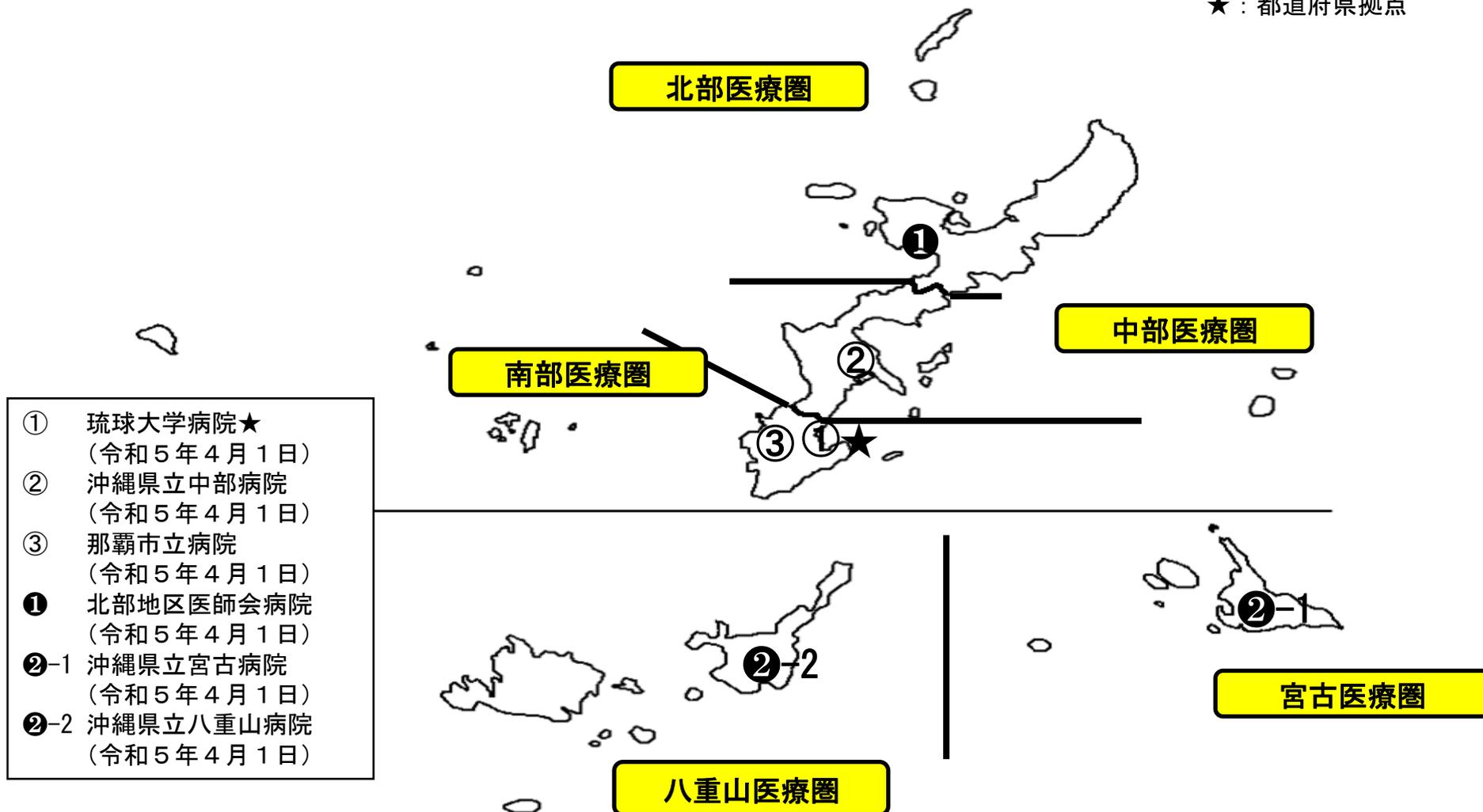
- 南薩保健医療圏に県立薩南病院が, 鹿児島大学病院とのグループ指定により, 地域がん診療病院として指定されている。

指定要件を充足していない項目(国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員研修を修了した専従及び専任の相談員各1名の配置)があるが, 令和5年11月末までに充足見込みであることから, 地域のがん患者に対して充実した医療を提供し, 二次保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため, 指定更新を推薦することとした。

沖 縄 県

沖縄県 令和5年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



- ① 琉球大学病院★
(令和5年4月1日)
- ② 沖縄県立中部病院
(令和5年4月1日)
- ③ 那覇市立病院
(令和5年4月1日)
- ① 北部地区医師会病院
(令和5年4月1日)
- ②-1 沖縄県立宮古病院
(令和5年4月1日)
- ②-2 沖縄県立八重山病院
(令和5年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は令和4年提出の数値、下段は令和5年提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療機関名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線療法	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上 ※様4機172 (R4.1.1~12.31)	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上 ※様4機173 (R4.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) 1,000件以上 ※様4機174 (R4.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) 200人以上 ※様4機176 (R4.1.1~12.31)	緩和ケアチームの 新規介入患者数(年間) 50件以上 ※様4機177 (R4.1.1~12.31)	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度 ※様4機179	のべ相談件数(年間) ※別紙11 (R4.1.1~12.31)
①	南部医療圏	★	指定更新	琉球大学病院	(1,252)	(797)	(1,665)	(809)	(140)	(18.7)	(977)
					1,304	706	1,587	814	126	17	1,103
②	中部医療圏		指定更新	沖縄県立中部病院	(743)	(467)	(685)	(303)	(99)	(16.0)	(1,136)
					689	401	1,016	281	104	13	960
③	南部医療圏		現況報告	那覇市立病院	(888)	(524)	(1,026)	(220)	(114)	(10.4)	(1,363)
					788	617	1,041	292	132	11	1,137

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・()内は令和4年提出の数値、下段は令和5年提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療機関名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線療法	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) ※様4機495 (R4.1.1~12.31)	悪性腫瘍の手術件数(年間) ※様4機496 (R4.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) ※様4機497 (R4.1.1~12.31)	のべ患者数(年間) ※様4機499 (R4.1.1~12.31)	緩和ケアチームの 新規介入患者数(年間) ※様4機500 (R4.1.1~12.31)	当該がん医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) ※様4機494	のべ相談件数(年間) ※別紙11 (R4.1.1~12.31)
①	北部医療圏	現況報告	北部地区医師会病院	(262)	(181)	(1,728)	(実施なし)	(66)	(42.3)	(379)
				272	150	318	実施なし	77	42	300
②-1	宮古医療圏	現況報告	沖縄県立宮古病院	(324)	(164)	(2,993)	(実施なし)	(3)	(26.8)	(656)
				313	156	3,506	実施なし	0	26	784
②-2	八重山医療圏	指定更新	沖縄県立八重山病院	(200)	(126)	(1,247)	(実施なし)	(90)	(88.9)	(1,497)
				215	89	365	実施なし	42	53*	992

*診療割合の算出について：

出典とする患者調査において、算出に必要な数値が参照できないため、県全体の病院の推計退院患者数に対する「悪性新生物」の割合(a)を算出し、当該医療圏の推計退院患者総数に(a)をかけることで、当該医療圏の「悪性新生物」の推計退院患者数を算出し、診療割合の分母とした。

*赤字：現況報告書の数字に誤りがあったため修正している。

沖縄県 令和6年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

北部、宮古及び八重山医療圏において、放射線治療等、当該圏域で提供できない医療については、中部又は南部医療圏において提供する体制を整えている。

①琉球大学病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、沖縄県全域及び拠点病院間連携の中心的役割を担っている。
③那覇市立病院は、地域がん診療連携拠点病院として、南部医療圏における中心的役割を担っている。

北部医療圏

中部医療圏

南部医療圏

宮古医療圏

八重山医療圏

本島中部又は
南部医療圏へ受診

- ① 琉球大学病院★（更新）
- ② 沖縄県立中部病院（更新）
- ③ 那覇市立病院（現況）
- ① 北部地区医師会病院（現況）
- ②-1 沖縄県立宮古病院（現況）
- ②-2 沖縄県立八重山病院（更新）

今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

1 医療提供体制の整備に係る基本的な考え方

第3次沖縄県がん対策推進計画（2018-2023）

- ・分野目標:適切な医療連携に基づく医療を受けられている
- ・施策:がん診療提供体制の充実・強化を図る県は、整備指針に基づき、拠点病院又は地域がん診療病院について、地域の医療状況等を勘案し、適正な整備を図る。

都道府県がん診療連携拠点病院			
①	琉球大学病院		
地域がん診療連携拠点病院			
②	中部医療圏	沖縄県立中部病院	
③	南部医療圏	那覇市立病院	
地域がん診療病院			
①	北部医療圏	北部地区医師会病院	※①とのグループ指定
②-1	宮古医療圏	沖縄県立宮古病院	※②とのグループ指定
②-2	八重山医療圏	沖縄県立八重山病院	※②とのグループ指定

都道府県がん診療連携拠点病院及び、5つの二次医療圏全てに地域がん診療連携拠点病院又は地域がん診療病院を整備し、がん診療提供体制を維持することで、県民が適切な医療連携に基づく医療を受けられる体制を整える。

今回の指定推薦に係る沖縄県の考え方

第3次沖縄県がん対策推進計画に基づくがん診療提供体制を整備

